

平成23年度

# 太田小学校校舎耐震補強工事

新潟市建築部公共建築第2課

(A2→A3縮小印刷)

図面リスト

番号	図面名称	縮尺	番号	図面名称	縮尺	番号	図面名称	縮尺
	<b>建築（意匠）</b>						<b>電気設備</b>	
A- 1	図面リスト		A-35	RC壁補強部詳細図（3）	1/20 1/30			
A- 2	特記仕様書（1）		A-36	RC壁補強部詳細図（4）	1/20 1/30	E-01	電気設備 現況・撤去・改修後：1階平面図	1/200
A- 3	特記仕様書（2）		A-37	現況・撤去・改修後：1階建具記号図	1/200	E-02	電気設備 現況・撤去・改修後：2階平面図	1/200
A- 4	特記仕様書（3）		A-38	現況・撤去・改修後：2階建具記号図	1/200	E-03	電気設備 現況・撤去・改修後：3階平面図	1/200
A- 5	特記仕様書（4）		A-39	現況・撤去・改修後：3階建具記号図	1/200			
A- 6-1	配置図・案内図・工事概要・（夏休み前の仮設計画図）	1/400	A-40	現況・撤去・改修後：R・PH階建具記号図	1/200			
A- 6-2	配置図・案内図・工事概要・（夏休み後の仮設計画図）	1/400	A-41	建具表（1）	1/100		<b>機械設備</b>	
A- 7	現況・撤去・改修後：外部・内部仕上表		A-42	建具表（2）	1/100	M-01	機械設備 機器表	
A- 8	現況・撤去・改修後：1階平面図	1/200	A-43	建具表（3）	1/100	M-02	機械設備 現況・撤去・改修後：1階平面図	1/200
A- 9	現況・撤去・改修後：2階平面図	1/200	A-44	現況・撤去・改修後：1階家具配置図	1/200	M-03	機械設備 現況・撤去・改修後：2階平面図	1/200
A-10	現況・撤去・改修後：3階平面図	1/200	A-45	現況・撤去・改修後：2階家具配置図	1/200	M-04	機械設備 現況・撤去・改修後：3階平面図	1/200
A-11	現況・撤去・改修後：R・PH階平面図	1/200	A-46	家具詳細図（1）	1/30			
A-12	現況・撤去：北・西立面図	1/200	A-47	家具詳細図（2）	1/30			
A-13	現況・撤去：南・東立面図	1/200	A-48	家具詳細図（3）	1/30			
A-14	改修後：北・西立面図	1/200	A-49	雑詳細図	1/20 1/30			
A-15	改修後：南・東立面図	1/200		<b>建築（構造）</b>				
A-16	現況・撤去・改修後：断面図（1）	1/100	S- 1	鉄骨ブレース接着工法特記仕様書				
A-17	現況・撤去・改修後：断面図（2）	1/100	S- 2	鉄筋コンクリート造壁補強標準図				
A-18	改修後：1・2階天井伏図	1/200	S- 3	基礎伏図	1/200			
A-19	改修後：3・R・PH階天井伏図	1/200	S- 4	2.3階梁伏図	1/200			
A-20	外壁詳細図	1/5 1/50	S- 5	R, PH階梁伏図	1/200			
A-21	展開図（1）	1/50	S- 6	軸組図 1	1/200			
A-22	展開図（2）	1/50	S- 7	軸組図 2	1/200			
A-23	展開図（3）	1/50	S- 8	軸組図 3	1/200			
A-24	展開図（4）	1/50	S- 9	軸組図 4	1/200			
A-25	ブレース詳細図（1）	1/20	S-10	鉄骨ブレース詳細図 1	1/30			
A-26	ブレース詳細図（2）	1/20	S-11	鉄骨ブレース詳細図 2	1/30			
A-27	ブレース詳細図（3）	1/20	S-12	鉄骨ブレース部分詳細図	1/5 1/10			
A-28	ブレース詳細図（4）	1/20	S-13	転倒防止金物詳細図	1/10			
A-29	ブレース詳細図（5）	1/20	S-14	RC増設壁配筋図	1/30			
A-30	ブレース詳細図（6）	1/20	S-15	PH階 壁閉塞詳細図	1/30			
A-31	ブレース詳細図（7）	1/20 1/30						
A-32	ブレース詳細図（8）	1/20 1/30						
A-33	RC壁補強部詳細図（1）	1/20 1/30						
A-34	RC壁補強部詳細図（2）	1/20 1/30						

平成23年度 太田小学校校舎 耐震補強工事設計図

仕様書
I 共通仕様
1. 本共通仕様及び特記仕様に記載されていない事項は、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)平成22年版」(以下「標仕」という。)による。

別表(建築工事)
表1 一般共通事項
(1) 1.1.2 用語の定義
(1) 「監督員」とは、約款第10条の規定により請負者に通知された者をいう。

表2 1.4.2 材料の品質等
(a) 工事に使用する材料は「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 建築材料等評価名簿(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修) 契約時の最新版」の名簿に記載されている品目については、当該名簿に記載されている材料又は製造所の製品とする。

表3 1.4.4 材料の検査等
(a) 現場に搬入した材料は、種別ごとに監督員の検査を受ける。
ただし、次の(1)若しくは(2)に該当する場合またはあらかじめ監督員の承諾を受けた場合は、この限りでない。

表4 1.6.1 工事検査
(b) 約款に規定する部分払を請求する場合は、当該請求に係る出来形部分等の算出方法について監督員の指示を受けるものとする。

II 特記仕様
1. 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
2. 特記事項は、○印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。

表5 特記事項
1 工事実績情報の登録
2 概成工期
3 品質計画等
4 監理技術者の要件
5 電気保安技術者
6 養生材の処理等
7 特別な材料の工法
8 技能士
9 見本施工
10 化学物質の濃度測定
11 完成図等
12 施工図等の取扱
13 工事完成写真
14 特別完成写真
15 工事施工状況写真
16 設備工事との取扱い

6 外部足場
※枠組足場 ・ その他( )
足場は、「「手すり先行工法に関するガイドラインについて」(厚生労働省 基発第0424001号 平成21年4月24日)の「手すり先行工法に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり 据置方式又は(3)手すり 先行専用足場方式により行うこと。

3 埋戻し及び盛土
2 建設発生土の処理
1 試験
試験杭
位置、本数及び寸法 ※図示 ・ 監督員の指示による
杭の載荷試験 ・ 鉛直載荷試験 ・ 水平載荷試験
試験位置 ※図示 載荷荷重 N/m<sup>2</sup>
地盤の載荷試験 ※平板載荷試験
試験位置 ※図示 載荷荷重 N/m<sup>2</sup>

2 既製コンクリート杭地業
種類
・ 遠心力高強度プレストレストコンクリートく( P H C 杭)
・ 外殻鋼管付きコンクリートく( S C 杭)
・ プレストレスト 鉄筋コンクリートく( P R C 杭)
・
試験杭
杭径(mm) 杭長(m)及び種別 継手節数 長期設計支持力(kN/本) セット数等
位置は図示
本杭
先端部形状 ※開放形 ・ 閉そく平たん形 (4.3.2)
施工法
・ 特定埋込み杭工法(建築基準法に基づく埋込杭工法とし、杭材料は指定又は認定条件に適合するもの)

3 場所打ちコンクリート杭地業
杭の継手 ※アーク溶接( ) ・ 無溶接継手 (4.3.6)
杭頭部の処理 ※切断しない (4.3.7)
コンクリートの種別及び設計基準強度 (4.5.3)(表4.5.1)
( ) 種かつ( ) N/m<sup>2</sup> 以上
セメントの種類 ※高炉セメント B 種 (4.5.3)
掘削工法 ・ アースドリル工法(※安定液使用 ・ 無水掘削) (4.5.4)
・ リバース工法
・ オールケーシング工法(孔内の水張 ※行う ・ 行わない)
・ 場所打ち鋼管コンクリート 杭工法 (4.5.5)
・ 掘削工法 ( ※安定液使用 )
孔壁測定 ・ 行う ・ 行わない (4.5.4~4.5.5)
※再生クラッシュラン ・ 切込み砂利及び切込み砕石 (4.6.2)
施工箇所 ※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート(ドット下を除く) (4.6.5)
・ 図示による

1 鉄筋の種類
種類の記号 呼び径 (mm) 備考
○SD345 D19 異形鉄筋
○SD295A D10~D16 異形鉄筋
・
2 鉄筋の継手
呼び名19mm以上の柱、梁の主筋 ○ガス圧接 ○重ね継手 (5.3.4)
継手位置 ※各部配筋参考図による ・ 図示
最小かぶり厚さは目地底から算定する (5.3.5)
・ 耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による
施工箇所 表5.3.6の値に加える寸法(mm)
柱、梁、壁及び底などの外気に接する打放し面 ※10 ・

4 帯筋
5 最上階柱頭補強
6 壁開口部の補強
7 梁貫通孔の補強形式
8 圧接完了後の抜取試験
※H形(口は除く) ・ (参考2.2)
※行う ・ 行わない (参考2.1)
一般壁 ※A形 ・ B形 ・ 図示 (参考4.4)
耐震壁 ※図示
※H形 ・ MH形 ・ M形 (参考7.1)
・ 既製品(建築基準法による指定又は認定を受けたもの)
※超音波探傷試験 ・ 引張試験 (5.4.9)

1 普通コンクリートの設計基準強度 (6.1.4)
設計基準強度 R(N/mm<sup>2</sup>) 施工箇所 スラップ
※21 ・ 建物躯体
○21 ○新設土間 ○18cm
○27 ○新設耐震壁、既設開口部閉塞壁 ○18cm
・
※構造体コンクリート: 発注強度=設計基準強度(Fc)+構造体強度補正値(S)

2 レイミックスコンクリートの種別 (6.1.5)(表6.1.1)
※I類 ・ II類
※I類については、「全国生コンクリート品質管理監査会議」が策定した「全国統一品質管理監査基準」に基づく品質確保の確認結果等を参考にし、JIS A 5308(レイミックスコンクリート)に適合するものを用いるものとする。
3 セメントの種類
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 (6.3.2)(6.13.2)(表6.3.1)
・ 高炉セメント B 種( )
普通ポルトランドの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。
水和熱 Td 測定値を報告する。
28d 測定値を報告する。
全アルカリ 0.75%以下 算出は、JIS R 5210ポルトランドセメント(低7%成形による。)
塩化物イオン 0.035%以下

6 2 単位水量の確認
4 骨材の品質
6 混和材料の種別
6 無筋コンクリート
7 型枠
8 コンクリート躯体表面の処理
9 コンクリート
10 寒中コンクリート

表6 鋼材
種類の記号 使用箇所 規格等
SS400 鉄骨骨付ブレース、G、PL類 ※JIS規格による
・
・

表7 鋼材
種類の記号 使用箇所 規格等
SS400 鉄骨骨付ブレース、G、PL類 ※JIS規格による
・
・

表8 鋼材
種類の記号 使用箇所 規格等
SS400 鉄骨骨付ブレース、G、PL類 ※JIS規格による
・
・

表9 デッキプレート
・ 焼つき栓溶接 ・ アークスポット溶接 (7.7.8)
・ 隅肉溶接
10 耐火被覆 (7.9.2~7.9.7)
耐火被覆
耐火材
耐火材吹付け
耐火材巻き付け
耐火材巻取り
耐火材巻き付け
耐火材巻き取り

表10 建築用コンクリートブロック
補強コンクリートブロック造 (8.2.2)
断面形状及び圧縮強度による区分 厚さ(mm) 適用箇所
※空洞ブロッ16
・ 空洞ブロッ16-W
2 鉄筋の加工及び組立 (8.2.5)
3 A.L.C.パネル (8.4.2~8.4.5)(表8.4.2)(表8.4.3)
種類 単位荷重(N/m<sup>2</sup>) 厚さ(mm) 取付け工法種別等
・ 外壁パネル ・ 1180・1960 ・ 100 ・ A種 ・ B種 ・ C種
・ 意匠パネル ・ 120
・ 間仕切りパネル ・ 80・100 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種
・ 窓パネル ・
・ 屋根パネル ・ 980 ・ 100 ※標仕8.4.5による
・ 床パネル ・ 2350・3530 ・ 100・150 耐火性能・有り(・1時間・2時間)

Table with 2 columns: Item No. and Description. Includes items like ④ 押出成形セト板 (ECP), ① アスファルト防水, ② 改質アスファルトシート防水, ③ 合成高分子系ルフィングシート防水, ④ 塗膜防水, ⑤ シーリング, ⑥ 防水の保証等, ⑩ 天然石張り, ⑫ テラコ張り, ⑬ 床及び階段の石張り, ⑭ 陶磁器質タイル.

Table with 2 columns: Item No. and Description. Includes items like ② タイル張り工法, ③ コンクリート素地面の処理, ④ 陶磁器質タイル型枠先付け工法, ⑫ ① 木材の品質, ⑫ ② 樹種, ⑫ ③ 集成材, ⑫ ④ 接着剤, ⑫ ⑤ 防腐・防蟻処理, ⑬ ① 長尺金属板葺, ⑬ ② 折板葺, ⑬ ③ と い, ⑭ ① あと施工アンカーの引抜き耐力試験, ⑭ ② ステンレスの表面仕上げ, ⑭ ③ アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理, ⑭ ④ 鉄鋼の亜鉛めっき.

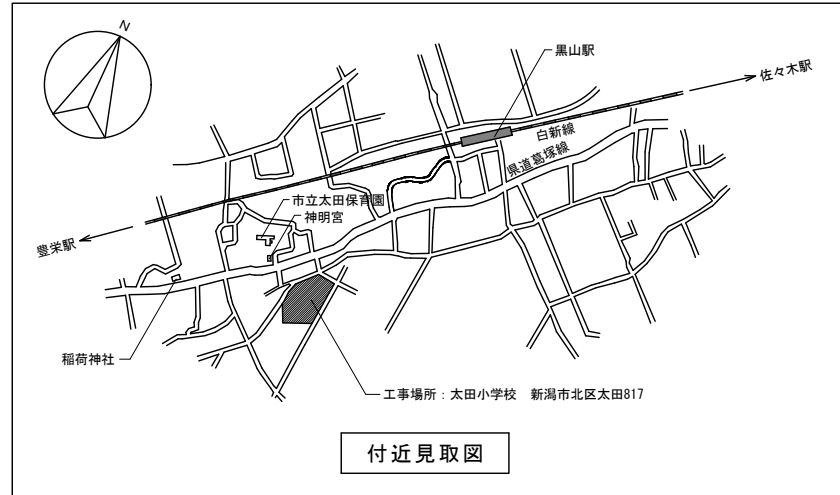
Table with 2 columns: Item No. and Description. Includes items like ⑭ ⑤ 軽量鉄骨天井下地, ⑭ ⑥ 金属成形板張り, ⑭ ⑦ アルミ製窓木, ⑭ ⑧ 手すり及びタラップ, ⑭ ⑨ ① 床コンクリートの直均し仕上げ, ⑭ ⑨ ② 仕上げ塗材仕上げ, ⑭ ⑩ ① 見本の製作等, ⑭ ⑩ ② 防犯建物部品, ⑭ ⑩ ③ アルミ製建具, ⑭ ⑪ 網戸, ⑭ ⑫ ① 鋼製建具.

Table with 2 columns: Item No. and Description. Includes items like ⑭ ⑬ ① 鋼製軽量建具, ⑭ ⑬ ② ステンレス製建具, ⑭ ⑬ ③ 木製建具, ⑭ ⑬ ④ 建具用金物, ⑭ ⑬ ⑤ 自動ドア開閉装置, ⑭ ⑬ ⑥ 自閉式上吊り引戸装置, ⑭ ⑬ ⑦ 重量シャッター, ⑭ ⑬ ⑧ 軽量シャッター, ⑭ ⑬ ⑨ オペレーティングドア, ⑭ ⑬ ⑩ ガラス, ⑭ ⑬ ⑪ ガラス留め材.



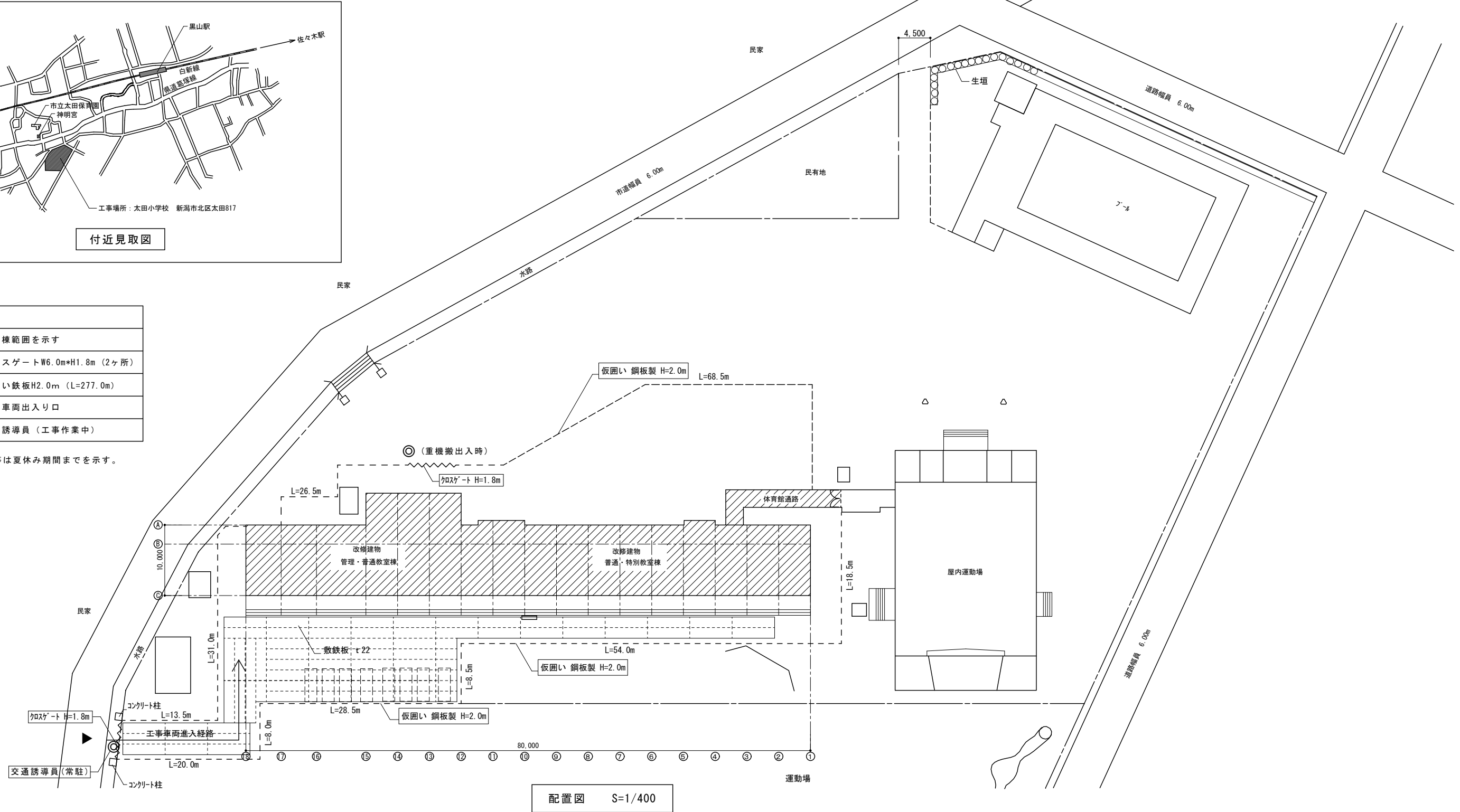


設計概要		耐震補強工事概要			
	一般事項	建物概要		補強工事	その他工事
工事名称	太田小学校校舎耐震補強工事	建物概要	鉄筋コンクリート造3階建 塔屋2階建	●校舎棟	
工事場所(地名地番)	新潟市北区太田 817 地内	最高の高さ	18.780 M	X方向(桁行方向)の補強	・補強工事に伴う仕上改修
建物用途	小学校	最高の軒高	18.230 M	耐力壁 鉄骨枠付K型プレースの増設 20ヶ所	・ガラス面飛散防止フィルム貼(内貼)
工事種別	耐震補強工事			耐力壁 RC壁の増設 2ヶ所	・補強工事に伴う電気設備工事の改修
都市計画区域内外の別	都市計画区域	敷地面積	16,822.0 m <sup>2</sup>	壁閉塞 RC壁の増設 1ヶ所	・補強工事に伴う機械設備工事の改修
用途地域	指定なし	延床面積	2,316.36 m <sup>2</sup> (校舎棟)	外壁 スリット壁の増設	・外壁改修工事に伴う仕上改修
防火地域	指定なし			①通り梁補強 2ヶ所	
その他の地域・地区	建築基準法22条区域				



凡例	
	補強棟範囲を示す
	クロスゲートW6.0m×H1.8m (2ヶ所)
	仮囲い鉄板H2.0m (L=277.0m)
	工事車両出入り口
	交通誘導員(工事作業中)

註)外部仮囲い等は夏休み期間までを示す。



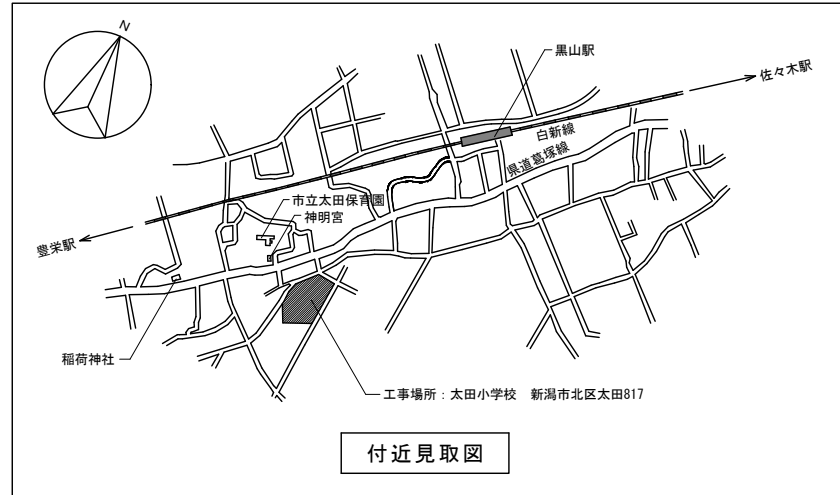
新潟市建築設計協同組合  
 担当設計事務所 酒井建築事務所  
 担当設計事務所管理建築士 酒井秀晴  
 管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一  
 一級建築士登録 第103858号 酒井秀晴

新潟市建築部公共建築第2課

工事名  
 太田小学校校舎 耐震補強工事

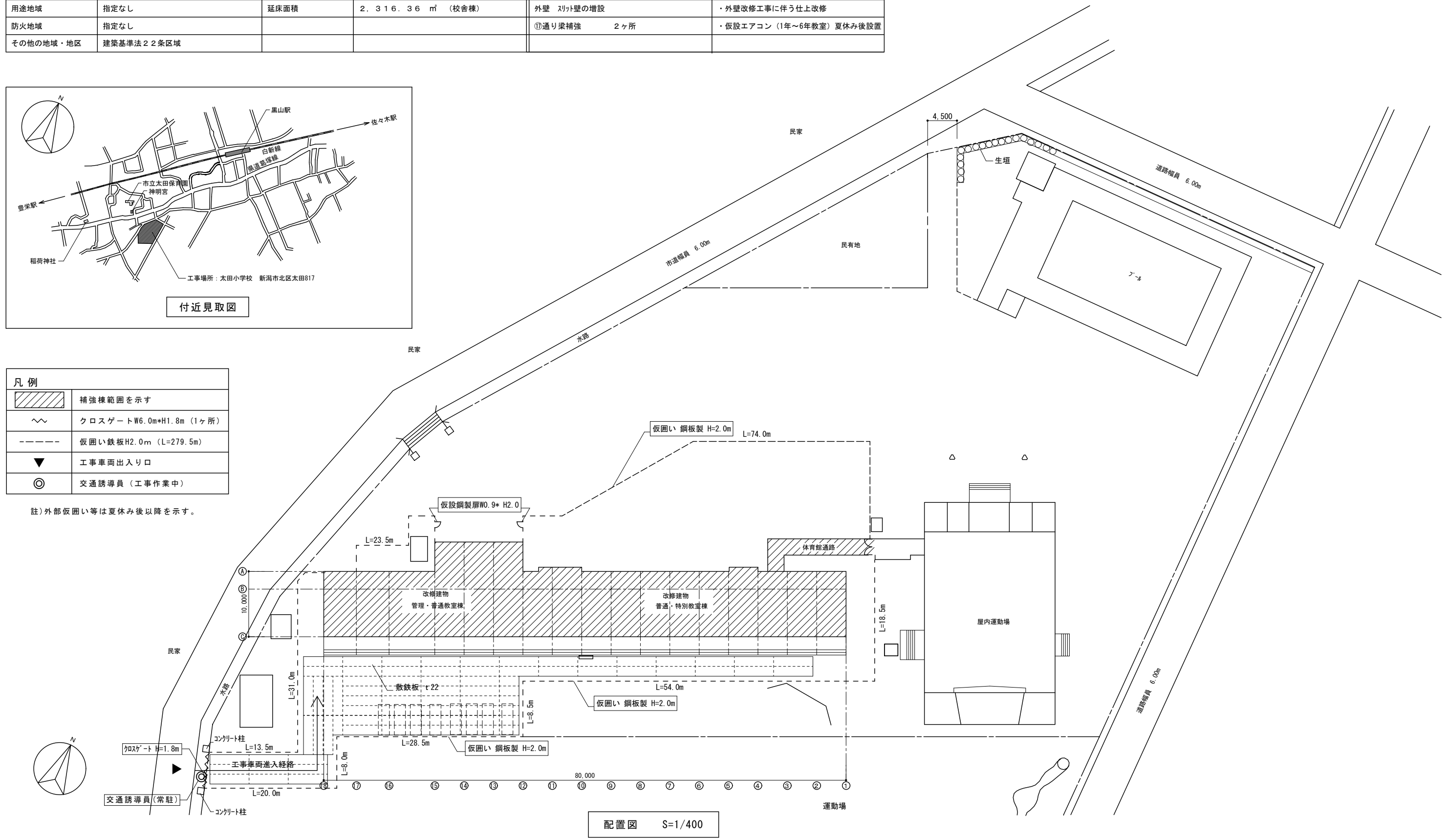
図名  
 配置図・案内図・工事概要・(夏休み迄の仮設計画図)  
 年月日 2011.3 縮尺 1/400 図面番号 A-6-1

設計概要		耐震補強工事概要		
一般事項	建物概要	補強工事	その他工事	
工事名称	太田小学校校舎耐震補強工事	建物概要	鉄筋コンクリート造3階建 塔屋2階建	●校舎棟
工事場所(地名地番)	新潟市北区太田 817 地内	最高の高さ	18.780 M	X方向(桁行方向)の補強
建物用途	小学校	最高の軒高	18.230 M	耐力壁 鉄骨枠付K型ブレースの増設 20ヶ所
工事種別	耐震補強工事			・補強工事に伴う仕上改修
都市計画区域内外の別	都市計画区域	敷地面積	16,822.0 m <sup>2</sup>	・ガラス面飛散防止フィルム貼(内貼)
用途地域	指定なし	延床面積	2,316.36 m <sup>2</sup> (校舎棟)	・補強工事に伴う電気設備工事の改修
防火地域	指定なし			・補強工事に伴う機械設備工事の改修
その他の地域・地区	建築基準法22条区域			・外壁改修工事に伴う仕上改修
				・仮設エアコン(1年~6年教室)夏休み後設置



凡例	
	補強棟範囲を示す
	クロスゲートW6.0m*H1.8m(1ヶ所)
	仮囲い鉄板H2.0m(L=279.5m)
	工事車両出入り口
	交通誘導員(工事作業中)

註) 外部仮囲い等は夏休み後以降を示す。



新潟市建築設計協同組合  
 担当設計事務所 酒井建築事務所  
 管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一  
 担当設計事務所管理建築士 一級建築士登録 第103858号 酒井秀晴

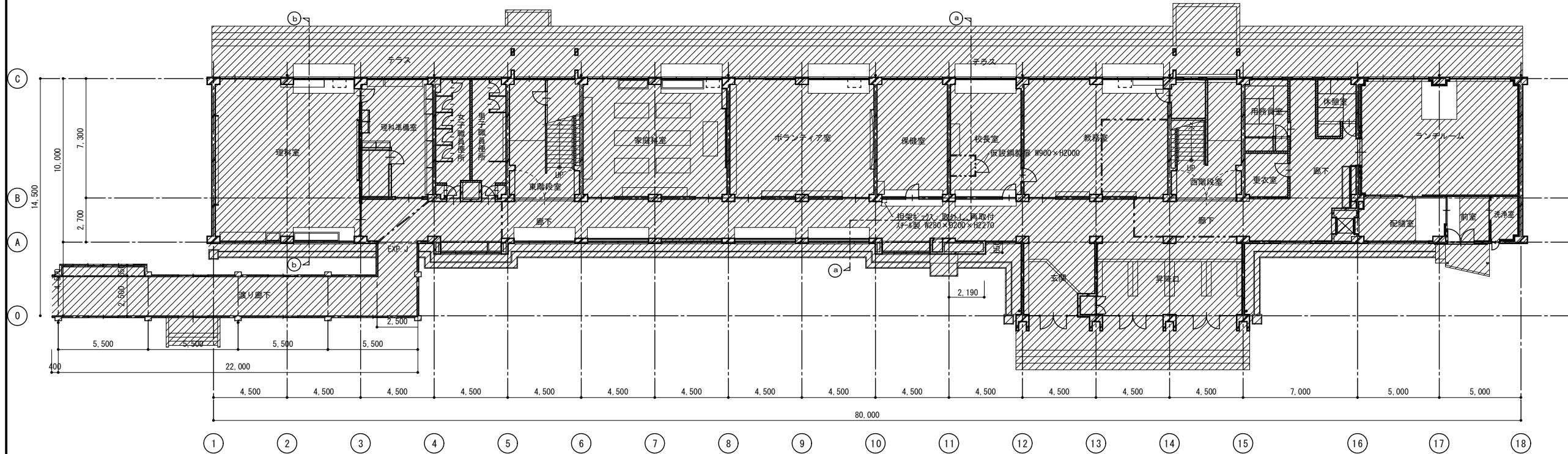
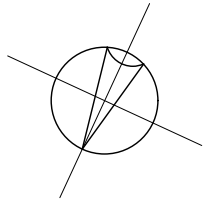
新潟市建築部公共建築第2課

工事名  
 太田小学校校舎 耐震補強工事

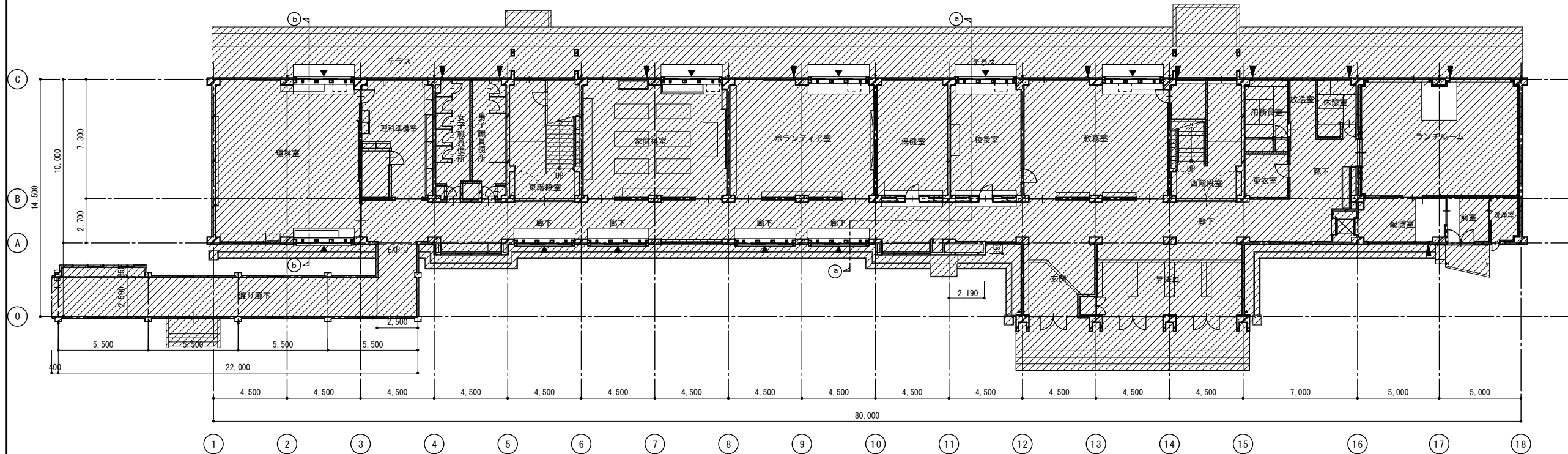
図名  
 配置図・案内図・工事概要・(夏休み後の仮設計画図)  
 年月日 2011.3 縮尺 1/400 図面番号 A-6-2







既存・撤去：1階平面図 S=1:200



改修後：1階平面図 S=1:200

凡例

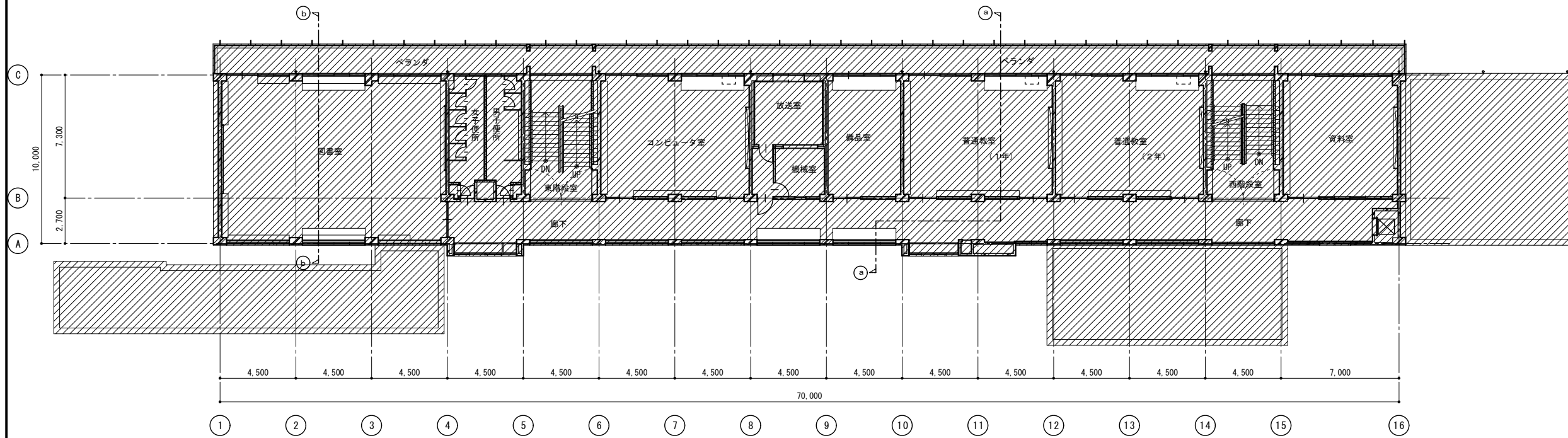
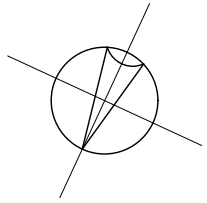
	鉄筋コンクリート
	コンクリートブロック
	木軸
	LGS
	耐力壁 RC壁
	耐力壁 鉄骨柱付k型ブレース
	耐震スリット(幅 30)
	耐震補強に係わる工事範囲を示す
	工事範囲外を示す
	仮間仕切り(LGS+PB9.5)を示す

新潟市建築設計協同組合  
 担当設計事務所 酒井建築事務所  
 管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一  
 担当設計事務所管理建築士 一級建築士登録 第103858号 酒井秀晴

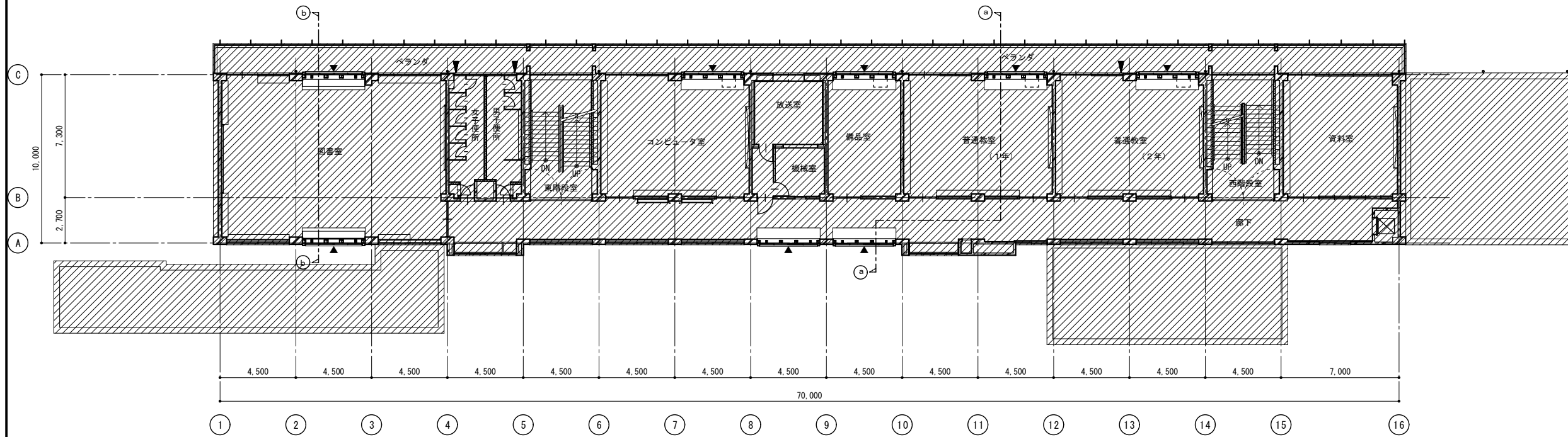
新潟市建築部公共建築第2課

工事名  
 太田小学校校舎 耐震補強工事

図名  
 現況・撤去・改修後：1階平面図  
 年月日 2011.3 縮尺 1/200 図面番号 A-8



既存・撤去：2階平面図 S=1:200



改修後：2階平面図 S=1:200

凡例

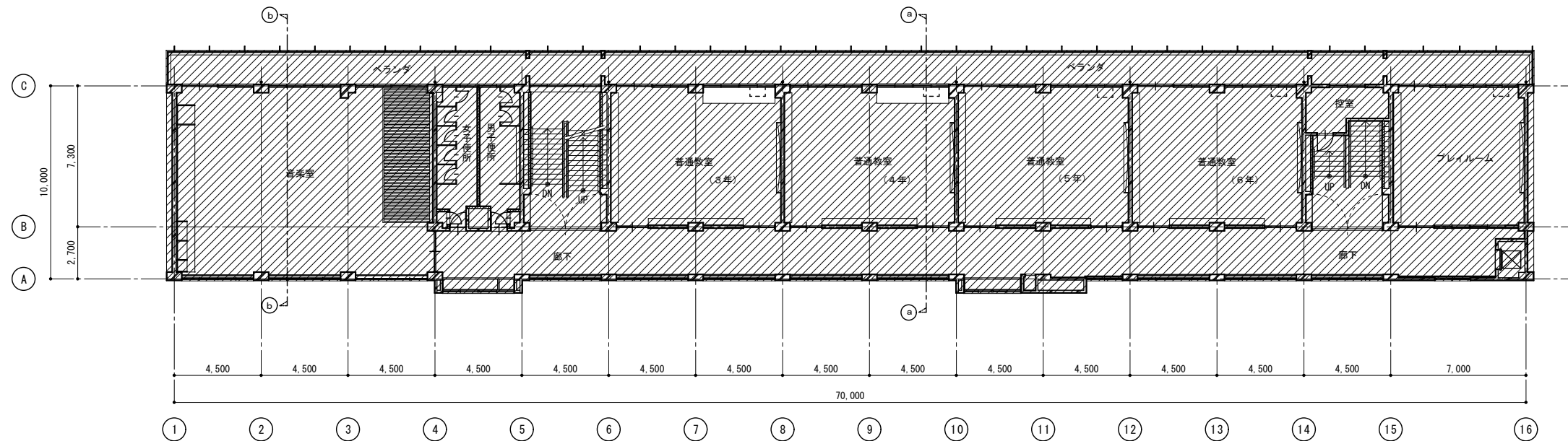
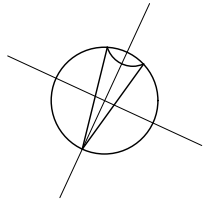
	鉄筋コンクリート
	コンクリートブロック
	木軸
	LGS
	耐力壁 RC壁
	耐力壁 鉄骨枠付k型ブレース
	耐震スリット(幅 30)
	耐震補強に係わる工事範囲を示す
	工事範囲外を示す

新潟市建築設計協同組合  
 管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一

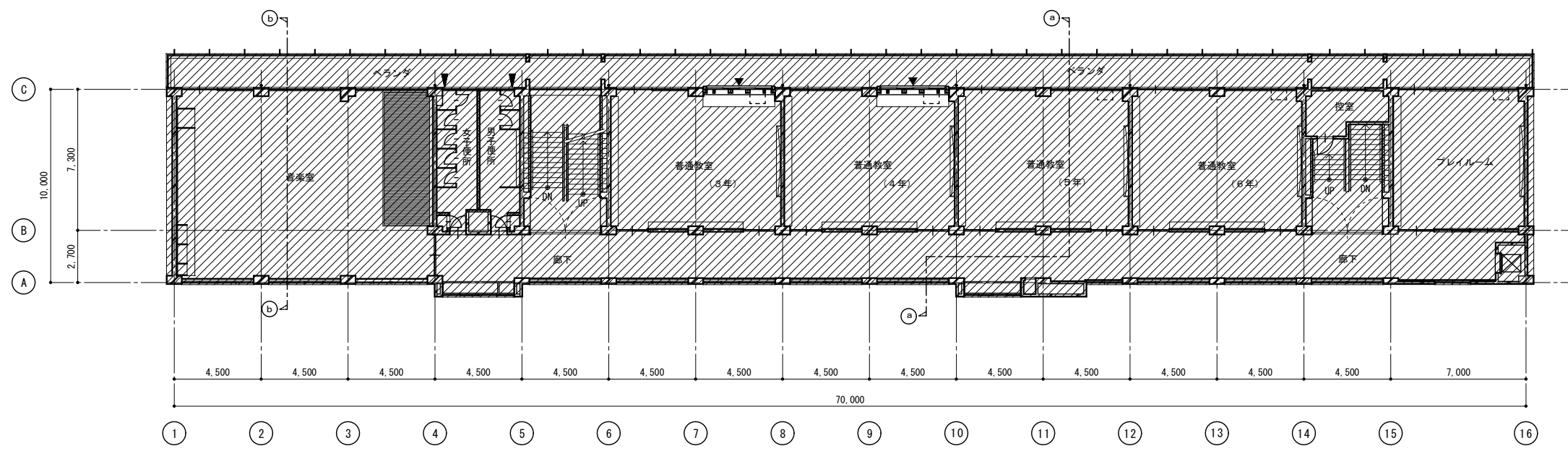
担当設計事務所  
 酒井建築事務所  
 担当設計事務所管理建築士  
 一級建築士登録 第103858号 酒井秀晴

新 潟 市 建 築 部 公 共 建 築 第 2 課  
 工 事 名  
 太田小学校校舎 耐震補強工事

図 名  
 現況・撤去・改修後：2階平面図  
 年 月 日 2011.3 縮 尺 1/200 図面番号 A-9



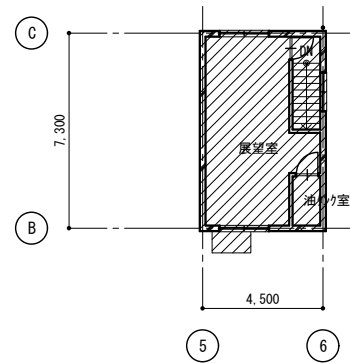
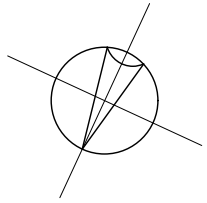
既存・撤去：3階 平面図 S=1:200



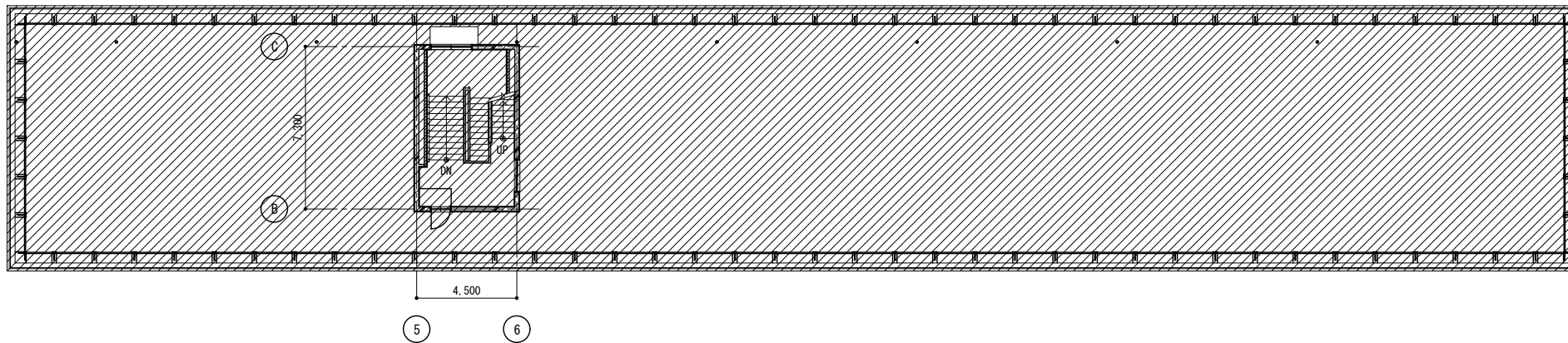
改修後：3階 平面図 S=1:200

凡例

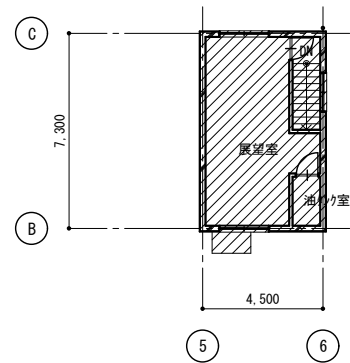
	鉄筋コンクリート
	コンクリートブロック
	木軸
	LGS
	耐力壁 RC壁
	耐力壁 鉄骨柱付k型ブレース
	耐震スリット (幅 30)
	耐震補強に係わる工事範囲を示す
	工事範囲外を示す



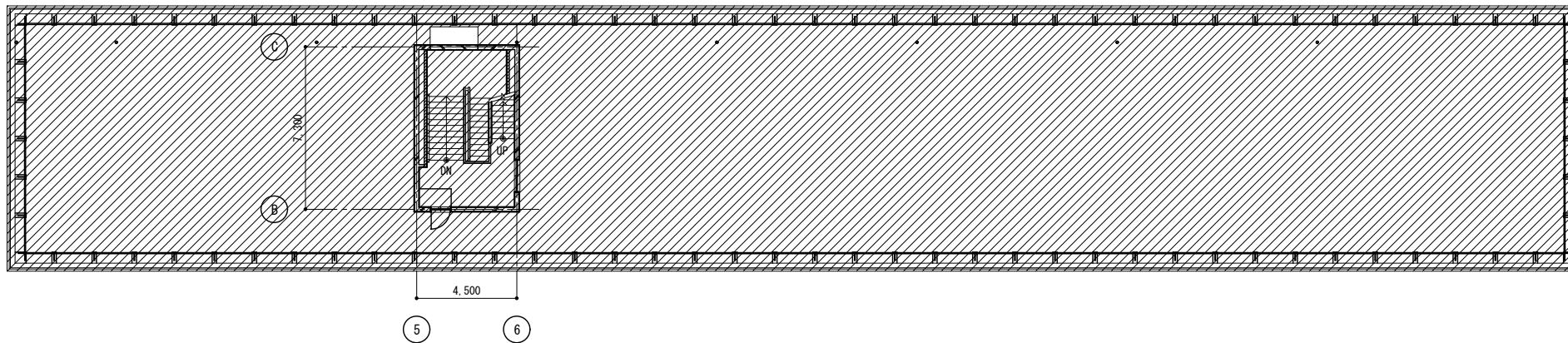
現況・撤去：PH階 平面図 S=1:200



現況・撤去：R階 平面図 S=1:200



改修後：PH階 平面図 S=1:200



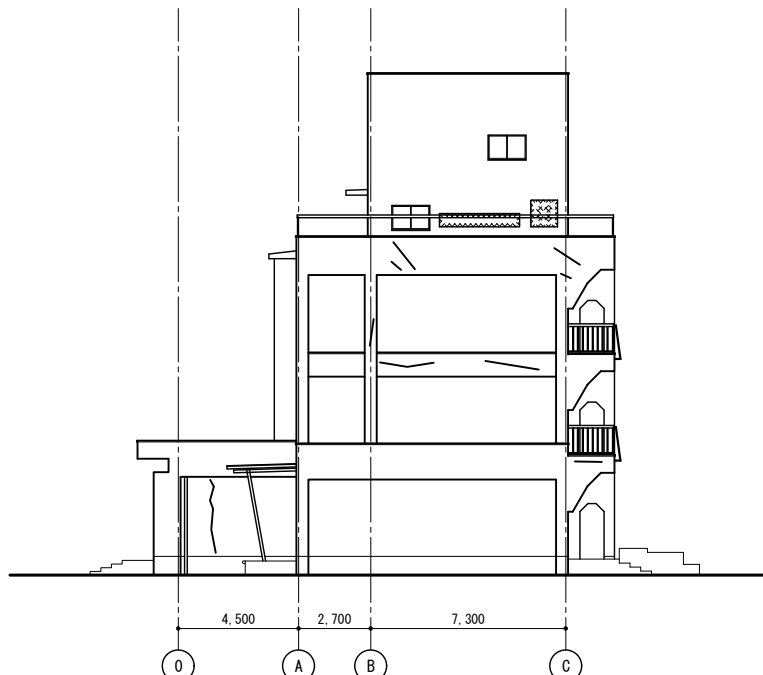
改修後：R階 平面図 S=1:200

凡例

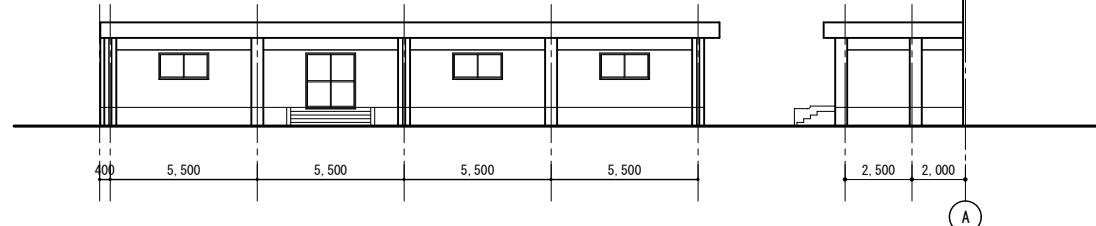
	鉄筋コンクリート
	コンクリートブロック
	木軸
	LGS
	耐力壁 RC壁
	耐力壁 鉄骨枠付k型ブレース
	耐震スリット(幅 30)
	耐震補強に係わる工事範囲を示す
	工事範囲外を示す



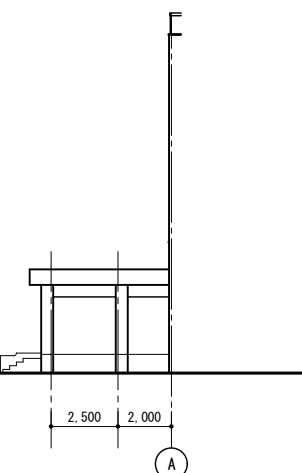
現況・撤去：北立面図 S=1:200



現況・撤去：西立面図 S=1:200



現況・撤去：渡り廊下北立面図 S=1:200



現況・撤去：渡り廊下西立面図 S=1:200

耐震補強に係わる撤去リスト 特記無きものは、下記に依る。

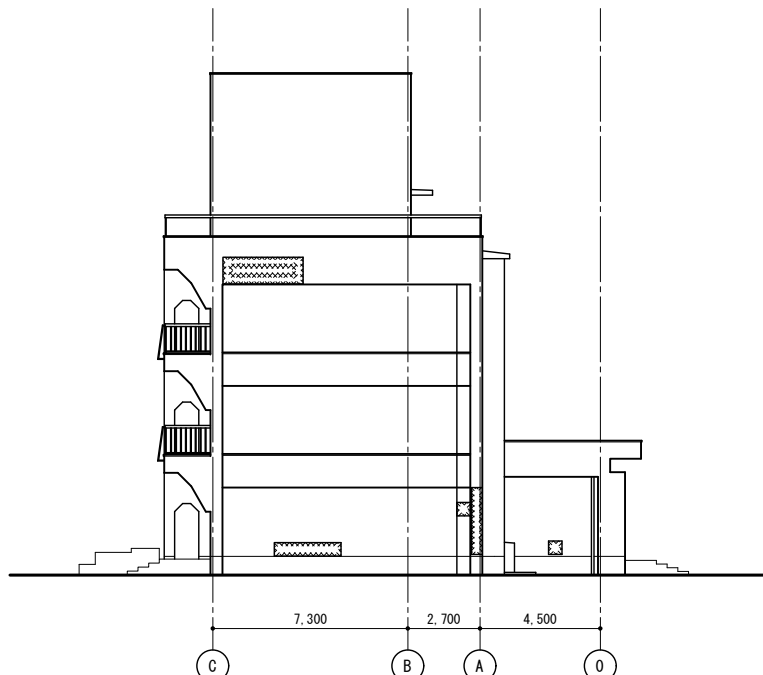
(K1)	外壁：コンクリート t=120 有筋 (下地モルタル外部t=25 内部t=20共)
(K2)	外壁：コンクリート t=180 有筋 (下地モルタル外部t=25 内部t=20共)
(K3)	7&#246;製建具：引違い2連2段窓、ガラス、枠共
(K4)	7&#246;製建具：引違い窓、ガラス、枠共

凡例

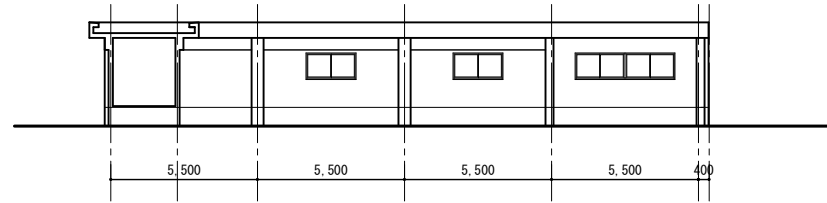
ひび割れ長さ (W5)	ひび割れ長さ ひび割れ幅0.5mm以上：120.0m
鉄筋露出長さ	鉄筋露出長さ L=100未満：8ヶ所
耐震スリット	耐震スリット (幅 30)
モルタル浮き	モルタル浮き (P1) (P2) : 45.0 m <sup>2</sup>
耐震補強に係わる工事範囲を示す	耐震補強に係わる工事範囲を示す
外壁改修工事範囲を示す	外壁改修工事範囲を示す



現況・撤去：南立面図 S=1:200



現況・撤去：東立面図 S=1:200



現況・撤去：渡り廊下南立面図 S=1:200

耐震補強に係わる撤去リスト 特記なきものは、下記に依る。

(K1)	外壁：コンクリート t=120 有筋 (下地モルタル外部t=25 内部t=20共)
(K2)	外壁：コンクリート t=180 有筋 (下地モルタル外部t=25 内部t=20共)
(K3)	7A製建具：引違い2連2段窓、ガラス、枠共
(K4)	7A製建具：引違い窓、ガラス、枠共

凡例

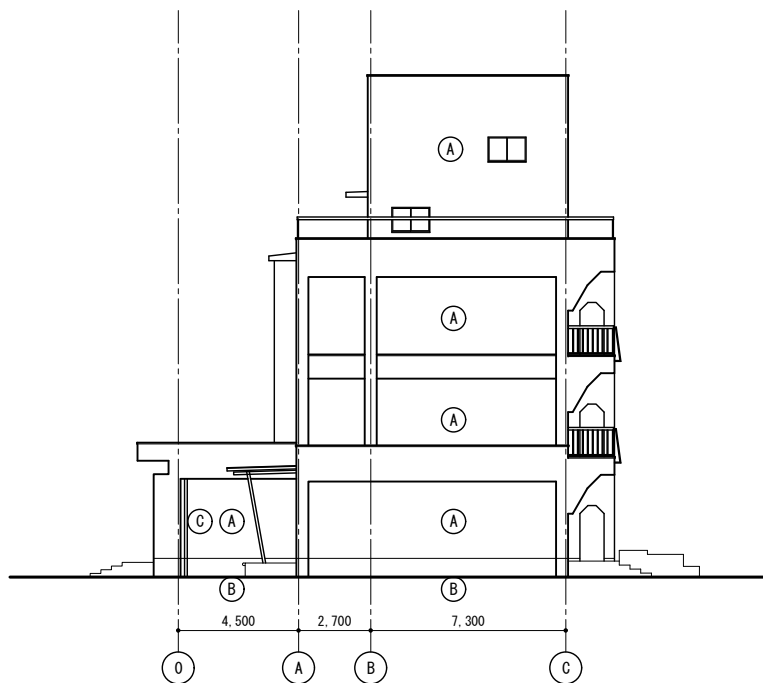
	ひび割れ長さ ひび割れ幅0.5mm以上：120.0m
	鉄筋露出長さ L=100未満：8ヶ所
	耐震スリット (幅 30)
	モルタル浮き (P1 (P2) : 45.0 m <sup>2</sup> )
	耐震補強に係わる工事範囲を示す
	外壁改修工事範囲を示す



改修後：北立面図 S=1:200

耐震補強に係わる改修リスト 特記無きものは、下記に依る。

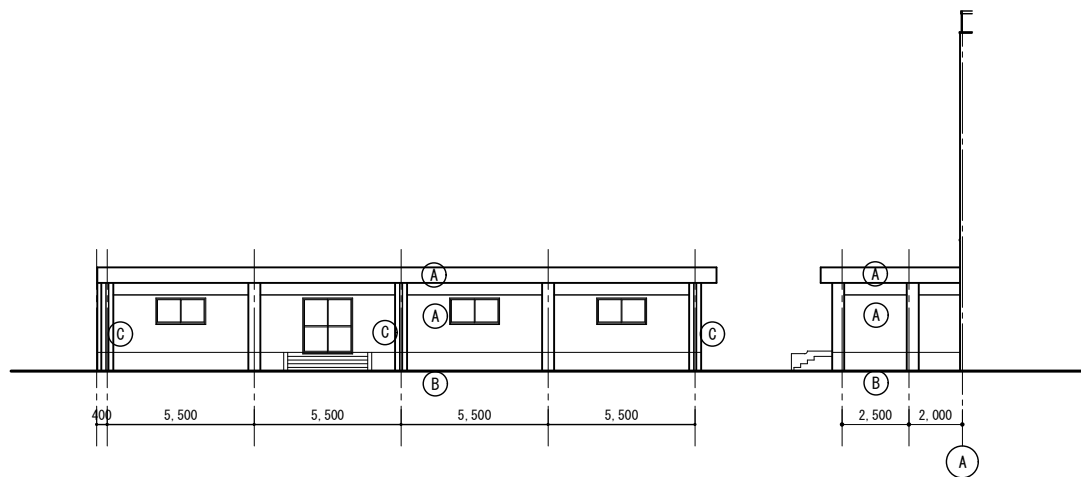
(G1)	外壁：ゼム中空押出成形板 t=60 縦張 可とう形改修塗材 E吹付 L字型湿式断熱材 t=30 裏打
(G2)	7mm製建具：引違い2連2段窓、ガラス、枠共



改修後：西立面図 S=1:200

外壁改修に係わる改修リスト 特記無きものは、下記に依る。

(A)	外壁面：下地処理のうえ 可とう形改修塗材 E吹付
(B)	モルタル面：高圧水洗浄(30~70kg/m <sup>2</sup> )
(C)	壁種：硬質塩ビパイプ φ100 (ガ-) 撤去・新設 播金物：SUS製 @900 撤去・新設



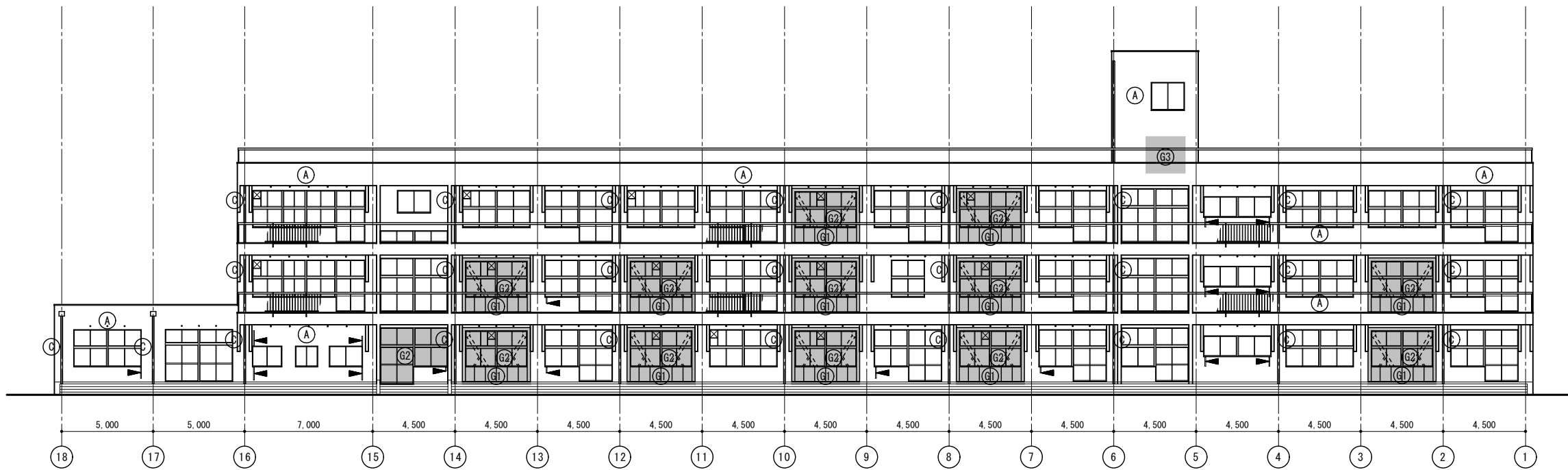
改修後：渡り廊下北立面図 S=1:200

改修後：渡り廊下西立面図 S=1:200

凡例

◀	耐震スリット (幅 30)
■	耐震補強に係わる工事範囲を示す
□	外壁改修工事範囲を示す

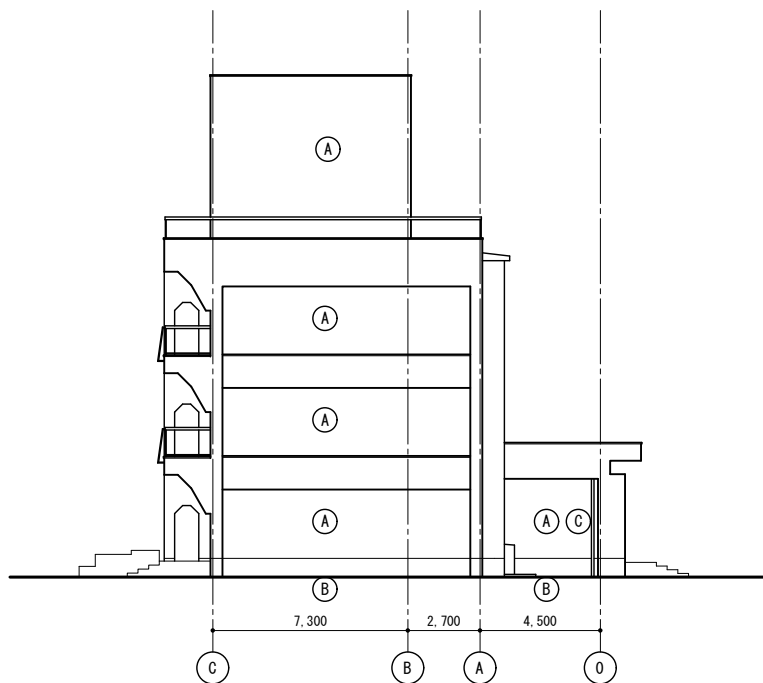




改修後：南立面図 S=1:200

耐震補強に係わる改修リスト 特記無きものは、下記に依る。

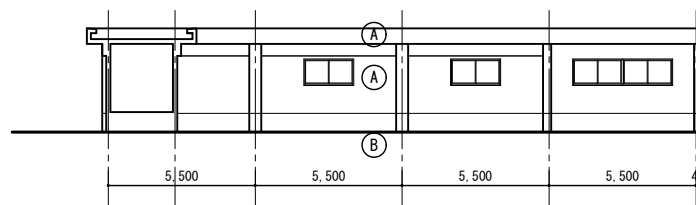
(G1)	外壁：ゼム中空押出成形板 t=60 縦張 可とう形改修塗材 E吹付 L/700湿式断熱材 t=30 裏打
(G2)	7mm製建具：引違い2連2段窓、ガラス、枠共
(G3)	外壁：コケリ打放し下地 可とう形改修塗材 E吹付



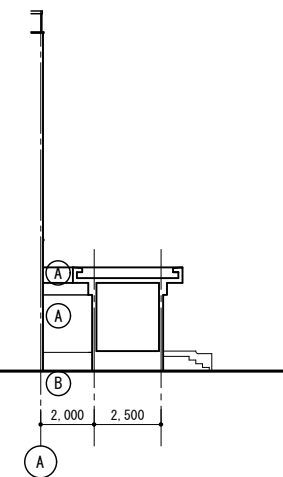
改修後：東立面図 S=1:200

外壁改修に係わる改修リスト 特記無きものは、下記に依る。

(A)	外表面：下地処理のうえ 可とう形改修塗材 E吹付
(B)	モルタル面：高圧水洗浄(30~70kg/m <sup>2</sup> )
(C)	壁種：硬質塩化パイφ100(ガラス)撤去・新設 据金物：SUS製 @900 撤去・新設



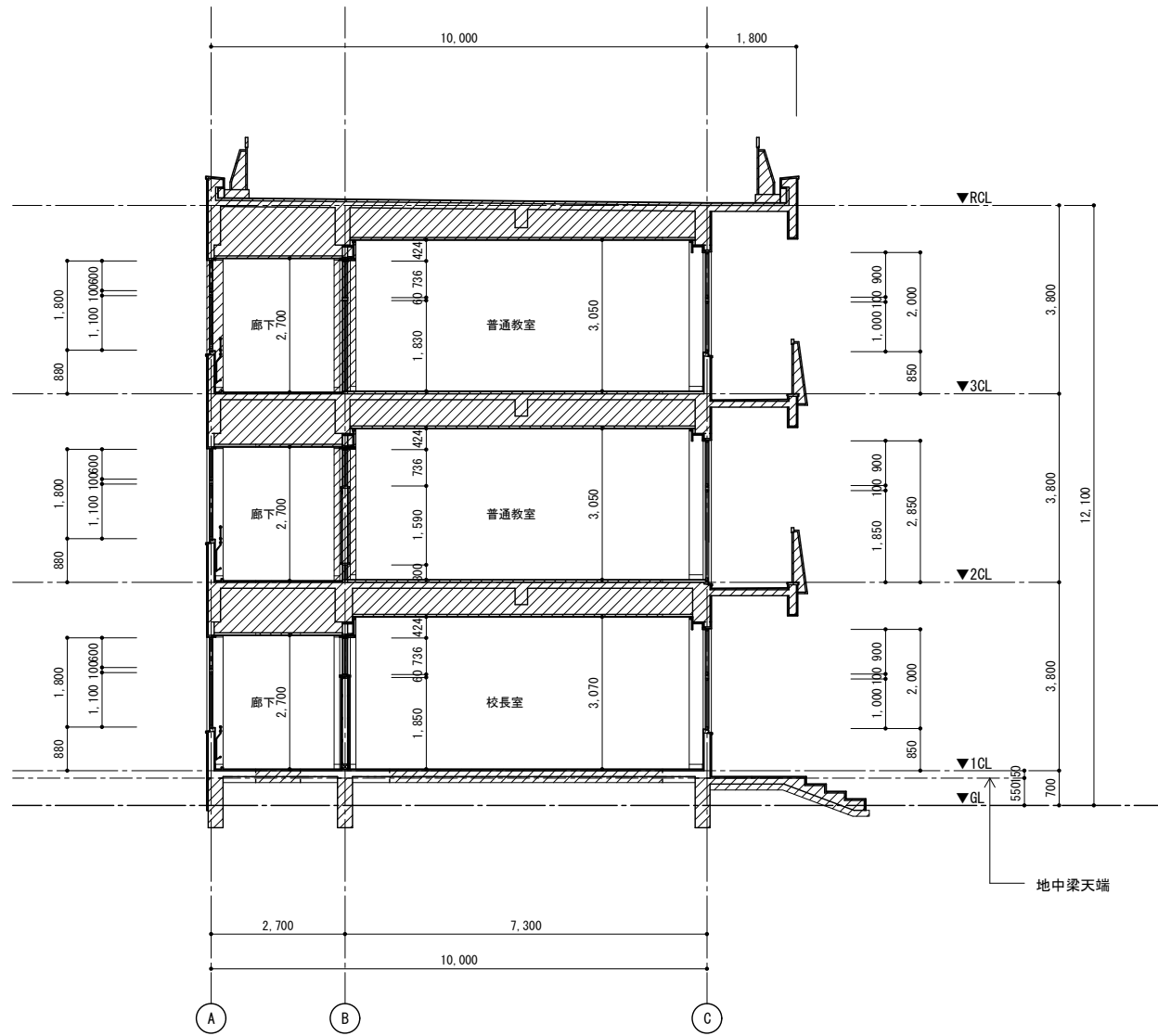
改修後：渡り廊下南立面図 S=1:200



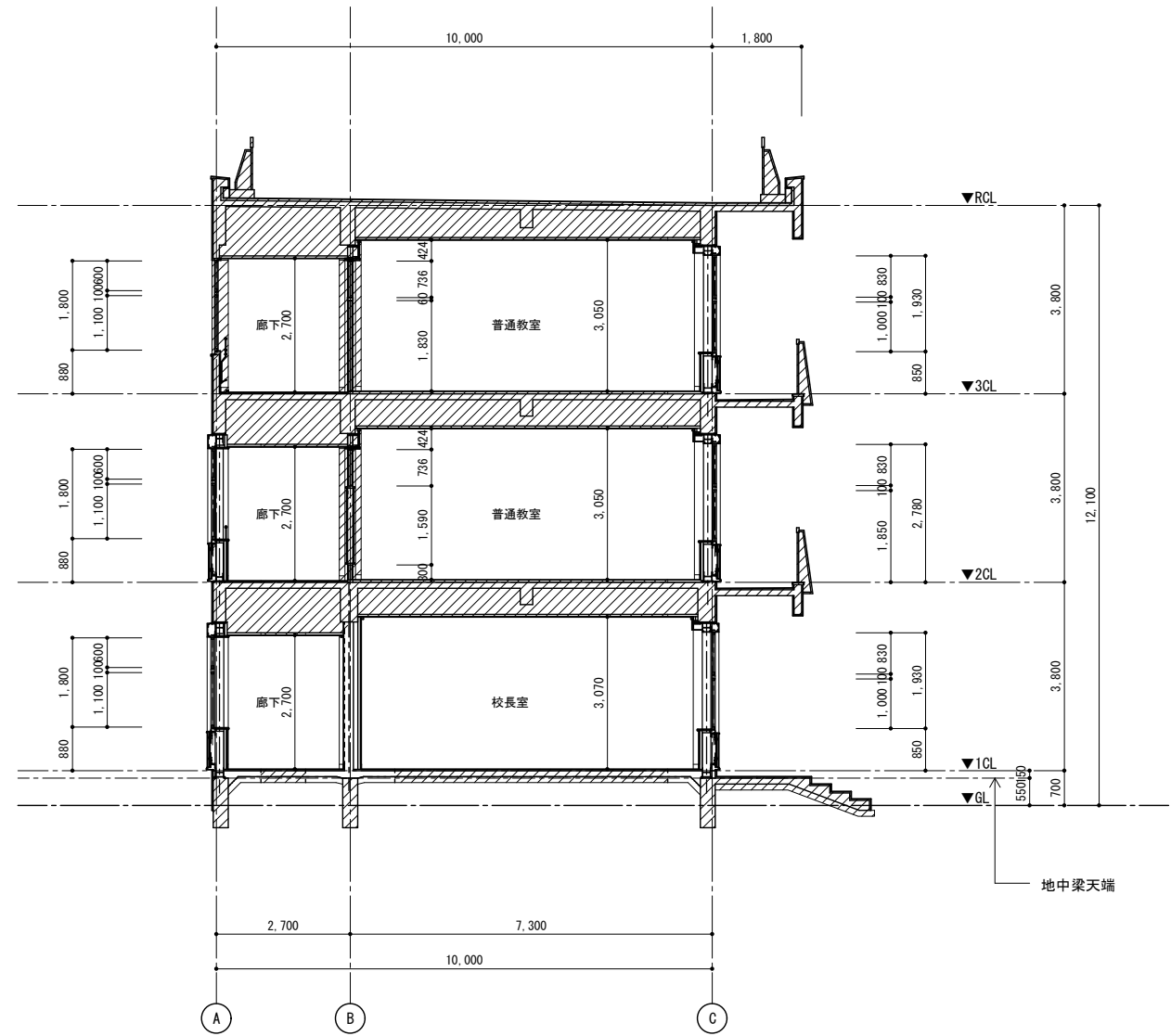
改修後：渡り廊下東立面図 S=1:200

凡例

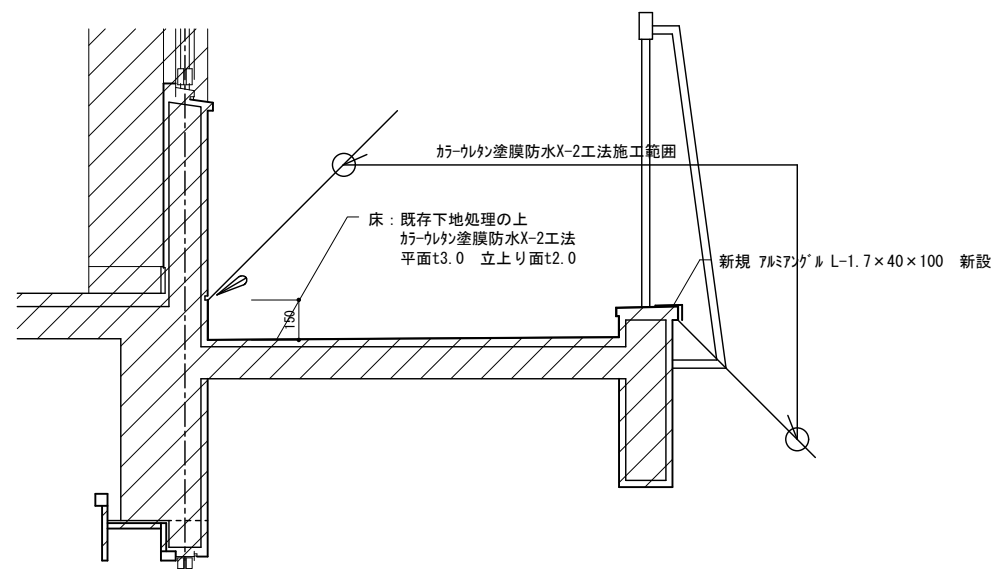
◀	耐震スリット(幅 30)
■	耐震補強に係わる工事範囲を示す
□	外壁改修工事範囲を示す



現況・撤去：(a)~(a)断面図 S=1:100



改修後：(a)~(a)断面図 S=1:100



改修後：ベランダ断面図 S=1:20

シーリング MS-2 15 × 10  
(カッター目入れ共)

凡例

	耐震補強に係わる工事範囲を示す
	工事範囲外を示す

新潟市建築設計協同組合

管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一

担当設計事務所  
酒井建築事務所

担当設計事務所管理建築士  
一級建築士登録 第103858号 酒井秀晴

新潟市建築部公共建築第2課

工事名

太田小学校校舎 耐震補強工事

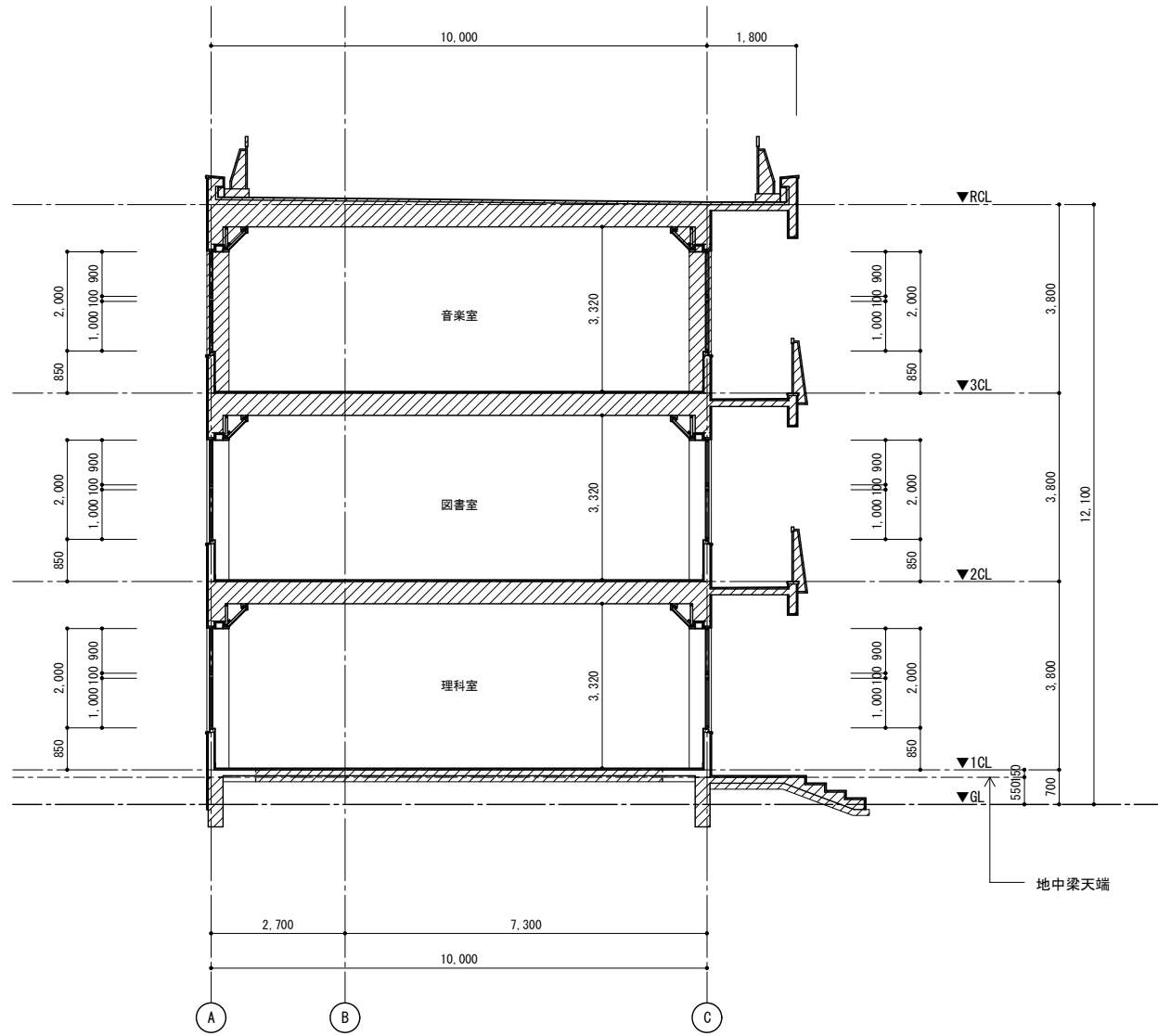
図名

現況・撤去・改修後：断面図(1)

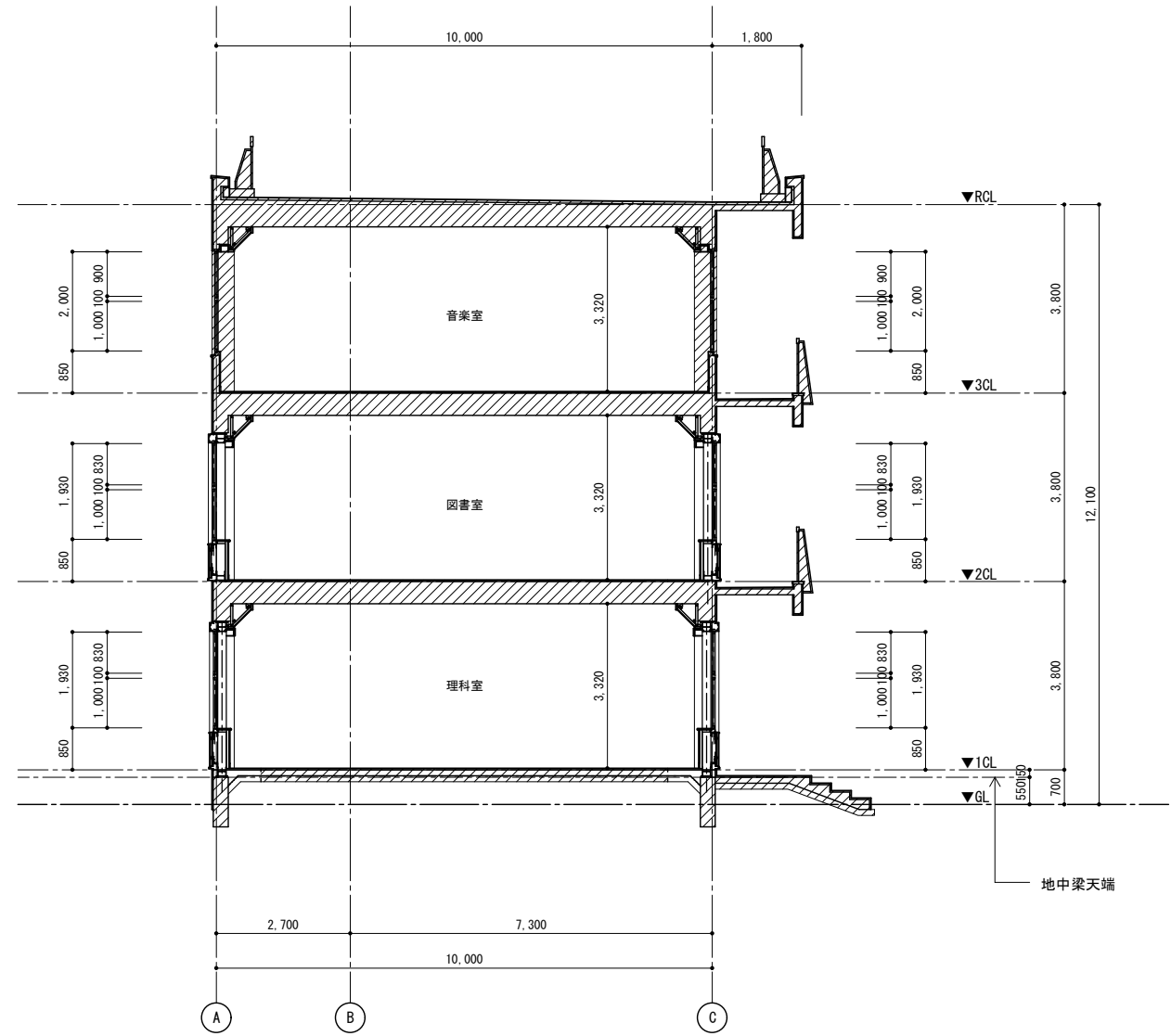
年月日 2011.3

縮尺 1/100

図面番号 A-16



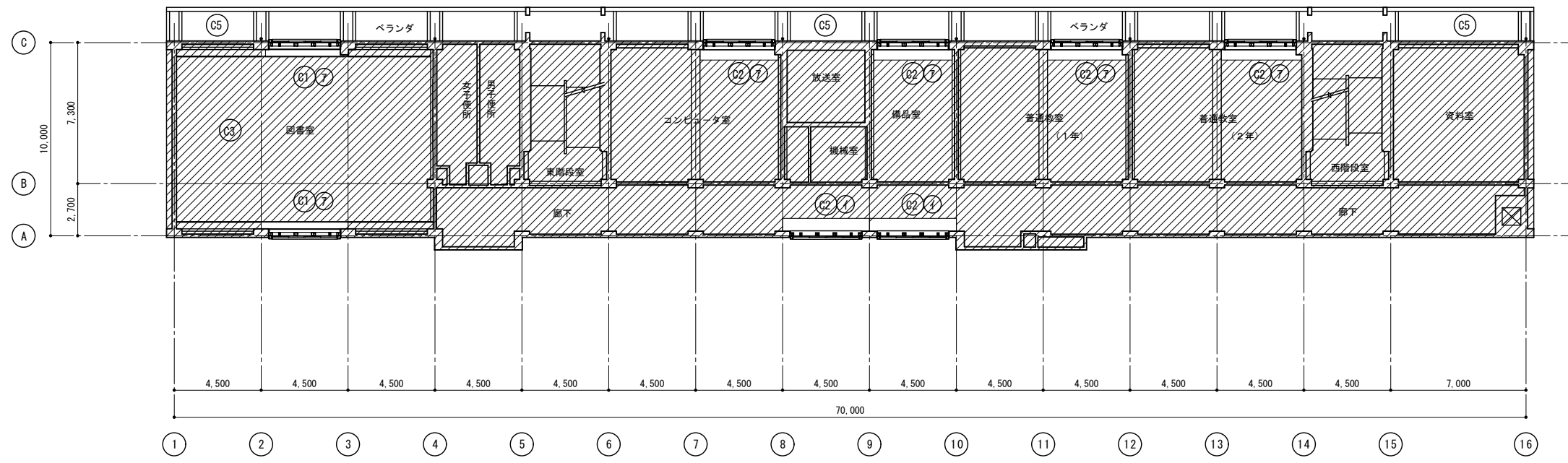
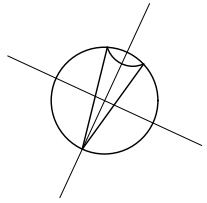
現況・撤去：(b)-(b)断面図 S=1:100



改修後：(b)-(b)断面図 S=1:100

凡例

	耐震補強に係わる工事範囲を示す
	工事範囲外を示す



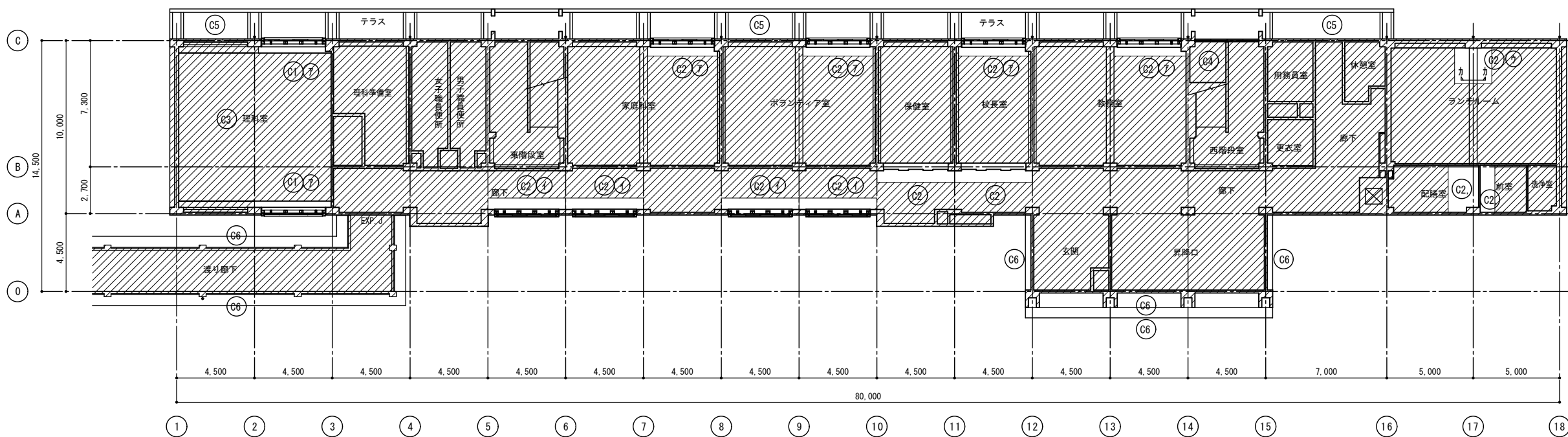
改修後：2階 天井伏図 S=1:200

耐震補強に係わる改修リスト 特記なきものは、下記に依る。

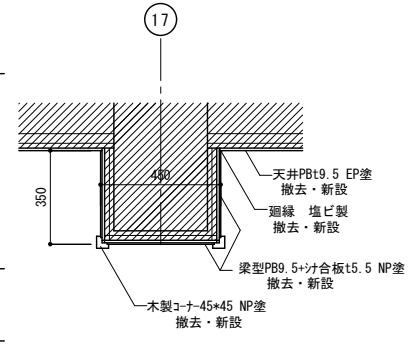
天井仕上	①	有孔珪藻土合板 (T-1) t=5.5 (9'50x90-L t=50 木下地組共) 一部撤去 有孔珪藻土合板 (T-1) t=5.5 (9'50x90-L t=50 木下地組共) EP-G塗
	②	有孔PB t=7.0 (木下地組共) 一部撤去 有孔PB t=9.5 張 (木下地組共) EP塗
	③	PB t=9.5 張A-EP塗一部撤去 PB t=9.5 張 EP塗
	④	エグジット打放し 内装珪藻土材 E吹付 現況のまま
その他	⑦	カーボックス t=20 一部撤去 在来カーブレル一部取付 カーボックス t=25 EP-G塗 在来カーブレル再取付
	⑧	断熱材：グラスウール t=30
	⑨	梁型：PB t=9.0+珪藻土合板 t=9.0 CL塗 木製コナ CL塗一部撤去 梁型：PB t=9.5+珪藻土合板 t=5.5 NP塗 木製コナ NP塗一部新設

外壁改修に係わる改修リスト 特記なきものは、下記に依る。

天井仕上	⑤	コンクリート打放し面：下地処理のうえ 外装珪藻土材 E吹付
	⑥	モルタル毛引面：下地処理のうえ 外装珪藻土材 E吹付



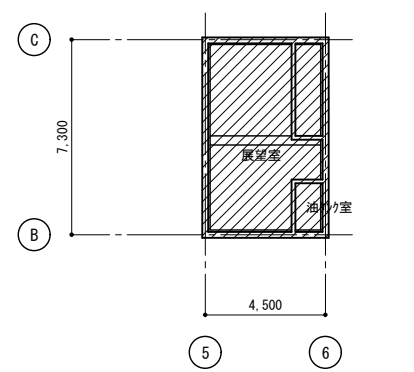
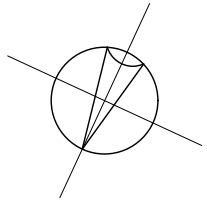
改修後：1階 天井伏図 S=1:200



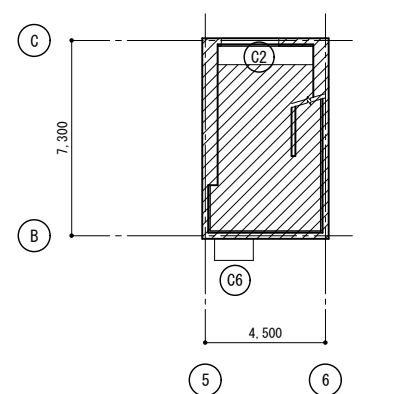
カ方断面詳細図 S=1:20

凡例

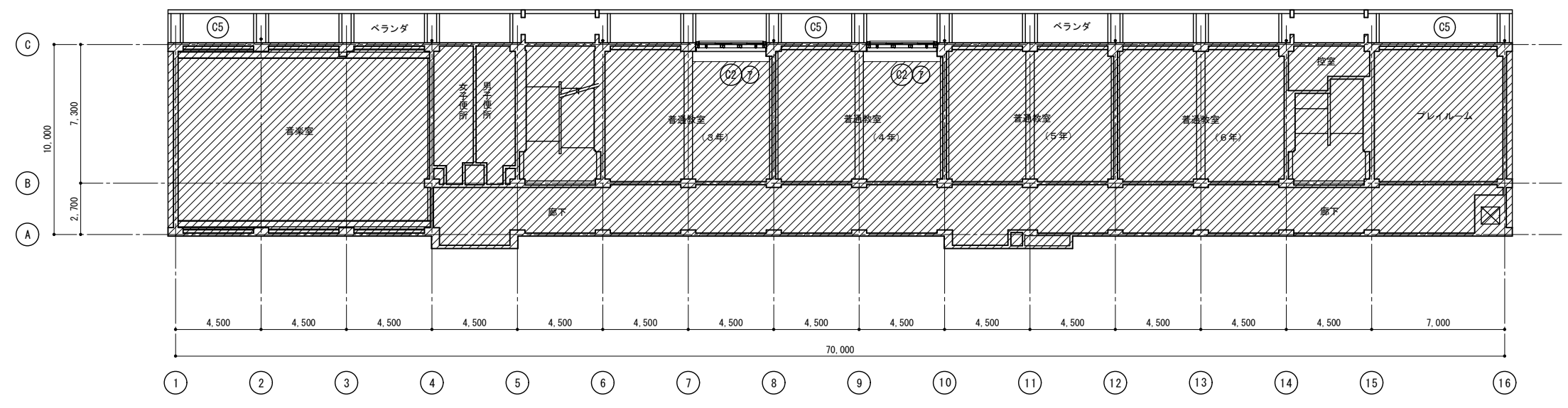
	耐震補強に係わる工事範囲を示す
	工事範囲外を示す



PH階 天井伏図 S=1:200



R階 天井伏図 S=1:200



改修後：3階 天井伏図 S=1:200

耐震補強に係わる改修リスト 特記無きものは、下記に依る。

天井仕上	①	有孔珪藻土合板 (T-1) t=5.5 (ｸﾞﾗｽｸﾞﾙ t=50 木下地組共) 一部撤去 有孔珪藻土合板 (T-1) t=5.5 張 (ｸﾞﾗｽｸﾞﾙ t=50 木下地組共) EP-G塗
	②	有孔PB t=7.0 (木下地組共) 一部撤去 有孔PB t=9.5 張 (木下地組共) EP塗
	③	エコー付打放し 内装薄塗材 E吹付 現状のまま
	④	ﾌﾞﾗｽｸﾞ塗 現状のまま
その他	⑦	カーボックス t=20 一部撤去 在来カネレール 一部取付し カーボックス t=25 EP-G塗 在来カネレール 再取付
	⑧	踏板：ﾌﾗﾐﾝｸﾞｽﾄｯﾌﾟ t=30

外壁改修に係わる改修リスト 特記無きものは、下記に依る。

天井仕上	⑤	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し面：下地処理のうえ 外装薄塗材 E吹付
	⑥	ﾓﾙﾀﾙ刷毛引面：下地処理のうえ 外装薄塗材 E吹付

凡例

	耐震補強に係わる工事範囲を示す
	工事範囲外を示す

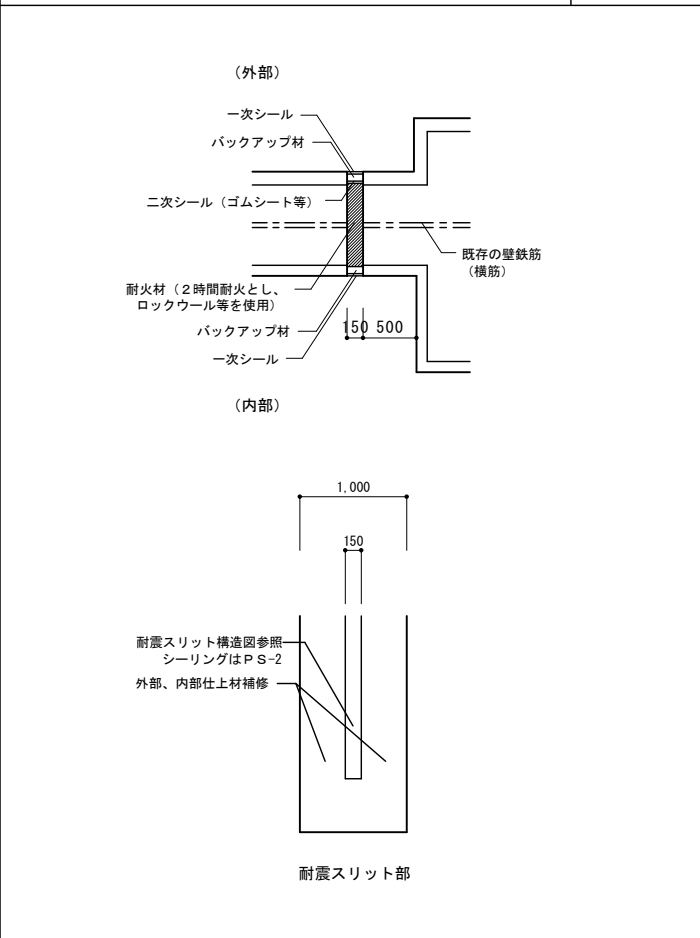
記号	要領
W1	施工箇所：軒裏・庇裏（打放し面） ① 在来塗膜除去（R種ケレン） ② 高圧水洗浄（30～70kg/cm <sup>2</sup> ） ③ 下地調整：ポリマーセメント系フィラー塗布（0.6kg/m <sup>2</sup> ） ④ 軒裏：外装仕上塗材塗り（薄付仕上塗材E 砂壁状） 庇裏：アクリル樹脂エナメル塗り
W2	施工箇所：壁面・バラベツト（モルタル面・打放し面） ① 在来塗膜除去（R種ケレン） ② 高圧水洗浄（30～70kg/cm <sup>2</sup> ） ③ 下地調整：ポリマーセメント系フィラー塗布（0.6kg/m <sup>2</sup> ） ④ 外装仕上塗材塗り（複層仕上塗材E ゆず肌）
W2-1	施工箇所：壁面・バラベツト（モルタル面浮き部） ① 在来塗膜除去（R種ケレン） ② 高圧水洗浄（30～70kg/cm <sup>2</sup> ） ③ P2（ピンネット工法） ④ 外装仕上塗材塗り（複層仕上塗材E ゆず肌）
W2-2	施工箇所：壁面・バラベツト（モルタル面浮き部・欠損部） ① 在来モルタル撤去（周囲カッター入れ）（浮き部のみ） ② 高圧水洗浄（30～70kg/cm <sup>2</sup> ） ③ 樹脂モルタル薄塗り（欠損部補修）厚3.0mm （セメント：珪砂＝1：1 モルタル補強剤混合） ④ 外装仕上塗材塗り（複層仕上塗材E ゆず肌）
W3	施工箇所：壁面・バラベツト（モルタル面・打放し面） ① 在来塗膜除去（R種ケレン） ② 高圧水洗浄（30～70kg/cm <sup>2</sup> ） ③ 下地調整：微弾性フィラー塗布（0.6kg/m <sup>2</sup> ） ④ 可とう形改修用仕上塗材塗り（可とう形改修塗材E ゆず肌）
W4	施工箇所：庇上面 ① 高圧水洗浄（30～70kg/cm <sup>2</sup> ） ② 樹脂モルタル薄塗り 厚3.0mm （セメント：珪砂＝1：1 モルタル補強剤混合） ③ アクリル樹脂エナメル塗り
W4-1	施工箇所：庇上面（浮き部・欠損部） ① 高圧水洗浄（30～70kg/cm <sup>2</sup> ） ② 樹脂モルタル塗り補修（欠損部のみ） （セメント：珪砂＝1：1 モルタル補強剤混合） ③ P2（ピンネット工法） ④ アクリル樹脂エナメル塗り
W4-2	施工箇所：庇先端（ピンネット工法） ① 高圧水洗浄（30～70kg/cm <sup>2</sup> ） ② P2（ピンネット工法） ③ アクリル樹脂エナメル塗り
W5	施工箇所：在来外壁亀裂部分（ひび割れ幅が0.5mm以上） ① Uカット、可とう性球状樹脂充填工法
W6	施工箇所：サッシ廻りシーリング ① 在来サッシ廻りシーリング撤去 ② 新規サッシ廻りシーリング充填（MS-2 15×10 程度）
W7	施工箇所：壁面 ① 在来壁面（100φ）撤去 ② 新規壁面設置 VP100φ JIS K-6741金物 @1200
W8	施工箇所：鉄筋露出部 ① 高圧水洗浄 ② 鉄筋露出部廻りはつり後 鉄筋ケレン及び錆止め ③ 樹脂モルタル充填
W9	施工箇所：鉄部塗装替え ① 在来塗膜除去（鉄部R種ケレン） ② 錆止め塗装 工程A種 ③ 合成樹脂調合ペイント塗り 工程B種
W10	施工箇所：庇上部、打継部シーリング ① 在来シーリング撤去 ② 新規シーリング充填（PU-2 15×10 程度）
P1	施工箇所：在来外壁浮き部分（ピン注入工法） ① ピン注入補強工法（外壁16本/m <sup>2</sup> 、屋上9本/m <sup>2</sup> ） 7ヶピン：SUSピン φ4 L=40～60 球状樹脂充填量 25m <sup>3</sup> /箇所
P2	施工箇所：在来外壁浮き部分等（ピンネット工法） ① プライマー塗布 ② 中塗り（1回目） ③ 三軸ピンネット貼付け ④ アンカーピン固定（CPアンカーピン4本/m <sup>2</sup> ） ⑤ 中塗り（2回目）

\* 地盤は高圧水洗浄（30～70kg/cm<sup>2</sup>）を行う。  
\* 複層仕上材の耐摩耗性は2種とする。  
\* ピンネット工法は健全部に100mm程度の余裕を取る。

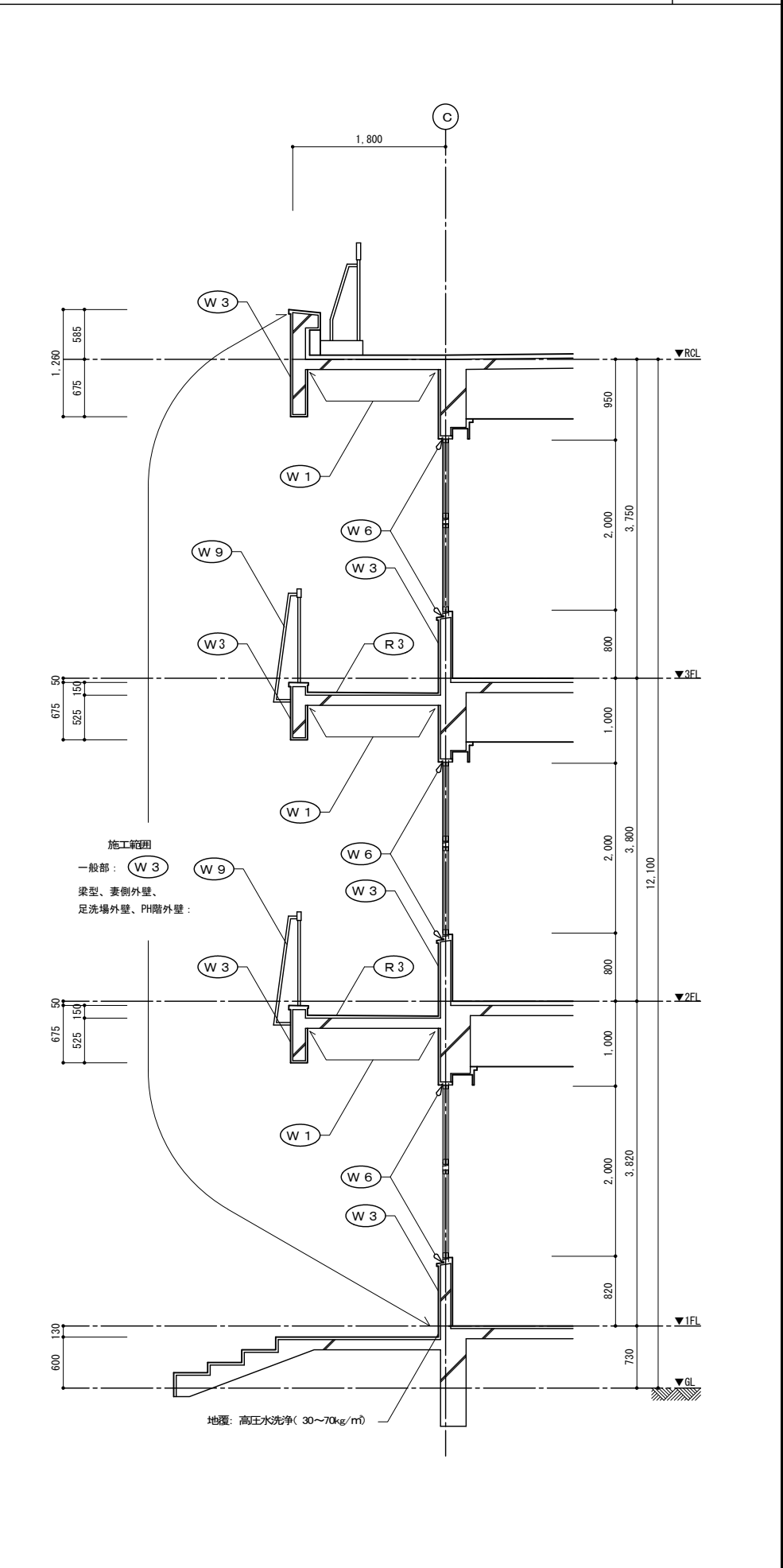
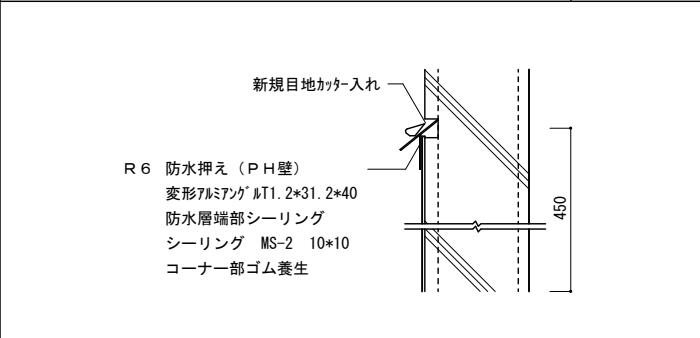
記号	要領
R1	施工箇所：屋上平面、立上り、妻側ステージ平面、立上り 1 高圧水洗浄（30～70kg/cm <sup>2</sup> ） 2 樹脂モルタル薄塗り 厚3mm （セメント：珪砂＝1：1 *モルタル補強剤混合） *珪砂の粒径は共重合体エポキシ樹脂増強剤 塩化ビニル樹脂系シート張り 厚2.0mm
R2	施工箇所：屋上平面、立上り（剥離・浮き部） 1 既存防水モルタル撤去 2 高圧水洗浄（30～70kg/cm <sup>2</sup> ） 3 普通モルタル 厚30mm 4 合成高分子ルーフィング防水 密着工法（歩行用） 塩化ビニル樹脂系シート張り 厚2.0mm
R3	施工箇所：バラベツト笠木、屋上一部、ベランダ平面、立上り 1 高圧水洗浄（30～70kg/cm <sup>2</sup> ） 2 樹脂モルタル薄塗り 厚3mm 3 ウレタン系塗膜防水（X-2工法）
R4	施工箇所：バラベツト笠木、屋上平面、立上り（剥離・浮き部） 1 既存防水モルタル撤去、新規モルタル復旧（アノキシス線共） 2 高圧水洗浄（30～70kg/cm <sup>2</sup> ） 3 屋上平面、普通モルタル塗り 厚30mm バラベツト笠木、屋上立上り：樹脂モルタル薄塗り 厚3mm 4 ウレタン系塗膜防水（X-2工法）
R5	施工箇所：シート防水立上り端部（バラベツト部、PH開口部廻り） 1 防水押さえ アルミブラケット 1.5×30×10 2 シーリング MS-2 10×10
R6	施工箇所：ウレタン塗膜防水立上り端部 1 防水押さえ 変形7&ミツグ&T1.2×31.2×40 防水層端部シーリング 2 シーリング MS-2 10×10
R7	施工箇所：ドレーン 1 既存錆鉄製ルーフトレーン目録撤去 2 改修用ドレーン 7&ミツグ&T1.2×31.2×40 付き100φ
R8	施工箇所：既存伸縮目地 1 在来目地アスファルトコンパウンド撤去 目地幅20mm程度 2 樹脂モルタル充填 20×30mm（1：3）

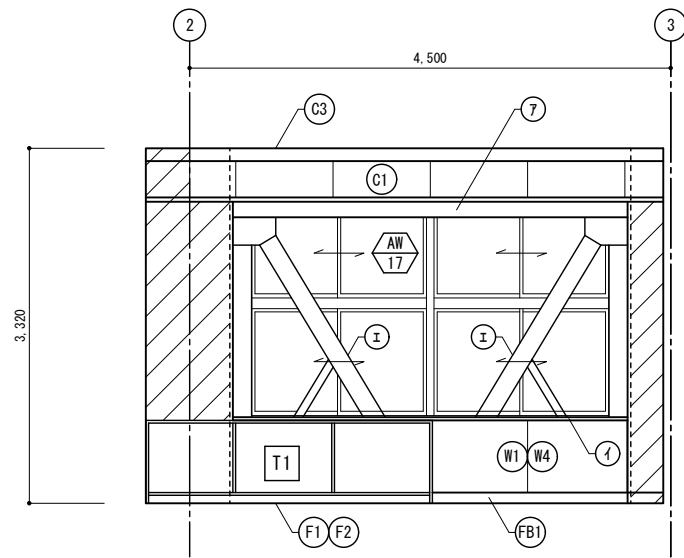
屋上フェンス改修仕様	
記号	要領
F1	施工箇所：フェンス ① 既存ネットフェンス撤去（H=900 柱@1,500 控柱@3,000） ② 新規フェンス設置 仕様 小学校：H=1,500 支柱@2,000 中学校：H=1,800 支柱@2,000 支柱・控柱：V&B鋼材 3種溶融亜鉛メッキ+粉体塗装 同線：R付L40×40×3鋼材 3種溶融亜鉛メッキ+粉体塗装 金網：菱形金網 3種亜鉛メッキカラー線 φ3.2×56 基礎：コンクリート製基礎 W×H×D×@2,000 下部塩ビシート2.0敷き くぐり止めパイプ：SGP-40A L=※程度（2段）

- [ 改修工事を進める上での留意点 ]
1. 外部足場を設置後、下記の項目を調査・報告し、監督員の指示に従い補修計画書（施工計画図を含む）を作成し、承諾を受ける。
  2. [浮き]、[はらみ]、[ひび割れ]、[剥離]、[錆び汚れ]部分等は、調査及びマーキング完了後、監督員の立会いを求めること。
  3. 改修工法の詳細は、国土交通大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書 平成22年版」による。
  4. 防水工事は、新潟市防水工事業協会の施工とし、請負者は新潟市防水工事業協会と連名の保証書を提出する。ただし、市が認めた場合は、協会員以外の施工とすることができる。この場合は請負者と施工者との連名の保証書とする。
  5. 防水の保証期間は期間は10年間とする。

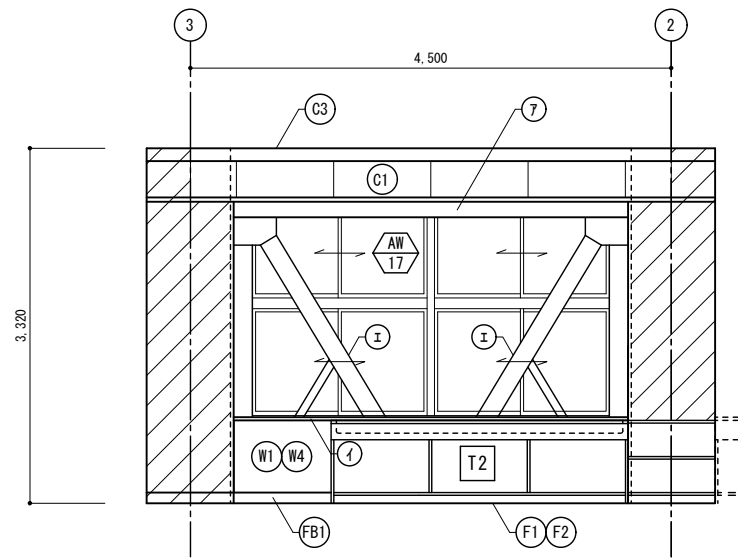


耐震スリット工事  
 a) 施工内容：短柱の靱性の向上を目的として腰壁・垂壁等に耐震スリットを新設する。  
 b) 耐震スリット形状：巾は、30mmの完全スリット型とする。  
 c) 耐震スリットは、外部から施工することを原則とする。  
 d) 腰壁や垂壁と柱の切り抜き作業は、カッターやはつりにより行う。  
 e) はつりに際しては、他の部分にひび割れを起さないよう慎重に行う。  
 f) 余分にはつた部分は、無収縮モルタル（F=30N/mm<sup>2</sup>以上）にて補修を行う。  
 g) 状況により上記に沿えない場合には、監督員と協議する。

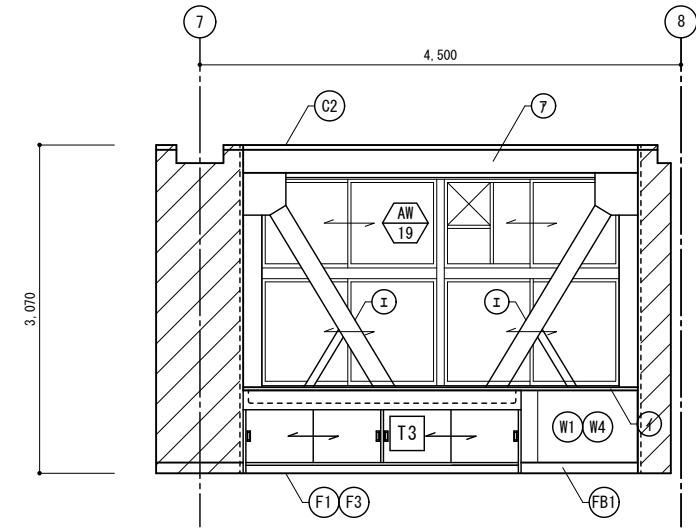




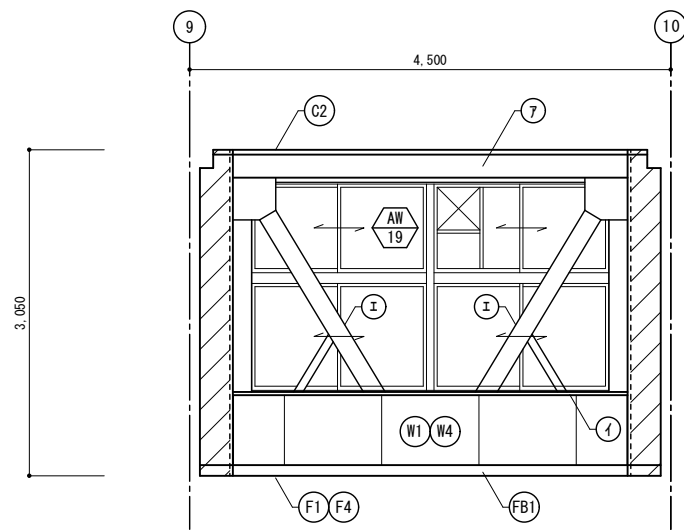
1階理科室 南面 展開図 1/50



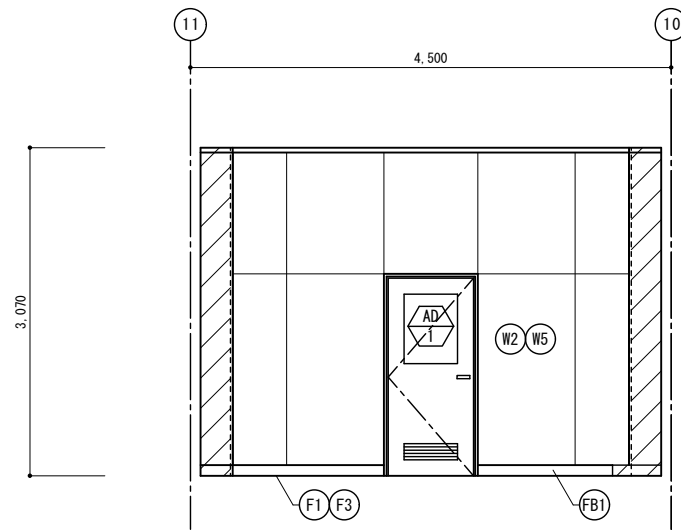
1階理科室 北面 展開図 1/50



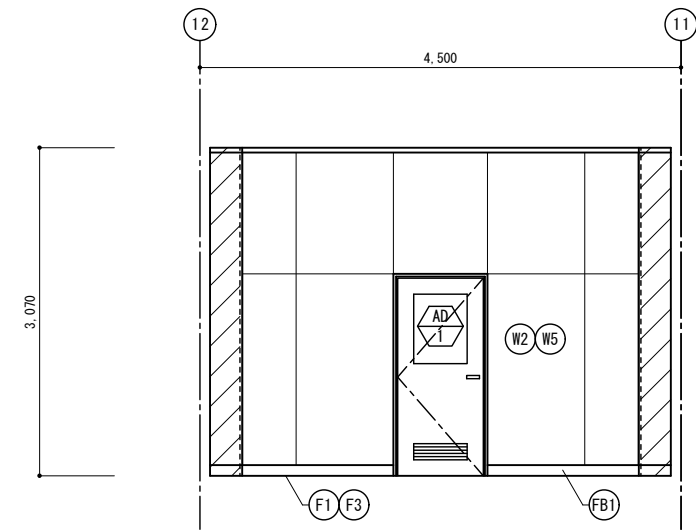
1階家庭科室 南面 展開図 1/50



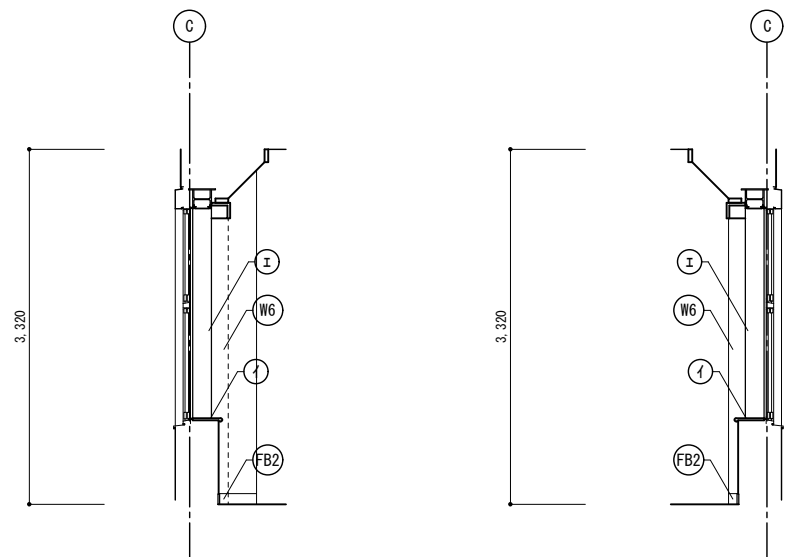
1階ボランティア室 南面 展開図 1/50



1階保健室 北面 展開図 1/50



1階校長室 北面 展開図 1/50



理科室、図書室 西面 展開図 1/50

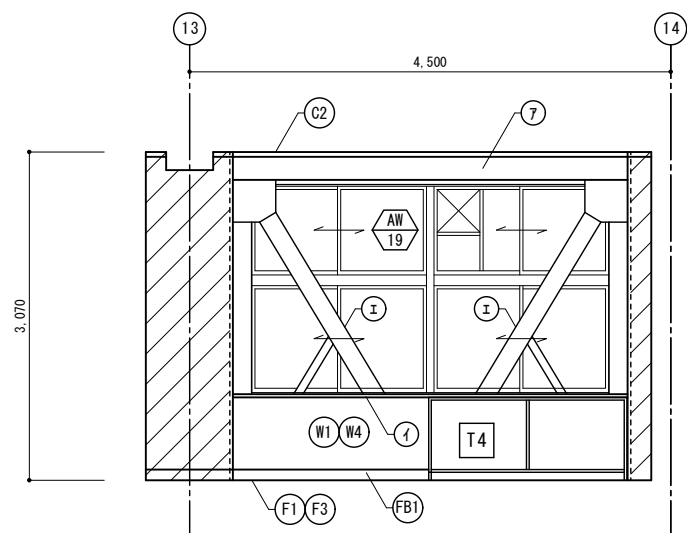
理科室、図書室 東面 展開図 1/50

耐震補強に係わる改修リスト 特記無きものは、下記に依る。

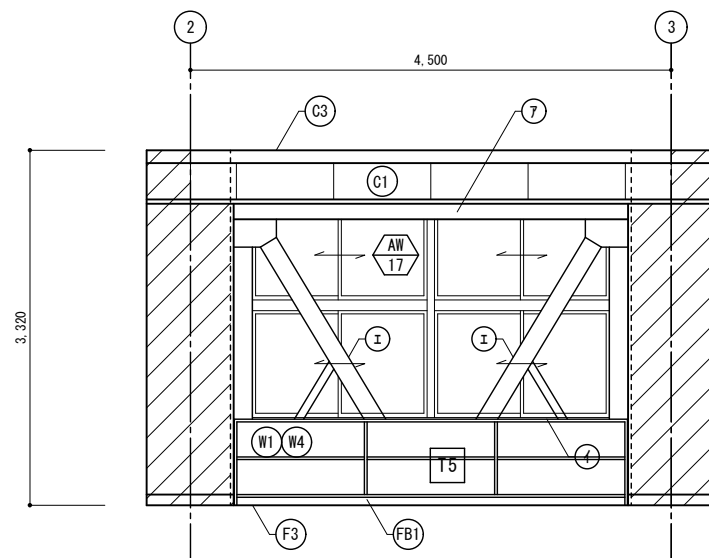
部材	改修内容	天井上	その他
F1	在来床：コンクリート t=120(有筋) 一部撤去 新規床：コンクリート t=120(有筋)	C1	有孔パン合板(T-1) t=5.5(ｸﾞﾗｽｸｰﾙ t=50 木下地組共) 一部撤去 有孔パン合板(T-1) t=5.5 張(ｸﾞﾗｽｸｰﾙ t=50 木下地組共) EP-G塗
F2	鉄骨金網下地共 耐酸性ﾀｲﾙ t=3.0 一部撤去 鉄骨金網下地 ビニール床ﾀｲﾙ t=2.0 貼	C2	有孔PB t=7.0(木下地組共) 一部撤去 有孔PB t=9.5 張(木下地組共) EP塗
F3	鉄骨金網下地共 ビニール床ﾀｲﾙ t=2.0 一部撤去 鉄骨金網下地 ビニール床ﾀｲﾙ t=2.0 貼	C3	コンクリート打放し、内装珪藻土材 既付 現況のまま
F4	鉄骨金網下地共 フローリングﾌﾞﾛｯｸ t=15 撤去 鉄骨金網下地 フローリングﾌﾞﾛｯｸ t=15 貼(塗装品)	C4	ﾌﾞﾗｯｽﾞ塗 現況のまま
F5	鉄骨金網 一部撤去 鉄骨金網下地 合成樹脂塗床仕上	7	カーボボックス t=20 一部撤去 在来カーネーブル 一部取り外し カーボボックス t=25 EP-G塗 在来カーネーブル 再取付
FB1	木製 一部撤去 H=100 木製 EP-G塗 H=100	I	膳板：ﾌﾞﾗｯｽﾞｽﾄｰｰ t=30
FB2	鉄骨金網 EP塗分 一部撤去 H=100 鉄骨金網 EP塗分 H=100	ウ	手摺：ｽﾃｰﾙ製 φ34 一部撤去 手摺：ｽﾃｰﾙ製 φ34 EP-G塗
W1	在来壁：コンクリート t=120(有筋) 一部撤去 新規壁：LGS W=50	エ	ﾌﾞﾚｰｽ見掛 EP-G塗
W2	在来壁：木造軸組壁 一部撤去 新規壁：コンクリート t=180(有筋) LGS W=65	オ	塞ぎﾌﾟﾚｰﾄ t=1.6 EP-G塗 結露防止：ｸﾞﾗｲﾄ t=2.0吹付 掲示板：ﾌﾞﾗｯｽﾞ掲示ｶｰﾄﾞ貼 1400×900
W3	在来壁：木造軸組壁 一部撤去 新規壁：コンクリート t=180(有筋) コンクリート打放し EP-G塗		
W4	鉄骨金網 一部撤去 PB t=9.5+ﾌﾞﾗｯｽﾞ合板 (T-1) t=5.5 下地 突付張 EP-G塗		
W5	ﾌﾞﾗｯｽﾞ合板 (T-1) t=5.5 撤去 PB t=9.5+ﾌﾞﾗｯｽﾞ合板 (T-1) t=5.5 下地 突付張 EP-G塗		
W6	鉄骨金網 一部撤去 鉄骨金網 EP-G塗		

凡例

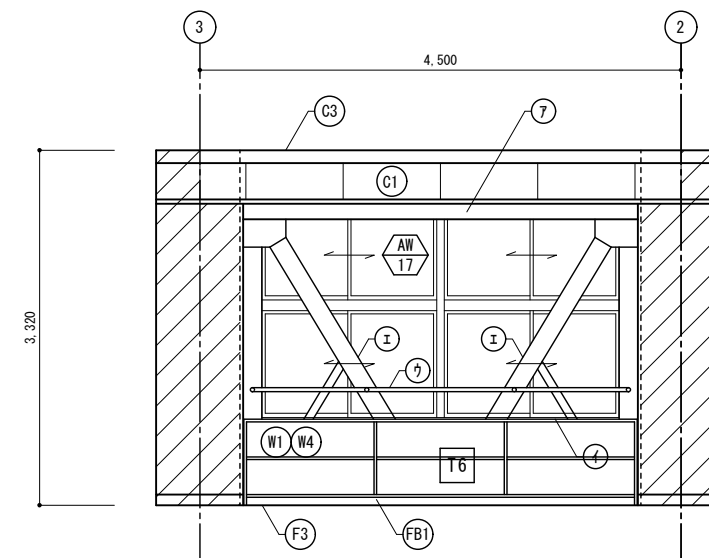
	耐震補強に係わる工事範囲を示す
	工事範囲外を示す



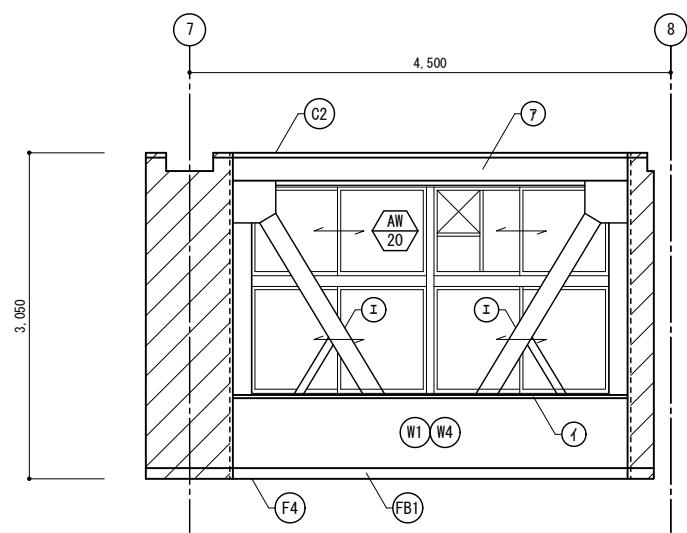
1階教務室 南面 展開図 1/50



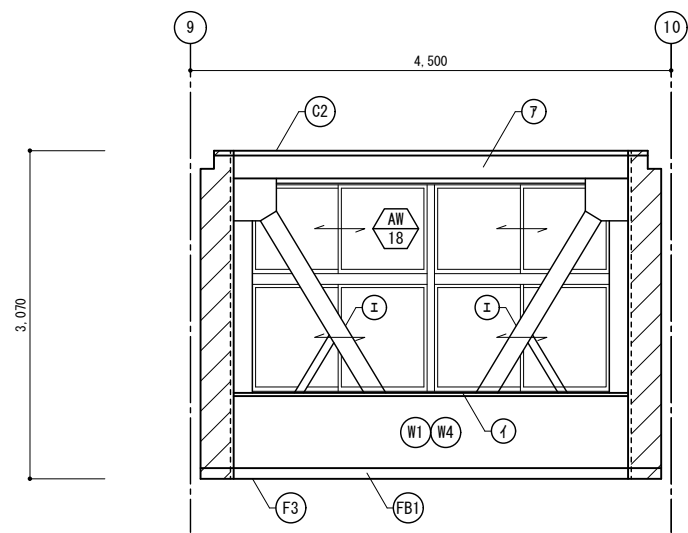
2階図書室 南面 展開図 1/50



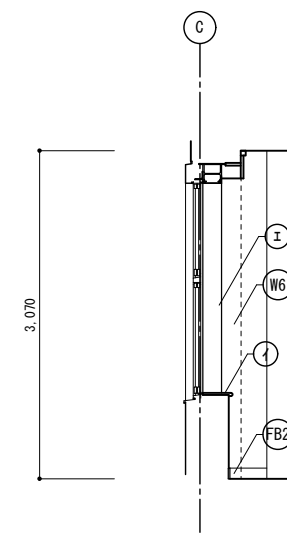
2階図書室 北面 展開図 1/50



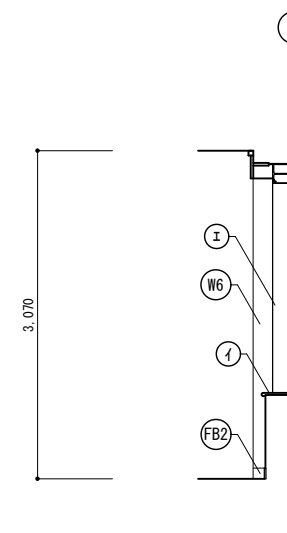
2階コンピュータ室 南面 展開図 1/50



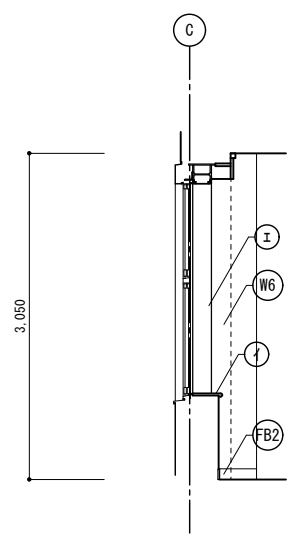
2階備品室 南面 展開図 1/50



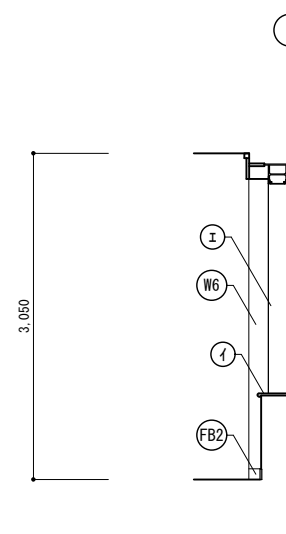
1階各室 西面 展開図 1/50



1階各室 東面 展開図 1/50



2階各室 西面 展開図 1/50



2階各室 東面 展開図 1/50

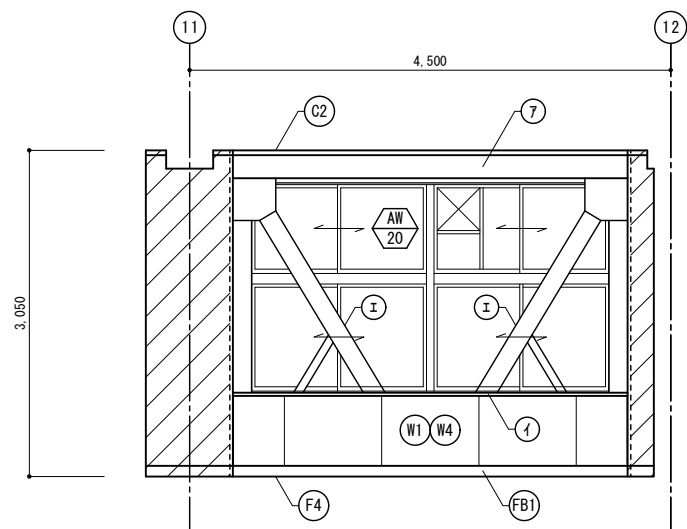
耐震補強に係わる改修リスト 特記無きものは、下記に依る。

部材	改修内容	天井仕上	その他
床仕上	(F1) 在来床: コンクリート t=120(有筋) 一部撤去 新規床: コンクリート t=120(有筋)	(C1) 有孔珪藻土合板 (T-1) t=5.5 (ガラスケル t=50 木下地組共) 一部撤去 有孔珪藻土合板 (T-1) t=5.5 張 (ガラスケル t=50 木下地組共) EP-G塗	(7) カテナボックス t=20 一部撤去 在来カテナレル 一部取り外し カテナボックス t=25 EP-G塗 在来カテナレル 再取付
	(F2) 珪藻土合板下地共 耐酸性タイル t=3.0 一部撤去 珪藻土合板下地 ビニール床タイル t=2.0 貼	(C2) 有孔PB t=7.0(木下地組共) 一部撤去 有孔PB t=9.5 張(木下地組共) EP塗	(イ) 珪藻土合板 t=30
	(F3) 珪藻土合板下地共 ビニール床タイル t=2.0 一部撤去 珪藻土合板下地 ビニール床タイル t=2.0 貼	(C3) コンクリート打放し 内装珪藻土材 取付 現況のまま	(ウ) 手摺: スチール製 φ34 一部撤去 手摺: スチール製 φ34 EP-G塗
	(F4) 珪藻土合板下地共 フローリングアロク t=15 撤去 珪藻土合板下地 フローリングアロク t=15 貼(塗装品)	(C4) グラス-塗 現況のまま	(エ) プラス見掛 EP-G塗
	(F5) 珪藻土合板 一部撤去 珪藻土合板下地 合成樹脂塗床仕上		(オ) 塞ぎプレート t=1.6 EP-G塗 結露防止: グライト t=2.0吹付 掲示板: 7&#224;特掲示加貼 1400×900
中木仕上	(FB1) 木製 一部撤去 H=100 木製 EP-G塗 H=100		
	(FB2) 珪藻土合板 EP塗 一部撤去 H=100 珪藻土合板 EP-G塗 H=100		
壁仕上	(W1) 在来壁: コンクリート t=120(有筋) 一部撤去 新規壁: LGS W=50		
	(W2) 在来壁: 木造軸組壁 一部撤去 新規壁: コンクリート t=180(有筋) LGS W=65		
	(W3) 在来壁: 木造軸組壁 一部撤去 新規壁: コンクリート t=180(有筋) コンクリート打放し EP-G塗		
	(W4) 珪藻土合板 一部撤去 PB t=9.5+珪藻土合板 (T-1) t=5.5 下地 突付張 EP-G塗		
	(W5) グラス合板 (T-1) t=5.5 撤去 PB t=9.5+珪藻土合板 (T-1) t=5.5 下地 突付張 EP-G塗		
	(W6) 珪藻土合板 一部撤去 珪藻土合板 EP-G塗		

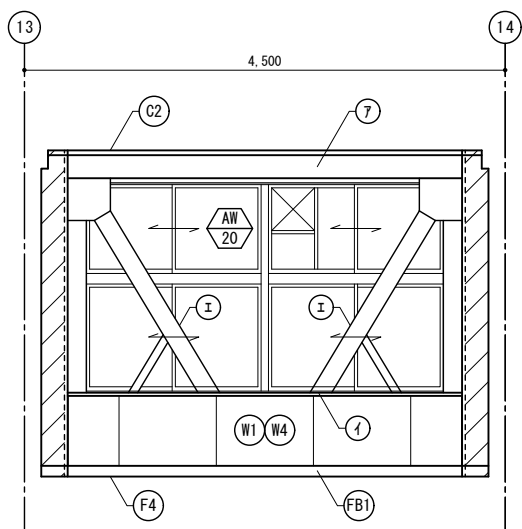
凡例

	耐震補強に係わる工事範囲を示す
	工事範囲外を示す

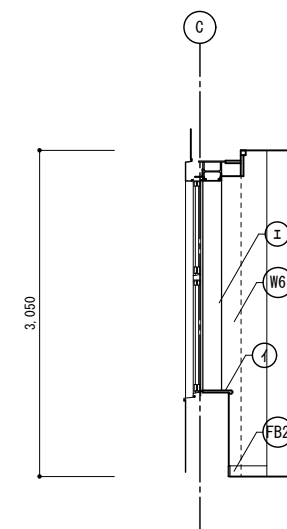




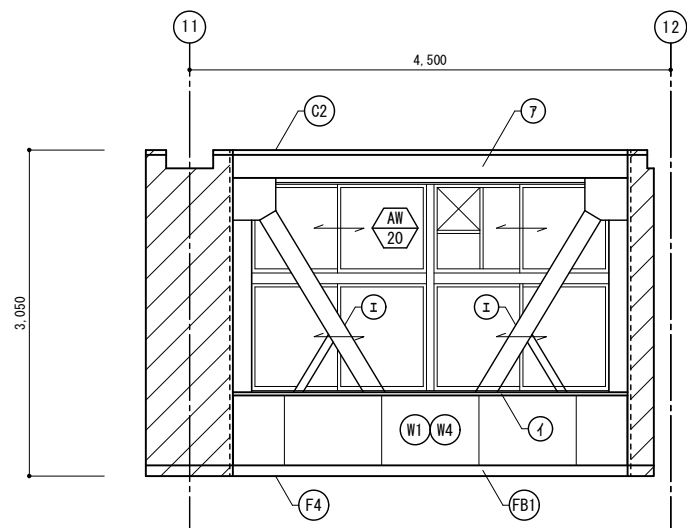
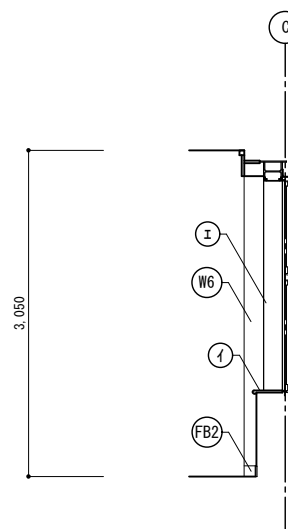
2階普通教室(1年)南面展開図 1/50



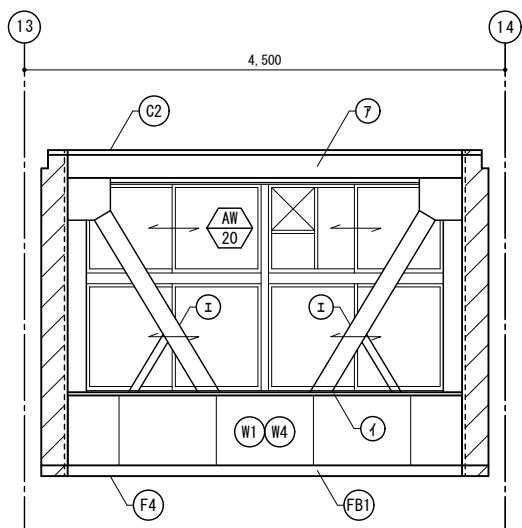
2階普通教室(2年)南面展開図 1/50



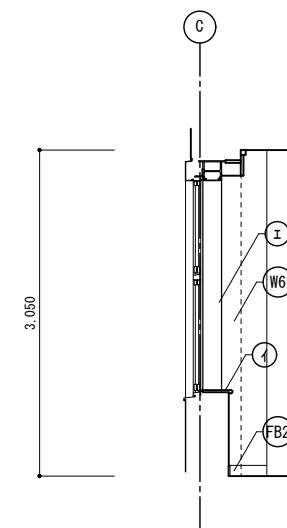
2階普通教室(1,2年)西面展開図 1/50 2階普通教室(1,2年)東面展開図 1/50



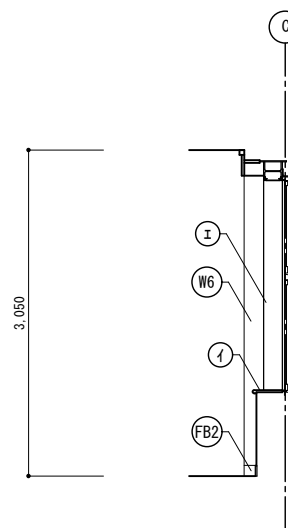
3階普通教室(3年)南面展開図 1/50



3階普通教室(4年)南面展開図 1/50



3階普通教室(3,4年)西面展開図 1/50 3階普通教室(3,4年)東面展開図 1/50

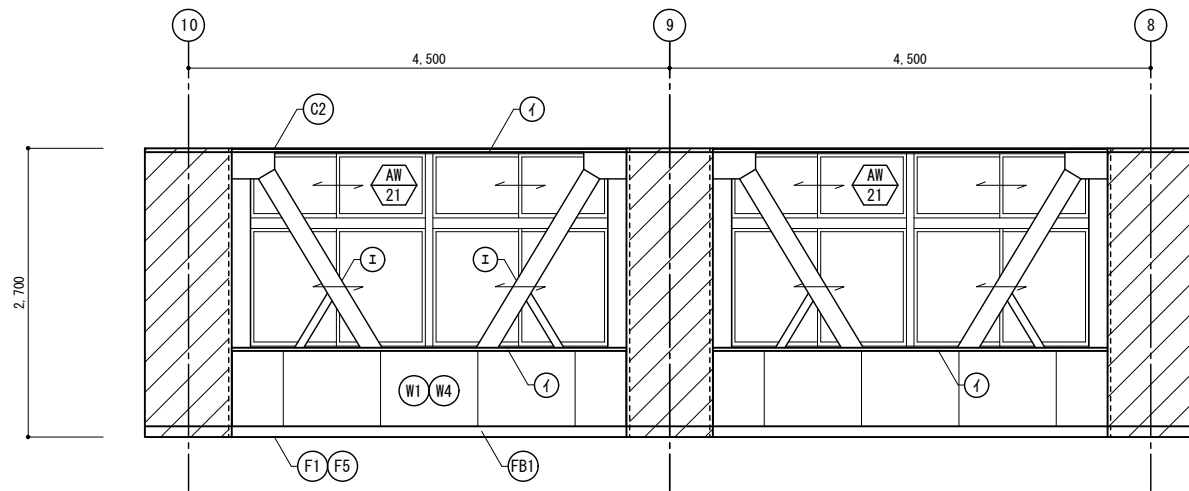


耐震補強に係わる改修リスト 特記無きものは、下記に依る。

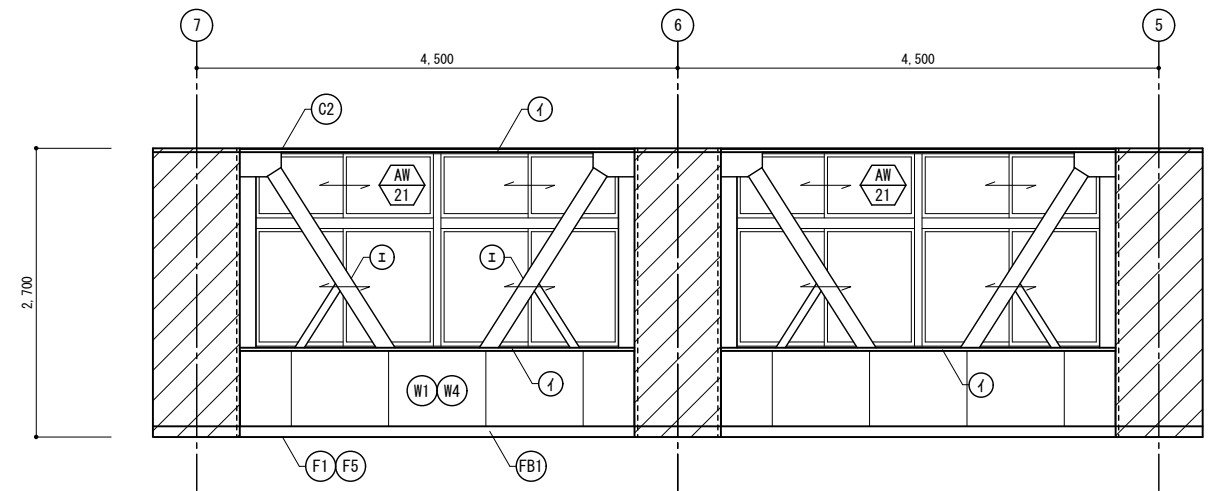
部材	改修内容	天井仕上	その他	
床仕上	F1	在来床:コンクリート t=120(有筋) 一部撤去 新規床:コンクリート t=120(有筋)	C1	有孔珪藻土合板(T-1) t=5.5(ｸﾞﾗｽｸｰﾙ t=50 木下地組共) 一部撤去 有孔珪藻土合板(T-1) t=5.5 張(ｸﾞﾗｽｸｰﾙ t=50 木下地組共) EP-G塗
	F2	珪藻土合板下地共 耐酸性ﾀｲﾙ t=3.0 一部撤去 珪藻土合板下地 ﾋﾞｰﾝﾙ床ﾀｲﾙ t=2.0 貼	C2	有孔PB t=7.0(木下地組共) 一部撤去 有孔PB t=9.5 張(木下地組共) EP塗
	F3	珪藻土合板下地共 ﾋﾞｰﾝﾙ床ﾀｲﾙ t=2.0 一部撤去 珪藻土合板下地 ﾋﾞｰﾝﾙ床ﾀｲﾙ t=2.0 貼	C3	コンクリート打放し、内装珪藻土材 既設のまま
	F4	珪藻土合板下地共 ﾉｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ t=15 撤去 珪藻土合板下地 ﾉｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ t=15 貼(塗装品)	C4	ﾌﾞﾗｯｽﾞ塗 現状のまま
	F5	珪藻土合板 一部撤去 珪藻土合板下地 合成樹脂塗床仕上		
中木仕上	FB1	木製 一部撤去 H=100 木製 EP-G塗 H=100	7	ｶｰﾈｰﾙ t=20 一部撤去 在来ｶｰﾈｰﾙ 一部取外し ｶｰﾈｰﾙ t=25 EP-G塗 在来ｶｰﾈｰﾙ 再取付
	FB2	珪藻土合板 EP塗 一部撤去 H=100 珪藻土合板 EP-G塗 H=100	イ	珪藻土合板 t=30
壁仕上	W1	在来壁:コンクリート t=120(有筋) 一部撤去 新規壁: LGS W=50	ウ	手摺:ｽﾃｰﾙ製 φ34 一部撤去 手摺:ｽﾃｰﾙ製 φ34 EP-G塗
	W2	在来壁:木造軸組壁 一部撤去 新規壁:コンクリート t=180(有筋) LGS W=65	エ	ﾌﾞﾚｰｽ見掛 EP-G塗
	W3	在来壁:木造軸組壁 一部撤去 新規壁:コンクリート t=180(有筋) コンクリート打放し EP-G塗	オ	塞ぎﾌﾟﾚｰﾄ t=1.6 EP-G塗 結露防止:ｸﾞﾗｲﾄ t=2.0吹付
	W4	珪藻土合板 一部撤去 PB t=9.5+珪藻土合板(T-1) t=5.5 下地 突付張 EP-G塗		掲示板:ﾌﾙﾏｰｸ掲示ｶｰﾄﾞ貼 1400×900
	W5	珪藻土合板(T-1) t=5.5 撤去 PB t=9.5+珪藻土合板(T-1) t=5.5 下地 突付張 EP-G塗		
	W6	珪藻土合板 一部撤去 珪藻土合板 EP-G塗		
			新規 建具記号( 建具表参照)	
			新規 家具記号( 家具表参照)	

凡例

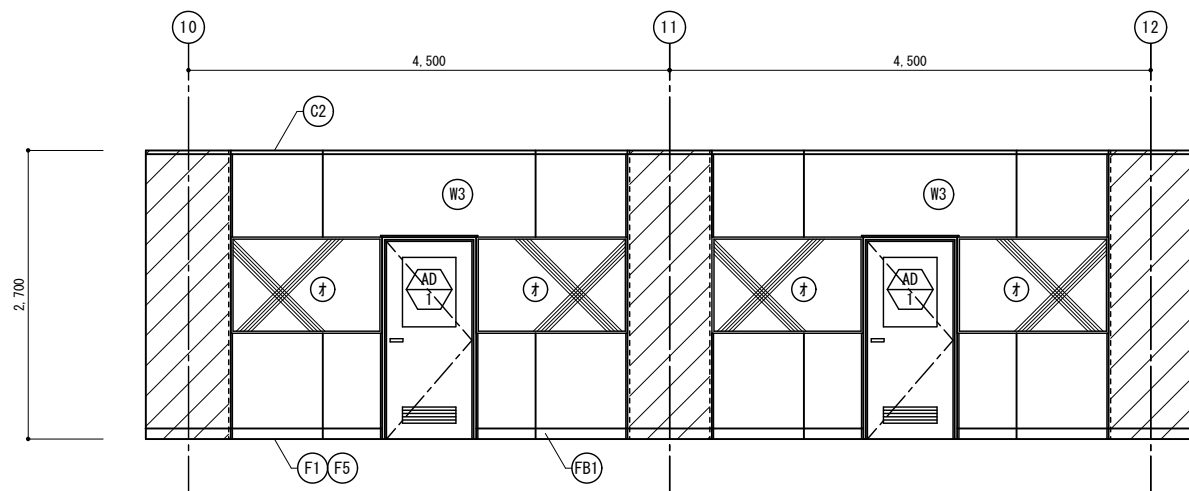
	耐震補強に係わる工事範囲を示す
	工事範囲外を示す



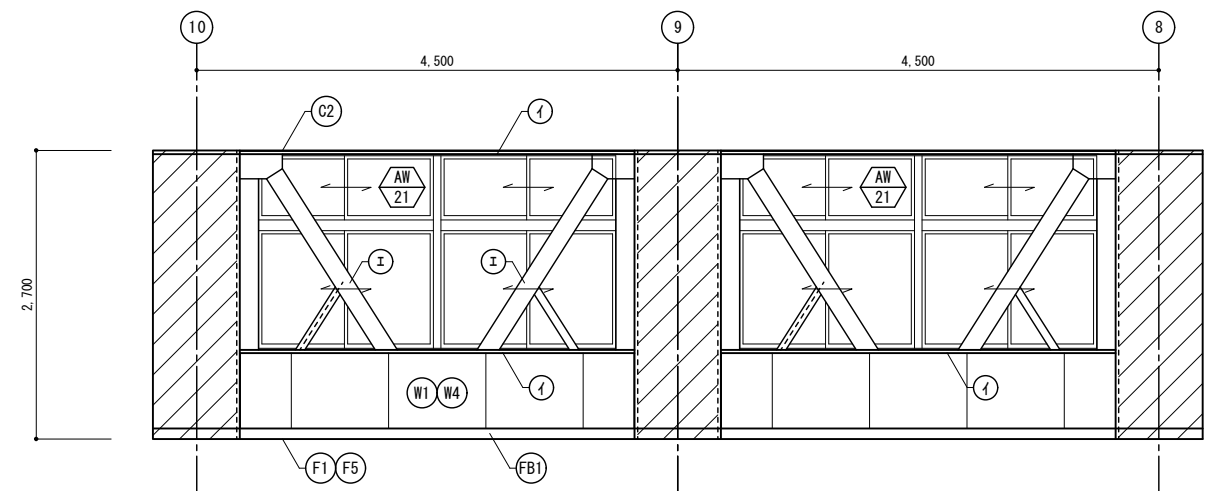
1階廊下北面展開図 1/50



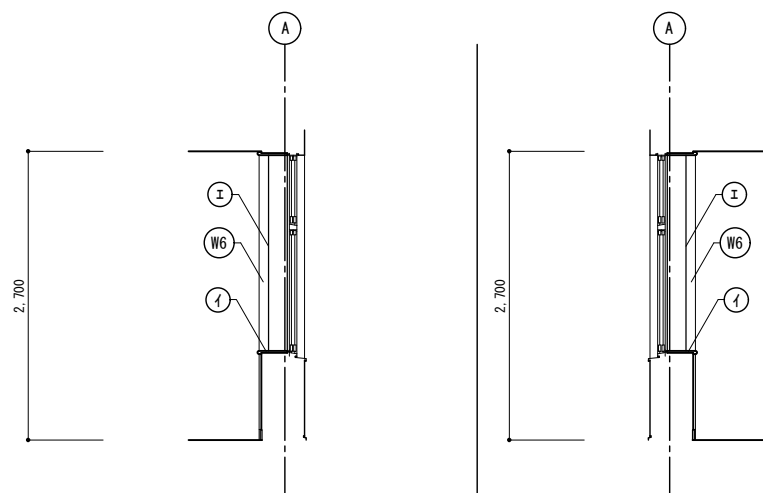
1階廊下北面展開図 1/50



1階廊下南面展開図 1/50



2階廊下北面展開図 1/50



1,2階廊下東面展開図 1/50

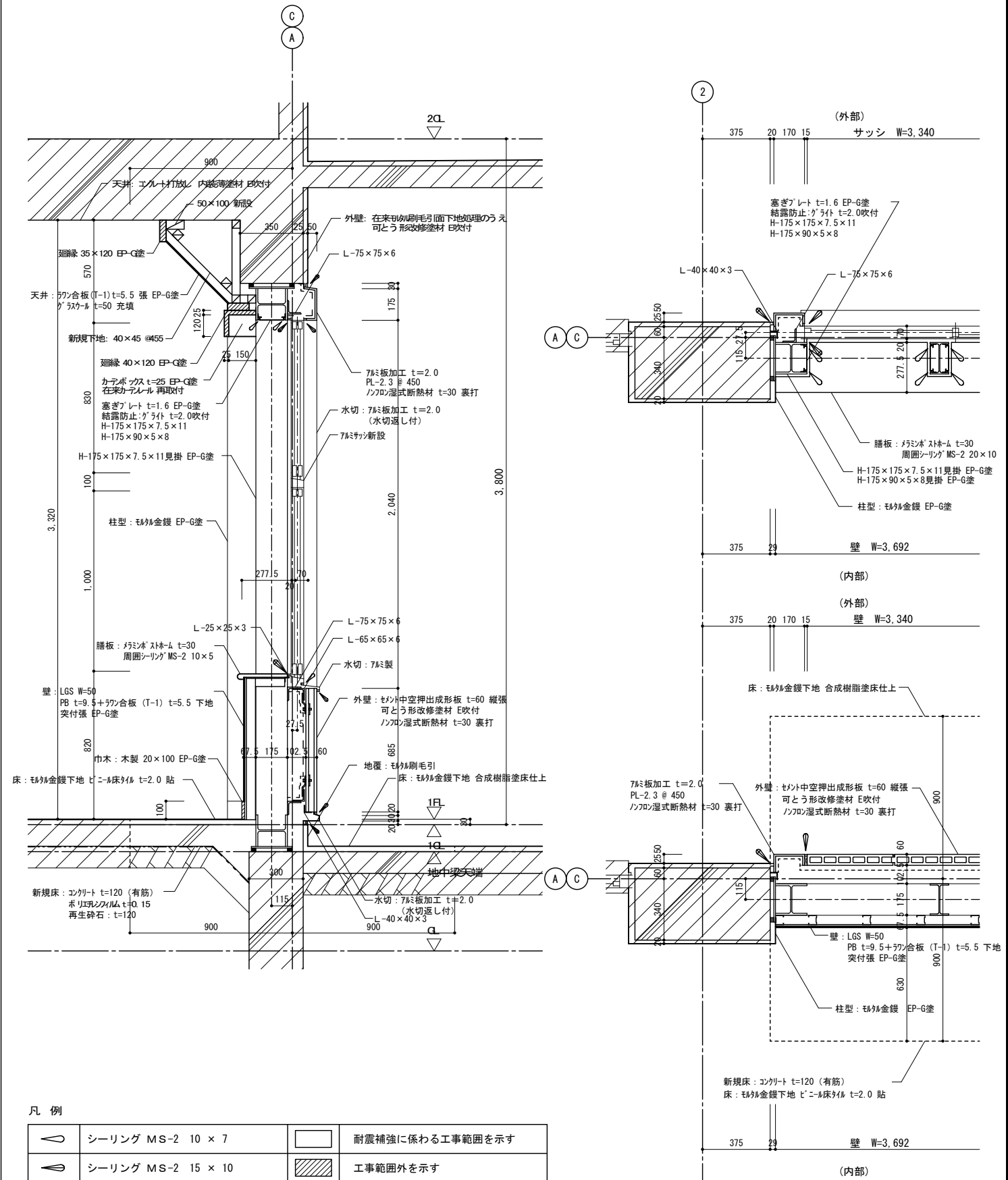
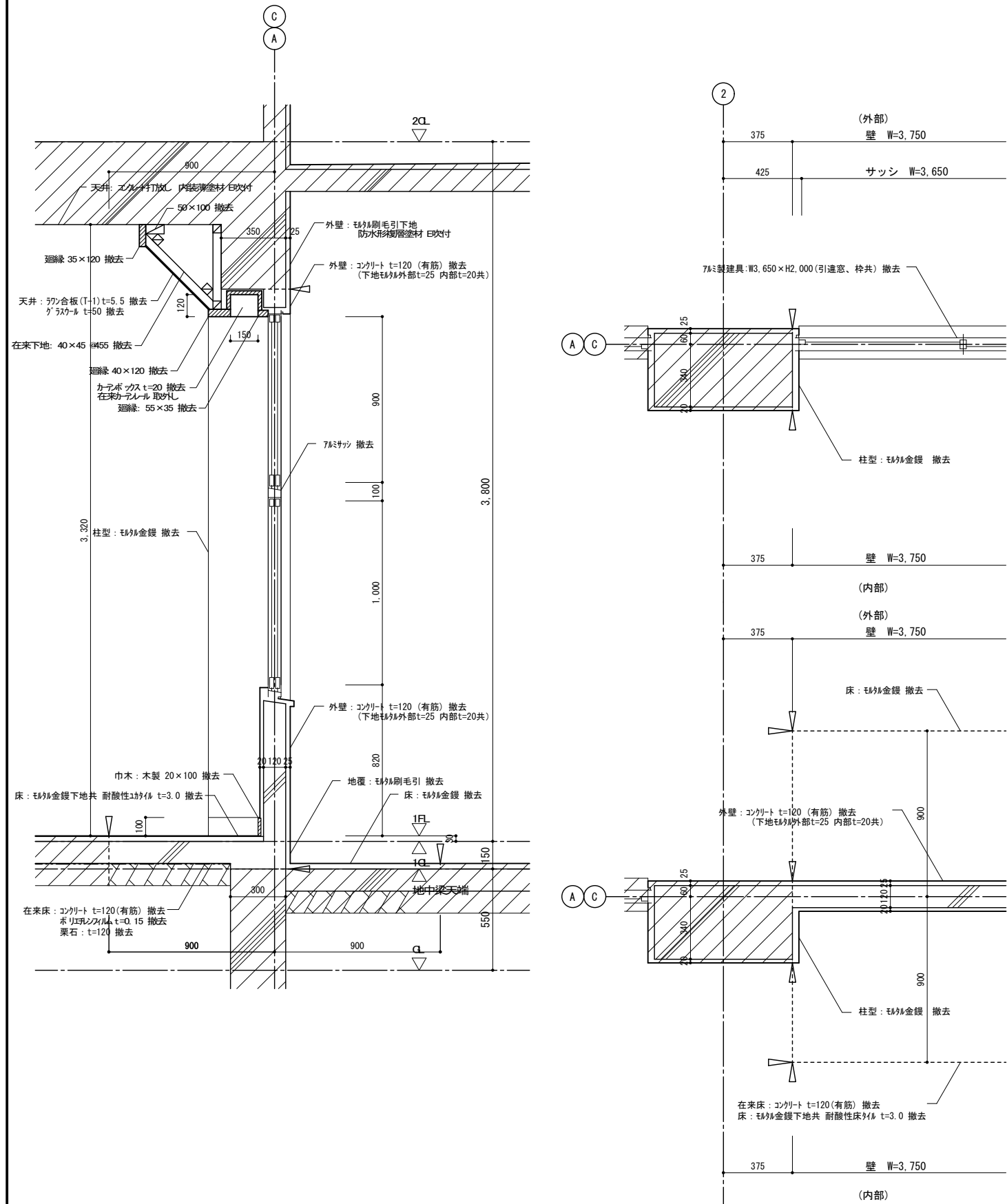
1,2階廊下西面展開図 1/50

耐震補強に係わる改修リスト 特記なきものは、下記に依る。

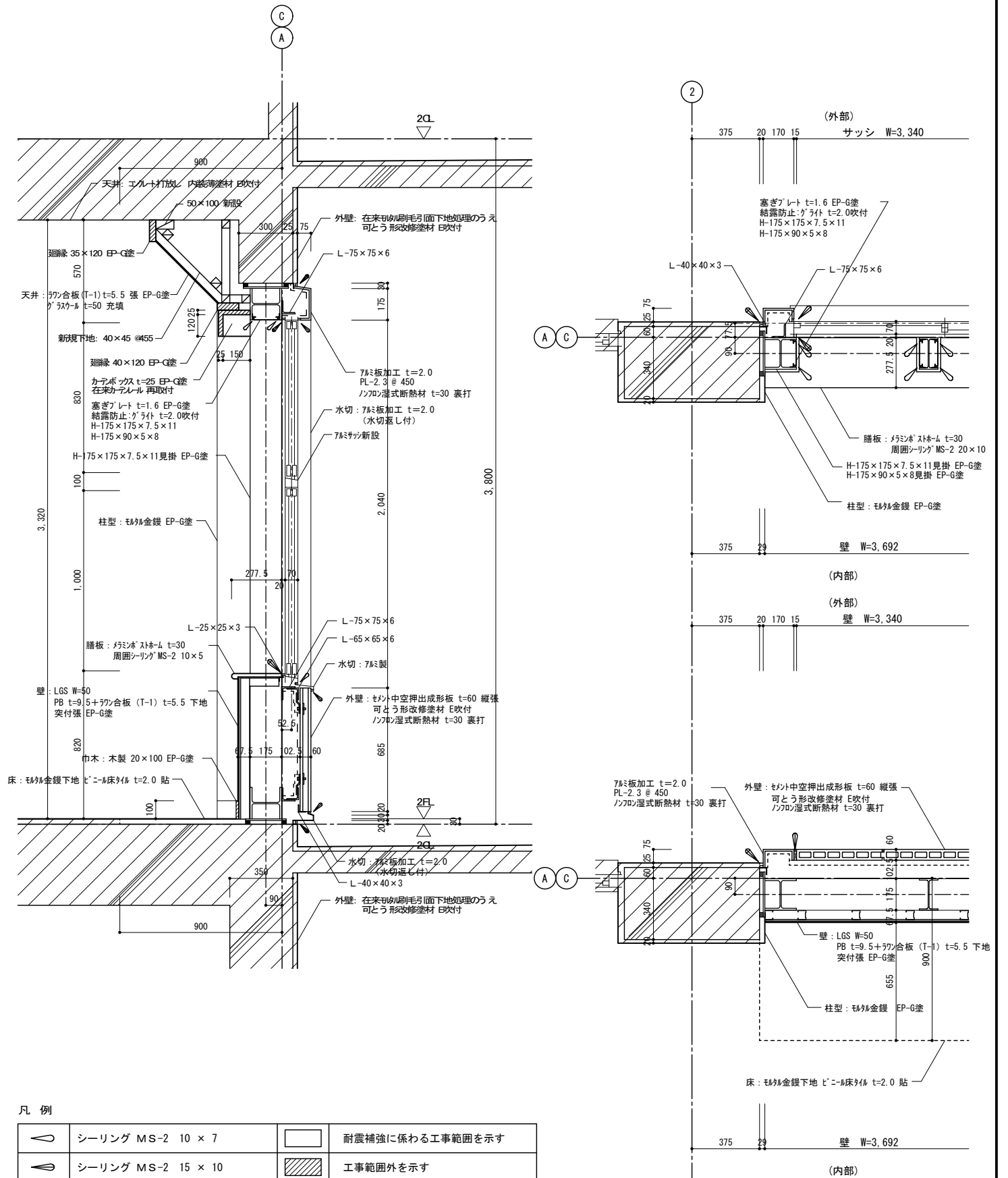
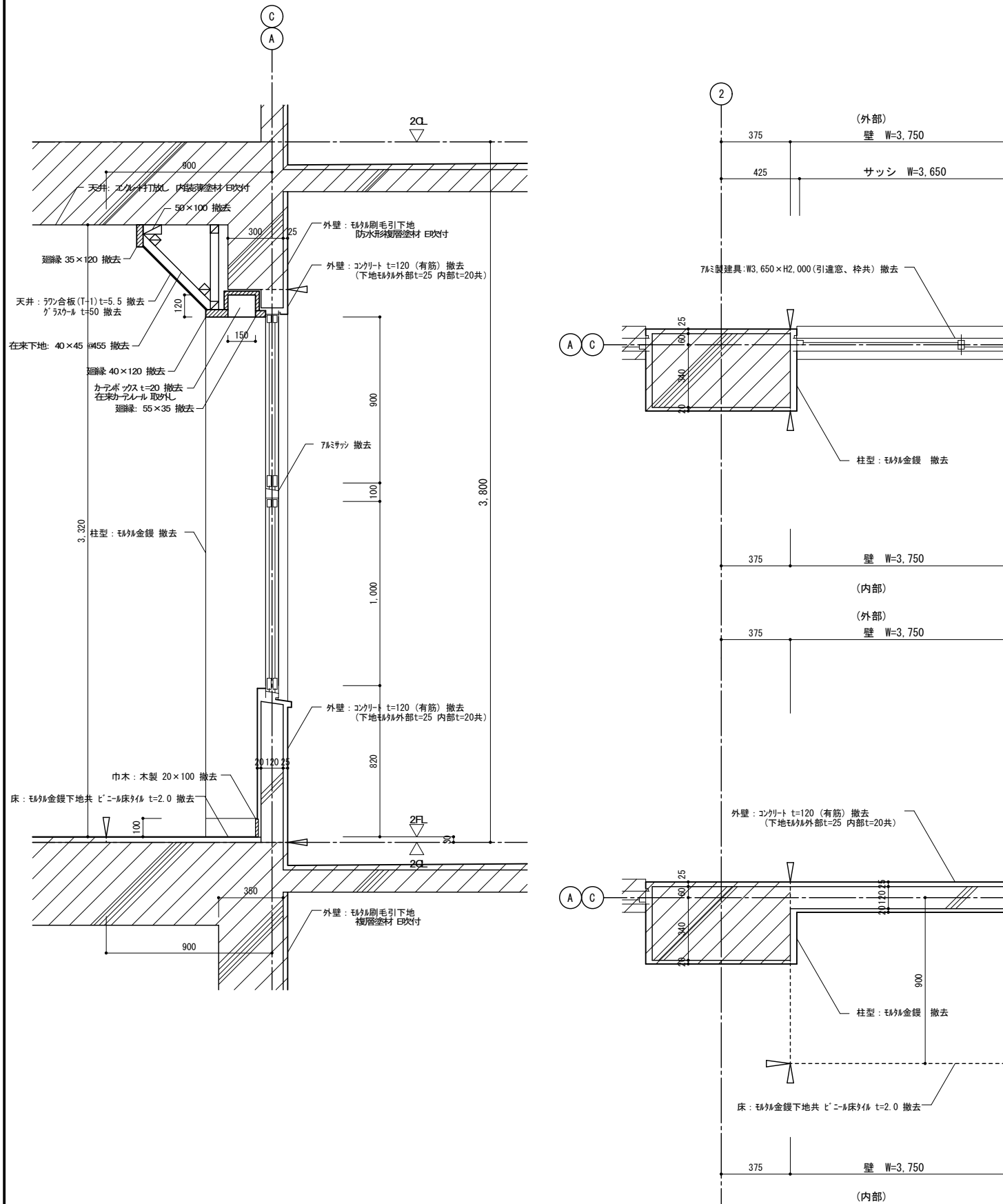
部材	改修内容	部材	改修内容
床仕上	F1 在来床:コンクリート t=120(有筋) 一部撤去 新規床:コンクリート t=120(有筋)	天井仕上	C1 有孔珪合板(T-1) t=5.5(ｸﾞﾗｽｸｰﾙ t=50 木下地組共) 一部撤去 有孔珪合板(T-1) t=5.5 張(ｸﾞﾗｽｸｰﾙ t=50 木下地組共) EP-G塗
	F2 珪合板下地共 耐酸性ﾀｲﾙ t=3.0 一部撤去 珪合板下地 ビニール床ﾀｲﾙ t=2.0 貼		C2 有孔PB t=7.0(木下地組共) 一部撤去 有孔PB t=9.5 張(木下地組共) EP塗
	F3 珪合板下地共 ビニール床ﾀｲﾙ t=2.0 一部撤去 珪合板下地 ビニール床ﾀｲﾙ t=2.0 貼		C3 コンクリート打放し 内装珪合板材 既付 現況のまま
	F4 珪合板下地共 フォｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ t=15 撤去 珪合板下地 フォｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ t=15 貼(塗装品)		C4 ｸﾞﾗｽｸｰﾙ 現況のまま
	F5 珪合板 一部撤去 珪合板下地 合成樹脂塗床仕上		
巾木仕上	FB1 木製 一部撤去 H=100 木製 EP-G塗 H=100	その他	㊦ カテナボックス t=20 一部撤去 在来カテナレル 一部取り外し カテナボックス t=25 EP-G塗 在来カテナレル 再取付
	FB2 珪合板 EP塗 一部撤去 H=100 珪合板 EP-G塗 H=100		㊩ 珪合板 t=30
壁仕上	W1 在来壁:コンクリート t=120(有筋) 一部撤去 新規壁:LGS W=50		㊪ 手摺:ｽﾃｰﾙ製 φ34 一部撤去 手摺:ｽﾃｰﾙ製 φ34 EP-G塗
	W2 在来壁:木造軸組壁 一部撤去 新規壁:コンクリート t=180(有筋) LGS W=65		㊫ ｸﾞﾗｽ見掛 EP-G塗
	W3 在来壁:木造軸組壁 一部撤去 新規壁:コンクリート t=180(有筋) コンクリート打放し EP-G塗		㊬ 塞ぎﾌﾟﾚｰﾄ t=1.6 EP-G塗 結露防止:ｸﾞﾗｲﾄ t=2.0吹付
	W4 珪合板 一部撤去 PB t=9.5+珪合板(T-1) t=5.5 下地 突付張 EP-G塗		㊭ 掲示板:ﾌﾙﾏｽﾞ掲示ｶｰﾄﾞ貼 1400×900
	W5 珪合板(T-1) t=5.5 撤去 PB t=9.5+珪合板(T-1) t=5.5 下地 突付張 EP-G塗		
	W6 珪合板 一部撤去 珪合板 EP-G塗		
			<p>新規 建具記号( 建具表参照)</p> <p>新規 家具記号( 家具表参照)</p>

凡例

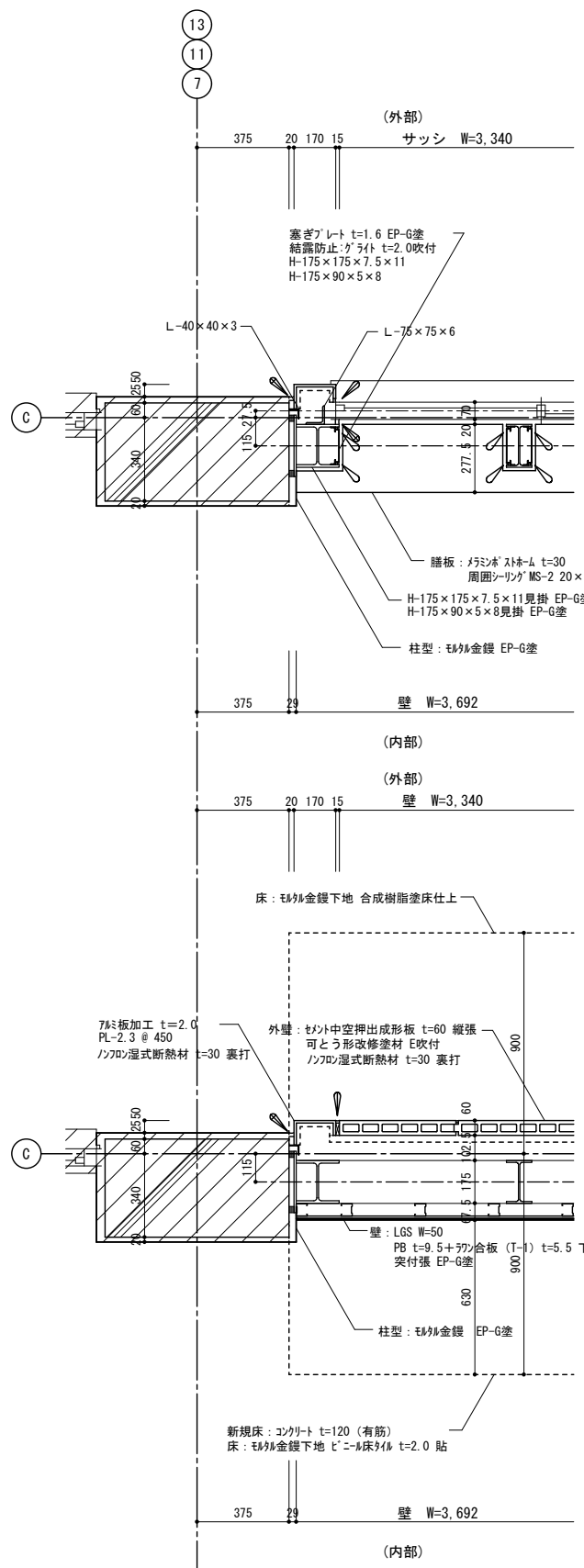
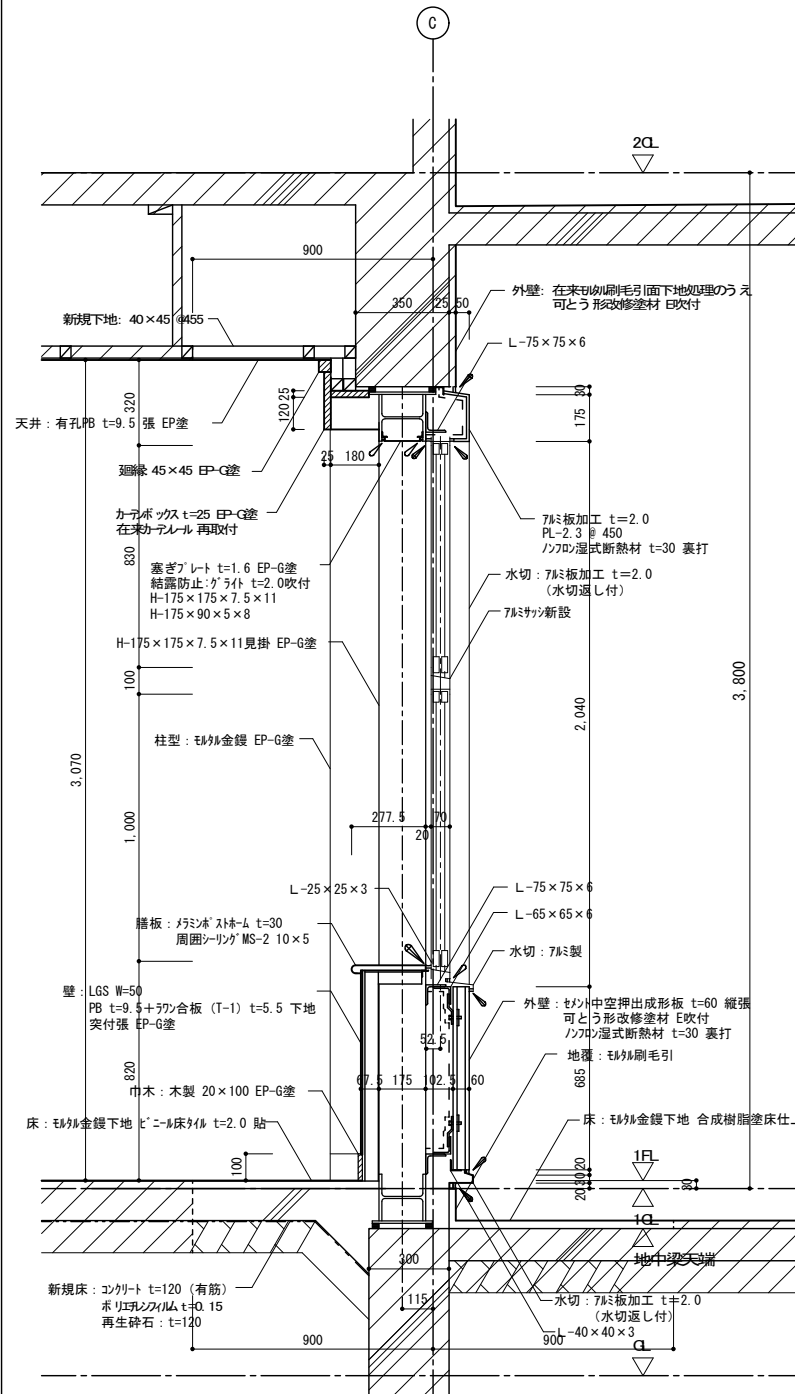
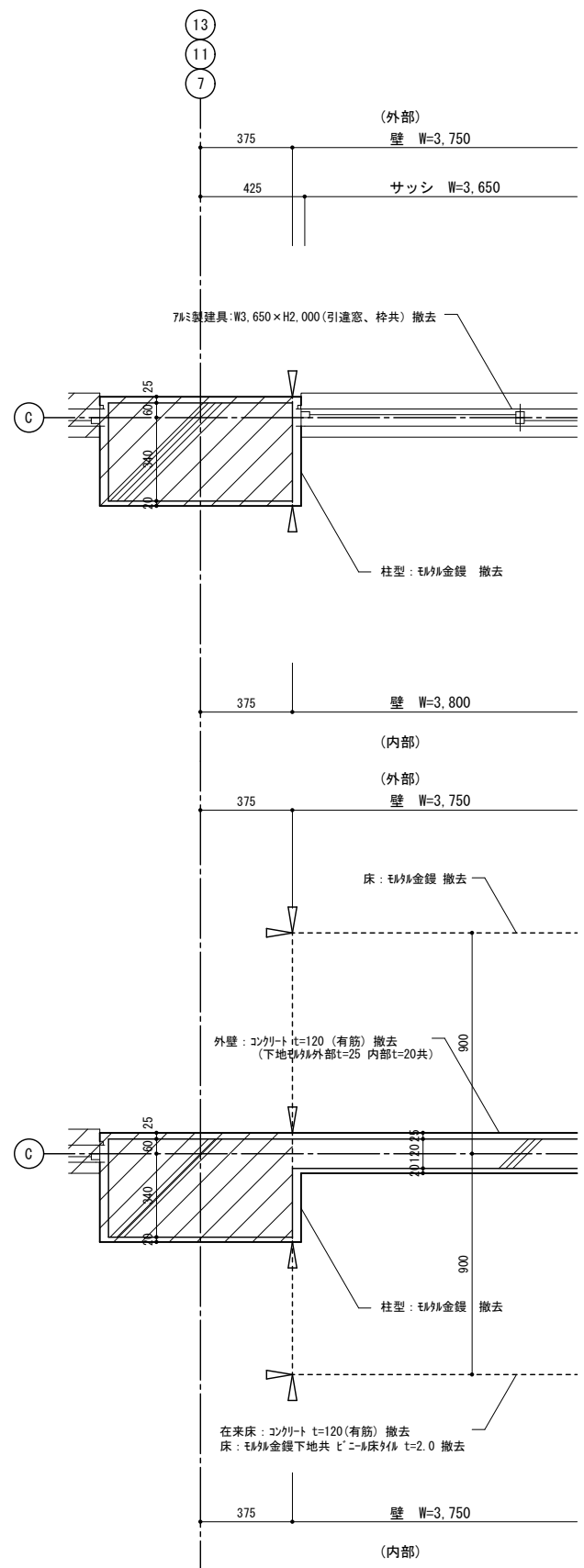
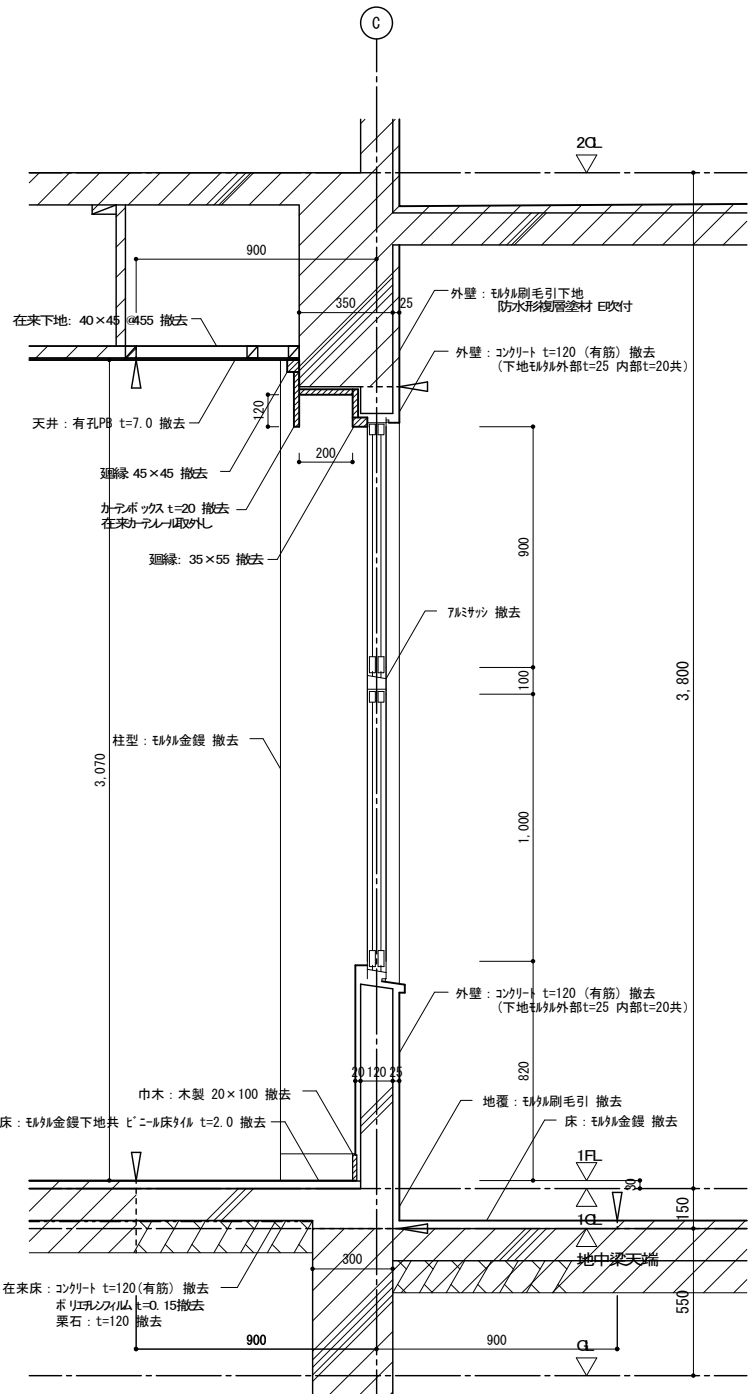
	耐震補強に係わる工事範囲を示す
	工事範囲外を示す



※観察台、流し台は家具詳細図（1）に依る。



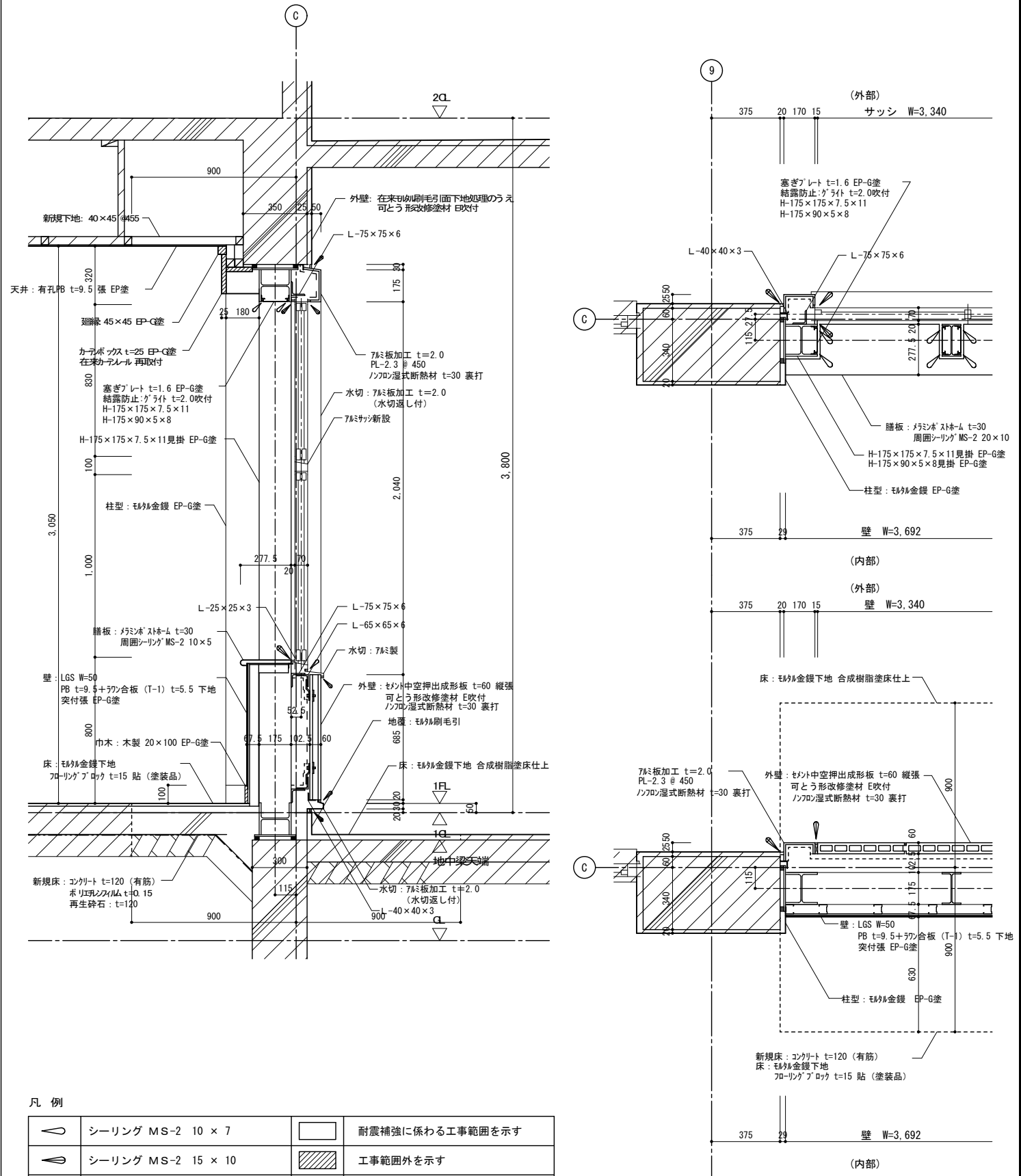
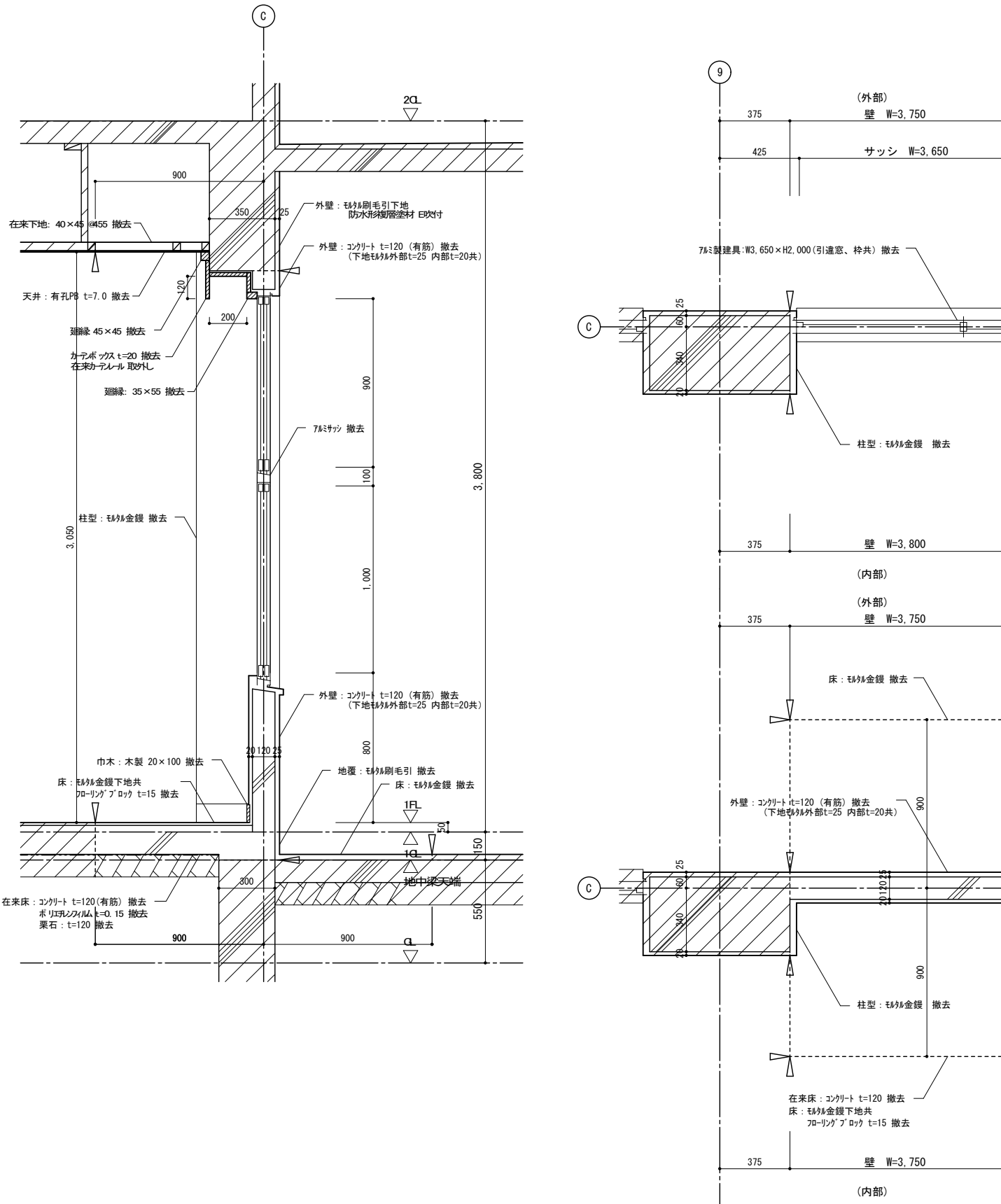
※書架は家具詳細図（3）に依る。



凡例

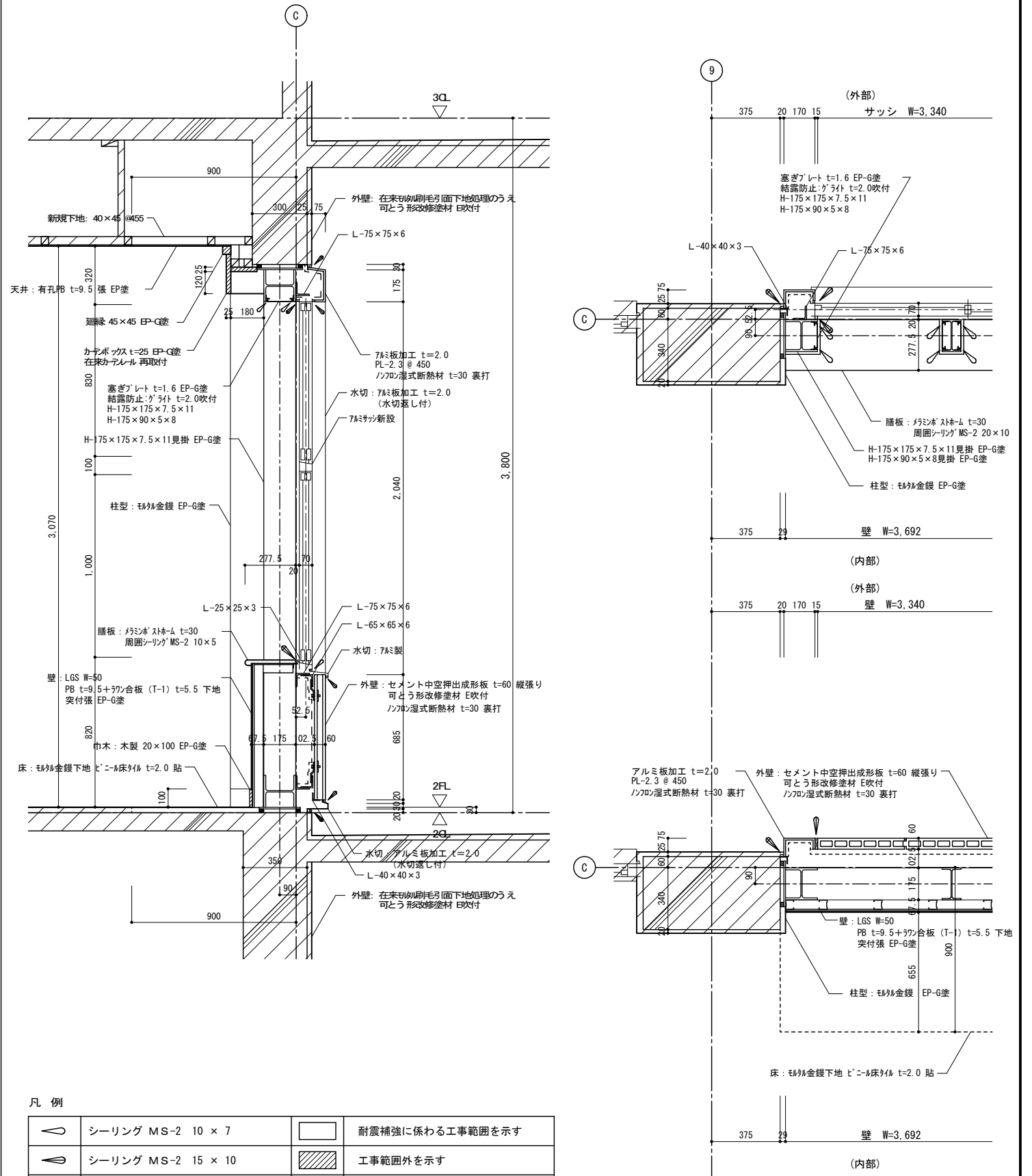
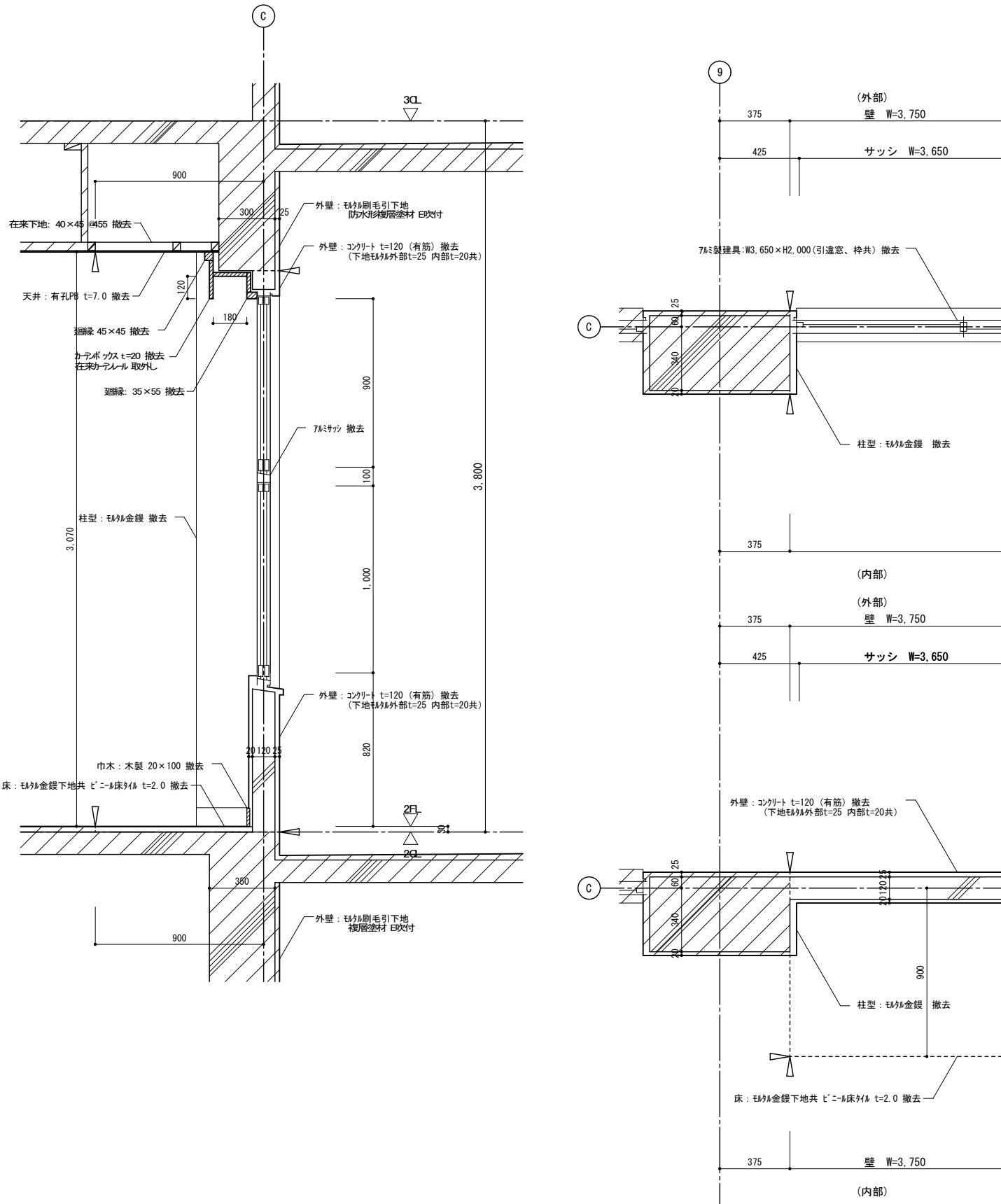
	シーリング MS-2 10 x 7		耐震補強に係わる工事範囲を示す
	シーリング MS-2 15 x 10		工事範囲外を示す
	シーリング MS-2 20 x 15		
	カッター目入れ		

※流し台、棚は家具詳細図(2)に依る。



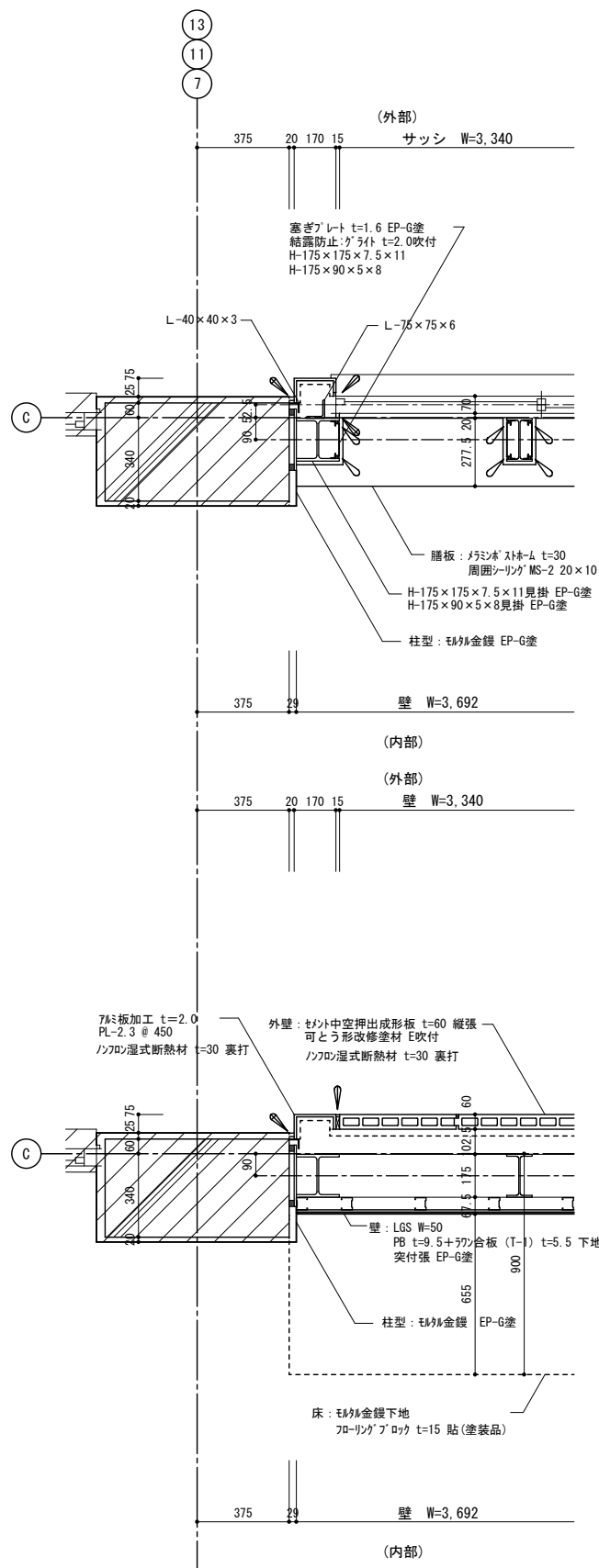
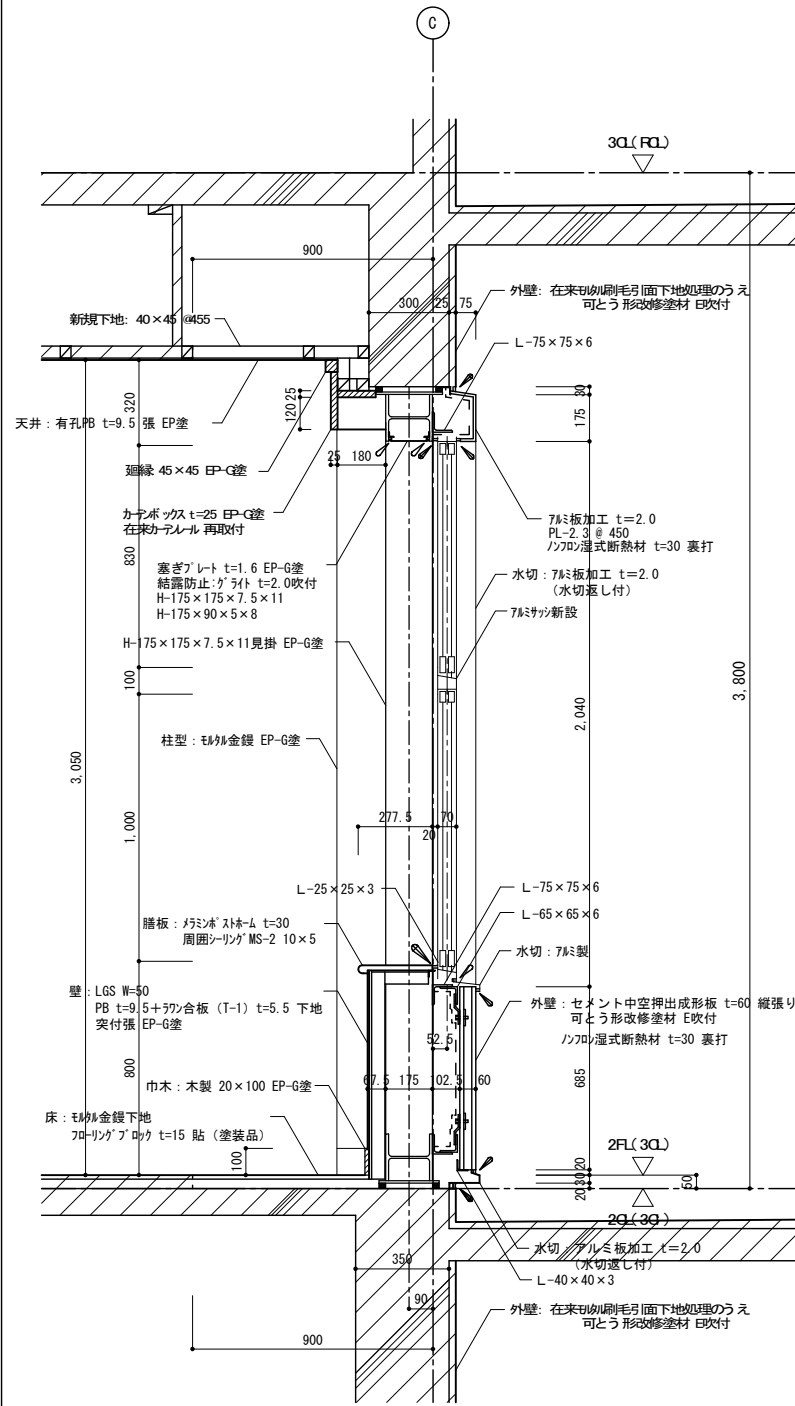
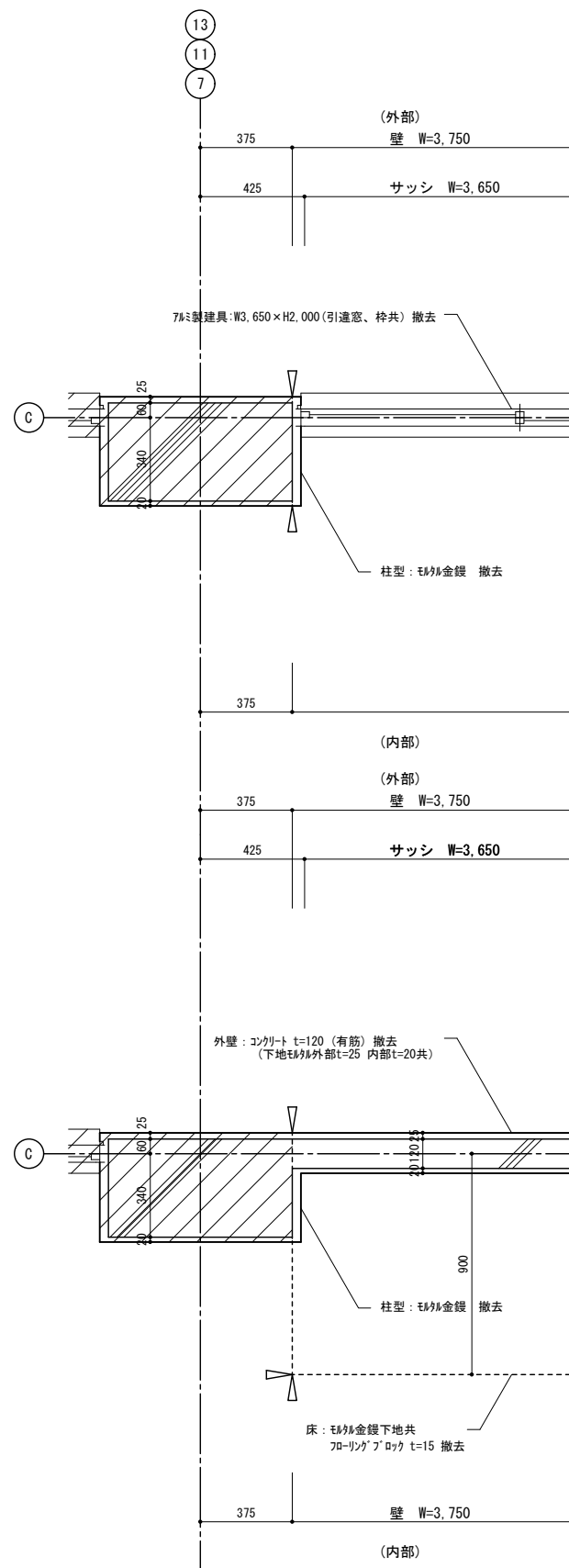
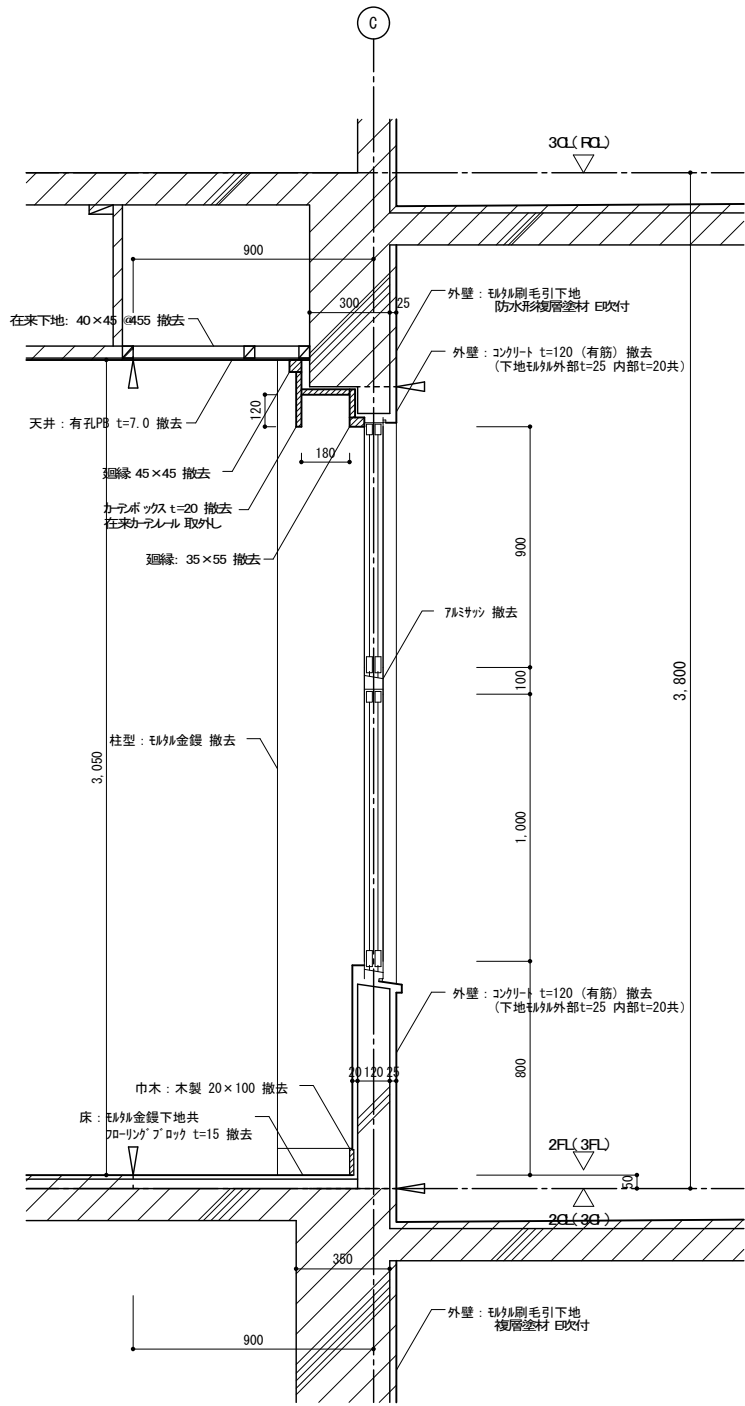
凡例

	シーリング MS-2 10 × 7		耐震補強に係わる工事範囲を示す
	シーリング MS-2 15 × 10		工事範囲外を示す
	シーリング MS-2 20 × 15		
	カッター目入れ		



凡例

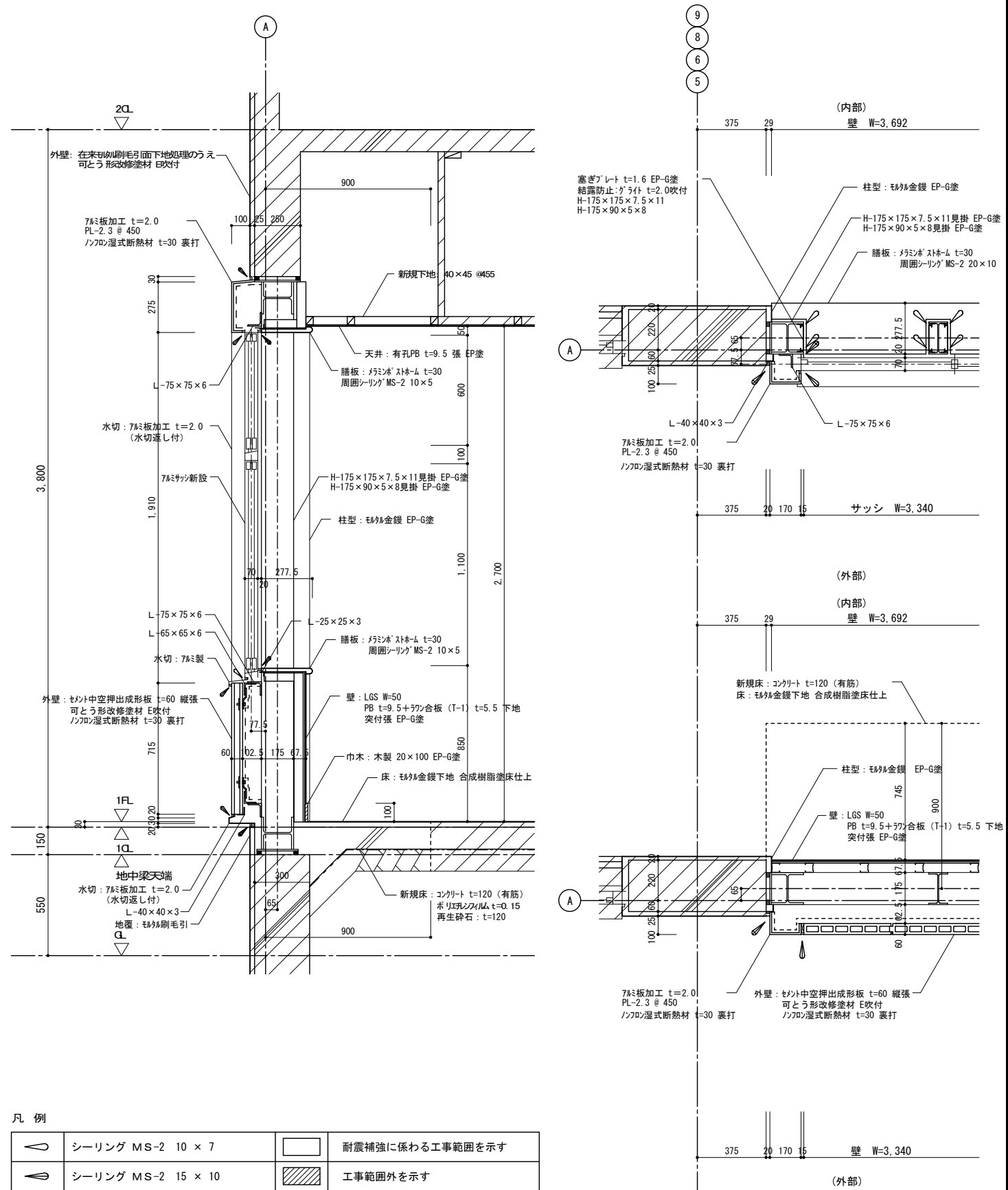
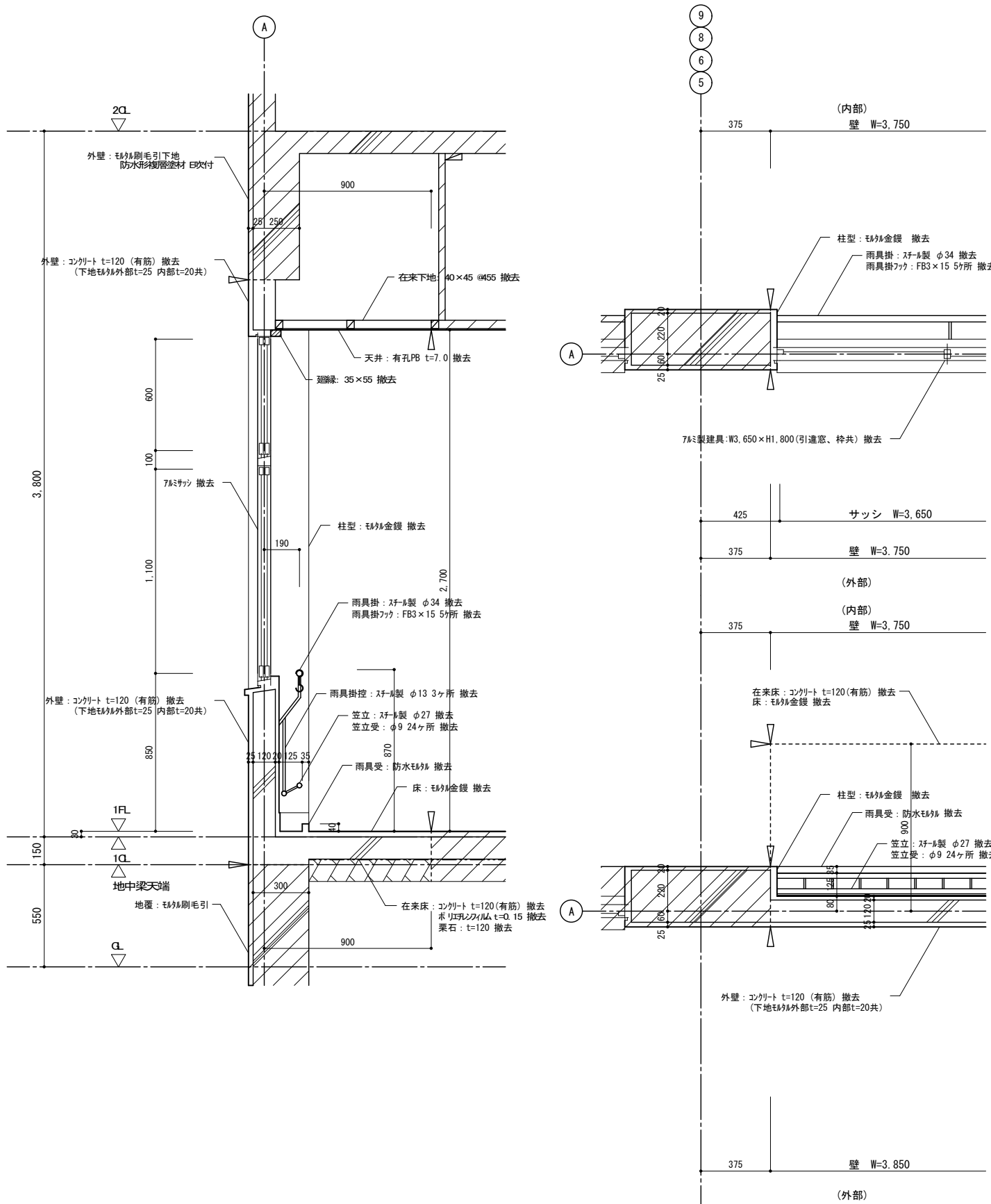
	シーリング MS-2 10 x 7		耐震補強に係わる工事範囲を示す
	シーリング MS-2 15 x 10		工事範囲外を示す
	シーリング MS-2 20 x 15		
	カッター目入れ		



凡例

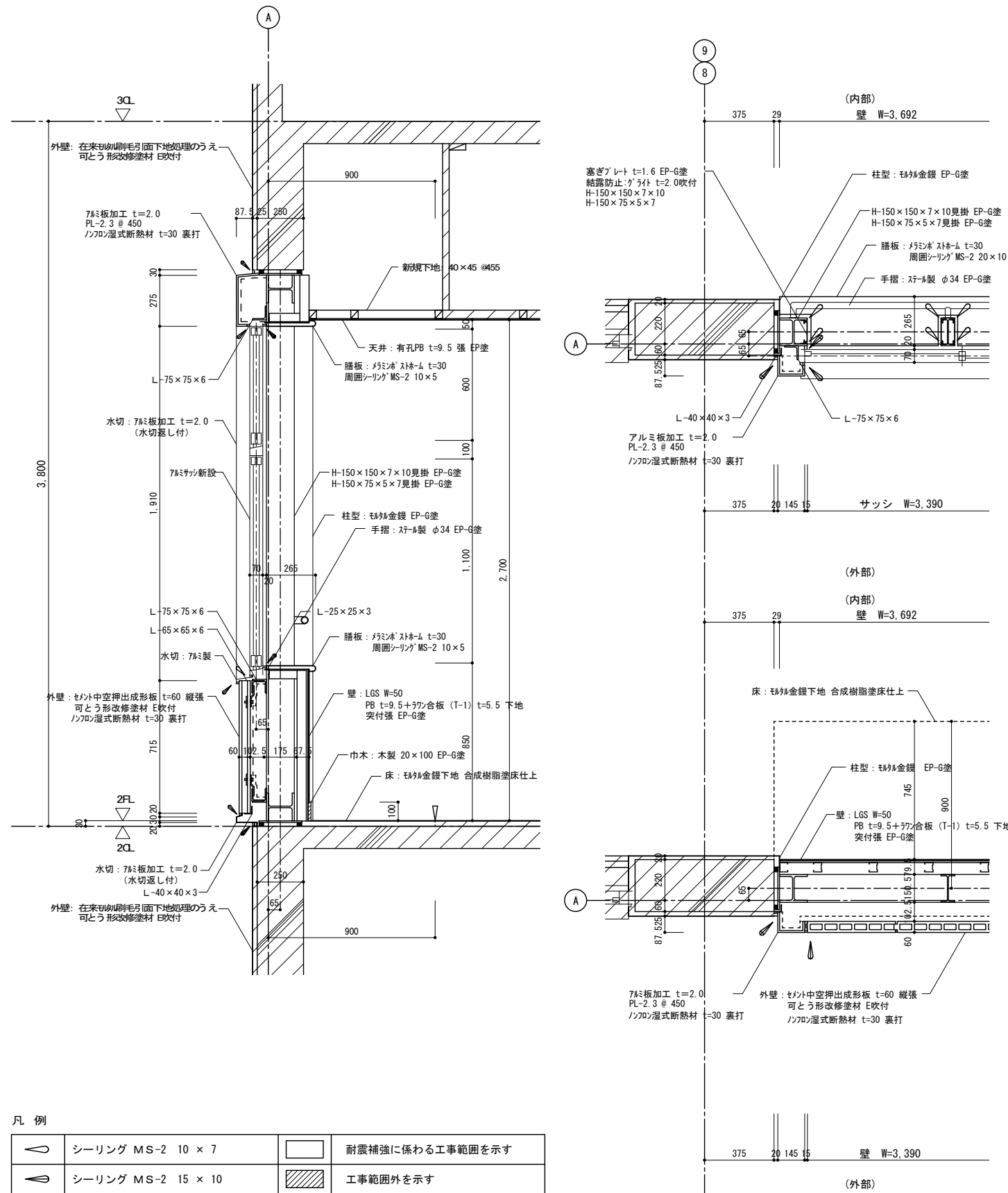
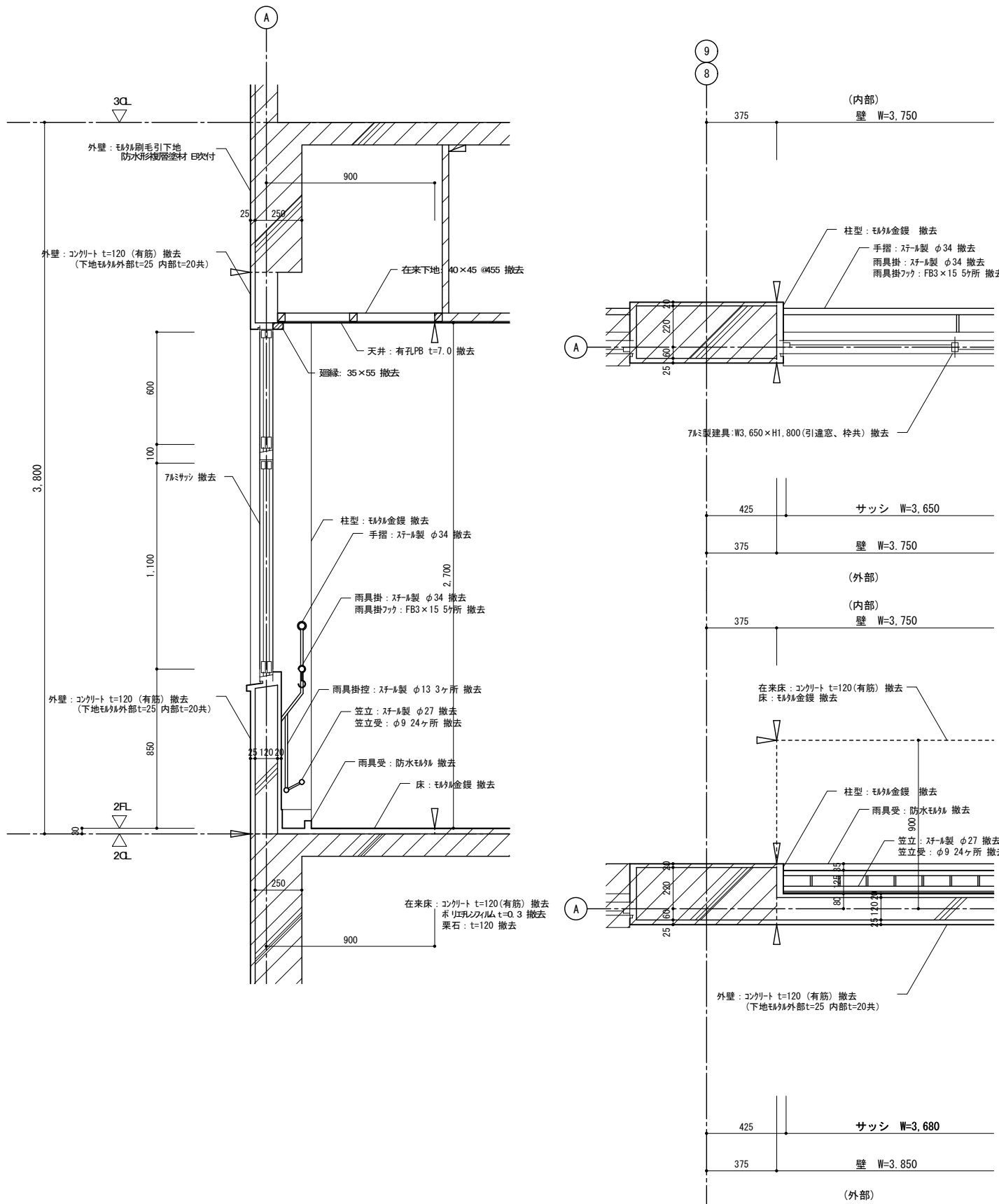
	シーリング MS-2 10 × 7		耐震補強に係わる工事範囲を示す
	シーリング MS-2 15 × 10		工事範囲外を示す
	シーリング MS-2 20 × 15		
	カッター目入れ		





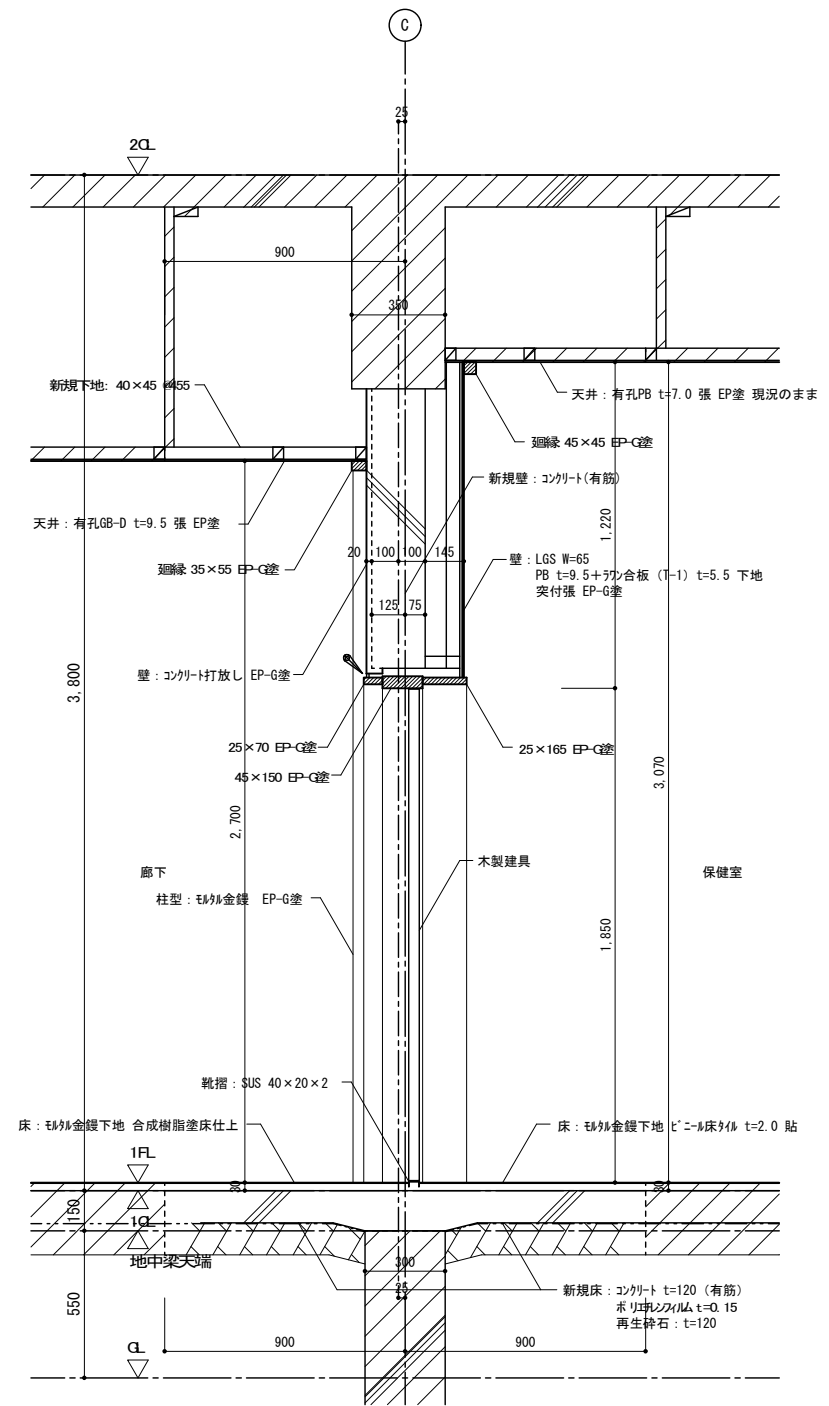
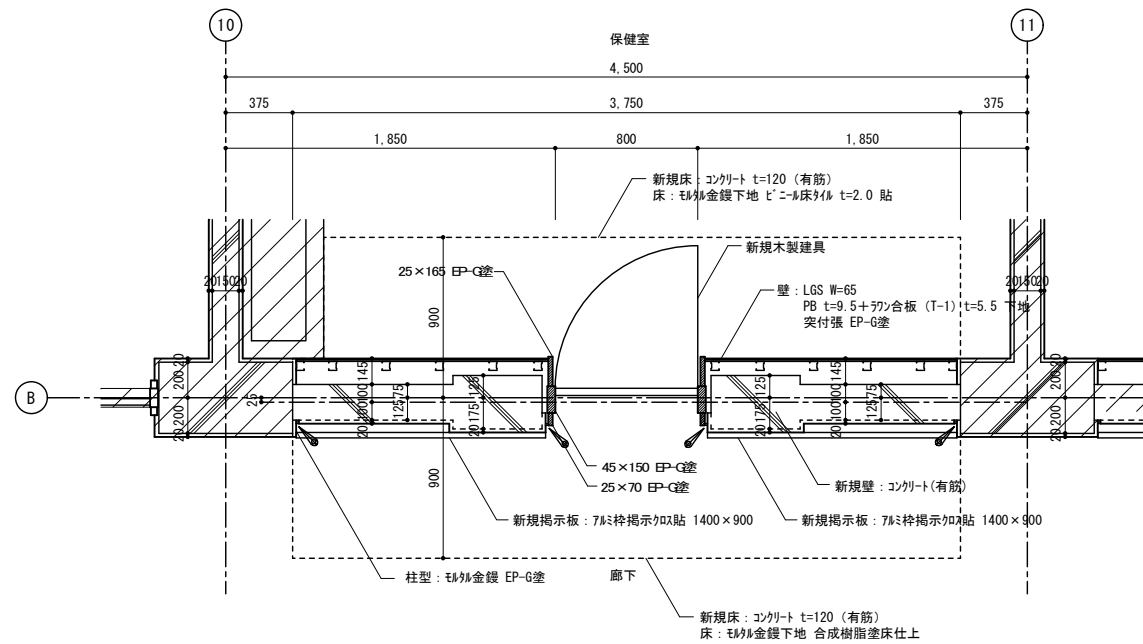
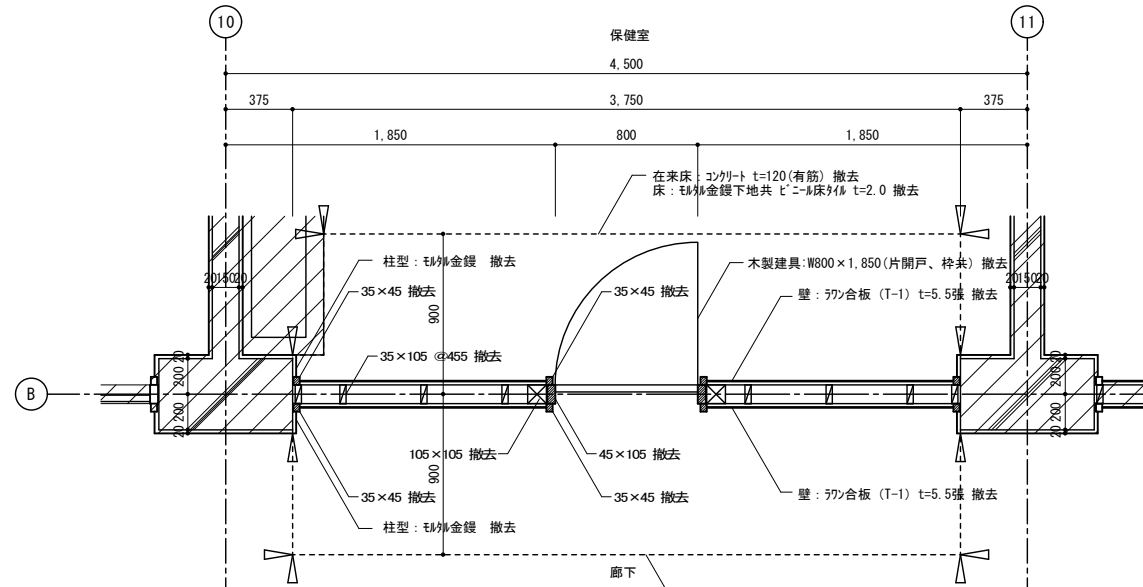
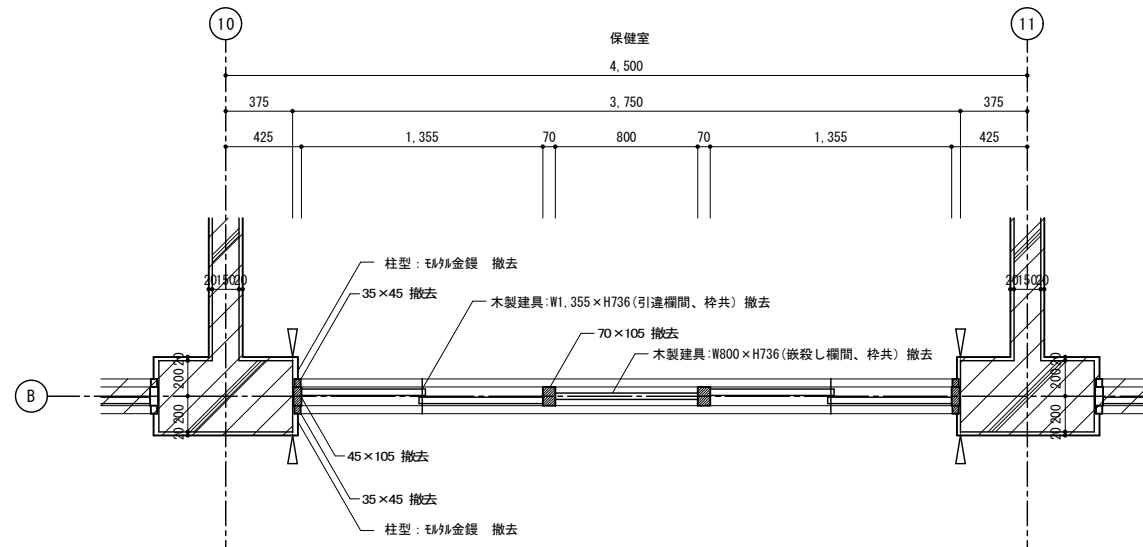
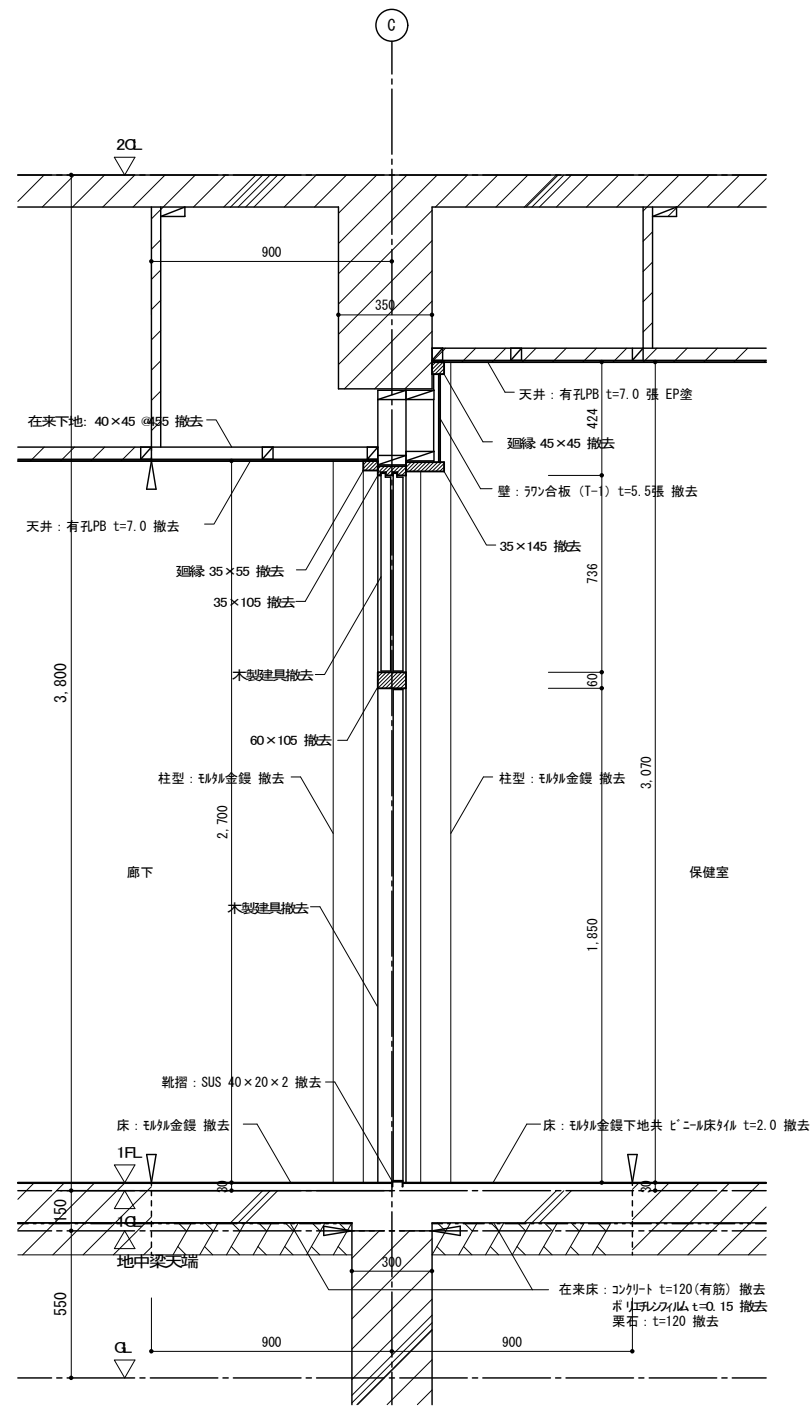
凡例

	シーリング MS-2 10 × 7		耐震補強に係わる工事範囲を示す
	シーリング MS-2 15 × 10		工事範囲外を示す
	シーリング MS-2 20 × 15		
	カッター目入れ		



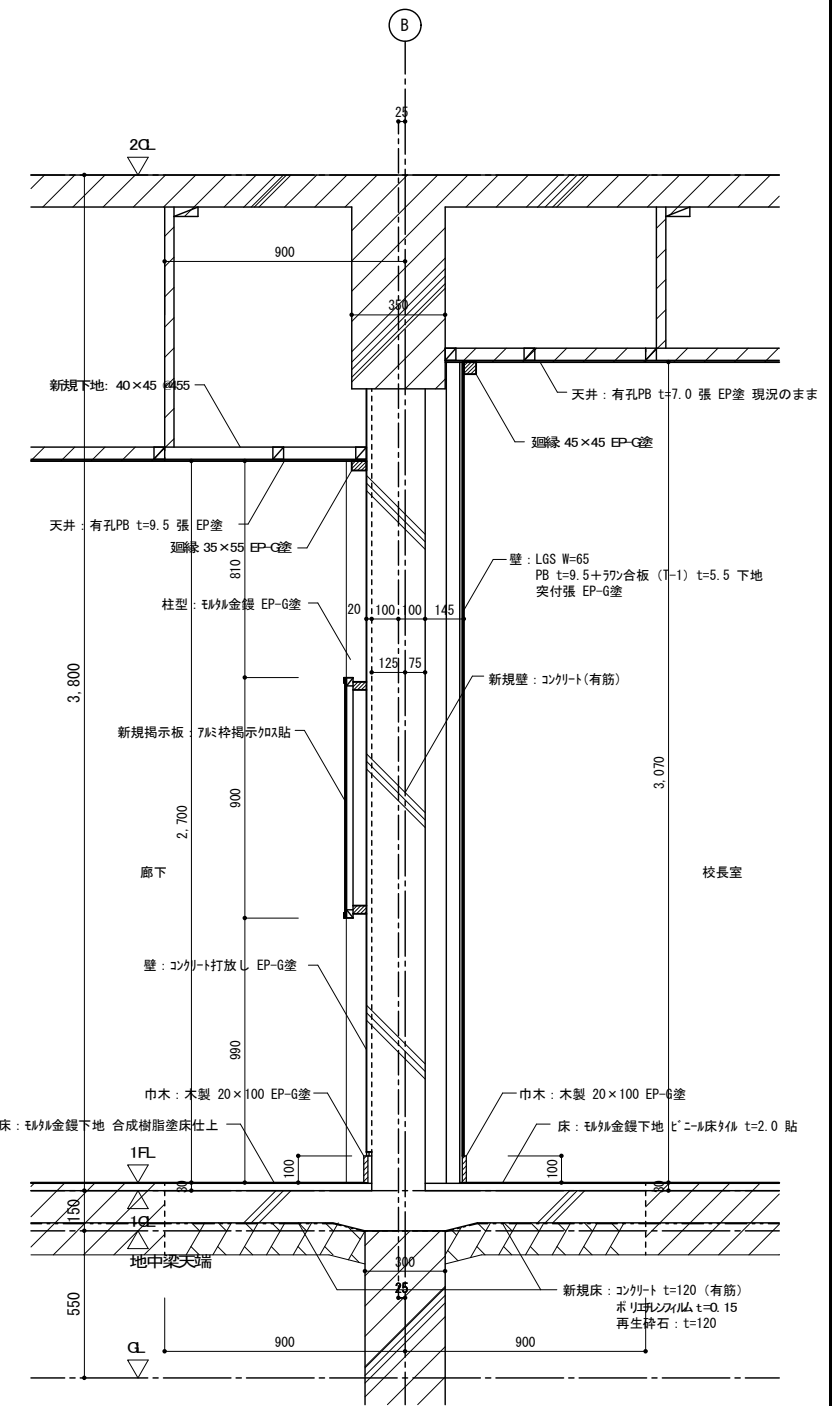
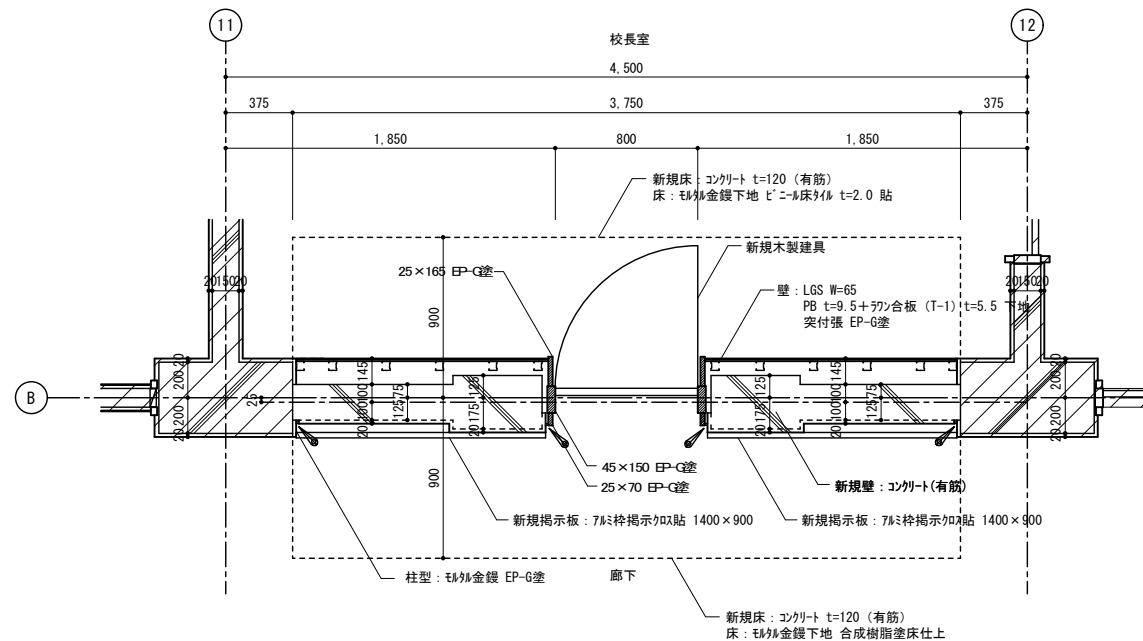
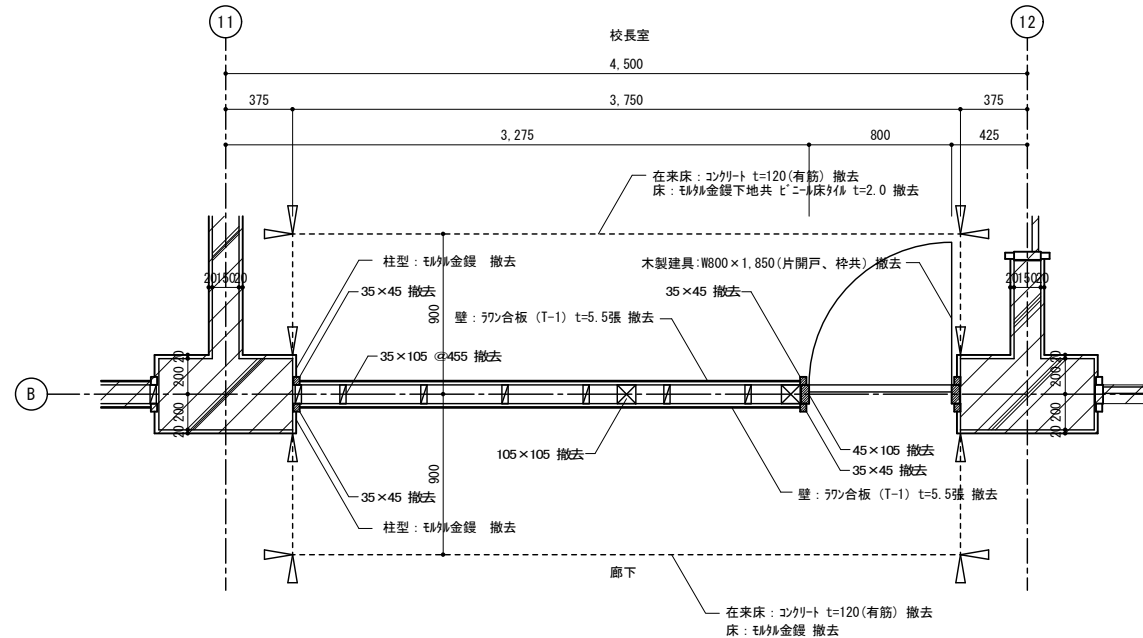
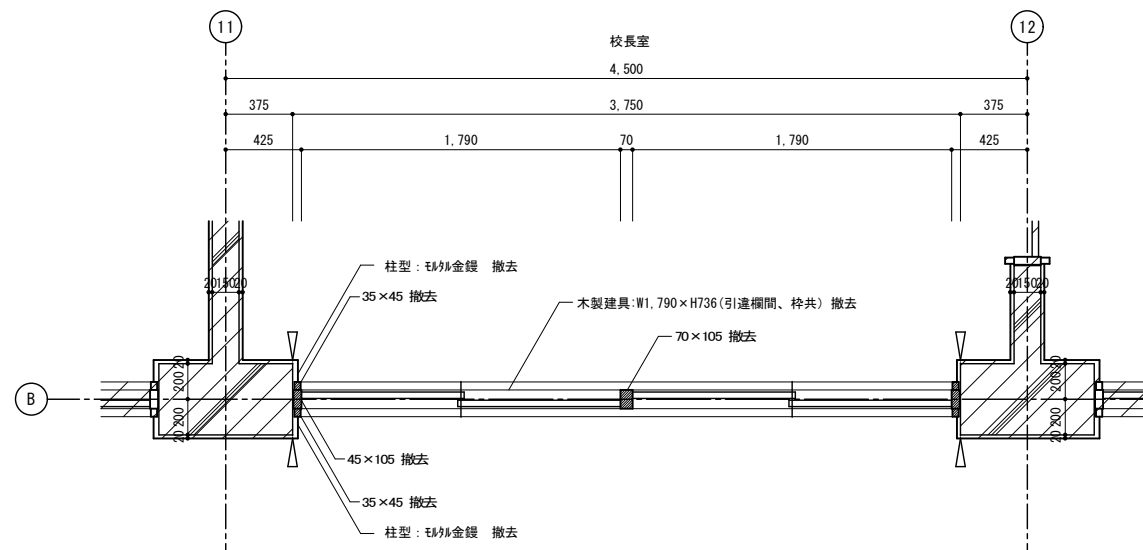
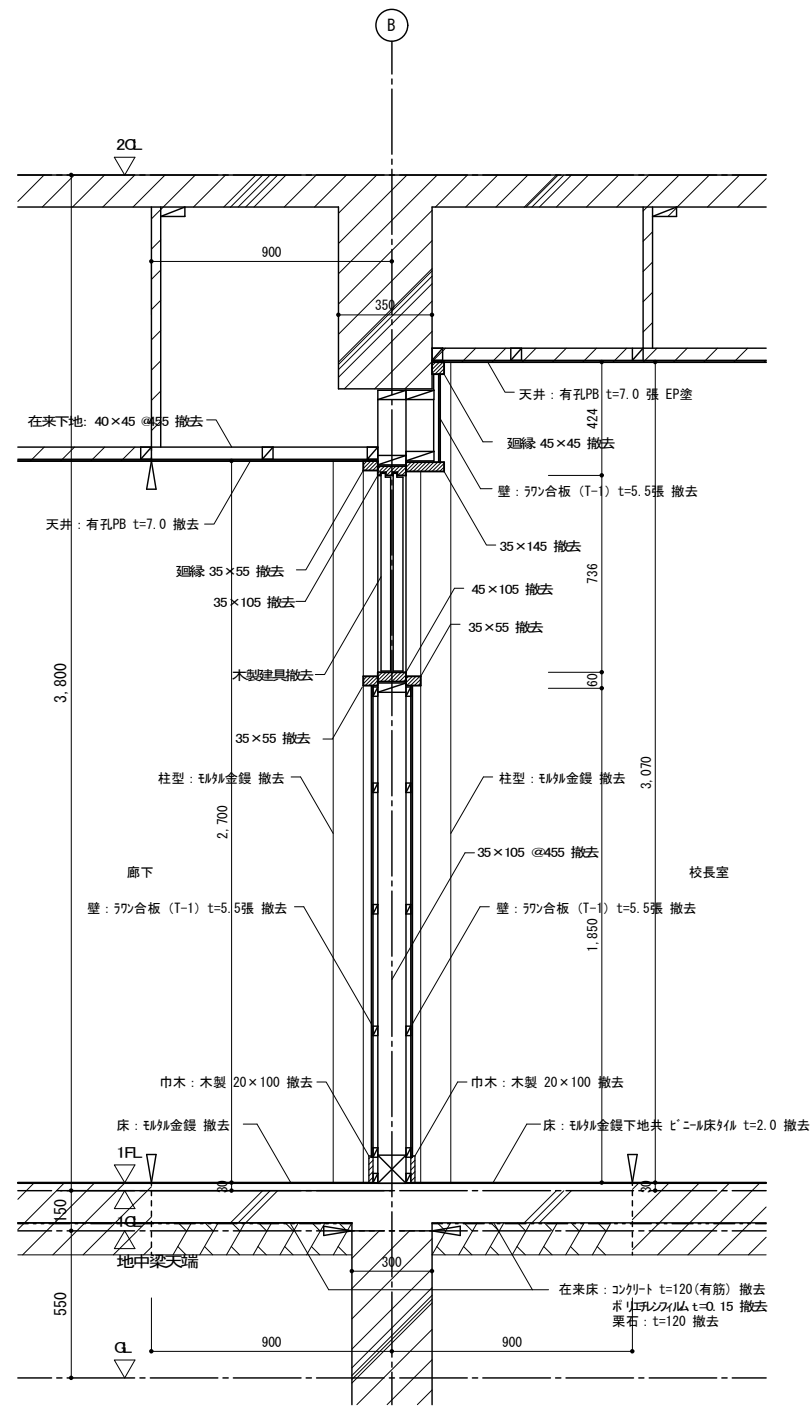
凡例

○	シーリング MS-2 10 × 7	□	耐震補強に係わる工事範囲を示す
○	シーリング MS-2 15 × 10	▨	工事範囲外を示す
○	シーリング MS-2 20 × 15		
△	カッター目入れ		



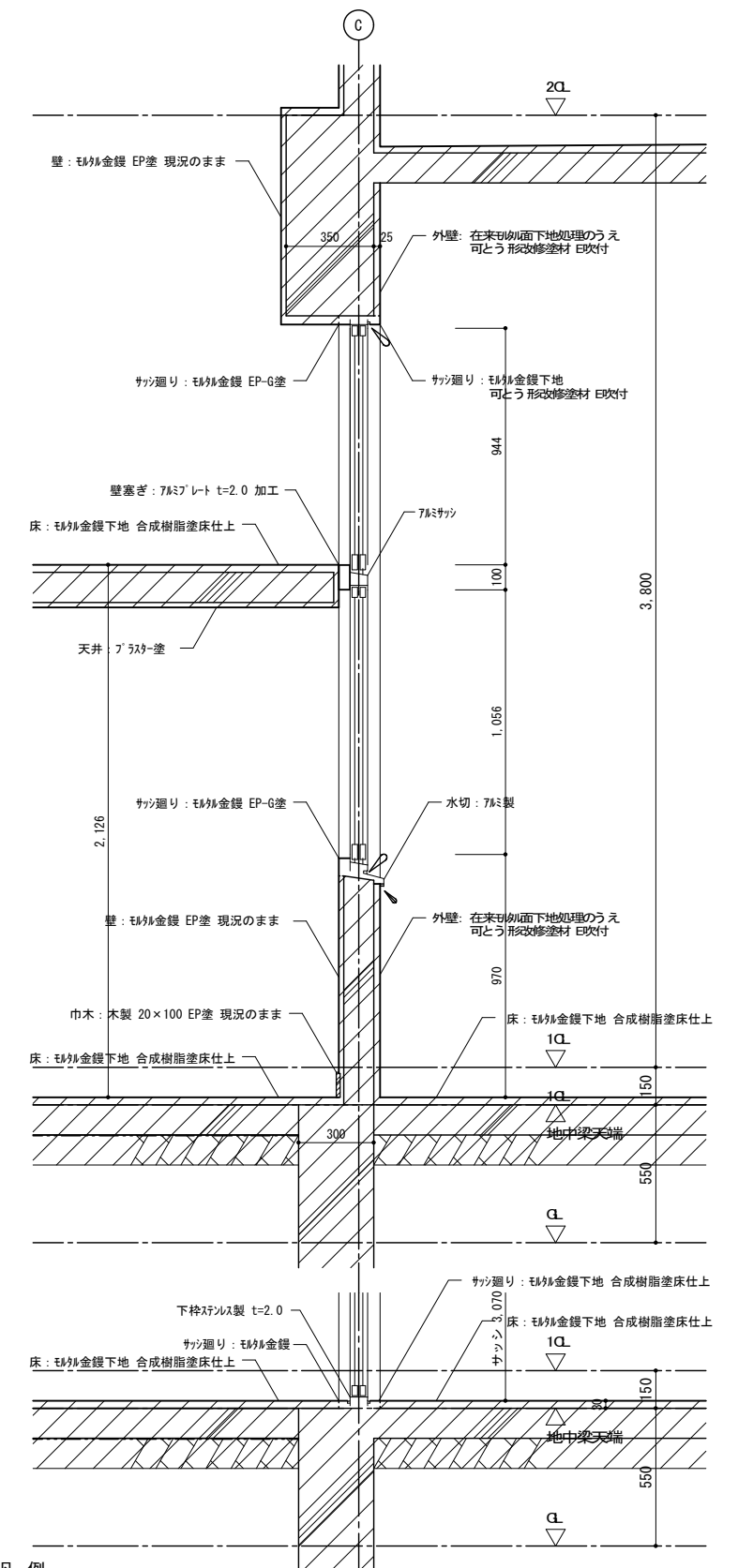
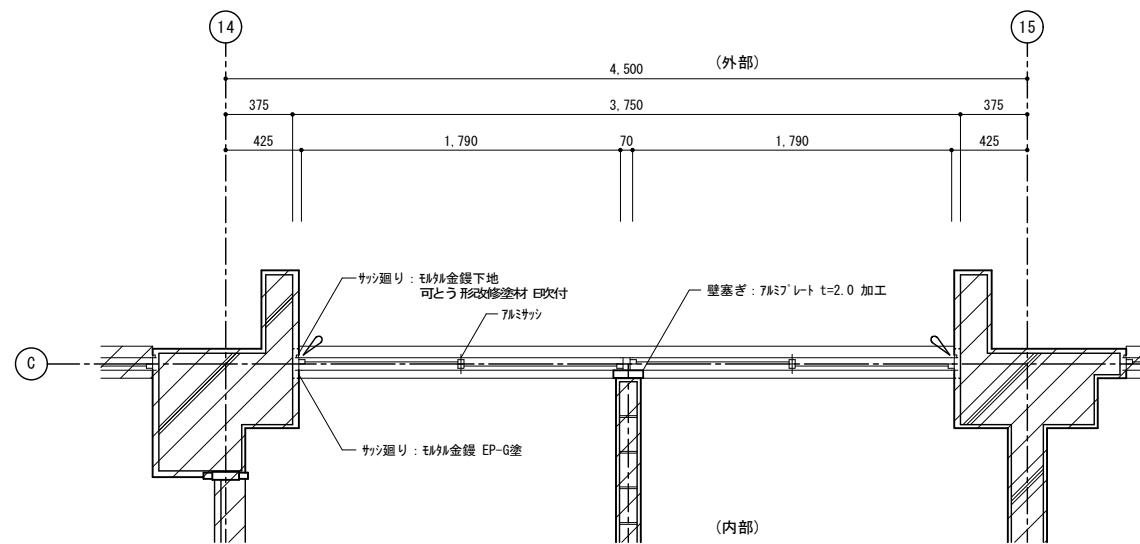
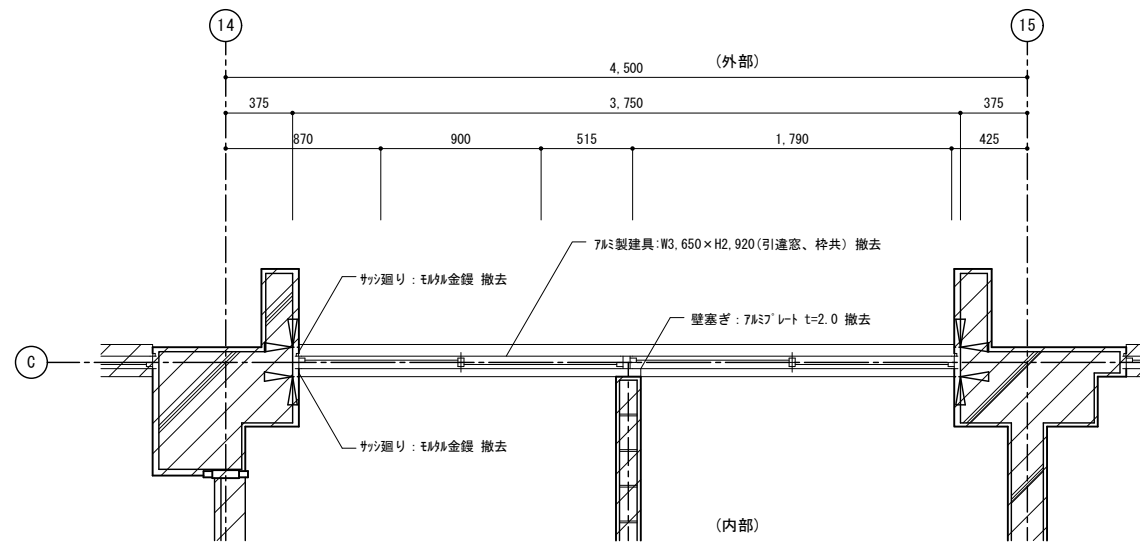
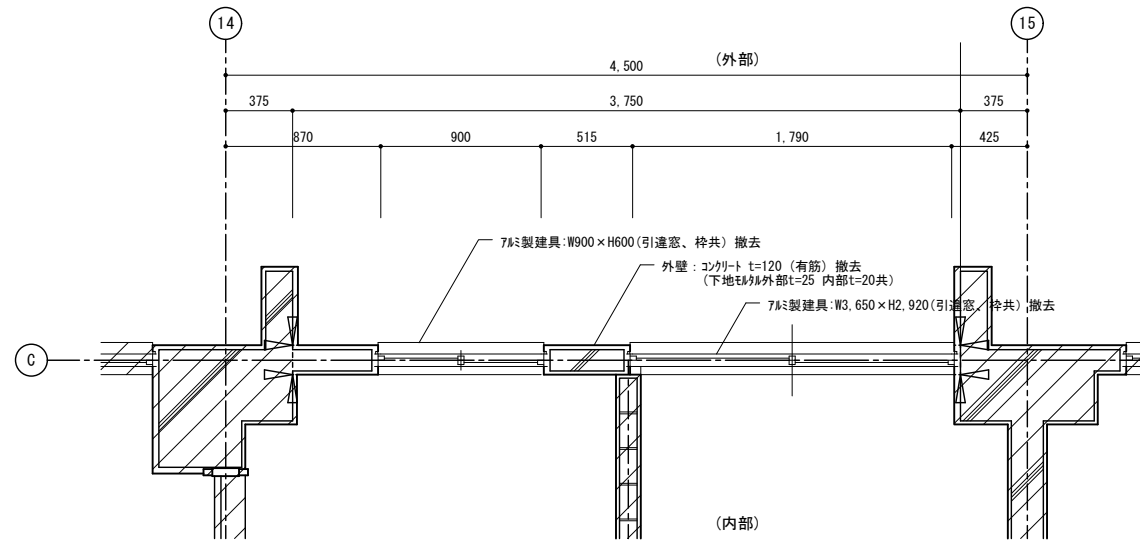
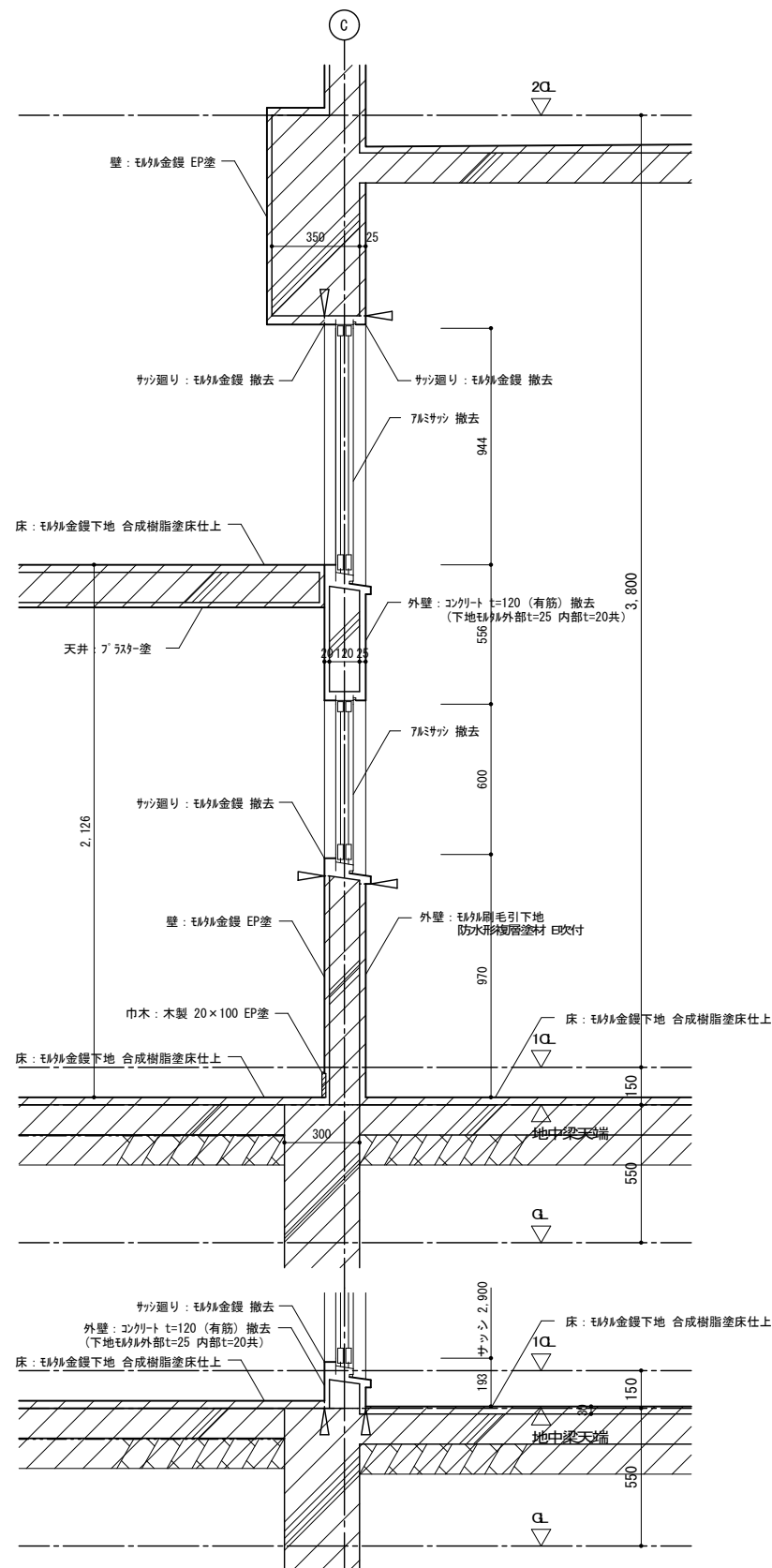
凡例

	シーリング MS-2 10 × 7		耐震補強に係わる工事範囲を示す
	シーリング MS-2 15 × 10		工事範囲外を示す
	シーリング PU-2 15 × 10		
	シーリング MS-2 20 × 15		
	カッター目入れ		



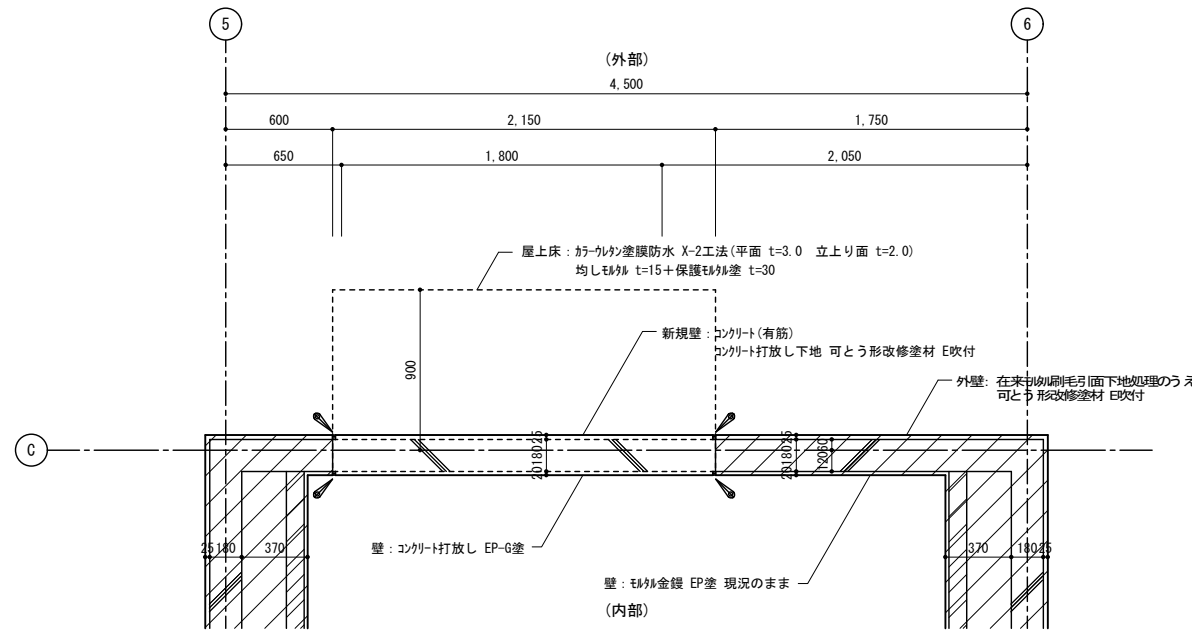
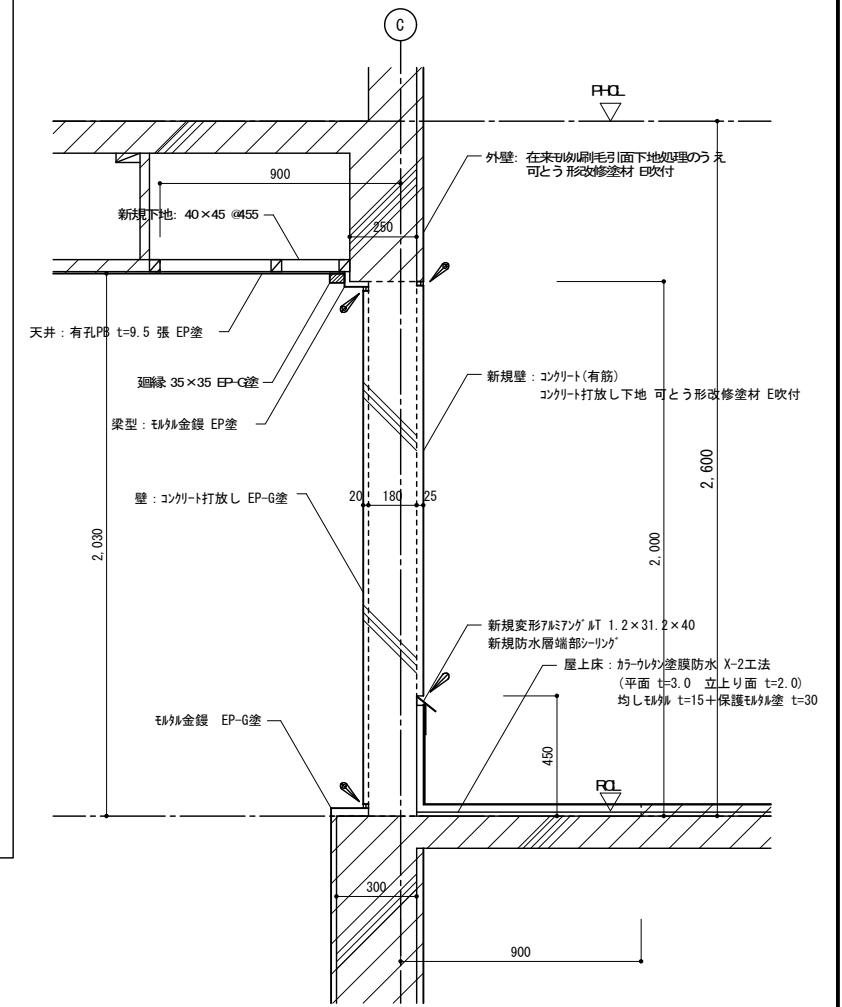
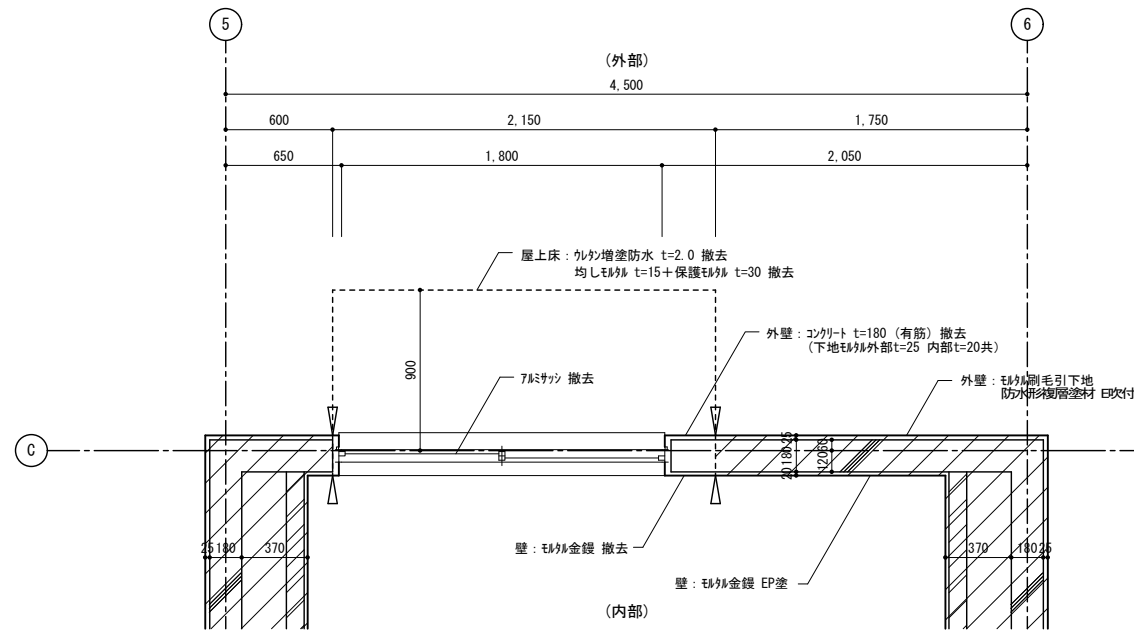
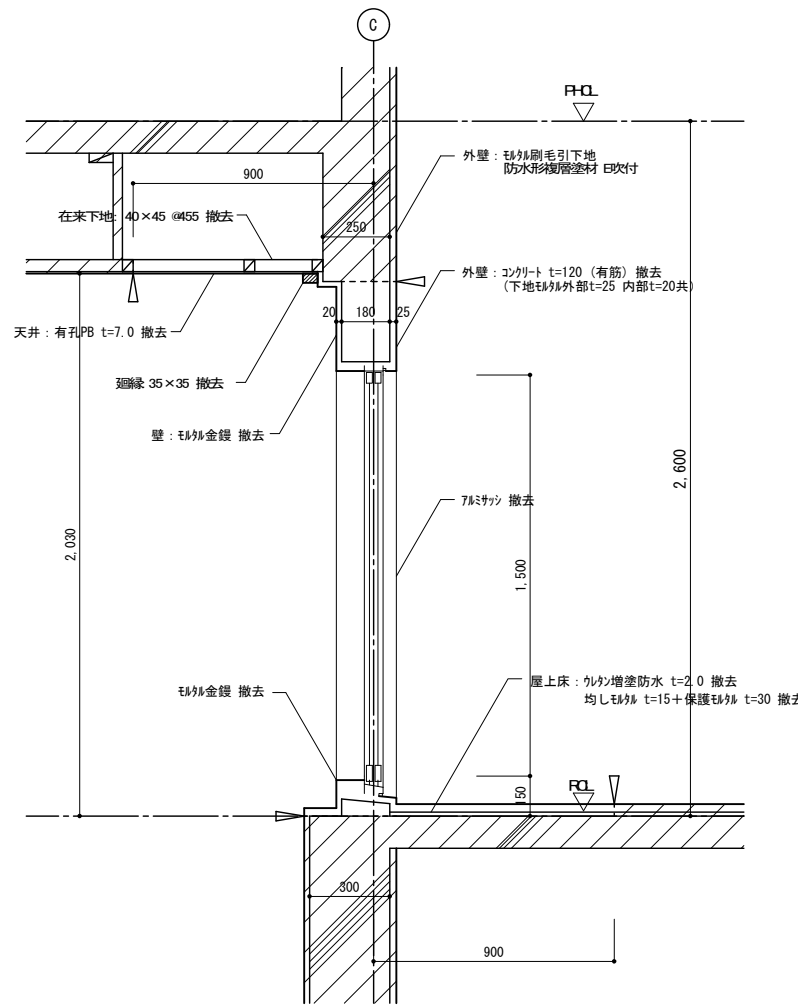
凡例

	シーリング MS-2 10 × 7		耐震補強に係わる工事範囲を示す
	シーリング MS-2 15 × 10		工事範囲外を示す
	シーリング PU-2 15 × 10		
	シーリング MS-2 20 × 15		
	カッター目入れ		



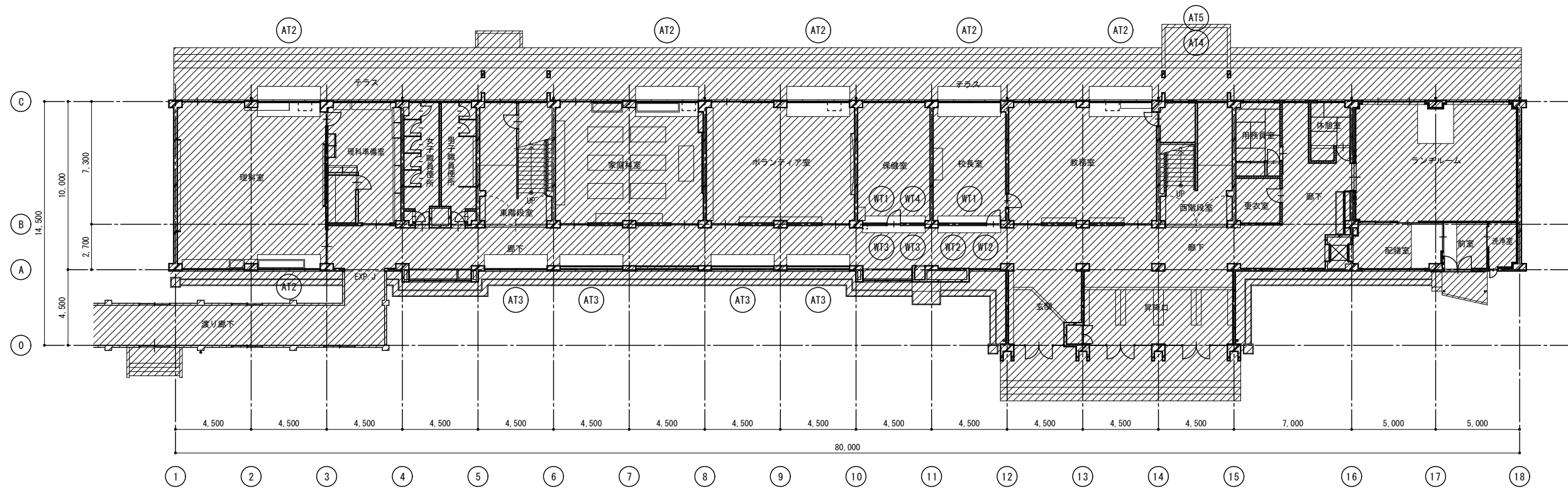
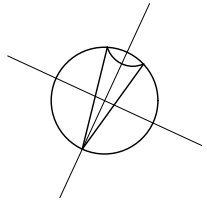
凡例

▽	シーリング MS-2 10 × 7	□	耐震補強に係わる工事範囲を示す
▽	シーリング MS-2 15 × 10	▨	工事範囲外を示す
▽	シーリング PU-2 15 × 10		
▽	シーリング MS-2 20 × 15		
▽	カッター目入れ		

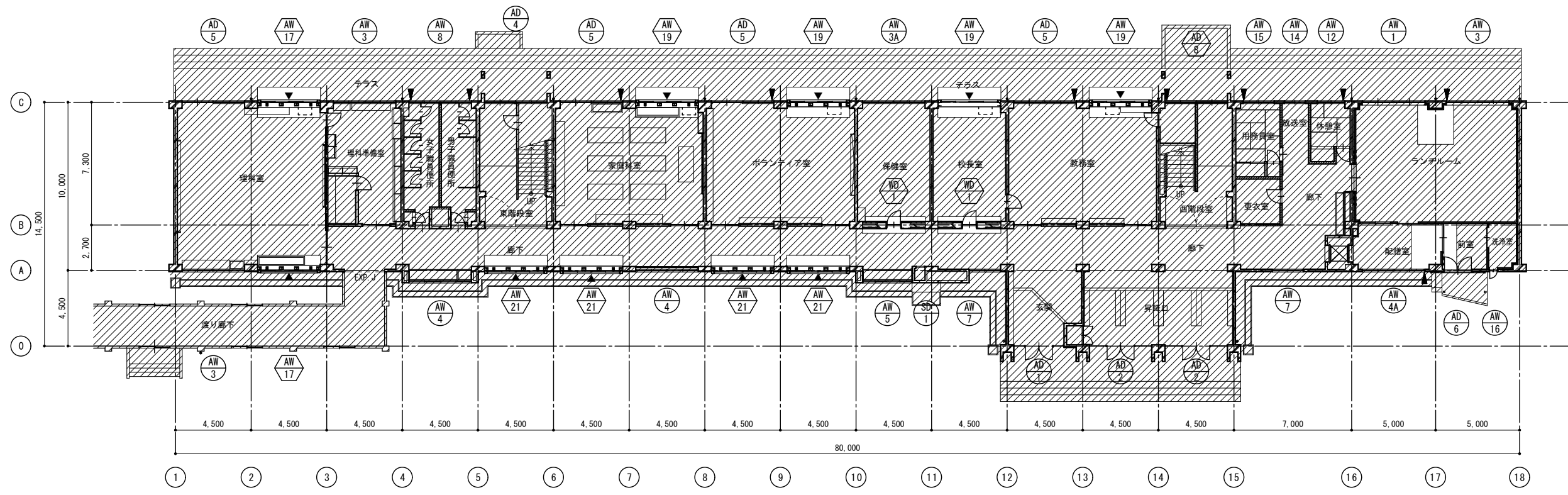


凡例

▽	シーリング MS-2 10 × 7	□	耐震補強に係わる工事範囲を示す
▽	シーリング MS-2 15 × 10	▨	工事範囲外を示す
▽	シーリング PU-2 15 × 10		
▽	シーリング MS-2 20 × 15		
▽	カッター目入れ		



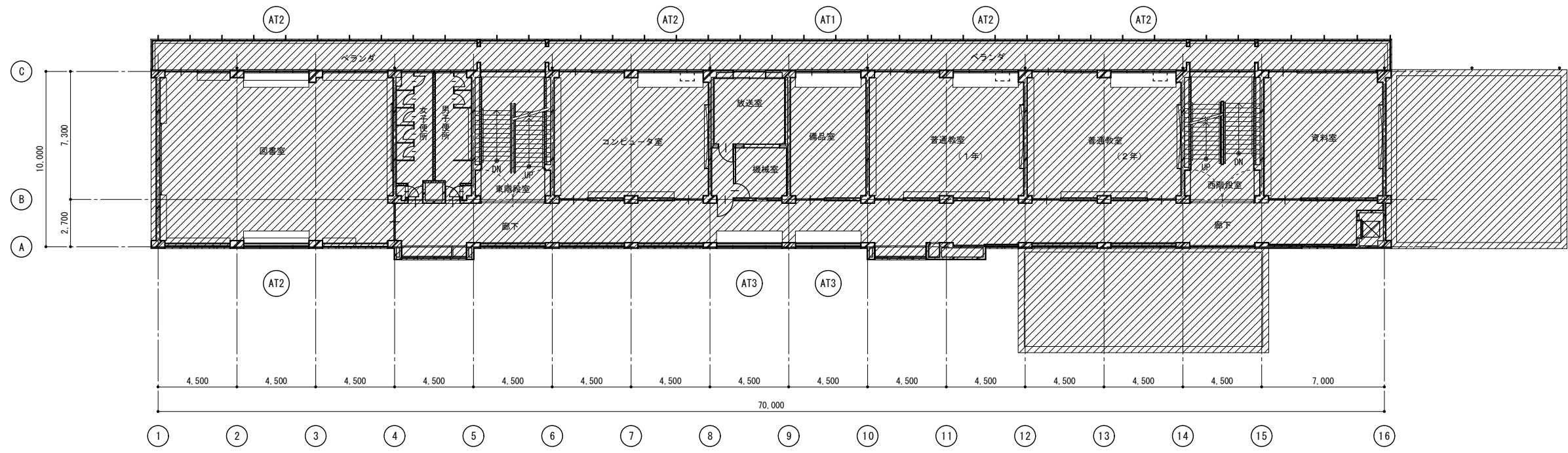
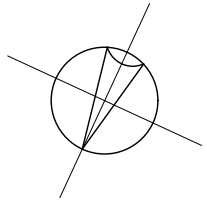
既存・撤去：1階平面図 S=1:200



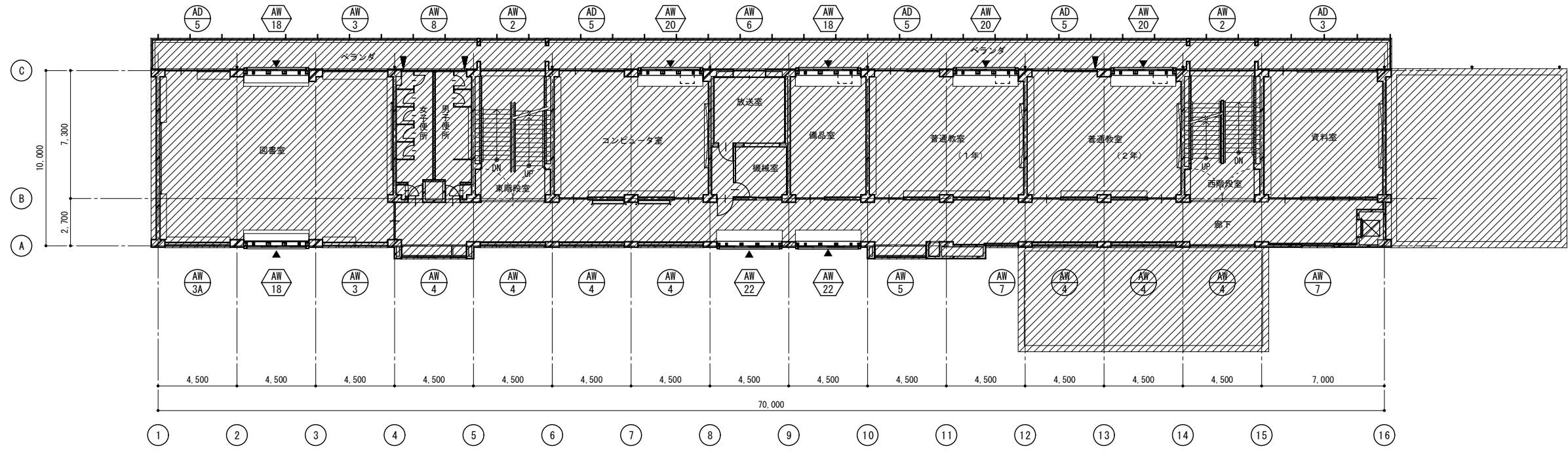
改修後：1階平面図 S=1:200

凡例

	鉄筋コンクリート
	コンクリートブロック
	木軸
	LGS
	耐力壁 RC壁
	耐力壁 鉄骨枠付k型ブレース
	耐震スリット(幅30)
	耐震補強に係わる工事範囲を示す
	工事範囲外を示す
	撤去建具
	新規建具
	改修建具



既存・撤去：2階平面図 S=1:200



改修後：2階平面図 S=1:200

凡例

	鉄筋コンクリート
	コンクリートブロック
	木軸
	LGS
	耐力壁 RC壁
	耐力壁 鉄骨枠付k型ブレース
	耐震スリット(幅 30)
	耐震補強に係わる工事範囲を示す
	工事範囲外を示す
	撤去建具
	新規建具
	改修建具

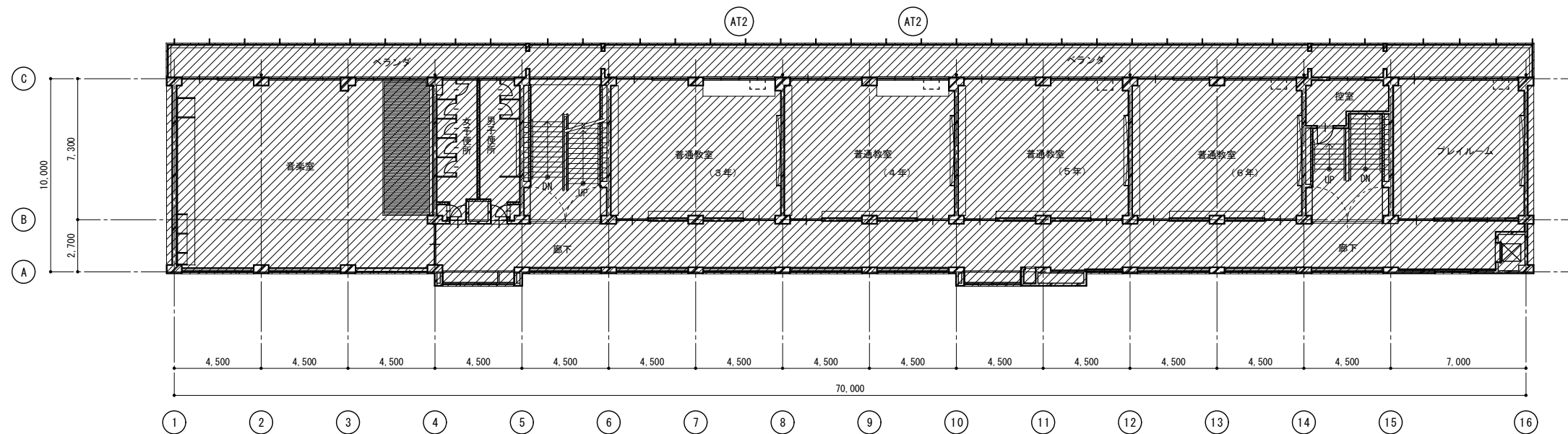
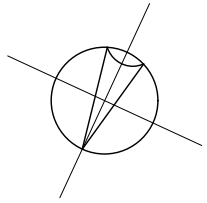
新潟市建築設計協同組合  
 担当設計事務所 酒井建築事務所  
 管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一  
 担当設計事務所管理建築士 一級建築士登録 第103858号 酒井秀晴

新潟市建築部公共建築第2課

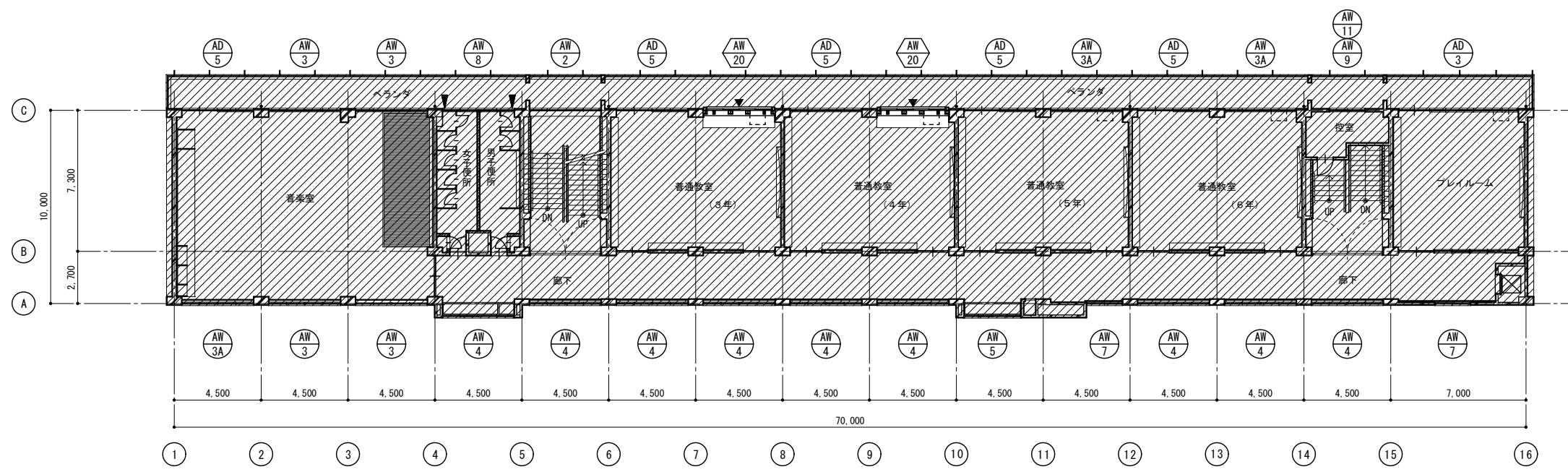
工事名  
 太田小学校校舎 耐震補強工事

図名  
 現況・撤去・改修後：2階建具記号図  
 年月日 2011.3 縮尺 1/200 図面番号 A-38





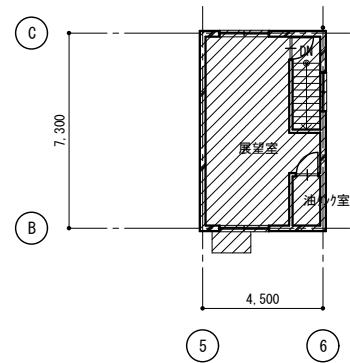
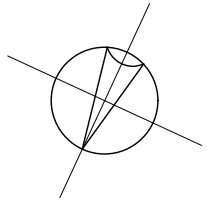
既存・撤去：3階 建具記号図 S=1:200



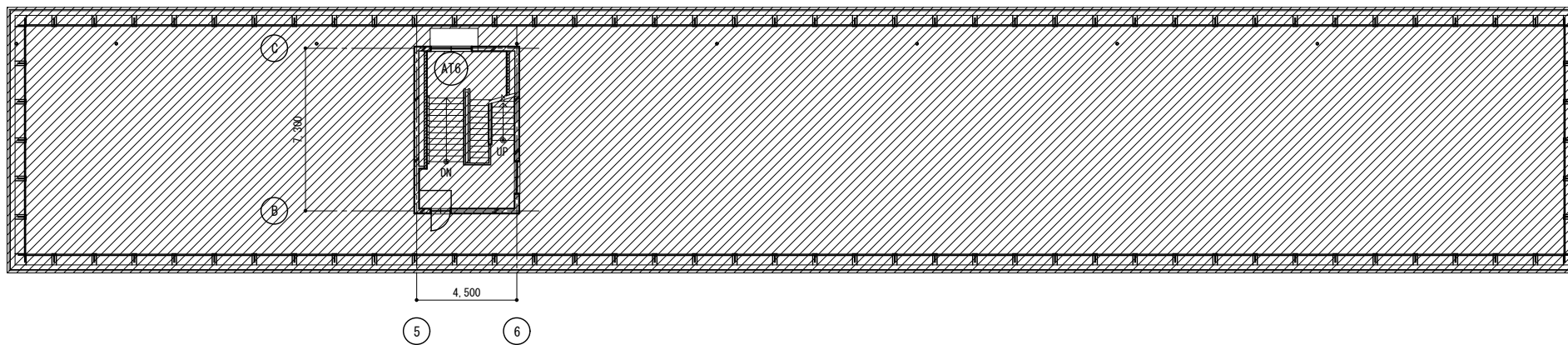
改修後：3階 建具記号図 S=1:200

凡例

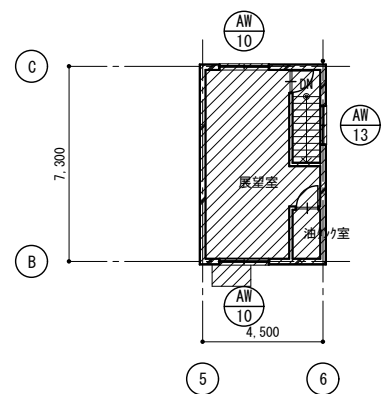
	鉄筋コンクリート
	コンクリートブロック
	木軸
	LGS
	耐力壁 RC壁
	耐力壁 鉄骨枠付k型ブレース
	耐震スリット(幅 30)
	耐震補強に係わる工事範囲を示す
	工事範囲外を示す
	撤去建具
	新規建具
	改修建具



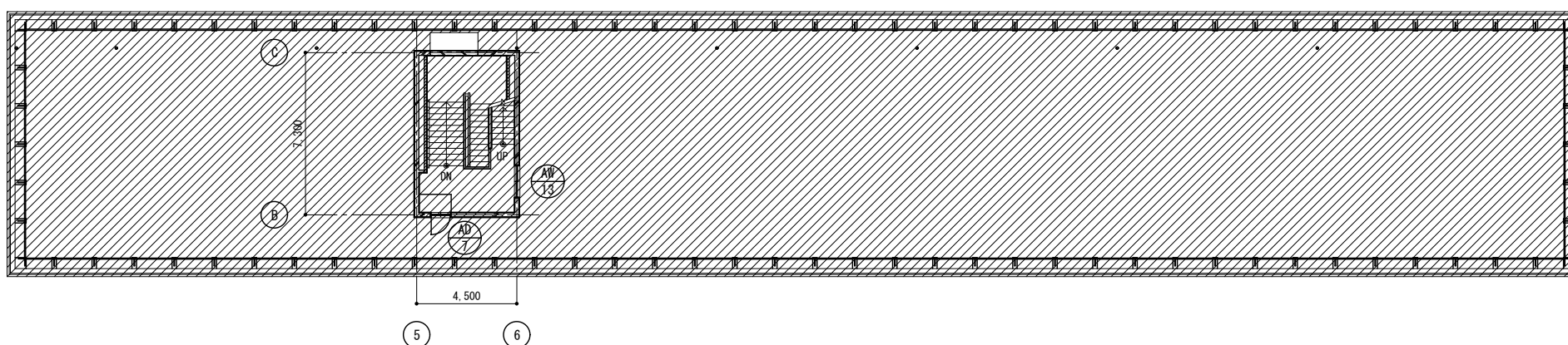
現況・撤去：PH階 建具記号図 S=1:200



現況・撤去：R階 建具記号図 S=1:200



改修後：PH階 建具記号図 S=1:200



改修後：R階 建具記号図 S=1:200

凡例

	鉄筋コンクリート
	コンクリートブロック
	木軸
	LGS
	耐力壁 RC壁
	耐力壁 鉄骨枠付k型ブレース
	耐震スリット(幅 30)
	耐震補強に係わる工事範囲を示す
	工事範囲外を示す
	撤去建具
	新規建具
	改修建具

記号・場所・数量	AT1 2階備品室	撤去	1ヶ所	AT2 各教室	撤去	13ヶ所	AT3 1,2階廊下	撤去	6ヶ所	AT4 1階西階段室	撤去	1ヶ所	AT5 1階西階段室	撤去	1ヶ所	AT6 R階東階段室	撤去	1ヶ所
形状																		
形式	引違い2連2段7mmサッシ窓			引違い2連2段7mmサッシ窓			引違い2連2段7mmサッシ窓			引違い2連2段7mmサッシ窓			引違い7mmサッシ窓			引違い7mmサッシ窓		
材料・仕上・見込	7mmアルミ付 見込 60			7mmアルミ付 見込 60			7mmアルミ付 見込 60			7mmアルミ付 見込 60			7mmアルミ付 見込 60			7mmアルミ付 見込 60		
硝子	透明 t=3.0			透明 t=3.0			透明 t=3.0			透明 t=3.0 t=5.0			透明 t=3.0			透明 t=3.0		
金物																		
備考	外部シーリング 10×7			外部シーリング 10×7			外部シーリング 10×7			外部シーリング 10×7			外部シーリング 10×7			外部シーリング 10×7		
記号・場所・数量	WT1 1階保健室、校長室	撤去	2ヶ所	WT2 1階校長室	撤去	2ヶ所	WT3 1階保健室	撤去	2ヶ所	WT4 1階保健室	撤去	1ヶ所						
形状																		
形式	片開き木製フラッシュ戸			引違い木製ガラス窓			引違い木製ガラス窓			嵌殺し木製ガラス窓								
材料・仕上・見込	フラッシュ板 t=4.0 見込 36			見込 36			見込 36			見込 36								
硝子	透明 t=3.0			透明 t=3.0			透明 t=3.0			透明 t=3.0								
金物	靴摺 SUS 40×20×2																	
備考																		

特記事項

- ・ 製作の前に、現場調査を十分に行い、監督員の承諾を得る事。
- ・ 特記無き建具金物は、ステンレス製とする。

凡例



新潟市建築設計協同組合

管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一

担当設計事務所  
酒井建築事務所

担当設計事務所管理建築士  
一級建築士登録 第103858号 酒井秀晴

新潟市建築部公共建築第2課

工事名

太田小学校校舎 耐震補強工事

図名

建具表(1)

年月日 2011.3

縮尺 1/100

図面番号 A-41

記号・場所・数量	AD 1 1階玄関	改修	1ヶ所	AD 2 1階昇降口	改修	2ヶ所	AD 3 2階資料室 3階ブレイム	改修	2ヶ所	AD 4 1階東階段室	改修	1ヶ所	AD 5 1階理科室、家庭科室、ラウンジ室 3階音楽室、2階普通教室	改修	13ヶ所
形状															
形式	両袖はめ殺し両開き7mmサッシ			両袖はめ殺し両開き7mmサッシ			引違い2連2段7mmサッシ			引違い2連2段7mmサッシ			引違い2連2段7mmサッシ		
材料・仕上・見込	7mmアルミ 見込 70			7mmアルミ 見込 70			7mmアルミ 見込 60			7mmアルミ 見込 60			7mmアルミ 見込 60		
硝子	透明 t=3.0 5.0 新規:透明飛散防止フィルム内貼			透明 t=3.0 5.0 新規:透明飛散防止フィルム内貼			透明 t=3.0 新規:透明飛散防止フィルム内貼			透明 t=3.0 5.0 新規:透明飛散防止フィルム内貼			透明 t=3.0 新規:透明飛散防止フィルム内貼		
金物															
備考	新規:外部シーリング'打替え MS-2 10×7			新規:外部シーリング'打替え MS-2 10×7			新規:外部シーリング'打替え MS-2 10×7			新規:外部シーリング'打替え MS-2 10×7			新規:外部シーリング'打替え MS-2 10×7		
記号・場所・数量	AD 6 1階ラウンジ前室	改修	1ヶ所	AD 7 R階東階段室	改修	1ヶ所	AD 8 1階西階段室	新規	1ヶ所	SD 1 1階ガストリート	改修	1ヶ所	WD 1 1階保健室、校長室	新規	2ヶ所
形状															
形式	両引分け7mmサッシ 欄間が'リ			片開き7mmサッシ			引違い2連2段7mmサッシ			両開き7mmサッシ			片開き合板7mmサッシ		
材料・仕上・見込	7mmアルミ 見込 70			7mmアルミ 見込 60			7mmアルミ 見込 70			スチール'レット t=1.6 見込 50			ホ'リスチル化粧合板 芯材補強		
硝子	型板 t=4.0撤去 新規:強化型板 t=4.0			透明 t=3.0 新規:透明飛散防止フィルム内貼			透明学校用強化 t=4.0			SOP 新規:SOP塗替			強化型板 t=4.0		
金物							附属金物一式						丁番、レバ'ハンドル、シリング'錠、ド'アチェック 番指:ステン'ス40×20×2 7mm製が'リ		
備考	新規:外部シーリング'打替え MS-2 10×7			新規:外部シーリング'打替え MS-2 10×7						新規:外部シーリング'打替え MS-2 10×7					
記号・場所・数量	AW 2 2.3階東階段室 2階西階段室	改修	3ヶ所	AW 3 各教室	改修	9ヶ所	AW 3A 各教室	改修	5ヶ所	AW 4 1、2、3階廊下	改修	18ヶ所	AW 4A 1階配膳室	改修	1ヶ所
形状															
形式	引違い2連2段7mmサッシ			引違い2連2段7mmサッシ窓			引違い2連2段7mmサッシ窓			引違い2連2段7mmサッシ窓			引違い2連2段7mmサッシ窓		
材料・仕上・見込	7mmアルミ 見込 60			7mmアルミ 見込 60			7mmアルミ 見込 60			7mmアルミ 見込 60			7mmアルミ 見込 60		
硝子	透明 t=3.0 新規:透明飛散防止フィルム内貼			透明 t=3.0 新規:透明飛散防止フィルム内貼			透明 t=3.0 新規:透明飛散防止フィルム内貼			透明 t=3.0 新規:透明飛散防止フィルム内貼			透明 t=3.0 新規:透明飛散防止フィルム内貼		
金物															
備考	新規:外部シーリング'打替え MS-2 10×7			新規:外部シーリング'打替え MS-2 10×7			新規:外部シーリング'打替え MS-2 10×7			新規:外部シーリング'打替え MS-2 10×7			新規:外部シーリング'打替え MS-2 10×7		

特記事項  
・製作の前に、現場調査を十分に行い、監督員の承諾を得る事。  
・特記無き建具金物は、ステン'ス製とする。



新潟市建築設計協同組合  
担当設計事務所 酒井建築事務所  
管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一  
一級建築士登録 第103858号 酒井秀晴

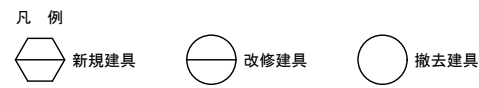
新潟市建築部公共建築第2課

工事名  
太田小学校校舎 耐震補強工事

図名  
建具表(2)  
年月日 2011.3 縮尺 1/100 図面番号 A-42

記号・場所・数量	AW6 2階放送室 改修 1ヶ所	AW7 1.2,3階廊下 改修 6ヶ所	AW8 1.2,3階便所 改修 3ヶ所	AW9 3階西階段室 改修 1ヶ所	AW10 PH階展望室 改修 2ヶ所	AW11 3階西階段室 改修 1ヶ所
形状						
形式	引違い2段7&#246;サッシ窓	引違い2段7&#246;サッシ窓	引違い2段7&#246;サッシ窓	引違い2連7&#246;サッシ窓	引違い7&#246;サッシ窓	引違い7&#246;サッシ窓
材料・仕上・見込	7&#246;7&#246;サッシ 見込 60	7&#246;7&#246;サッシ 見込 60	7&#246;7&#246;サッシ 見込 60	7&#246;7&#246;サッシ 見込 60	7&#246;7&#246;サッシ 見込 60	7&#246;7&#246;サッシ 見込 60
硝子	透明 t=3.0 新規: 透明飛散防止フィルム内貼	透明 t=3.0 新規: 透明飛散防止フィルム内貼	型板 t=4.0撤去 新規: 合せガラス t=6.0	透明 t=3.0 新規: 透明飛散防止フィルム内貼	透明 t=3.0 新規: 透明飛散防止フィルム内貼	透明 t=3.0 新規: 透明飛散防止フィルム内貼
金物						
備考	新規: 外部シーリング打替え MS-2 10×7	新規: 外部シーリング打替え MS-2 10×7	新規: 外部シーリング打替え MS-2 10×7	新規: 外部シーリング打替え MS-2 10×7	新規: 外部シーリング打替え MS-2 10×7	新規: 外部シーリング打替え MS-2 10×7
記号・場所・数量	AW12 1階休憩室 改修 1ヶ所	AW13 PH階東階段室 改修 2ヶ所	AW14 1階廊下 改修 1ヶ所	AW15 1階用務員室 改修 1ヶ所	AW16 1階ラウンジ洗浄室 改修 1ヶ所	
形状						
形式	引違い7&#246;サッシ窓	引違い7&#246;サッシ窓	引違い7&#246;サッシ窓	引違い7&#246;サッシ窓	片開き7&#246;サッシ窓	
材料・仕上・見込	7&#246;7&#246;サッシ 見込 60	7&#246;7&#246;サッシ 見込 60	7&#246;7&#246;サッシ 見込 60	7&#246;7&#246;サッシ 見込 60	7&#246;7&#246;サッシ 見込 60	
硝子	型板 t=4.0撤去 新規: 合せガラス t=6.0	透明 t=3.0 新規: 透明飛散防止フィルム内貼	型板 t=4.0撤去 新規: 合せガラス t=6.0	透明 t=3.0 新規: 透明飛散防止フィルム内貼	型板 t=4.0撤去 新規: 型板強化 t=4.0	
金物						
備考	新規: 外部シーリング打替え MS-2 10×7	新規: 外部シーリング打替え MS-2 10×7	新規: 外部シーリング打替え MS-2 10×7	新規: 外部シーリング打替え MS-2 10×7	新規: 外部シーリング打替え MS-2 10×7	
記号・場所・数量	AW17 1階理科室 新規 2ヶ所	AW18 2階図書室、備品室 新規 3ヶ所	AW19 1階家庭科室、ホーランテイ7室、1階校長室、教務室 新規 4ヶ所	AW20 2階コンピュータ室、2階、3階普通教室(1,2,3,4年) 新規 5ヶ所	AW21 1階廊下 新規 4ヶ所	AW22 2階廊下 新規 2ヶ所
形状						
形式	引違い2連2段7&#246;サッシ窓	引違い2連2段7&#246;サッシ窓	引違い2連2段7&#246;サッシ窓	引違い2連2段7&#246;サッシ窓	引違い2連2段7&#246;サッシ窓	引違い2連2段7&#246;サッシ窓
材料・仕上・見込	7&#246;7&#246;サッシ 見込 70	7&#246;7&#246;サッシ 見込 70	7&#246;7&#246;サッシ 見込 70	7&#246;7&#246;サッシ 見込 70	7&#246;7&#246;サッシ 見込 70	7&#246;7&#246;サッシ 見込 70
硝子	透明学校用強化 t=4.0 (欄間共)	透明学校用強化 t=4.0 (欄間共)	透明学校用強化 t=4.0 (欄間共)	透明学校用強化 t=4.0 (欄間共)	透明学校用強化 t=4.0 (欄間共)	透明学校用強化 t=4.0 (欄間共)
金物	外部: 7&#246;7&#246;サッシ加工 内部: プレス塞ぎプレート t=1.6 EP-G塗 7&#246;7&#246;サッシ水切 W=90 附属金物一式	外部: 7&#246;7&#246;サッシ加工 内部: プレス塞ぎプレート t=1.6 EP-G塗 7&#246;7&#246;サッシ水切 W=90 附属金物一式	外部: 7&#246;7&#246;サッシ加工 内部: プレス塞ぎプレート t=1.6 EP-G塗 7&#246;7&#246;サッシ水切 W=90 附属金物一式	外部: 7&#246;7&#246;サッシ加工 内部: プレス塞ぎプレート t=1.6 EP-G塗 7&#246;7&#246;サッシ水切 W=90 附属金物一式	外部: 7&#246;7&#246;サッシ加工 内部: プレス塞ぎプレート t=1.6 EP-G塗 7&#246;7&#246;サッシ水切 W=90 附属金物一式	外部: 7&#246;7&#246;サッシ加工 内部: プレス塞ぎプレート t=1.6 EP-G塗 7&#246;7&#246;サッシ水切 W=90 附属金物一式
備考	図面 A-25 に依る。	図面 A-26,29 に依る。	図面 A-27 に依る。	図面 A-30 に依る。	図面 A-31 に依る。	図面 A-32 に依る。

特記事項  
・製作の前に、現場調査を十分に行い、監督員の承諾を得る事。  
・特記無き建具金物は、ステンレス製とする。

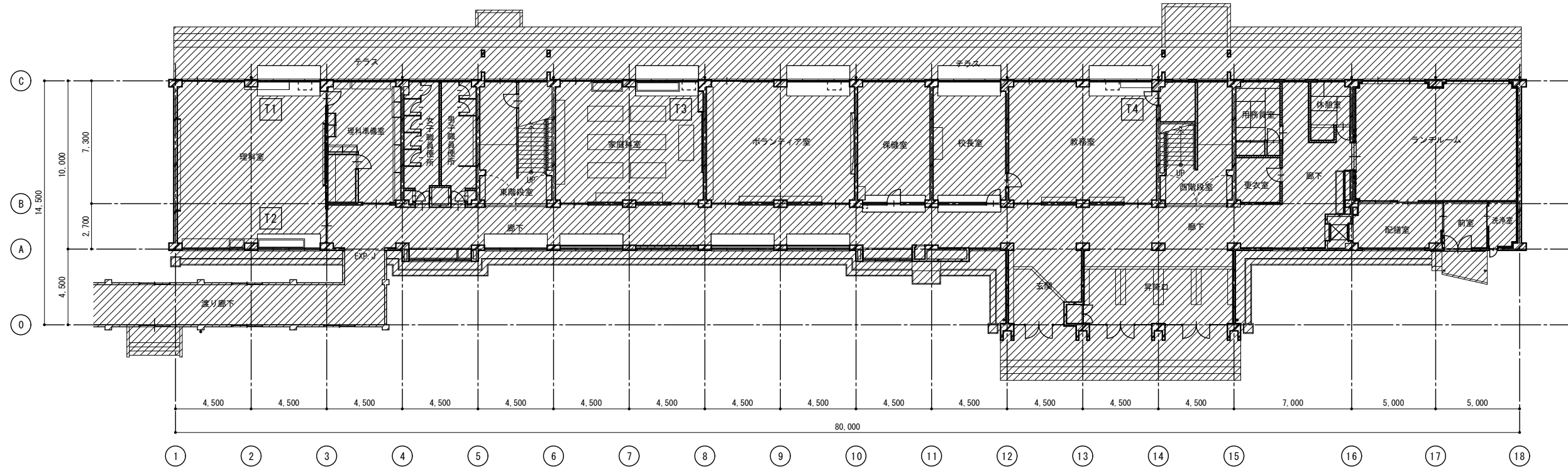
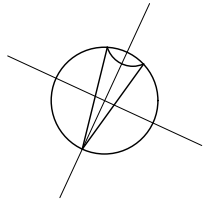


新 潟 市 建 築 設 計 協 同 組 合  
担当設計事務所 酒井建築事務所  
管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一  
一級建築士登録第103858号 酒井秀晴

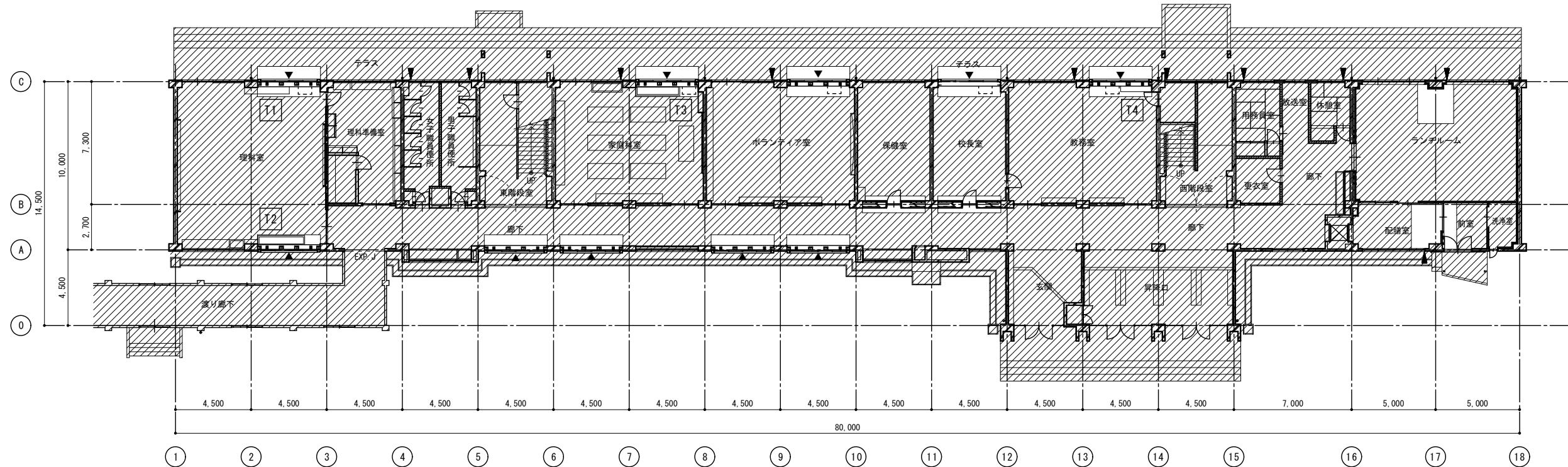
新 潟 市 建 築 部 公 共 建 築 第 2 課

工 事 名  
太田小学校校舎 耐震補強工事

図 名  
建具表(3)  
年月日 2011.3 縮 尺 1/100 図面番号 A-43



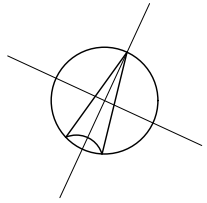
既存・撤去：1階家具配置図 S=1:200



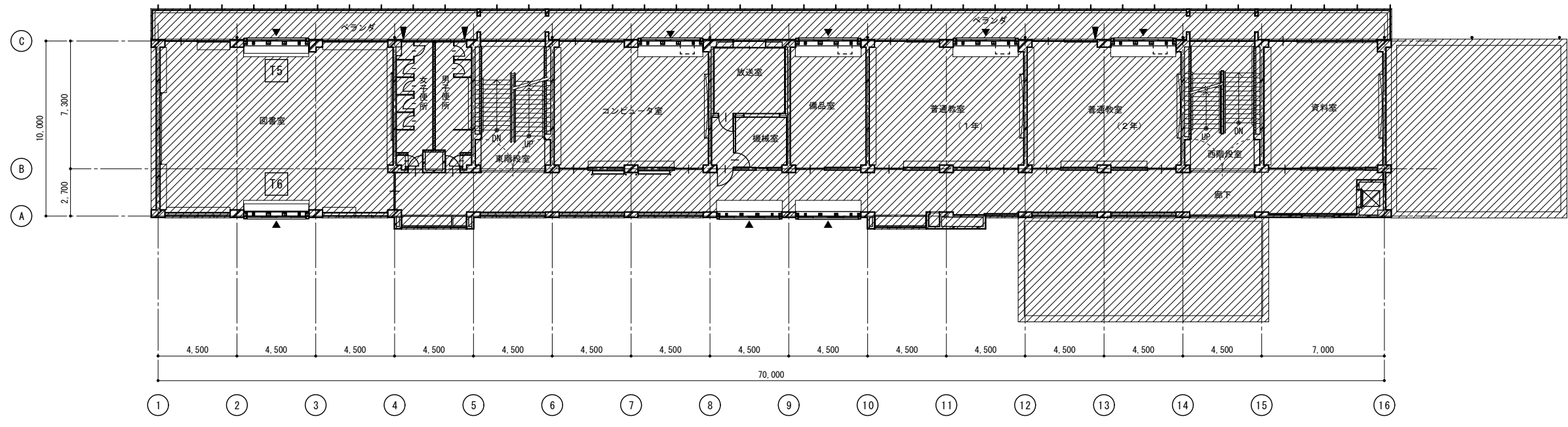
改修後：1階家具配置図 S=1:200

凡例

	鉄筋コンクリート
	コンクリートブロック
	木軸
	LGS
	耐力壁 RC壁
	耐力壁 鉄骨付付k型ブレース
	耐震スリット(幅 30)
	耐震補強に係わる工事範囲を示す
	工事範囲外を示す



既存・撤去：2階 家具配置図 S=1:200



改修後：2階 家具配置図 S=1:200

凡例

	鉄筋コンクリート
	コンクリートブロック
	木軸
	LGS
	耐力壁 RC壁
	耐力壁 鉄骨枠付k型ブレース
	耐震スリット (幅 30)
	耐震補強に係わる工事範囲を示す
	工事範囲外を示す

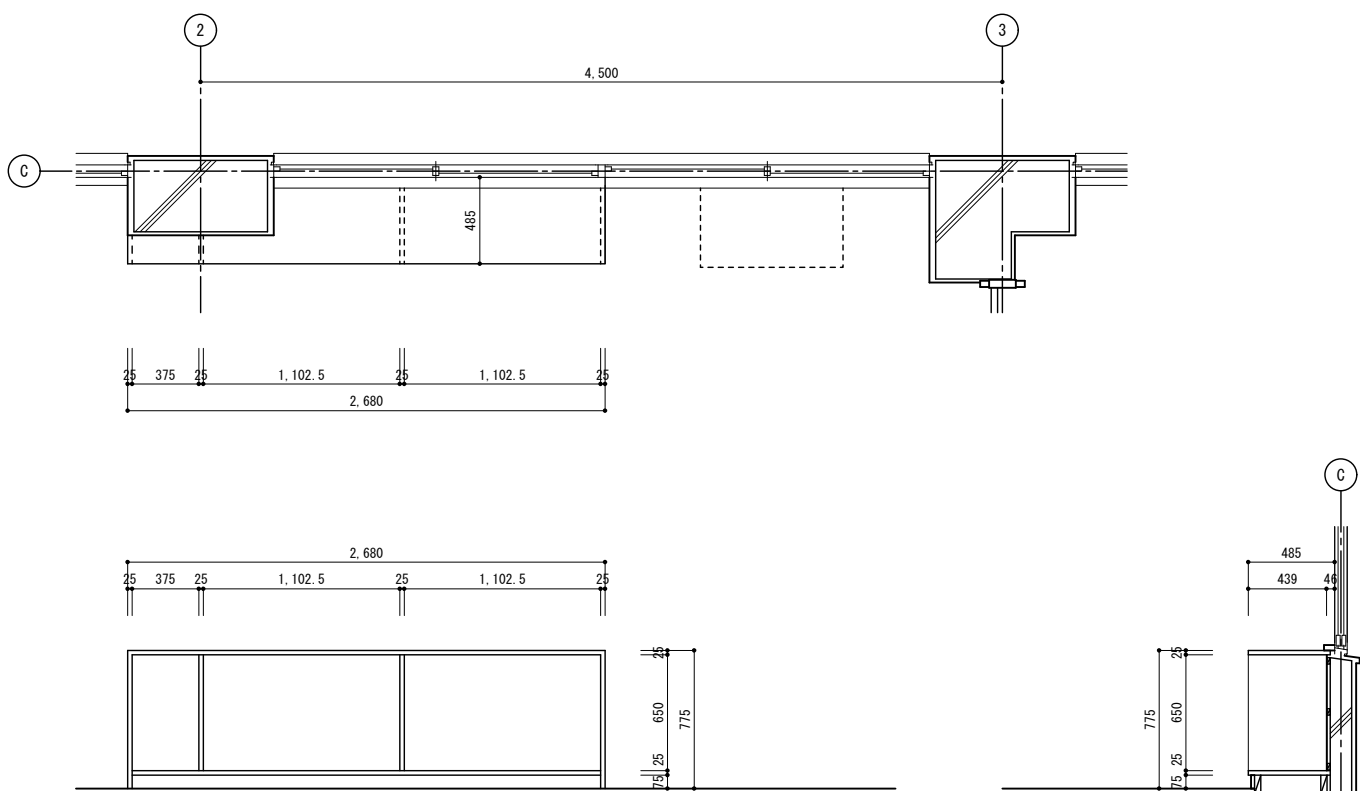
T1

1階理科室 観察台

1/30

1ヶ所

既存撤去



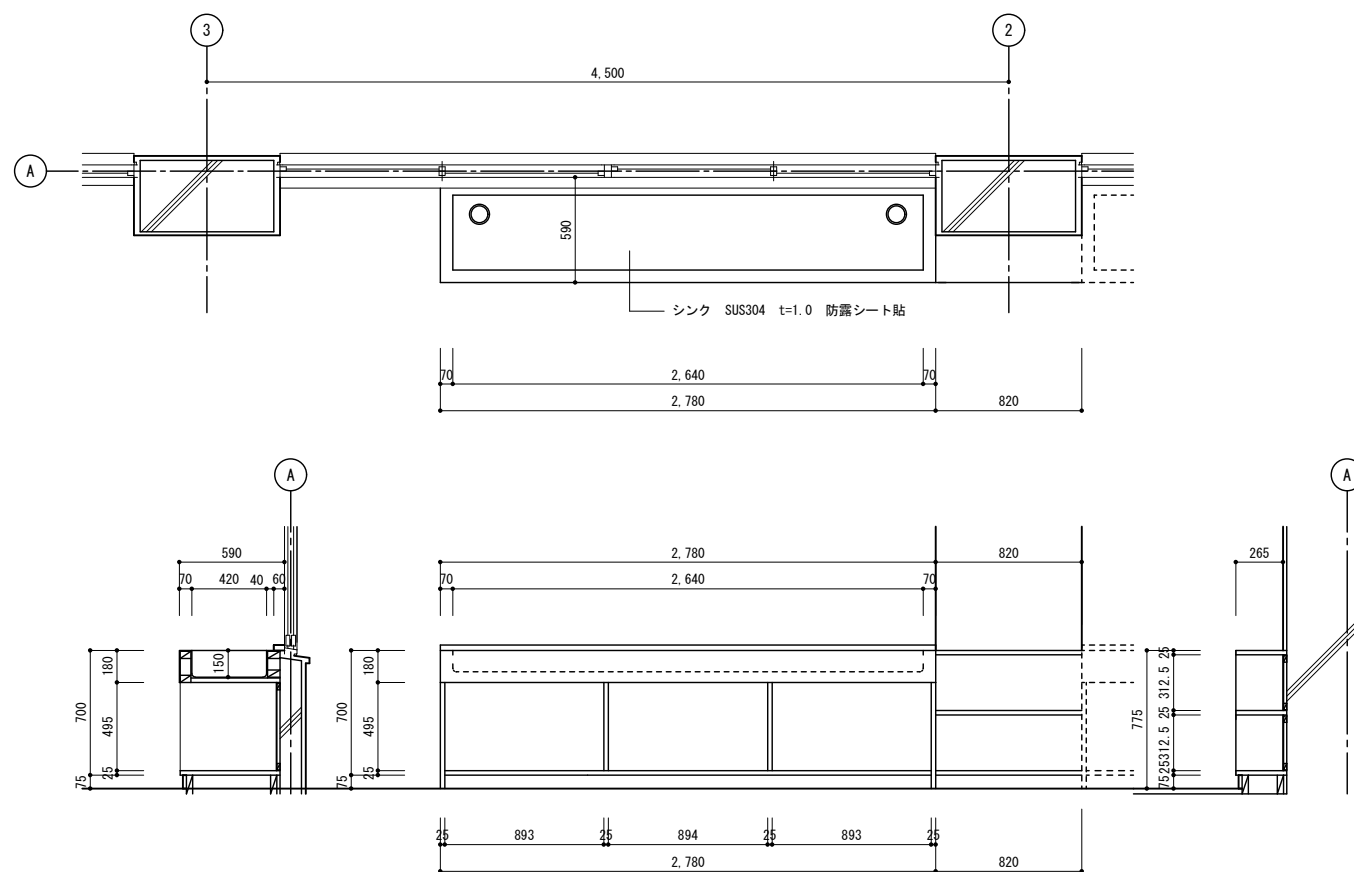
T2

1階理科室 流し台

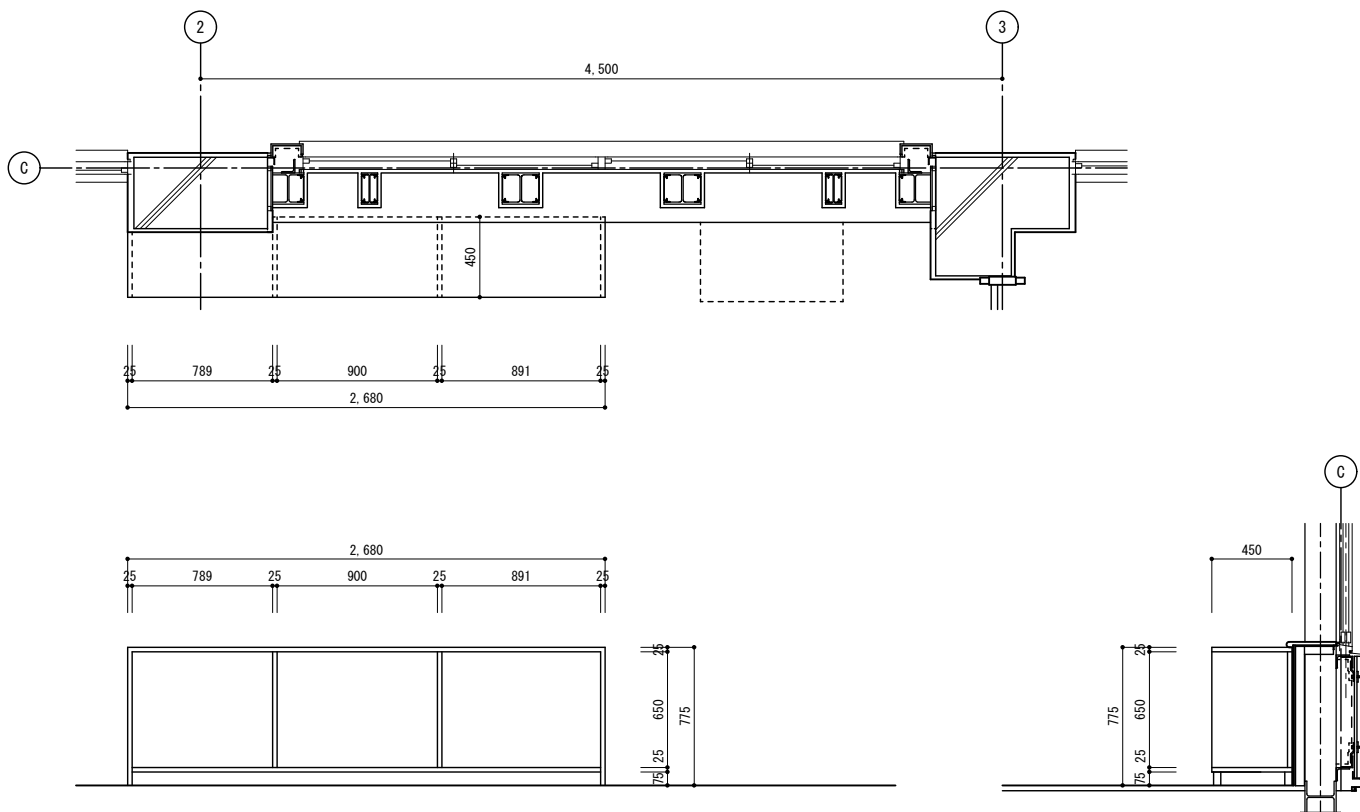
1/30

1ヶ所

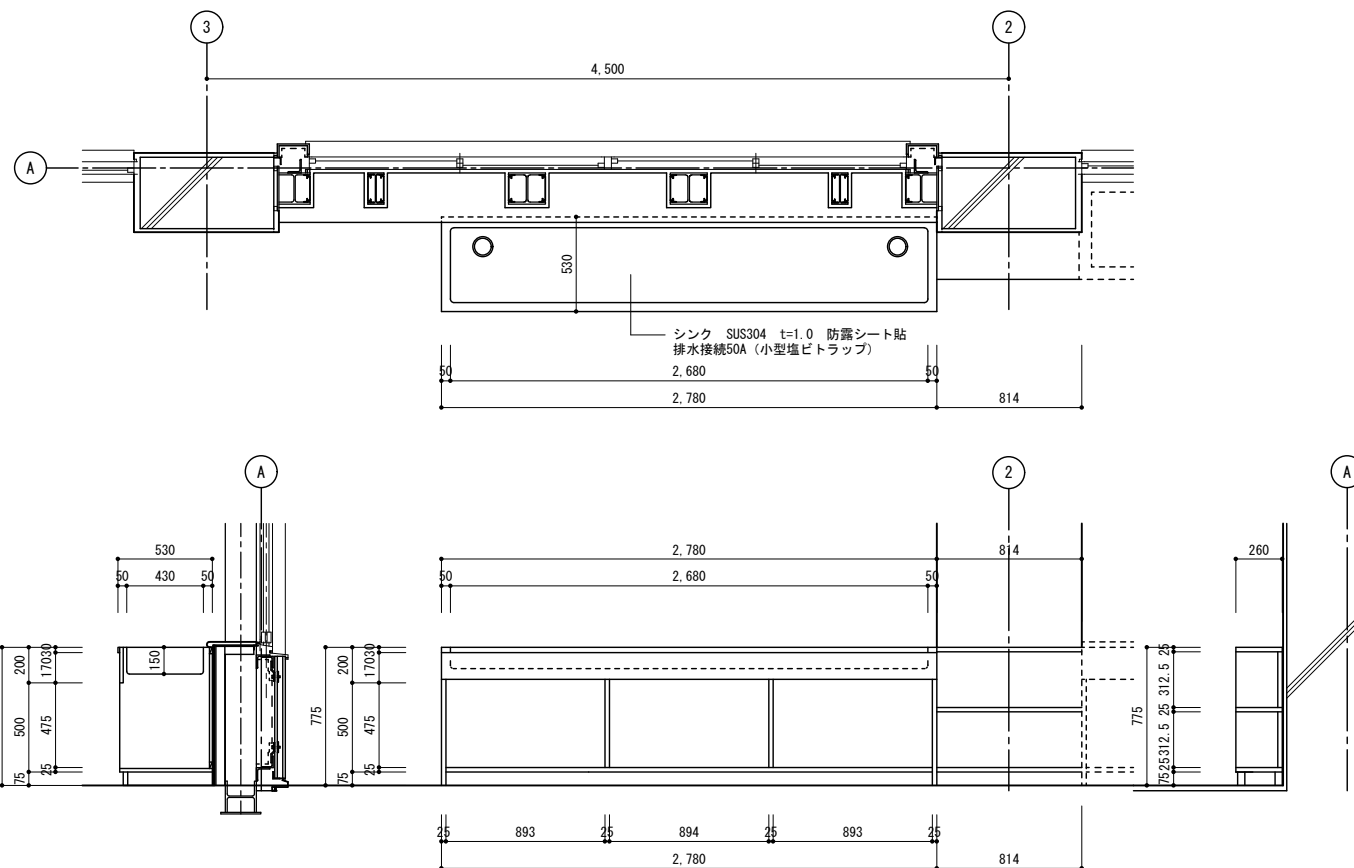
既存撤去



新規取付

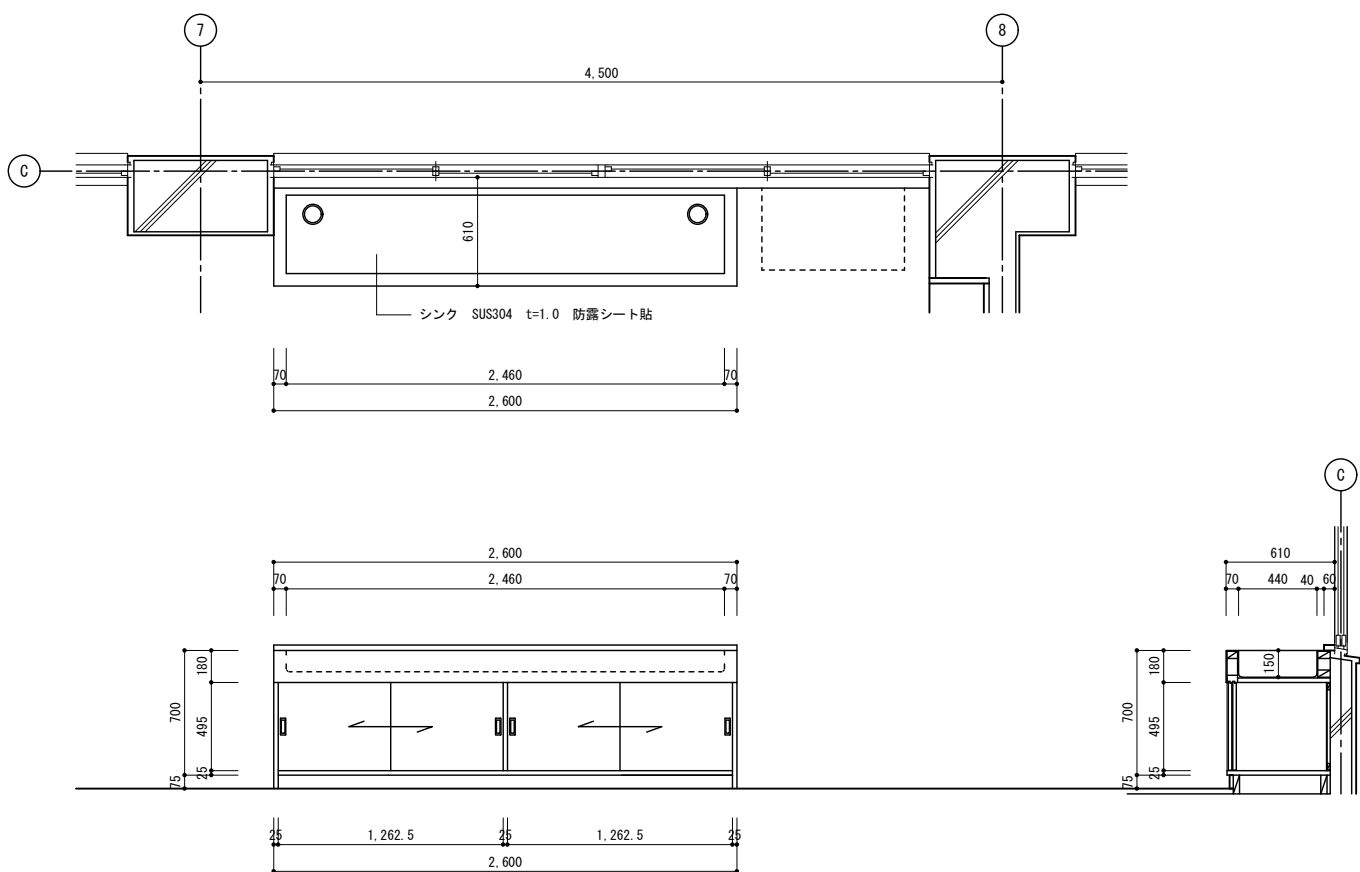


新規取付

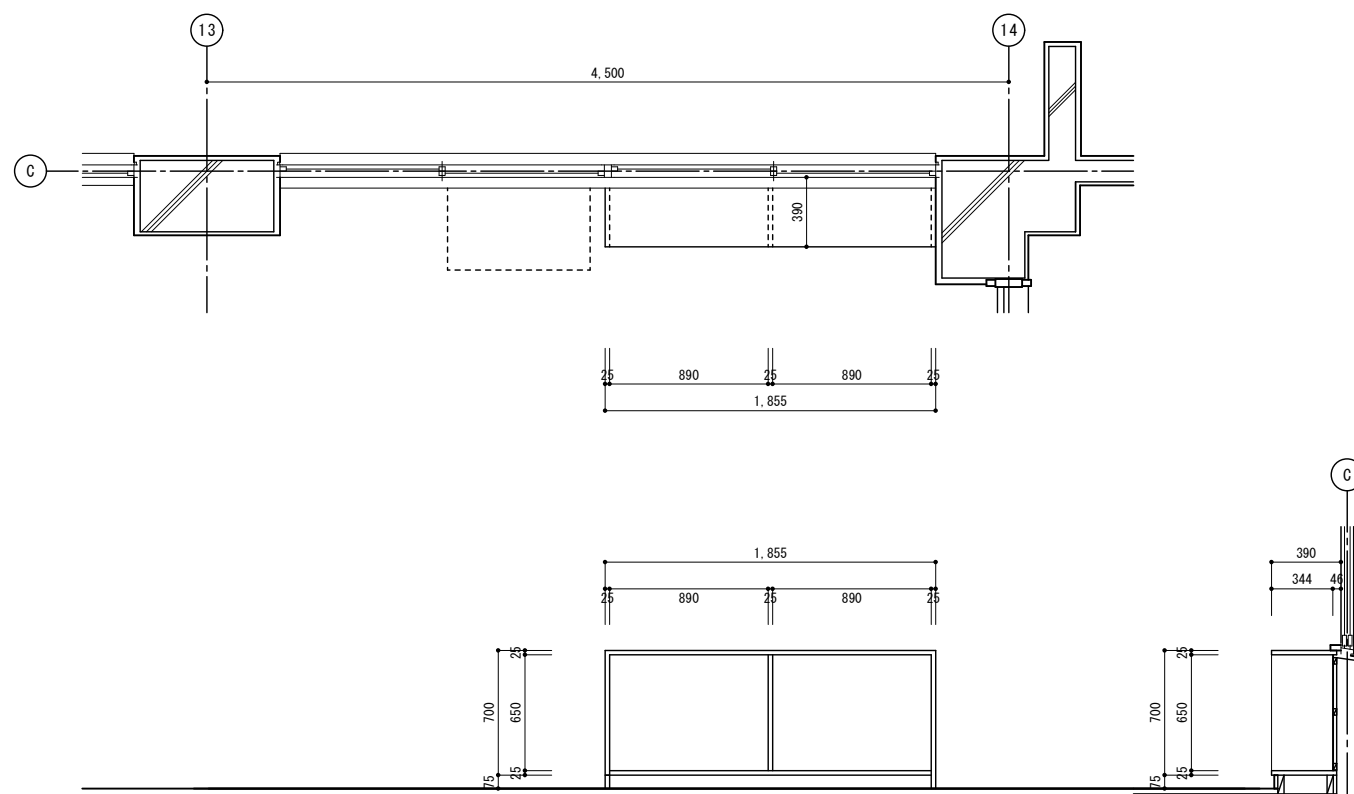




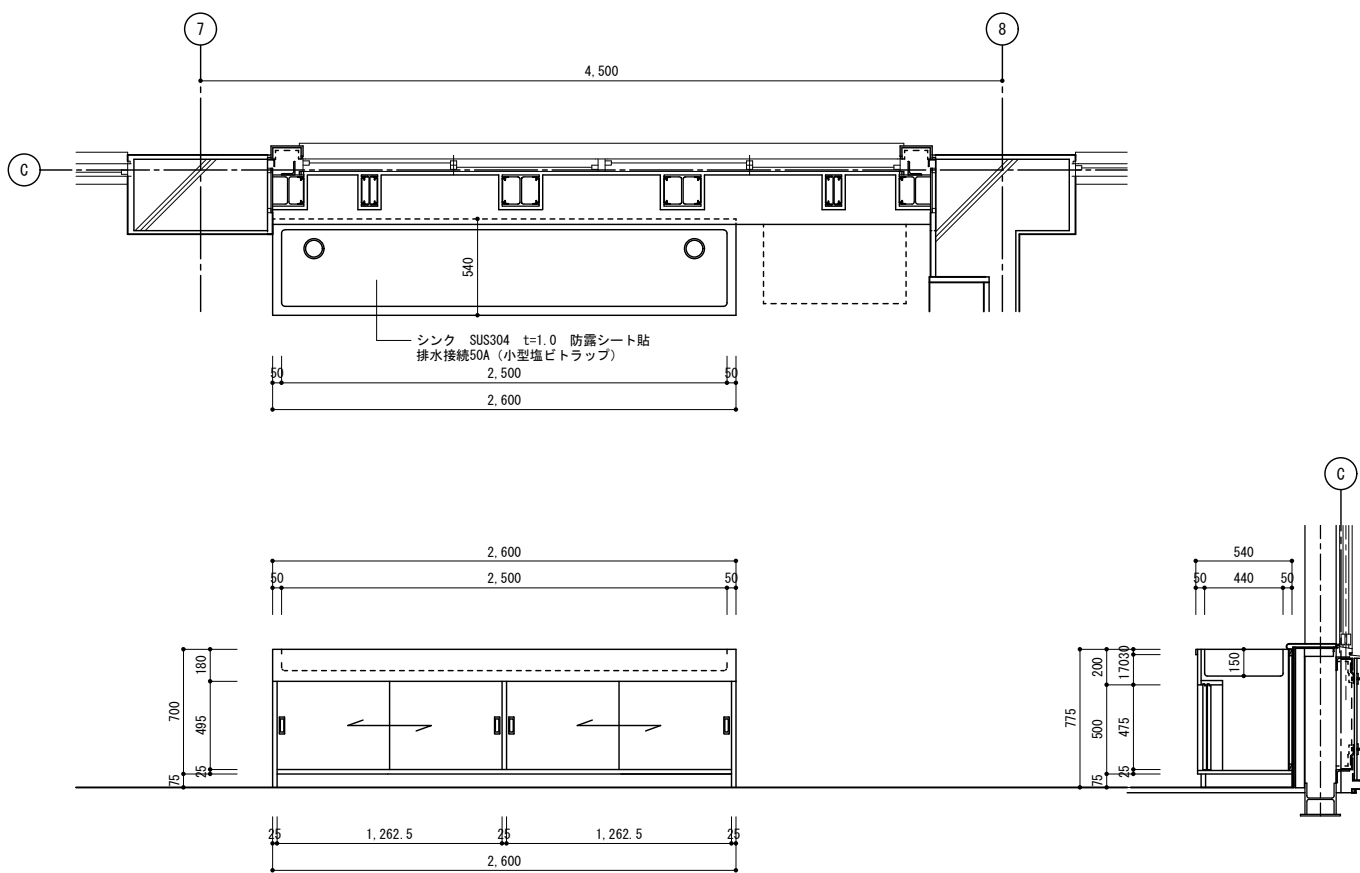
既存撤去



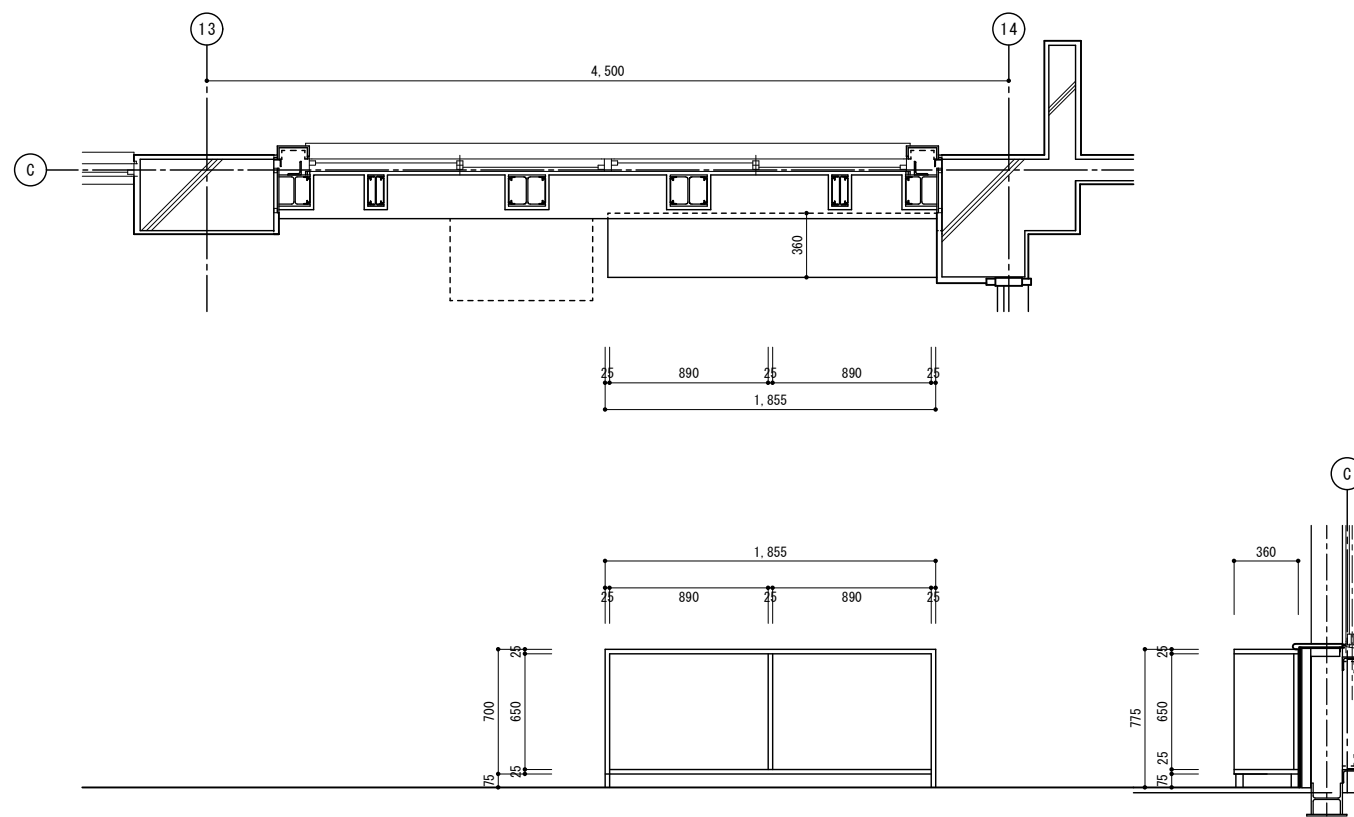
既存撤去



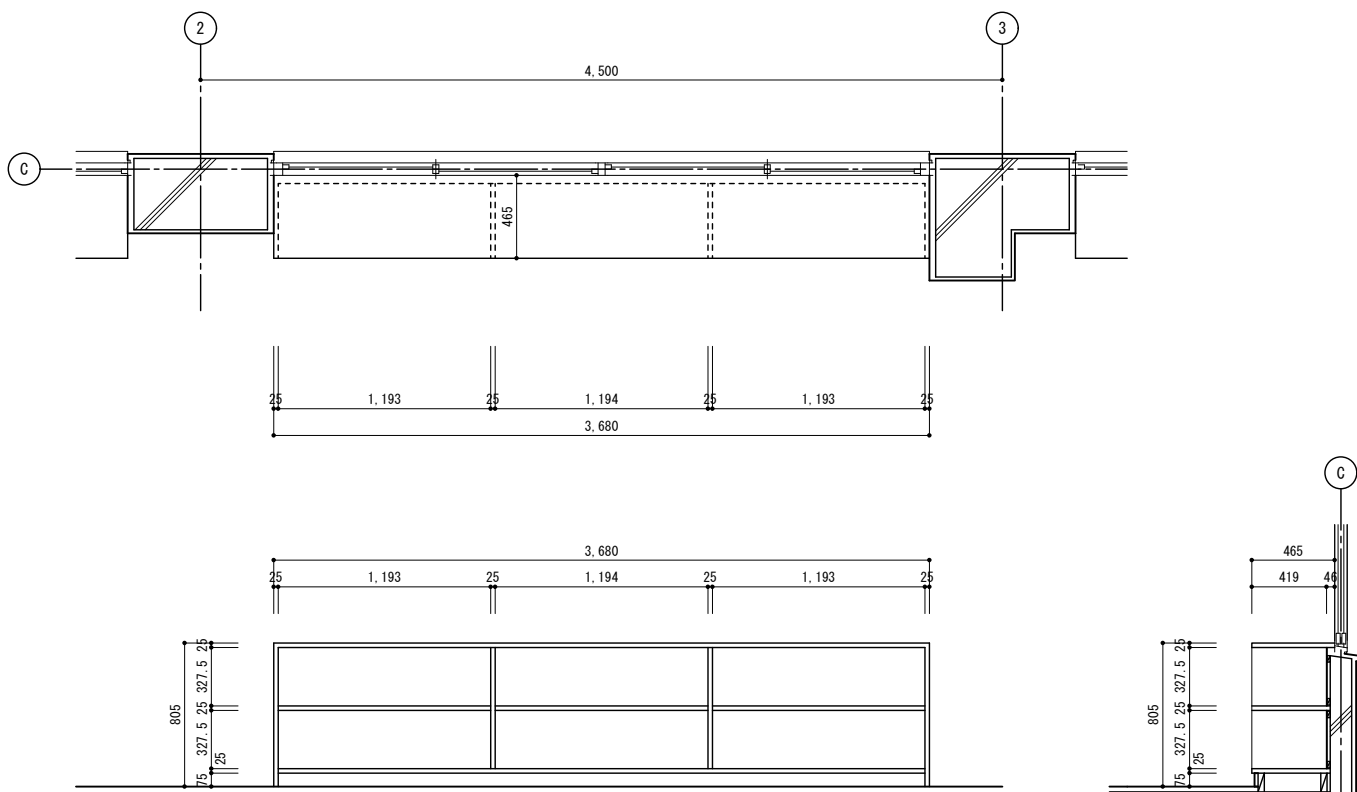
新規取付



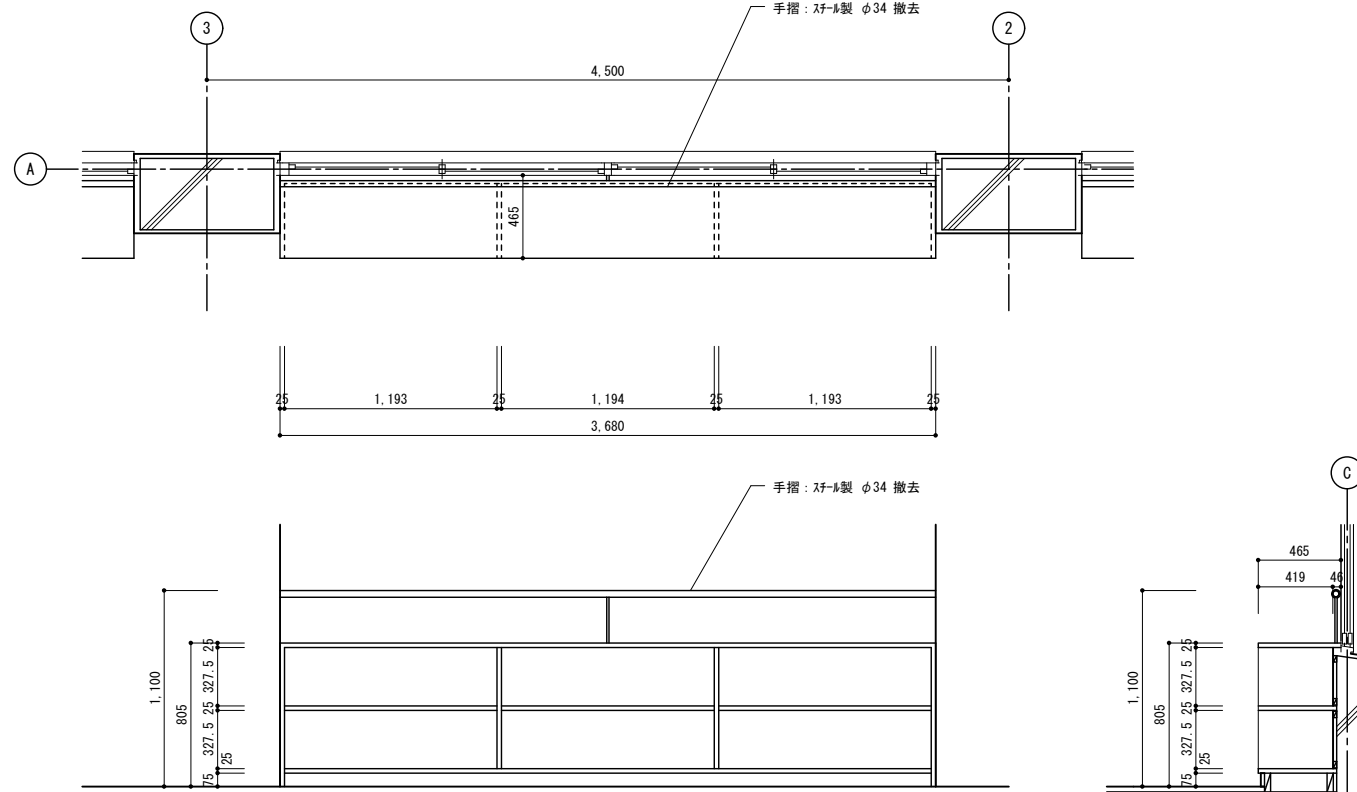
新規取付



既存撤去

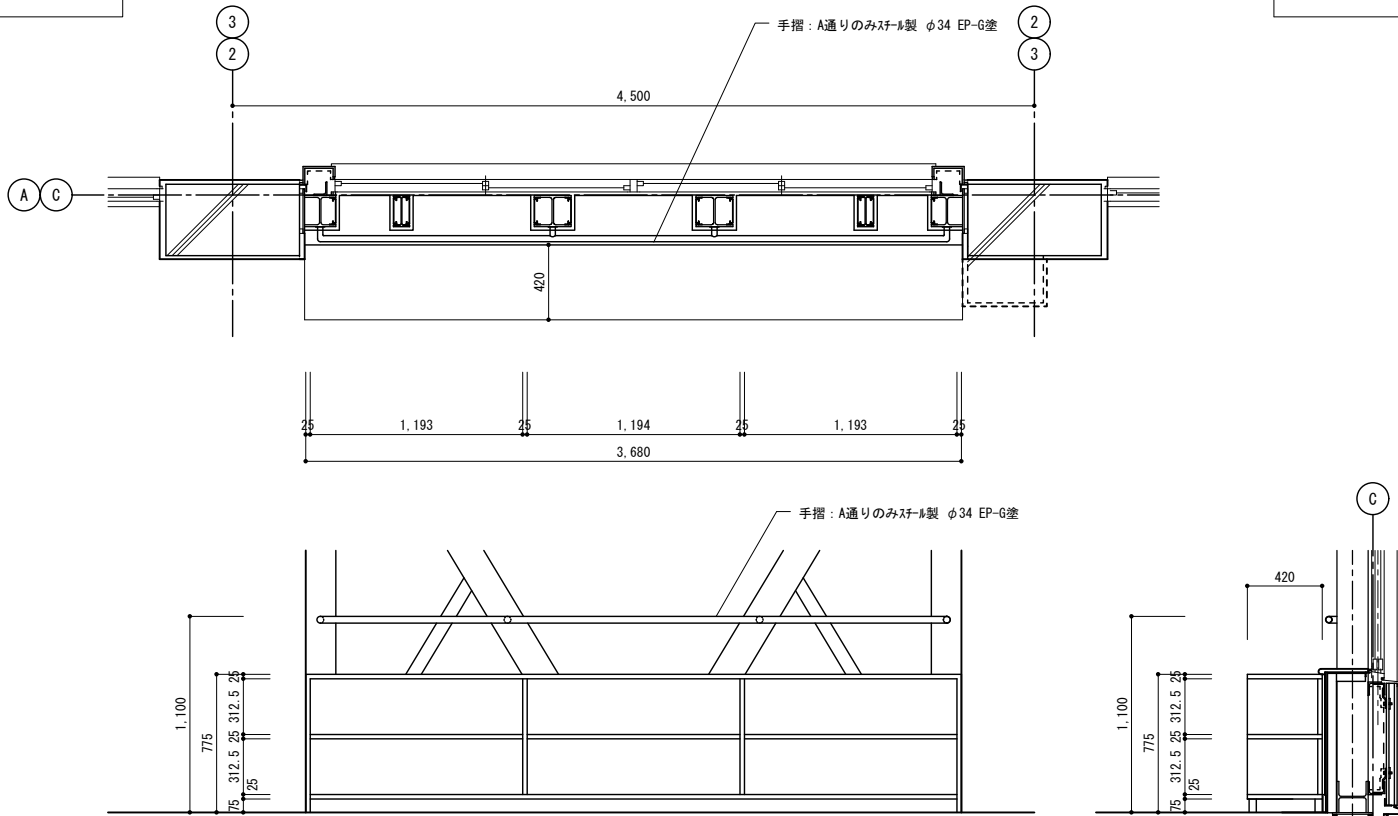


既存撤去



新規取付

T5、T6各1ヶ所



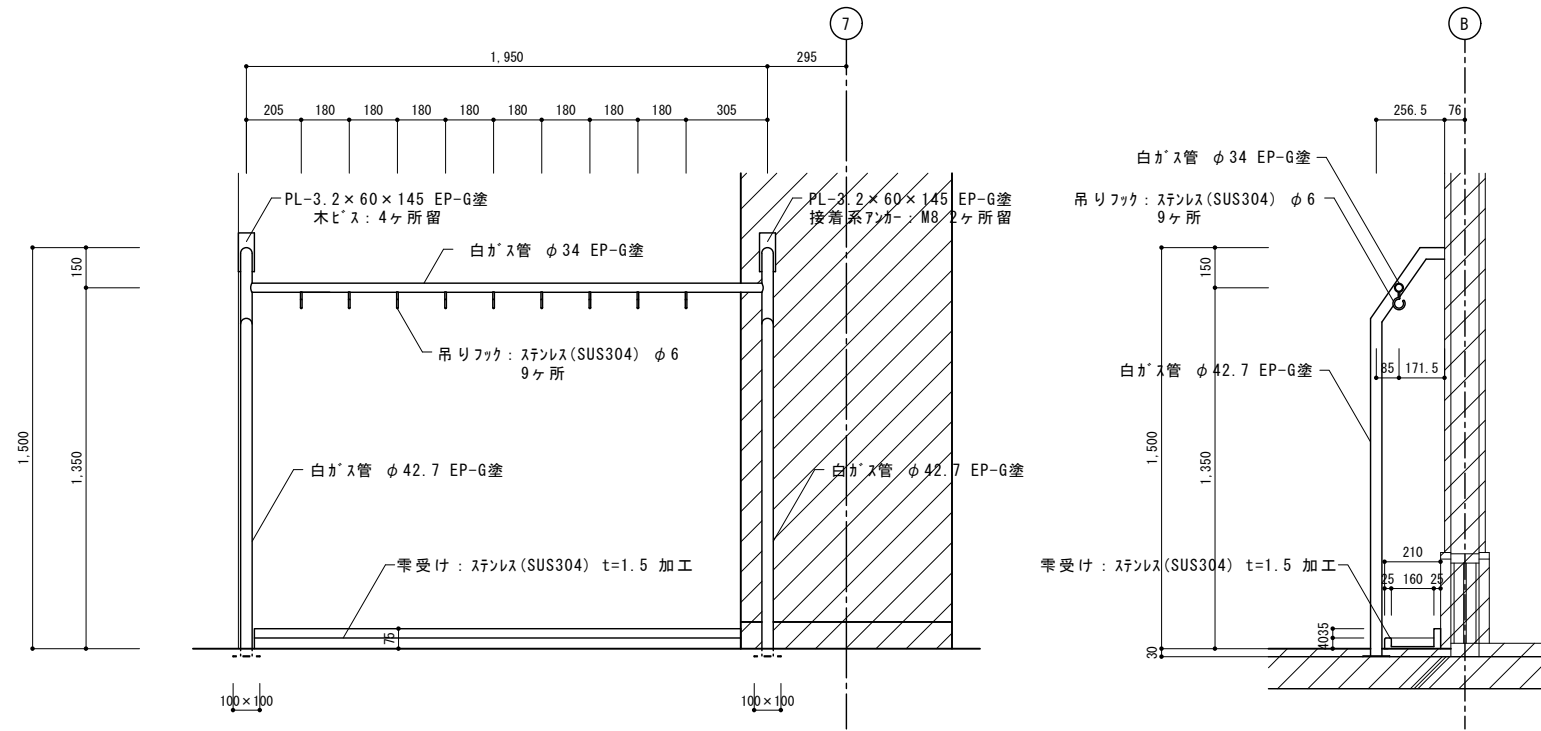
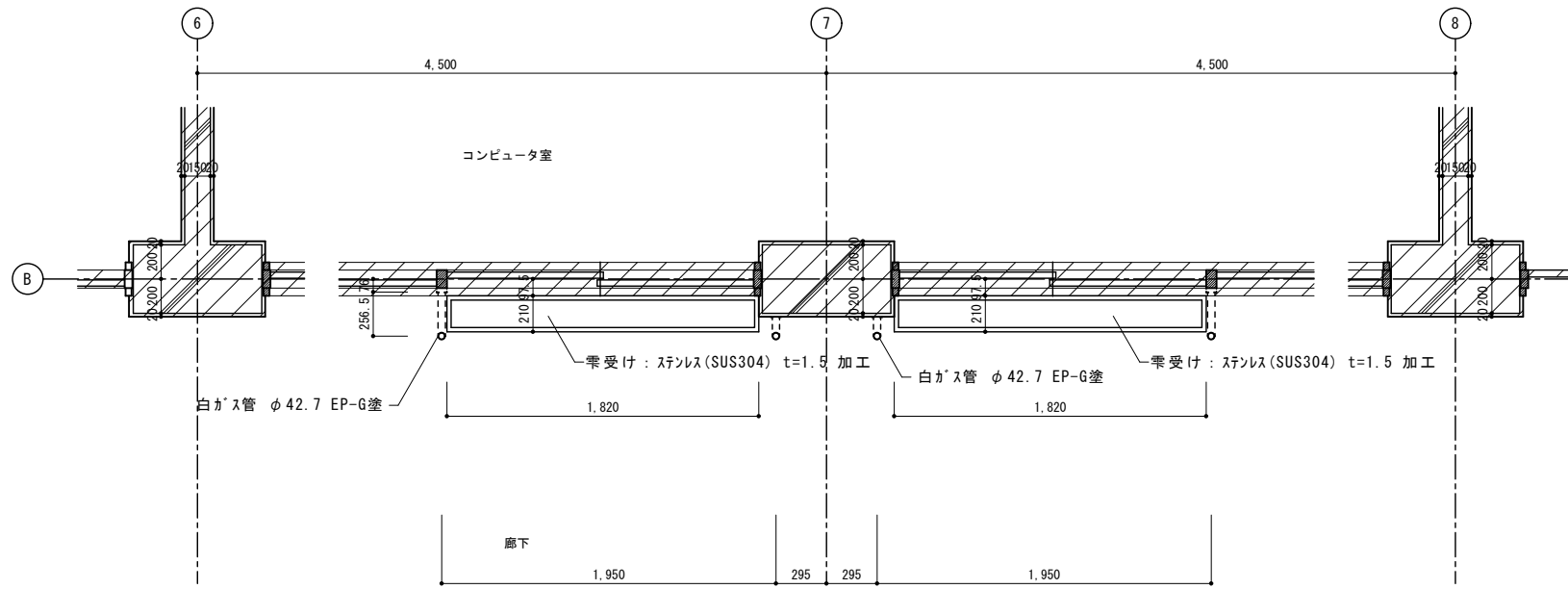
※特記なき既存撤去家具は下記による。(以後共通)

- 本体 木製無垢板 (ラワン材)
- 扉 合板フラッシュ t=30
- 棚板・可動棚 木製無垢板 (ラワン材)
- 裏板 合板 t=4.0
- 巾木 木製無垢材
- 台輪 同上

※特記なき新設家具は下記による。(以後共通)

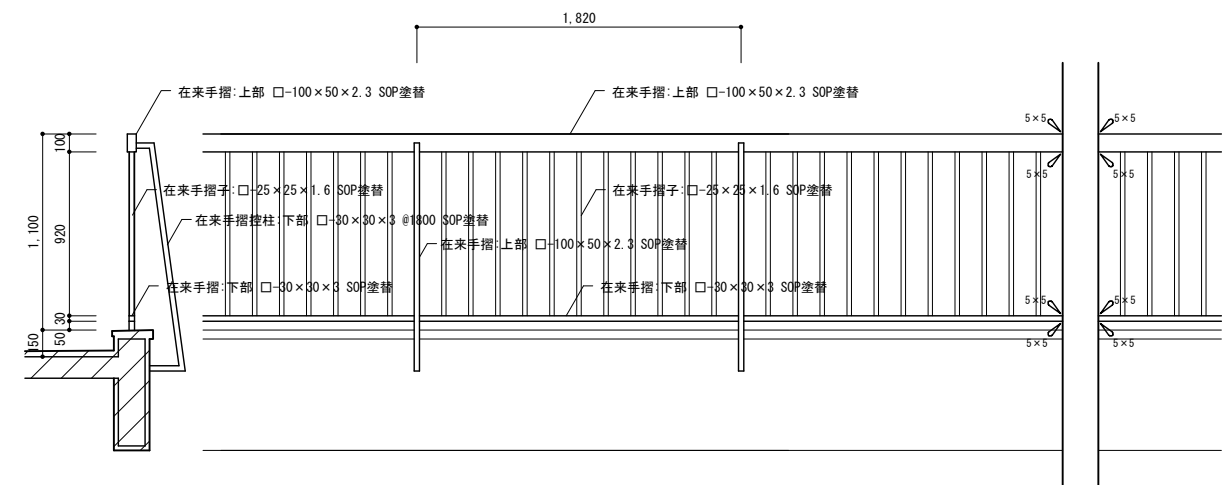
- 本体 両面ポリ化粧合板パーティクルボード (天板面メラミン化粧板 t=1.0)
- 木口 本体ソフトエッジ、その他メラミン化粧エッジ糸面取
- 扉 両面メラミン化粧パーティクルボード t=20
- 棚板・可動棚 メラミン化粧板 t=1.0・ポリ合板パーティクルボード
- 棚受けレール ステンレス製 (30mmピッチ)
- 裏板 ポリ化粧合板 t=4.0
- 巾木 メラミン化粧板貼り又は襖 EP-G塗
- 台輪 同上
- 金物 全てSUS製とする。
- ・製品は、施工図を提出し監督員の承認をうける。
- ・金物等はメーカーの仕様にする。
- ・転倒防止金物共

※無垢材及び積層合板類は見え掛り部全てNP塗りとする。  
積層合板の見掛り小口はラワン材 t=5.0小口張りをする。



凡例

	シーリング MS-2 10 × 7		耐震補強に係わる工事範囲を示す
	シーリング MS-2 15 × 10		工事範囲外を示す
	シーリング PU-2 15 × 10		
	シーリング MS-2 20 × 15		
	カッター目入れ		



ベランダ手摺に係わる欠損、腐食リスト 特記無きものは、下記に依る。

階	改修方法	数量
2階	欠損、腐食部手摺上部: □-100×50×2.3 L=300 部分を撤去、同材にて溶接し SOP塗	7ヶ所
	欠損、腐食部手摺下部: □-30×30×3 L=300 部分を撤去、同材にて溶接し SOP塗	10ヶ所
	欠損、腐食部手摺子: □-25×25×1.6 L=920 部分を撤去、同材にて溶接し SOP塗	7ヶ所
3階	欠損、腐食部手摺上部: □-100×50×2.3 L=300 部分を撤去、同材にて溶接し SOP塗	7ヶ所
	欠損、腐食部手摺下部: □-30×30×3 L=300 部分を撤去、同材にて溶接し SOP塗	8ヶ所
	欠損、腐食部手摺子: □-25×25×1.6 L=920 部分を撤去、同材にて溶接し SOP塗	5ヶ所

ベランダ手摺補修工事

- 外部足場を設置後、手摺欠損部、腐食部を調査・報告し、監督員の指示に従い補修計画書(施工計画図を含む)を作成し、承諾を受ける。
- 手摺欠損、腐食部はカッターにて撤去処分の上、新規同材を溶接の上塗装を施工。
- 在来手摺部分は下地処理の上、塗装の塗替え施工。
- 躯体との接触部分はシーリング MS-2 5×5 を打替え施工。

# 鉄骨ブレース接着工法特記仕様書

## 1. 一般事項

(1) 適用範囲  
・本工の鉄骨ブレース接着工法部分は、設計図及び本特記仕様書に基づくものとし、これらに記載なき場合は下記に示す準拠図書によるものとする。

## (2) 準拠図書

- 優先順位は次の通りとする。
  - 現場説明書及び質疑応答書
  - 本特記仕様書
  - 設計図
  - 日本建築防災協会 技術評価書 第2034号 「鉄骨ブレース接着工法 設計・施工指針」
  - 日本建築防災協会 「2001年改定版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針・同解説」
  - 建築工事標準仕様書 (JASS 5・6)
  - 建築改修工事共通仕様書
  - 建築工事共通仕様書

## (3) 施工計画

- 工事の着手に先立ち、下記の事項について充分検討し施工計画を作成して、監督職員に提出する。
  - 工程計画
  - 資材・機材の搬入および保管
  - 鉄骨の製作取付
  - 現場養生
  - 関連する別契約の工事との取り合い納まり等
  - 仮設計画

## 2. 材料仕様

### (1) 鋼材

- 本工法で用いる鋼材は、S S 4 0 0 ( J I S 規格品) とする。

### (2) 注入接着用エポキシ樹脂

- 注入接着用エポキシ樹脂は、製造ロット毎に下記の品質規格を満足することが確認された製品を使用する。
- 製造日から半年以内のものを使用する。
- 製造ロット毎の材料試験成績書を提出する。

#### 注入接着用エポキシ樹脂の品質規格 <標準仕様>

項目	単位	試験方法	規格値
圧縮降伏強度	N/mm <sup>2</sup>	JIS K 7208	60 以上
引張強度	N/mm <sup>2</sup>	JIS K 7113	20 以上
引張せん断接着強度	N/mm <sup>2</sup>	JIS K 6850	10 以上

### (3) シール用樹脂

- シール用樹脂は、製造ロット毎に下記の品質規格を満足することが確認された製品を使用する。
- シール用樹脂のパテ状エポキシ樹脂は、コンクリートと鉄骨枠の接着性を充分確保できるもので、間隙充填時に垂れ下がりのないものとする。
- 製造日から半年以内のものを使用する。
- 製造ロット毎の材料試験成績書を提出する。

#### パテ状エポキシ樹脂の品質規格

項目	単位	試験方法	規格値
圧縮降伏強度	N/mm <sup>2</sup>	JIS K 7208	60 以上
引張強度	N/mm <sup>2</sup>	JIS K 7113	20 以上
引張せん断接着強度	N/mm <sup>2</sup>	JIS K 6850	10 以上

### (4) 防錆塗料

- 鉄骨接着接合面の防錆塗料  
防錆塗料の種類は、下記を標準とし、接着性能が確認されている塗料を使用する。  
又、注入接着用エポキシ樹脂との適合性が確認されたものによる。

JIS K 5633 (長期暴露型エッチングプライマー2種)

JIS K 5551 (エポキシ樹脂塗料1種)

接着性能: JIS K 6850 (接着剤の引張せん断接着強さ試験方法) による引張せん断接着強さが10N/mm<sup>2</sup>以上で、材令によって低下しないこと。

### ・鉄骨接着接合面以外の防錆塗料

防錆塗料の種類・工法は構造特記又は詳細図による。

### (5) 既存躯体コンクリートの断面補修材

- 既存躯体コンクリートの断面補修材 (ポリマーセメントモルタルまたはエポキシ樹脂モルタル) は充分な接着強度と既存コンクリートと同等以上の圧縮強度を有する材料とする。
- 断面補修材は製造ロット毎に下記の品質規格を満足することが確認された製品を使用する。  
断面補修材の品質規格 (Fc:コンクリートの耐震診断時採用強度)

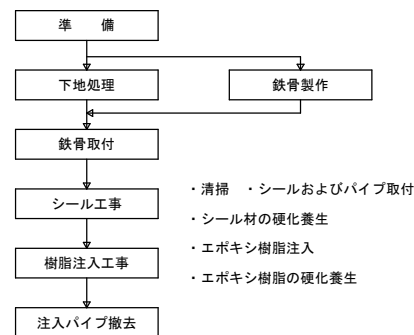
項目	単位	試験方法	規格値
圧縮強度	N/mm <sup>2</sup>	JIS A 1108に準拠	Fc以上
		JIS A 1172 ( JIS R 5201 )	1.2Fc以上
コンクリートとの接着強さ	N/mm <sup>2</sup>	JIS A 6203 又は JIS A 6909 に準拠 (建研式付着強さ試験)	0.38√Fc 以上

### (6) その他の材料

- 既存躯体コンクリートのひび割れ補修を行う場合のひび割れ注入材は、ひび割れの深部まで浸透し、コンクリートを一体化するために充分な接着強度を有し、ひび割れから供給される水を遮断する性能を持つ材料を使用する。

## 3. 施工

### (1) 施工手順



### (2) 準備

- 表面仕上げ材を撤去し、構造体コンクリートを露出させる。
- 鉄骨ブレースが取り合う、既存躯体に有害なひび割れ・欠損・脆弱部、その他の損傷がある場合は監督職員と協議し、適宜補修を行う。
- コンクリートの欠損部は、2. (5) のポリマーセメントモルタルなどで補修する。  
(注意) このときにポリマーセメントモルタルで下地調整を行う部分の欠損補修には、エポキシ樹脂モルタルを使用してはならない。
- 既存躯体の寸法を記録し、鉄骨製作に反映させる。

### (3) 下地処理

- コンクリート表面の突起や段差部などは、ディスクサンダーなどで除去し、平坦にする。
- コンクリート表面の風化層、レイタンス、汚れ、油分、型枠剥離材などは、ディスクサンダーや高圧水洗浄などを用いて除去し、清浄な面にする。
- 表面研磨時に生じた埃などは、エアブロー、吸引器、ウェスなどで除去する。
- 下地の状態や使用する断面補修材によって適宜水打ち、吸水調整材、プライマーを用いる。
- 既存躯体は、鉄骨の取付に支障のないように不陸修正を2. (5) のポリマーセメントモルで行う。
- ドライアウト防止として、ポリマーセメントモルタルにて不陸修正直後に、養生シートを用いる24時間以上養生を行う。  
ただし、監督員が必要でないと思えた材料についてはこの限りではない。
- 躯体面や不陸修正材の表面の乾燥状態は8%以下を目安とし最大10%以下とする。

### (4) 鉄骨製作

- 既存躯体の調査寸法を考慮してクリアランスが所定の寸法となるように鉄骨枠寸法を決定し、工作図及び原寸図を作成し、承認を受ける。(6. 標準詳細図参照)
- 鉄骨枠の接着接合面は、プラスト処理以上とし、プラスト後、錆を発生させないようにし、2. (4) に指定された防錆塗料を塗布する。
- 一般部の錆止め塗装及び、下地処理は別途鉄骨ブレース特記による。

### (5) 鉄骨取付

- 取付に必要なレベル墨および出入り墨を出す。
- 鉄骨枠部材は、チェーンブロックなどにより所定の位置に取り付ける。
- 鉄骨ブレースの面外方向に対する倒れ止めを適宜設ける。施工中においても外力等で転倒の危険性が無いように処置を施す。

### (6) シールおよび注入パイプの取付

- 計量容器や混合用具類は、乾燥して清浄であること。
- パテ状エポキシ樹脂の一回の混合量は、シール長さ等を考慮して可使時間以内に使用できる量とする。
- 可使時間を過ぎたパテ状エポキシ樹脂は、使用してはならない。
- 既存コンクリートと鉄骨枠部材の間にエポキシ樹脂の流出防止用シールを行う。
- エポキシ樹脂の注入パイプと空気抜きパイプを、エアだまりができないように配置しシール材で300~800mmピッチで取り付ける。
- 施工は原則として、5℃以上の環境で行う。5℃以下で施工する場合は、適切な保温対策を行う。
- 外壁に面する場所での補強は、雨天の場合施工を中止するか、雨水の掛からない対策を行う。
- 硬化養生の時間は、施工後24時間以上を目途とし、指触確認を行う。

### (7) 接着用エポキシ樹脂の注入

- 計量容器や混合用具類は、乾燥して清浄であること。
- 接着用エポキシ樹脂の一回の混合量は、注入作業等を考慮して可使時間以内に使用できる量とする。
- 可使時間を過ぎた接着用エポキシ樹脂は、使用してはならない。
- 混合したエポキシ樹脂を注入器に入れ、最下部の注入パイプから徐々に加圧しながら連続して注入する。
- この注入作業を順次繰り返して、すべての注入作業を終了する。空隙が出来た場合は再注入する。
- ホマンマーなどで鉄骨枠を軽く打診して、エポキシ樹脂の未注入部がないことを確認する。
- 施工は原則として、5℃以上の環境で行う。5℃以下で施工する場合は、適切な保温対策を行う。
- 外壁に面する場所での注入は、雨天の場合、施工を中止するか、雨水の掛からない対策を行う。
- 硬化養生の時間は、施工後24時間以上とする。

### (8) 注入パイプ撤去

- エポキシ樹脂の硬化後、鉄骨枠を打診して未注入部が無いことを確認して、パイプ等を除去する。

### (9) 注意事項

- 原則、仕上げ用のファスナー等は溶接が鉄骨ブレース接着面に悪影響を与えるので工場にて取り付ける。

## 4. 品質検査

- 使用する材料の品質検査は、製造所の試験成績書を提出する。
- 使用した材料の品質検査は、下記による。

材料	主な検査方法	判定	試験回数	
ポリマーセメントモルタル	圧縮強度	JIS A 1108	26N/mm <sup>2</sup> 以上	工事期間中1回以上
注入接着用樹脂	圧縮強度	JIS K 7208	60N/mm <sup>2</sup> 以上	工事期間中1回以上 かつ製造ロット毎

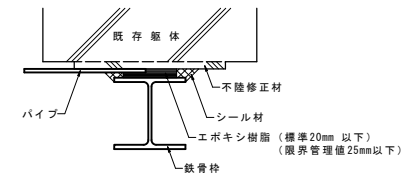
## 5. 施工記録

- 下記の事項について施工記録を作成し、監督職員に提出する。

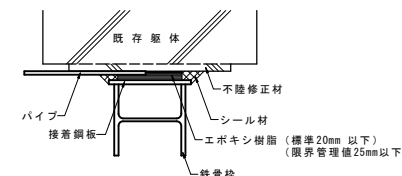
品質検査記録  
工事記録写真

## 6. 標準詳細図

- 接着接合部取付詳細図  
<鉄骨枠材強軸方向>



### <鉄骨枠材弱軸方向>



- 鉄骨を取り付けた後、隙間が大きくなったことが判明した場合には、監督職員と協議し、承認を得たうえで以下のような処置を施してもよい。

- 隙間に玉砂利等を詰め込み、その後シールしてエポキシ樹脂を注入する。

## 7. 鉄骨工事

- 鉄骨製作工場 : 建築基準法第77条の4第5項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた株式会社日本鉄骨評価センター又は(社)全国鉄構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「Rグレード」として国土交通大臣から認可を受けた工場又は同等以上の能力のある工場
- 工作図 : 鉄骨現寸検査に先立ち、現地実測寸法に基づいた鉄骨工作図を作成し、監督職員の承認を得る。
- 錆止め塗料 : 塗料種別「B種」を使用し、工場1回塗り、現場1回塗りを原則とする。ただしモルタル接触面は、塗装しない。
- 第三者試験 : 完全溶込み溶接部は、第三者試験にて、全箇所超音波探傷試験を行う。なお、超音波探傷試験における技能資格者は共に併用する。
- 溶接接合 : 建設大臣官房官庁営繕部監修「鉄骨設計基準及び同解説」(平成10年度版)による。

新潟市建築設計協同組合

担当設計事務所 酒井建築事務所  
管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一  
担当設計事務所管理建築士 一級建築士登録 第103858号 酒井秀晴

新潟市建築部公共建築第2課

工事名

太田小学校校舎 耐震補強工事

図名

鉄骨ブレース接着工法特記仕様書

年月日 2011.3 縮尺 - 図面番号 S-1

# 一般事項

## 1. 一般事項

- 本標準図は、鉄筋コンクリート造による耐震補強の壁増設・軸壁増設及び既存壁の増し打ち等に適用する。
- 設計図書は優先順位  
設計図 > 本標準図 > 公共建築改修工事標準仕様書（平成22年版）
- 上記設計図書類に記載なき事項は、監督員と協議する。
- 本標準図中、特に単位なき寸法は、mmを示す。
- 本標準図の「標仕」とは、公共建築工事標準仕様書（平成22年版）を示す。

## 2. 工事計画

本工事は、既存の構造体に鉄筋コンクリート造の耐震壁増設・軸壁増設及び既存壁に増し打ちをすることで建物の耐震性の向上及び改善を図るものであり、既存鉄筋コンクリート躯体との接合が極めて重要である。  
また本工事は、特定された場所での工事で、一般の建築工事とは施工方法等が異なる所があるので、下記の内容に特に注意して施工する。

- 既存建物のスパン・階高及び躯体寸法等は、現地実測による。
- 現地実測寸法に基づいた躯体図を作成し、監督員の承諾を得る。
- 施工に先立ち、工事工程表及び全工事の施工計画書を作成し、監督員の承諾を得る。
- 工事中の騒音・粉塵及び落下物の危険防止を考慮した施工を行う。
- 既存鉄筋コンクリート躯体と補強壁との一体化を図るよう、入念に施工する。
- 設備用埋設管等の有無を事前に調査し、支障のないよう施工する。

## 3. 使用材料

- 普通コンクリート : 設計基準強度  $F_c = 27 \text{ N/mm}^2$  膨張剤入り 調合強度は「標仕」による  
: スランプ 18cm以下
- 水セメント比 65%以下
- 単位セメント量  $300 \text{ kg/m}^3$  以上（膨張材含む）とする
- 膨張材は JIS A 6202 により、使用量は製造所の仕様による
- 鉄筋 : 壁筋等 D16以下 … SD295A (JIS規格品)  
: 筋筋等 D19以上 … SD345 (JIS規格品)
- スパイラル筋 : 割裂防止筋  
: JIS G 3532 に規格される普通鉄線または SR235 (JIS規格品)
- 無収縮モルタル : 設計基準強度  $F = 30 \text{ N/mm}^2$  以上  
: コンシステンシー  $J_{14}$  ロート 8 ± 2 (秒)
- あと施工アンカー : 接着系アンカー カプセル型 有機系  
: 回転・打撃式  
: アンカー筋 D16以下 … SD295A (JIS規格品)  
: D19以上 … SD345 (JIS規格品)
- その他の材料 : 上記以外の材料でも、特別な調査・研究成果を示すことにより、監督員の承諾を得て使用することができる。

## 4. 材料試験

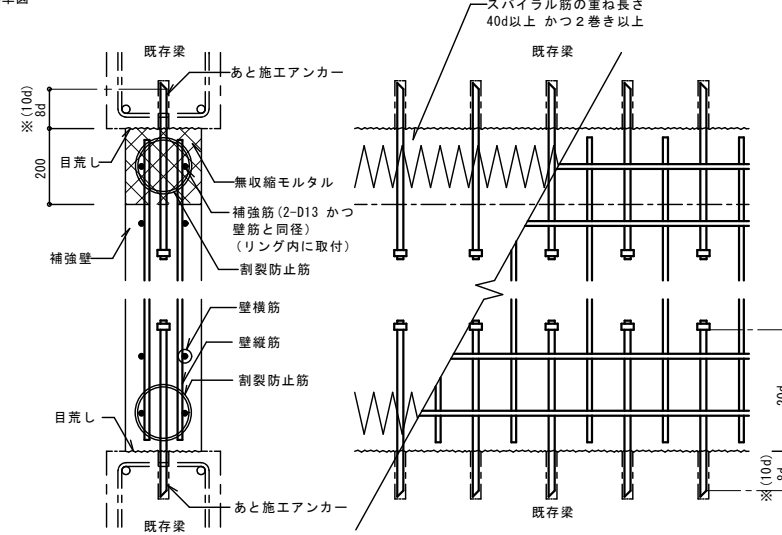
下記の材料は、「標仕」に従い材料試験を行う。

- 普通コンクリート : 圧縮強度試験 [各打設日毎 6本(1週:3本 4週:3本)]
- 無収縮モルタル : 圧縮強度試験 [各打設日毎 3本(4週)]

- 注:
- 圧縮強度試験は、公的機関で行う。
  - 無収縮モルタルの圧縮強度試験のための供試体は、JIS A 1132 (コンクリートの強度試験用供試体の作り方) に準じて、直径50mm、高さ100mmの円柱とする。圧縮試験は、JIS A 1108 (圧縮強度試験方法) により行う。
  - 無収縮モルタルの供試体の養生は封かん養生とする。
  - コンシステンシー試験は、日本道路公団「無収縮モルタル基準」に示されているコンシステンシー試験による。試験はロート法としロートは、 $J_{14}$  ロートとする。

# 鉄筋コンクリート造補強壁標準図

## 1. 施工標準図



## 2. 仕上げ材の撤去及びコンクリートのはつり

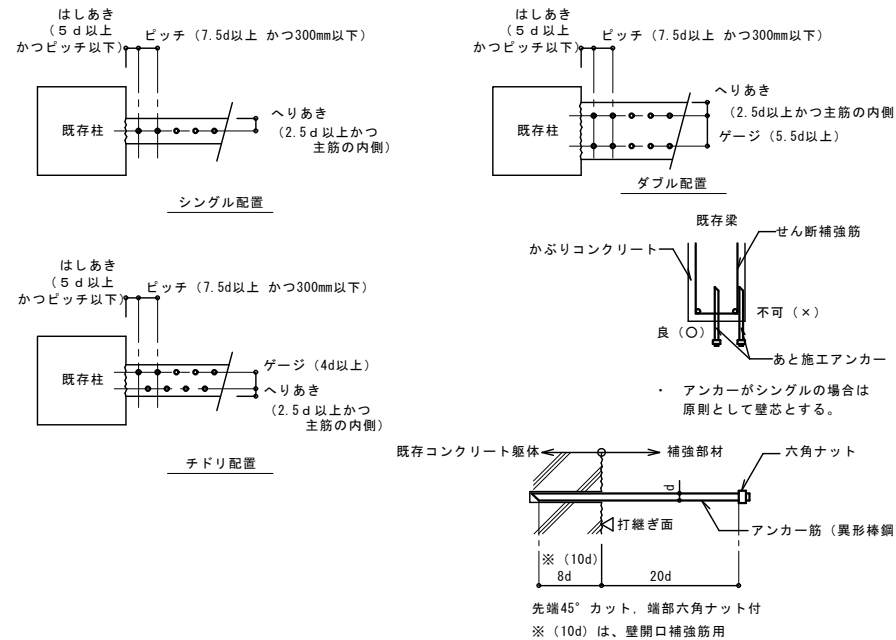
- 補強壁の増設に先立ち、既存柱・梁及び床の打継ぎ面より仕上げ材を完全に撤去する。
- 既存のコンクリート壁等をはつる場合は、出来る限り既存の鉄筋を打継ぎ面より40d以上残す。
- 既存鉄筋コンクリート躯体の打継ぎ面は目荒しを行う。この場合の目荒しとは、電気ピックなどを用いて平均深さ約5mm（最大で10~15mm）程度の凹凸を、打継ぎ面の3/4~全面にわたって付けることである。
- 打継ぎ面の目荒しは、既存のコンクリート部分に亀裂等を与えないように行う。
- 目荒しした打継ぎ面は水洗いし、はつり粉末を完全に除去する。
- 撤去材及びはつり屑等は、速やかに場外へ搬出し、作業環境を整備した上でつぎの工程にかかる。

## 3. あと施工アンカー

- あと施工アンカーの施工は、技量及び経験の証明となる資料を監督員に提出し、承諾を受ける。
- 穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査機等により確認し、既存部の損傷を極力避ける。
- あと施工アンカー設置に際し、穿孔の位置・深さ・径及び重直を確認し、アンカー埋込み前に穿孔内の切粉等を除去する。
- 穿孔に失敗した場合は、アンカー芯よりも内側に再度穿孔する。なお、失敗孔の処理は、躯体と同等以上の強度の無収縮モルタルで補修する。
- 現場施工されたあと施工アンカーは、全数の打音検査により、その固着度を確認し、監督員に報告する。
- 現場施工されたあと施工アンカーは、下表の試験本数以上かつ、1日に施工されたものの各径ごとを1ロットとし、この中から3本について設計用引抜き耐力の約2/3の引張力（下表で指定）で非破壊引張試験を行い、固着力を確認する。もし検査本数のうちの1本でも異状が認められる場合は、当該壁面の全数の再試験を行い、その結果を監督員に報告し、以後の処理について監督員の指示を受ける。  
試験方法は、(社)日本建築あと施工アンカー協会の非破壊引張試験（レンチ加力式）による。

あと施工アンカー径	D19 (W200 開口補強部)	D19 (W200 上部、柱部 セン断アナー)	D19 (W200 下部 セン断アナー)	D16 (PH階梁部 セン断アナー)	D16 (PH階梁部 セン断アナー)
非破壊引張試験 指定引張力 (KN/本)	58 kN/本	58 kN/本	50 kN/本	37 kN/本	32 kN/本
試験本数	4 本	4 本	2 本	1 本	1 本

- あと施工アンカーの埋込み長さは8d以上とする。ただし、壁開口補強筋用は10d以上とする。また、あと施工アンカーの定着は20d以上（六角ナット付き）とし、六角ナット取付けのためのネジ切りは先端より50mm以下とする。
- あと施工アンカーの位置は特記による。特記なき場合は、下図を参照する。

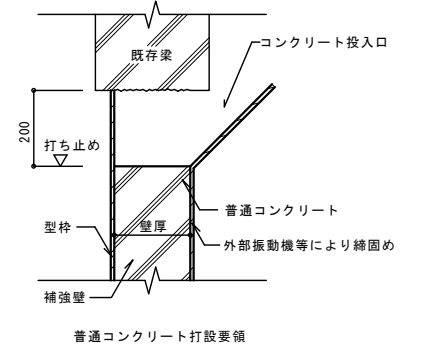


## 4. 鉄筋及び型枠

- 鉄筋（スパイラル筋含む）及び型枠は現地実測に基づいた躯体寸法で施工する。
- 型枠は、コンクリート側圧・打設方法・セパレーターの取付け方法を考慮して設計する。
- 型枠は、コンクリート打設及び無収縮モルタル圧入時の圧力で破損・変形のない堅固な構造とし、打ち上がりコンクリート部材の位置及び断面寸法の精度が保たれるよう組立てる。
- 既存部分と型枠の取合い部は、モルタル等の漏出が生じないよう適切な処置を講ずる。
- 型枠は、できるだけ型枠振動機が使用しやすいよう組立てる。

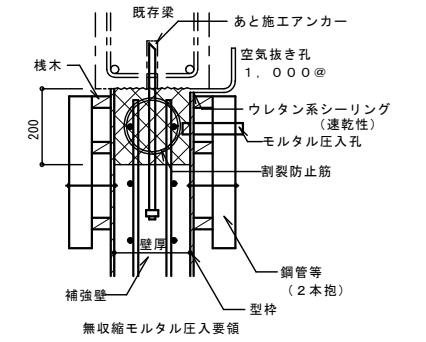
## 5. コンクリート打設

- 既存鉄筋コンクリートの打継ぎ面及び型枠はよく吸水するので、打込み直前まで水湿しが必要である。型枠工事の開始前から、打込みまで数回の水湿しを行う。ただし、水膜ができるほど濡れてはならない。
- コンクリートの打設にはパイプレーターの使用、またはタタキにより密実なコンクリートとなるように十分な施工計画を立てる。
- コンクリートの強度発現期間中は十分な湿度状態（散水等）で養生する。また、養生期間中は振動等を与えないようにする。
- コンクリート打込み後5日間はコンクリートの養生期間とし、無収縮モルタル圧入のための作業は行わない。（ただし、夏期工事に限る。）
- 本工事は、上部200mmを無収縮モルタル圧入により充填する方法を原則とする。その他の方法を採用する場合は、監督員と十分協議し、決定する。

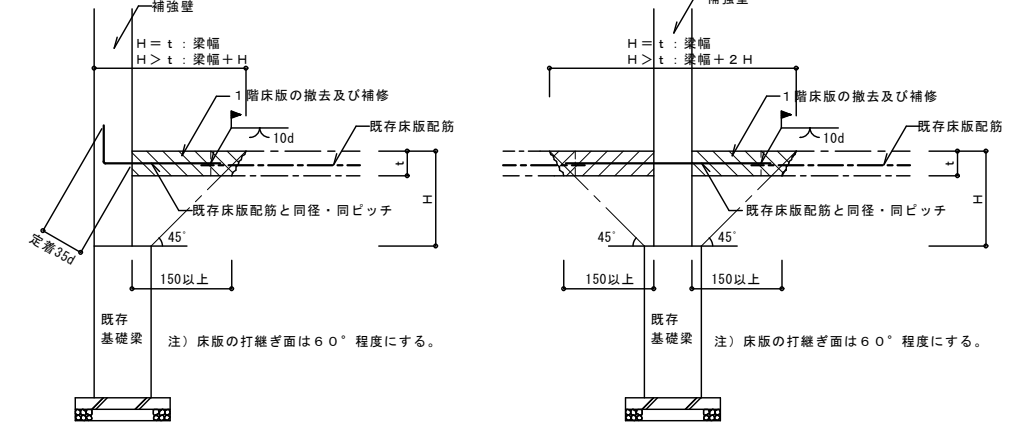


## 6. 無収縮モルタル圧入

- コンクリート打設は2段打ちとし、2段目は無収縮モルタルをグラウトポンプ等により圧入する。無収縮モルタル圧入に先立ち1段目打設上端は、レイタンス等が残らないように十分にケレン・清掃を行う。
- 既存鉄筋コンクリートの打継ぎ面及び型枠は十分に吸水した状態にする。
- 無収縮モルタル圧入は、適切な圧力で中断しないように行う。
- 無収縮モルタルの圧入は、モルタルが全ての空気抜き孔1,000@から出てくる事により確認する。
- 無収縮モルタルの強度発現期間中は十分な湿度状態で養生する。また養生期間中は振動等を与えないように注意する。

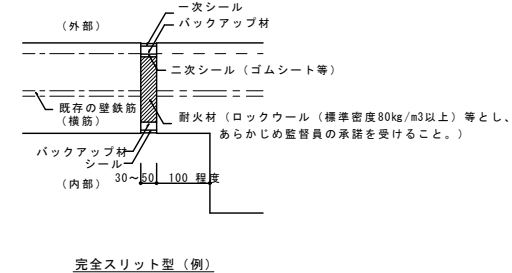


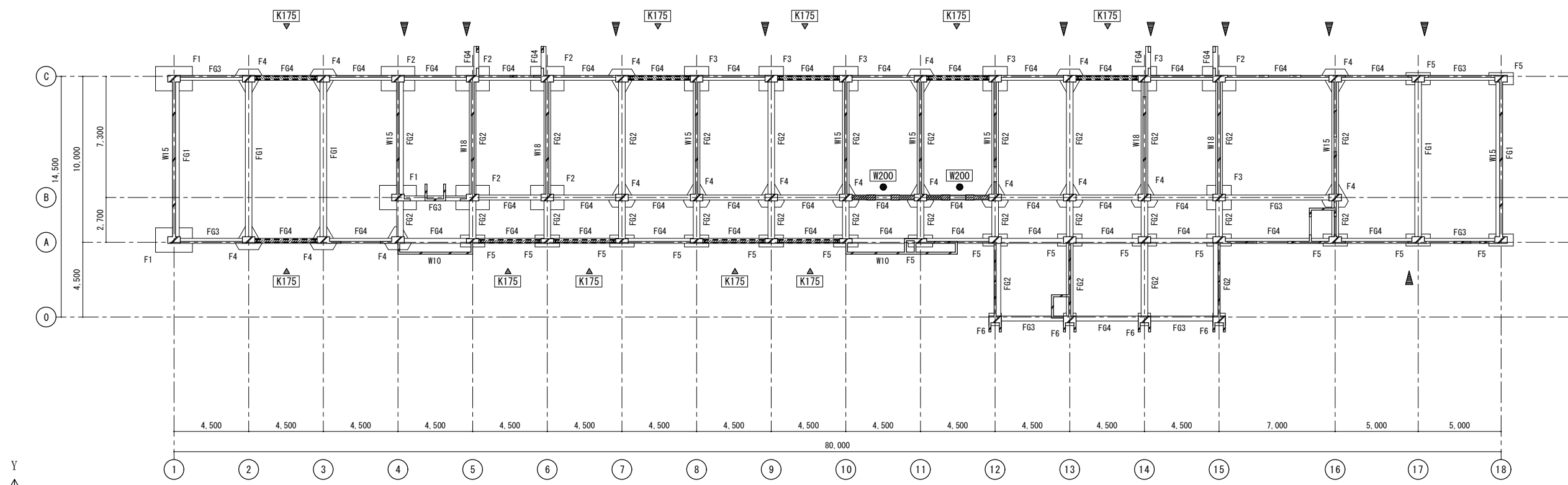
## 7. 1階床版補修標準図



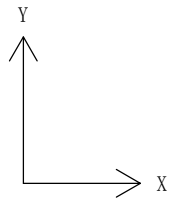
## 8. 耐震スリット工事

- 施工内容 : 短柱の靱性の向上を目的として、腰壁・垂壁等に耐震スリットを新設する。
- 耐震スリット形状 : 巾は、30mm~50mm程度の完全スリット型（鉄筋切断）とする。
- 耐震スリットは、外部から施工することを原則とする。
- 腰壁や垂壁と柱の切り抜き作業は、カッターやはつりにより行う。
- はつりに際しては、他の部分にひび割れを起さないよう慎重に行う。
- 余分にはつた部分は、無収縮モルタル（ $F = 30 \text{ N/mm}^2$ 以上）にて補修を行う。
- 状況により上記に沿えない場合には、監督員と協議する。





基礎伏図 S=1:200 (1階柱、壁 基礎梁)



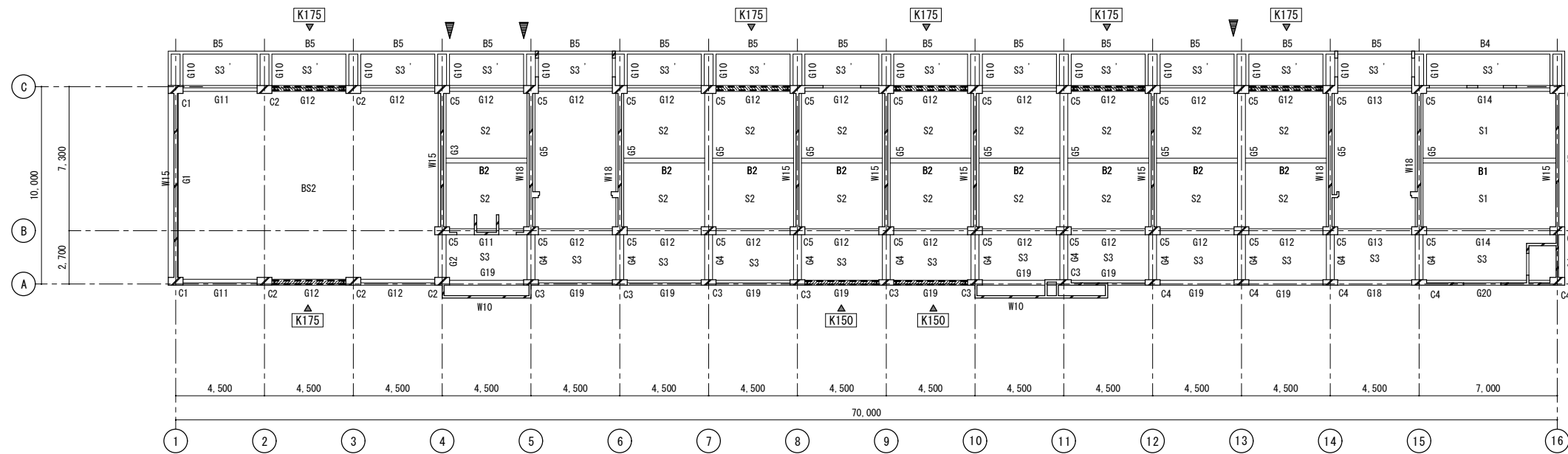
- 凡例
- ▲ K175 : 耐震ﾌﾟﾚｰｽ H-175x175x7.5x11
  - ▲ K150 : 耐震ﾌﾟﾚｰｽ H-150x150x7x10
  - W200 : 増設RC壁 厚さ 200
  - ▼ : 耐震ｽﾘｯﾄ(完全ｽﾘｯﾄ)

新潟市建築設計協同組合  
 担当設計事務所 酒井建築事務所  
 管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一  
 担当設計事務所管理建築士 一級建築士登録 第103858号 酒井秀晴

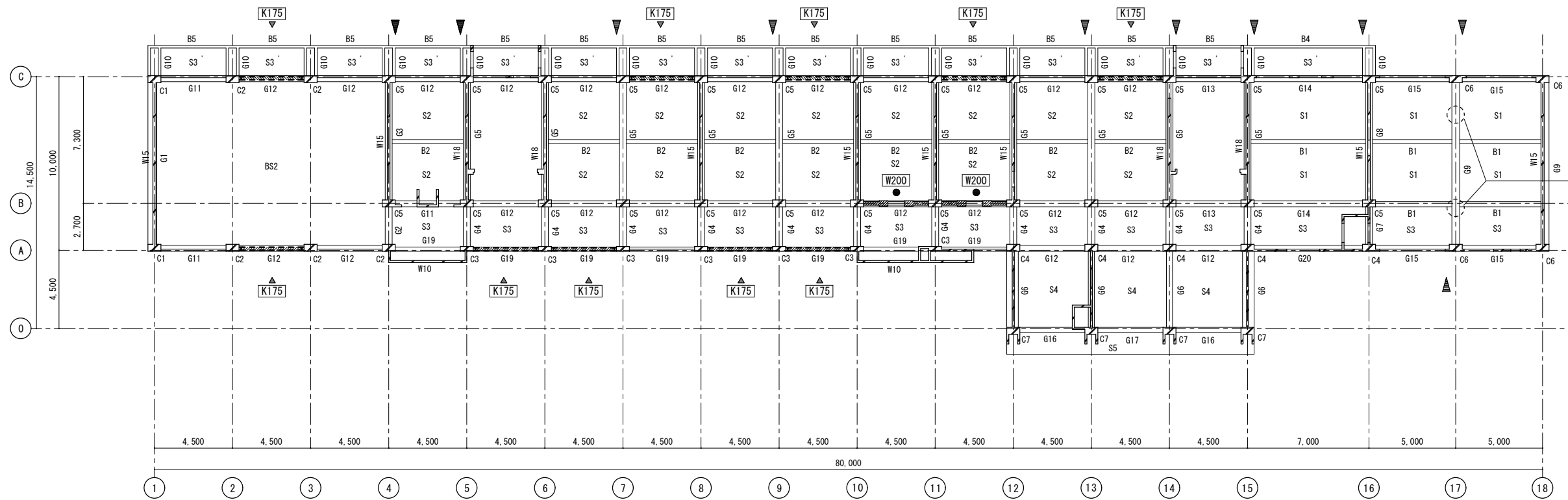
新潟市建築部公共建築第2課

工事名  
 太田小学校校舎 耐震補強工事

図名  
 基礎伏図  
 年月日 2011.3 縮尺 1/200 図面番号 S-3

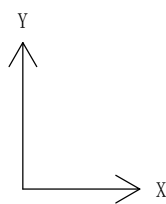


3階 梁伏図 S=1:250 (2階柱、壁 3階梁)



梁下ひび割れ補修  
※エポキシ樹脂注入  
ひび幅 1.0~1.2mm

2階 梁伏図 S=1:250 (1階柱、壁 2階梁)



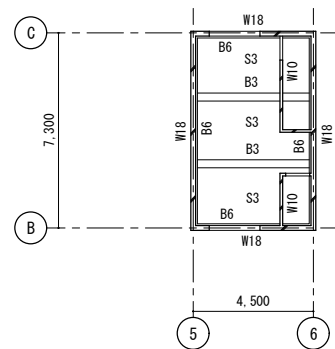
- 凡例
- ▲ K175 : 耐震ブレース H-175x175x7.5x11
  - ▲ K150 : 耐震ブレース H-150x150x7x10
  - W200 : 増設RC壁 厚さ 200
  - ▼ : 耐震スリット(完全スリット)

新潟市建築設計協同組合  
 担当設計事務所 酒井建築事務所  
 管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一  
 担当設計事務所管理建築士 一級建築士登録 第103858号 酒井秀晴

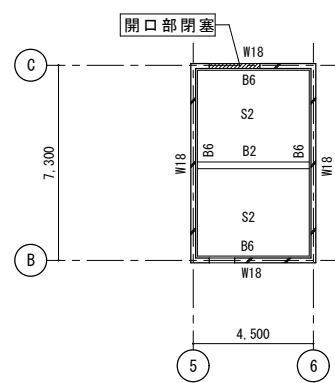
新潟市建築部公共建築第2課

工事名  
太田小学校校舎 耐震補強工事

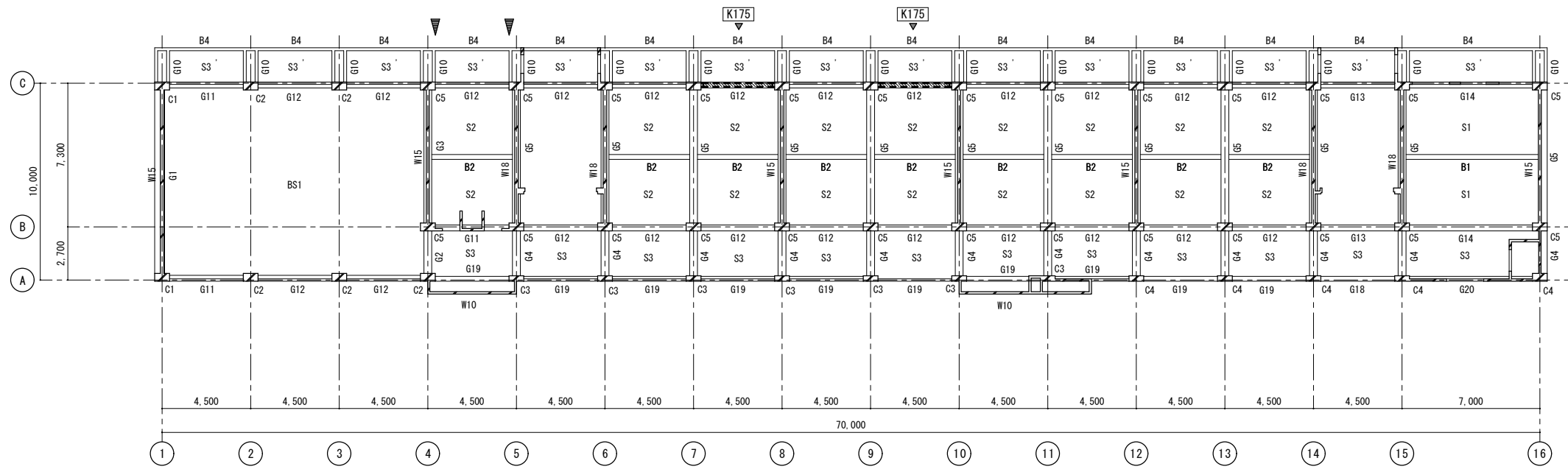
図名  
2.3階梁伏図  
 年月日 2011.3 縮尺 1/200 図面番号 S-4



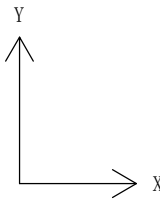
PH2階梁伏図 S=1:250 (PH2階柱、壁 PHR階梁)



PH1階梁伏図 S=1:250 (PH1階柱、壁 PH2階梁)

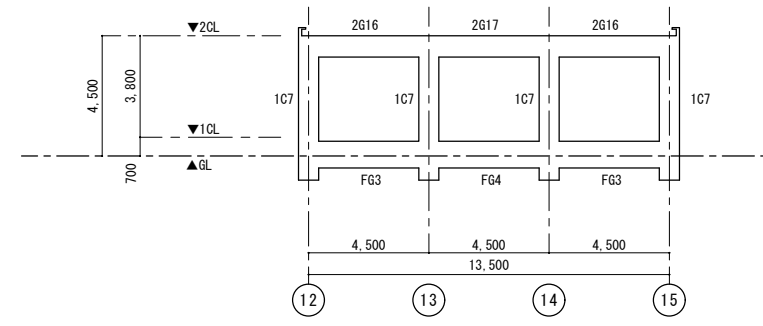


R階梁伏図 S=1:250 (3階柱、壁 R階梁)

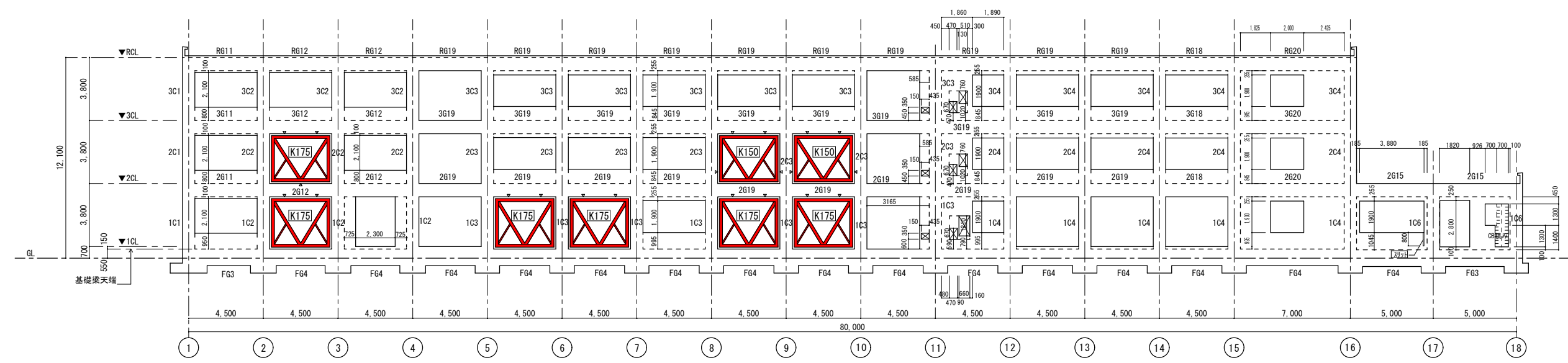


- 凡例
- ▲ K175 : 耐震ブレース H-175x175x7.5x11
  - ▲ K150 : 耐震ブレース H-150x150x7x10
  - W200 : 増設RC壁 厚さ 200
  - ▼ : 耐震スリット(完全スリット)





0通り 軸組図 S=1:250



A通り 軸組図 S=1:200

記入なき壁符号は W12 とする

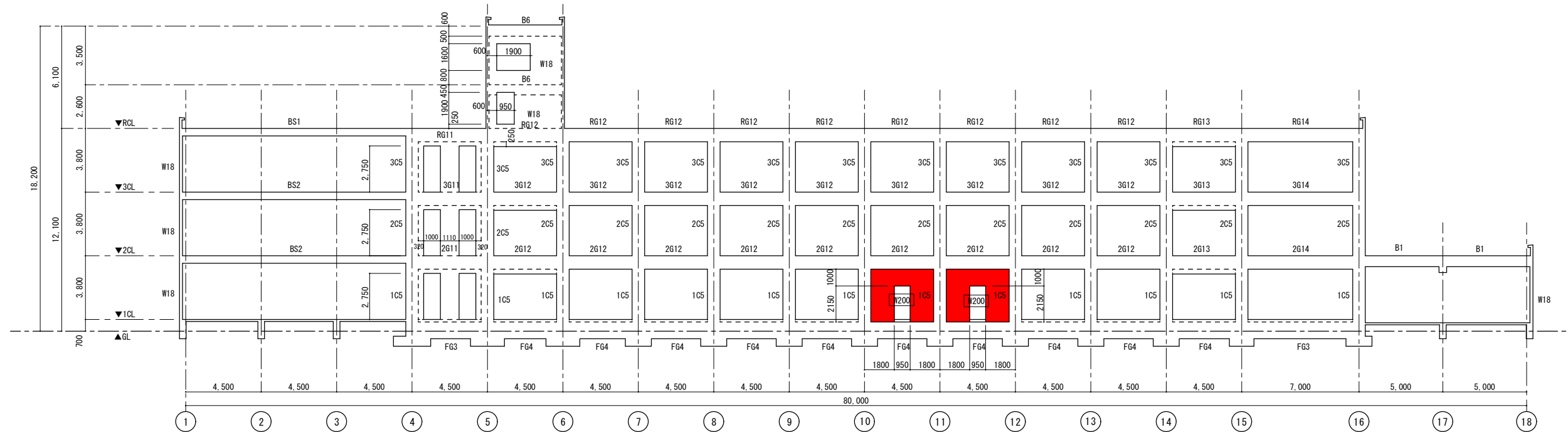
- 凡例
- K175 : 耐震ブレース H-175x175x7.5x11
  - K150 : 耐震ブレース H-150x150x7x10
  - W200 : 増設RC壁 厚さ 200
  - スリット : 耐震スリット(完全スリット)
  - ▼ : 鉄骨ブレース転倒防止金物の位置を示す。

新潟市建築設計協同組合  
 担当設計事務所 酒井建築事務所  
 管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一  
 担当設計事務所管理建築士 一級建築士登録 第103858号 酒井秀晴

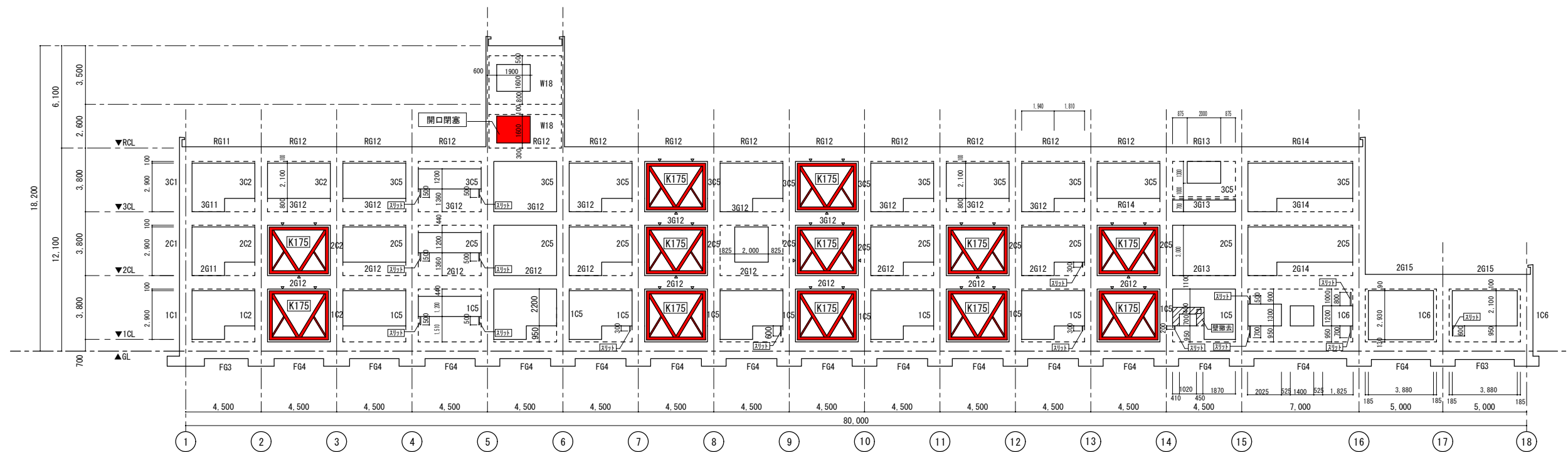
新潟市建築部公共建築第2課

工事名  
 太田小学校校舎 耐震補強工事

図名  
 軸組図 1  
 年月日 2011.3 縮尺 1/200 図面番号 S-6

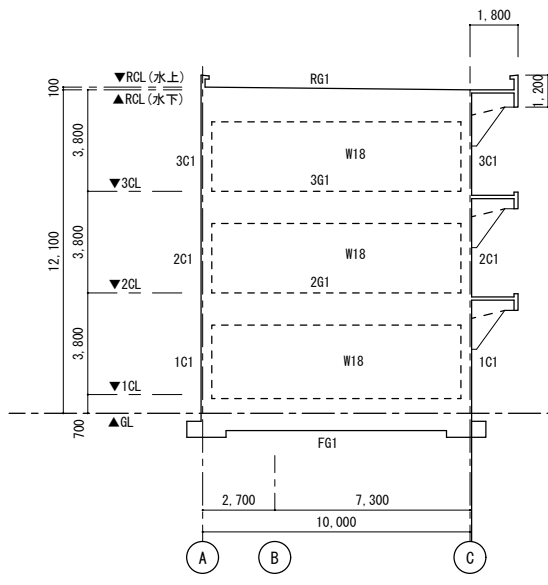


B通り 軸組図 S=1:250 記入なき壁番号は W12 とする

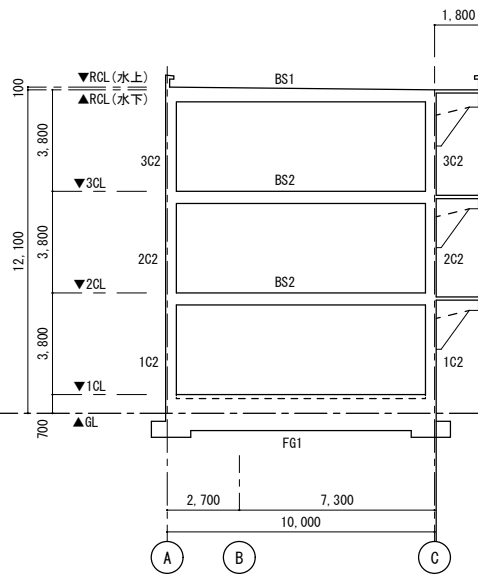


C通り 軸組図 S=1:250 記入なき壁番号は W12 とする

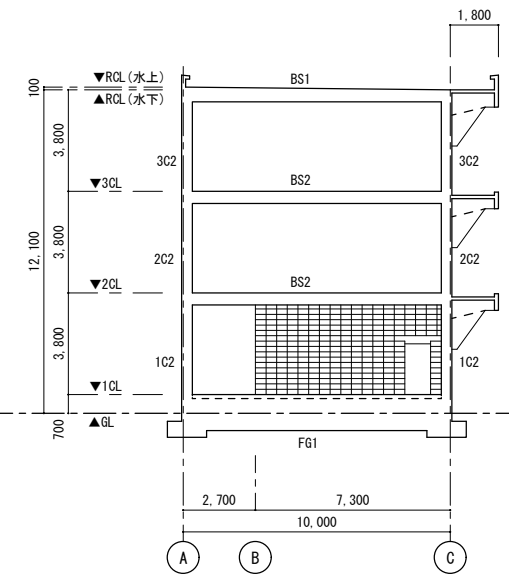
- 凡例
- K175 : 耐震ブレース H-175x175x7.5x11
  - K150 : 耐震ブレース H-150x150x7x10
  - W200 : 増設RC壁 厚さ 200
  - スリット : 耐震スリット(完全スリット)
  - ▼ : 鉄骨ブレース転倒防止金物の位置を示す。



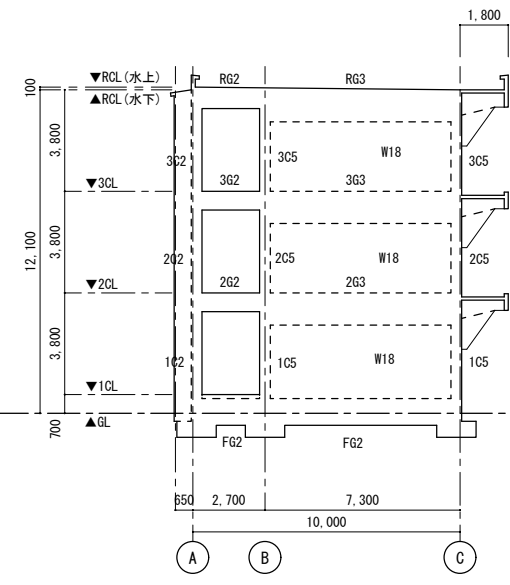
1通り 軸組図 S=1:250



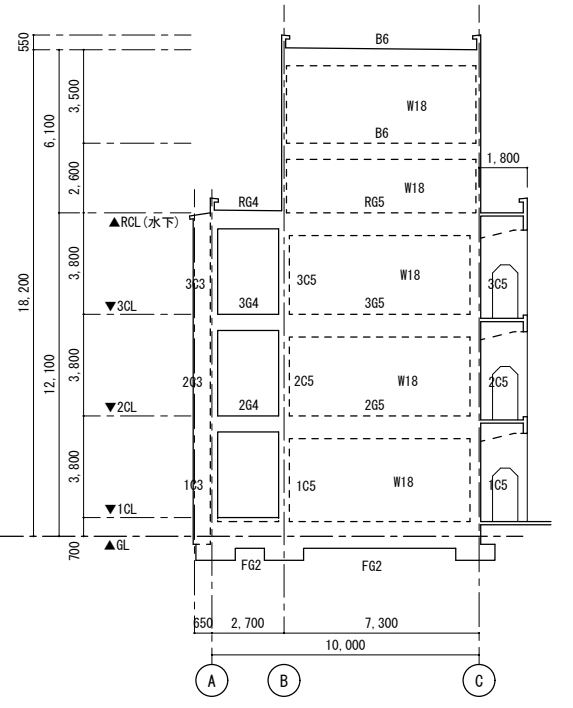
2通り 軸組図 S=1:250



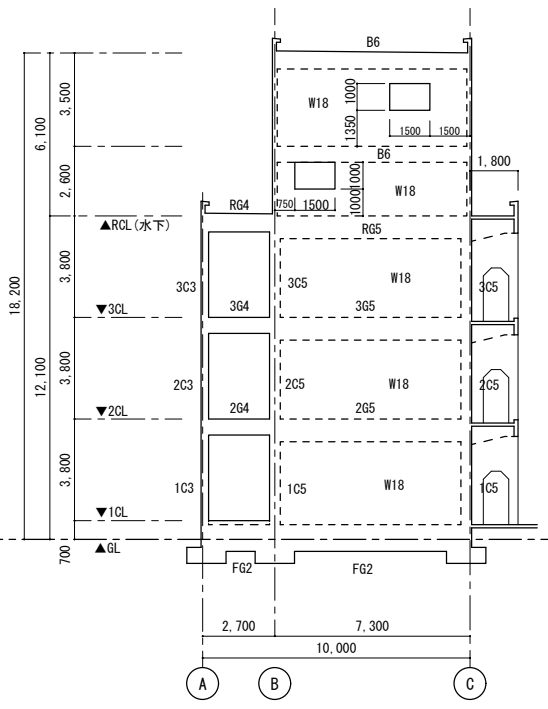
3通り 軸組図 S=1:250



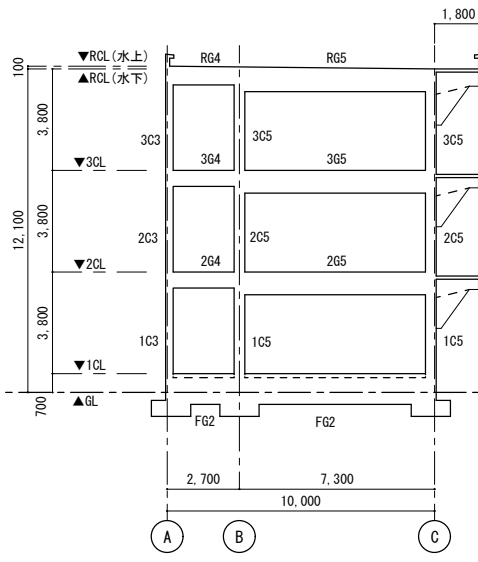
4通り 軸組図 S=1:250



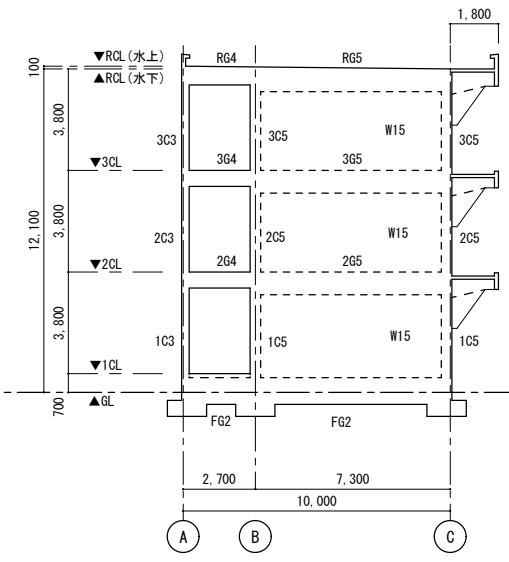
5通り 軸組図 S=1:250



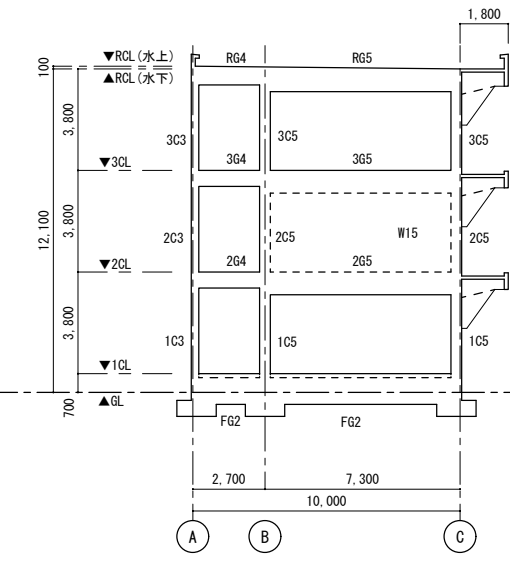
6通り 軸組図 S=1:250



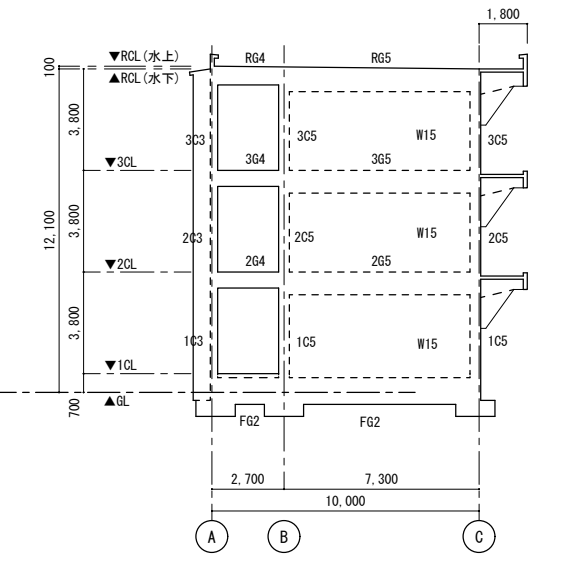
7通り 軸組図 S=1:250



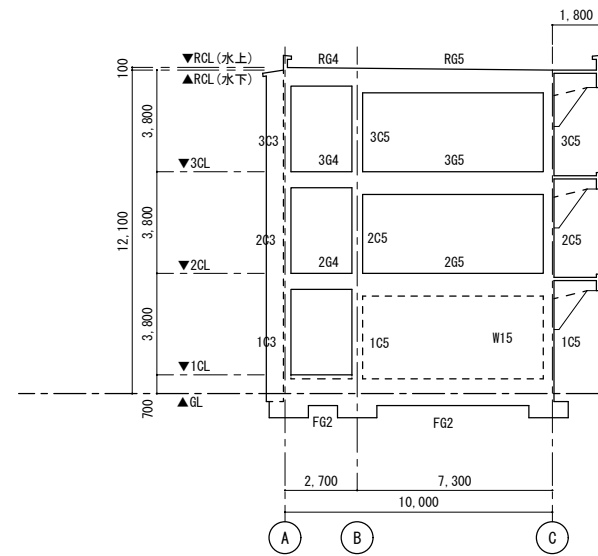
8通り 軸組図 S=1:250



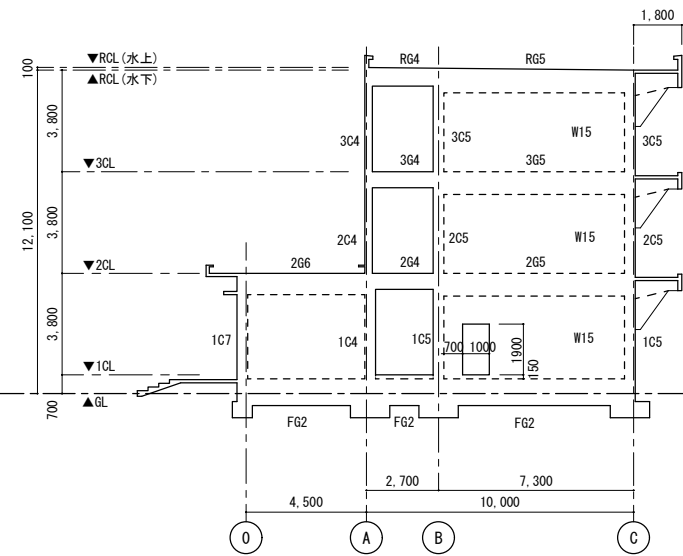
9通り 軸組図 S=1:250



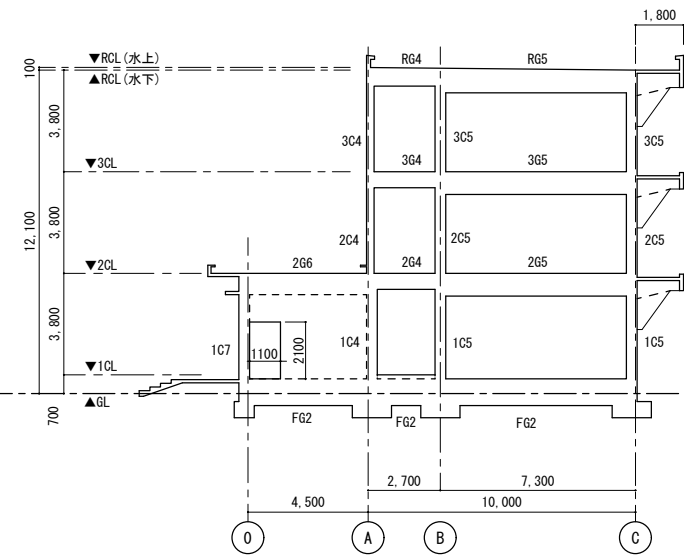
10通り 軸組図 S=1:250



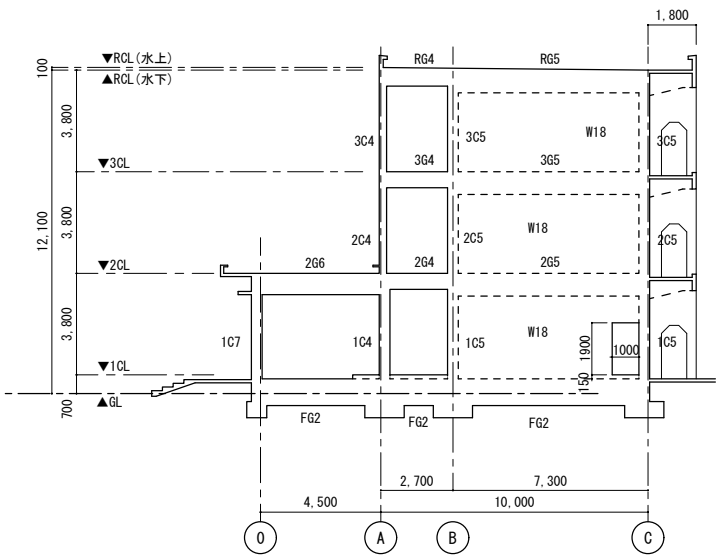
11通り 軸組図 S=1:250



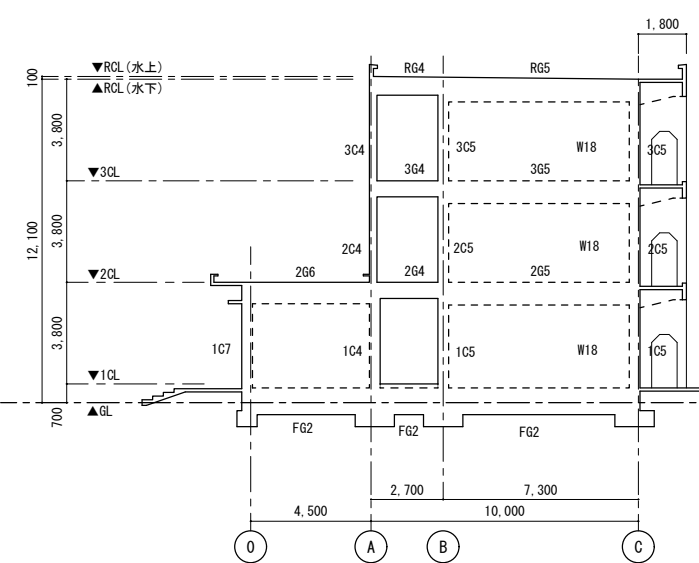
12通り 軸組図 S=1:250



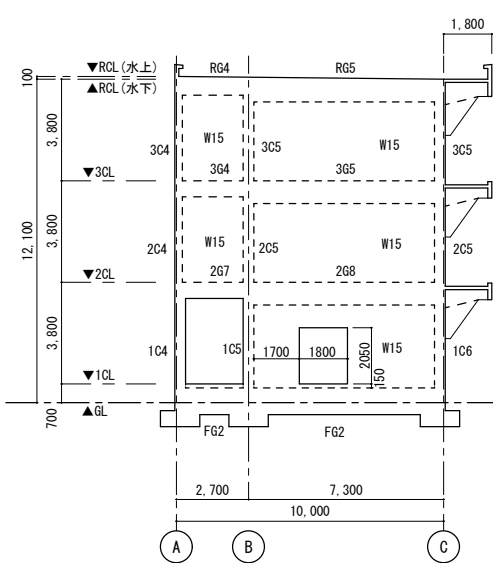
13通り 軸組図 S=1:250 記入なき壁符号は W12 とする



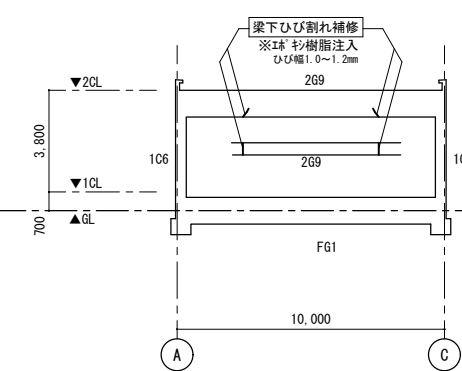
14通り 軸組図 S=1:250



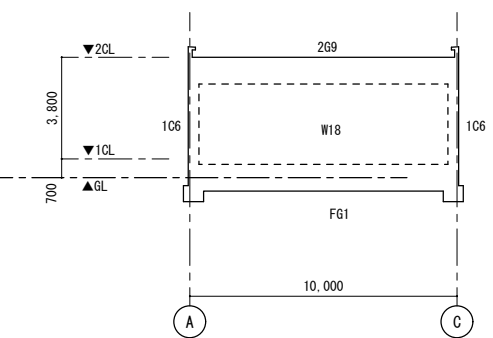
15通り 軸組図 S=1:250 記入なき壁符号は W12 とする



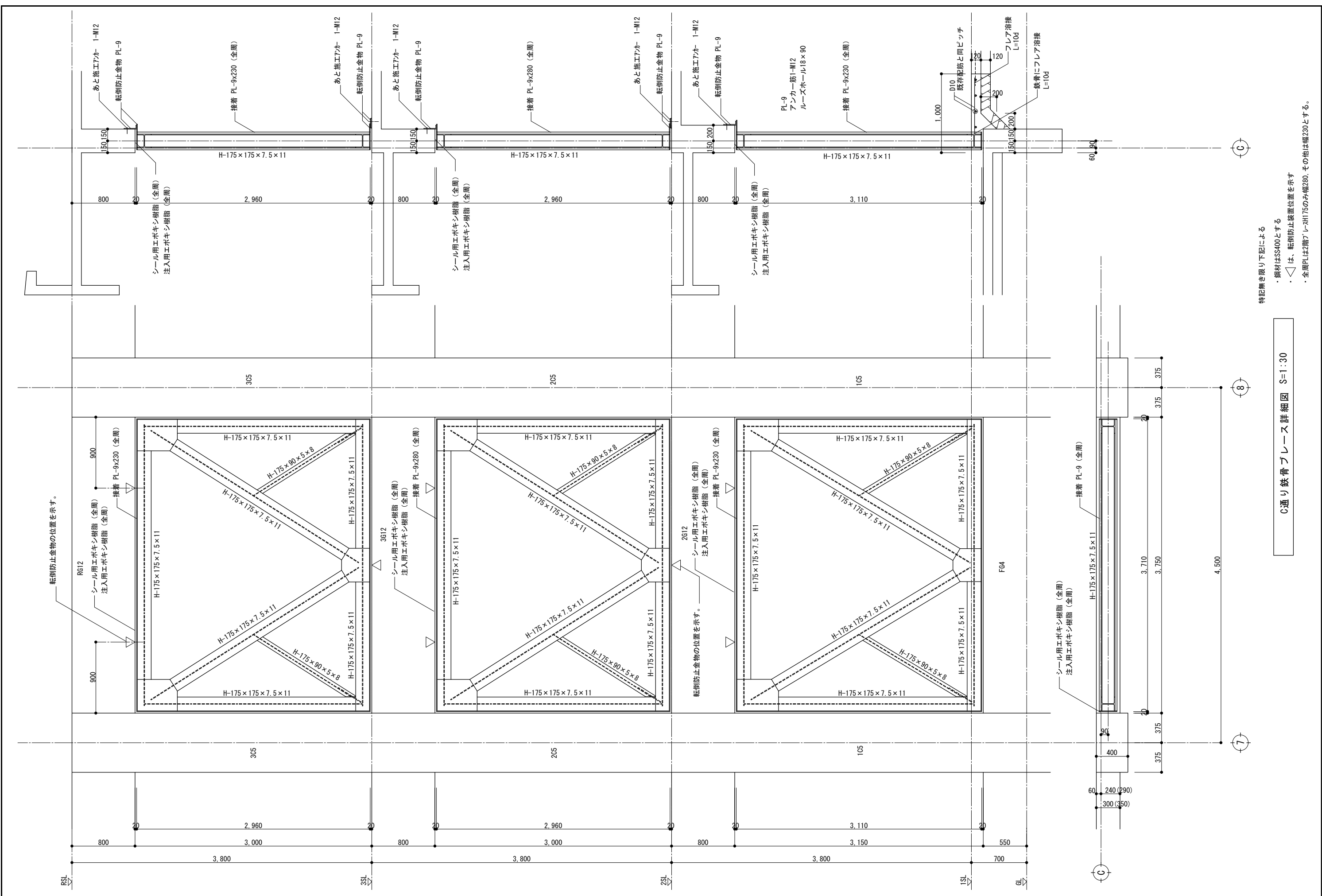
16通り 軸組図 S=1:250



17通り 軸組図 S=1:250

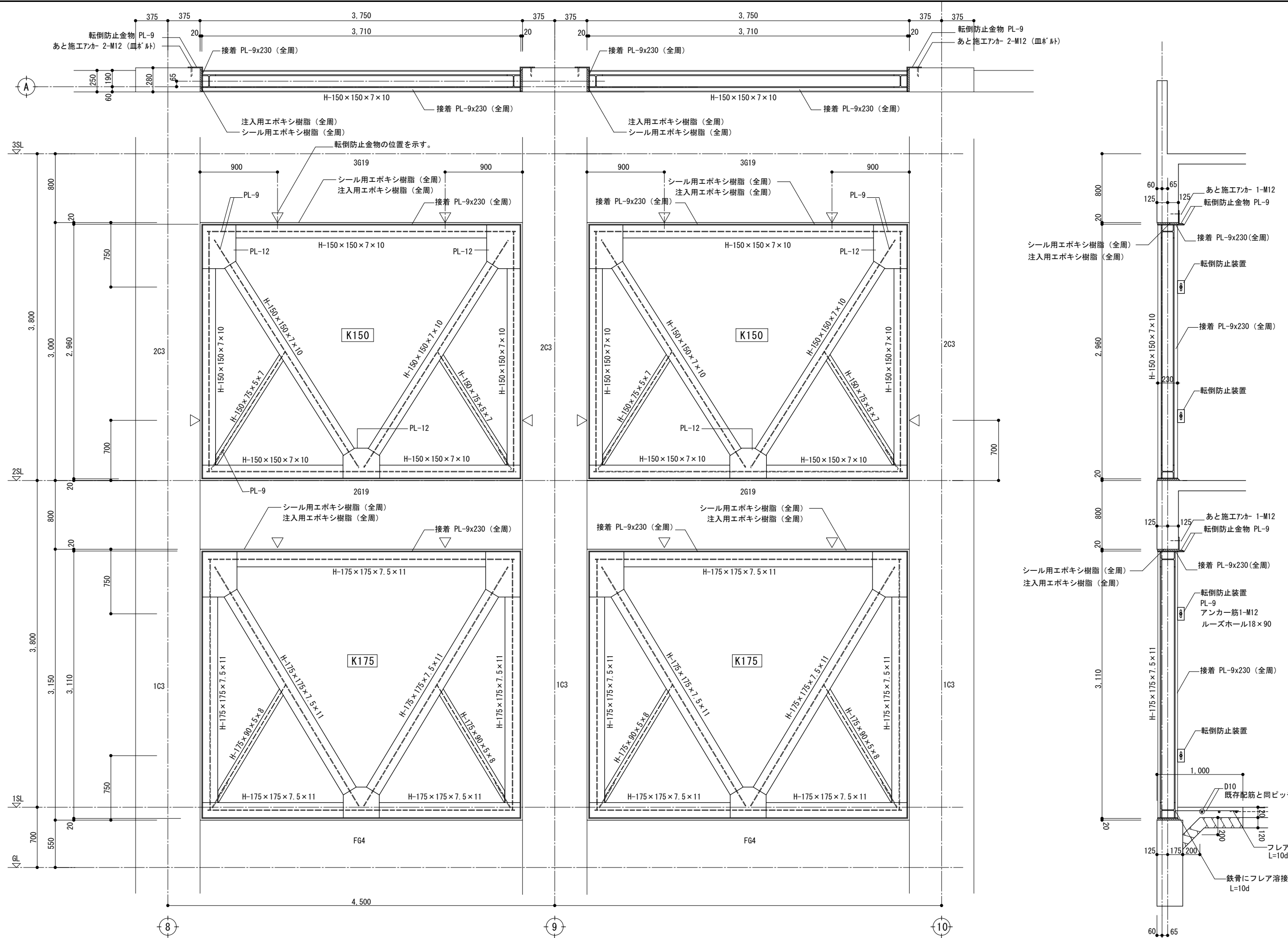


18通り 軸組図 S=1:250



特記なき限り下記による  
 ・鋼材はSS400とする  
 ・△は、転倒防止装置位置を示す  
 ・全周PLは2階7~8階75のみ幅280, その他は幅230とする。

C通り鉄骨ブレース詳細図 S=1:30



A通り鉄骨ブレース詳細図 S=1:30

共通事項 ・鋼材はSS400とする  
 ・△は、転倒防止装置位置を示す

新潟市建築設計協同組合  
 担当設計事務所 酒井建築事務所  
 管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一  
 担当設計事務所管理建築士 一級建築士登録 第103858号 酒井秀晴

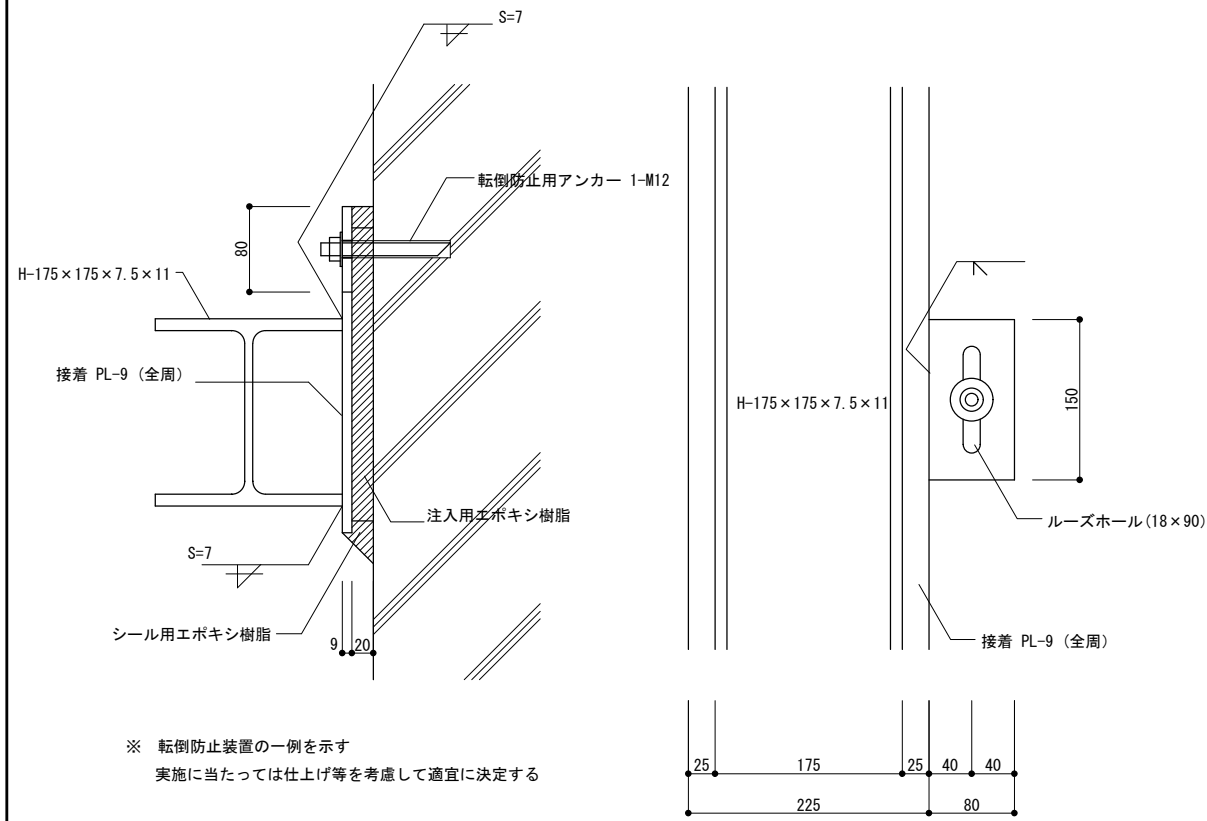
新潟市建築部公共建築第2課

工事名  
 太田小学校校舎 耐震補強工事

図名  
 鉄骨ブレース詳細図 2  
 年月日 2011.3 縮尺 1/30 図面番号 S-11

転倒防止装置詳細図(例)

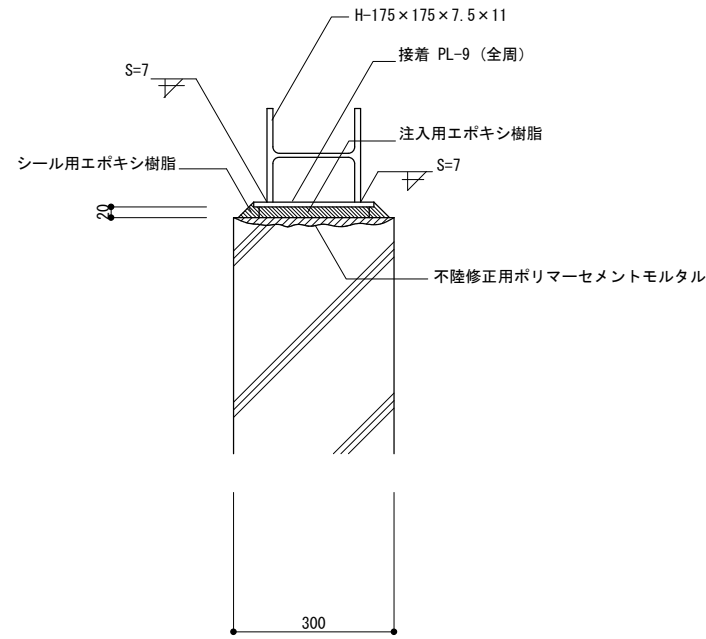
S=1:5



※ 転倒防止装置の一例を示す  
実施に当たっては仕上げ等を考慮して適宜に決定する

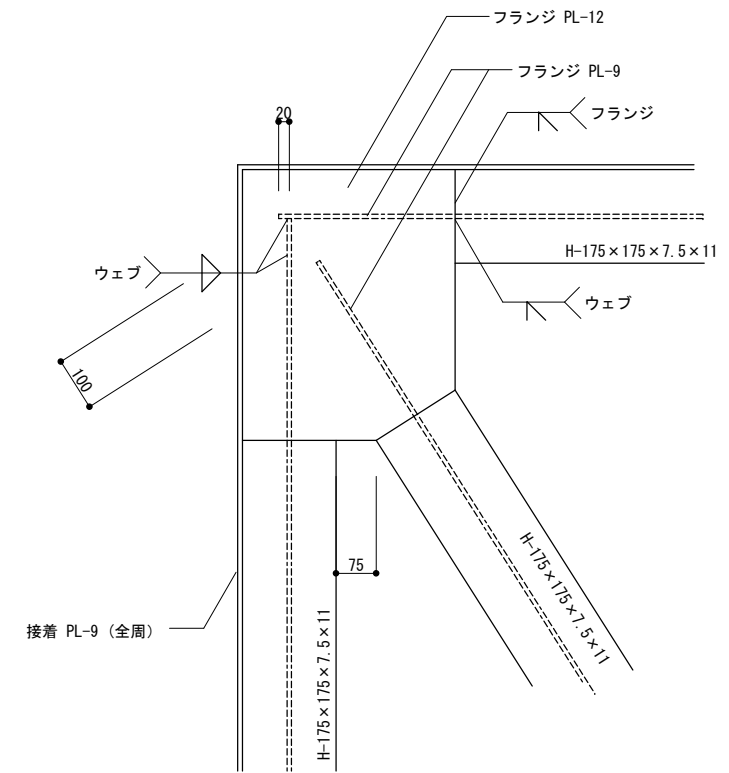
接合部詳細図

S=1:10



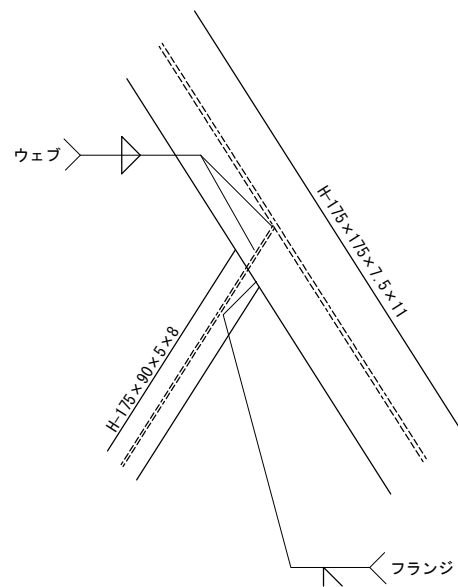
Ⓐ 接合部詳細図

S=1:10



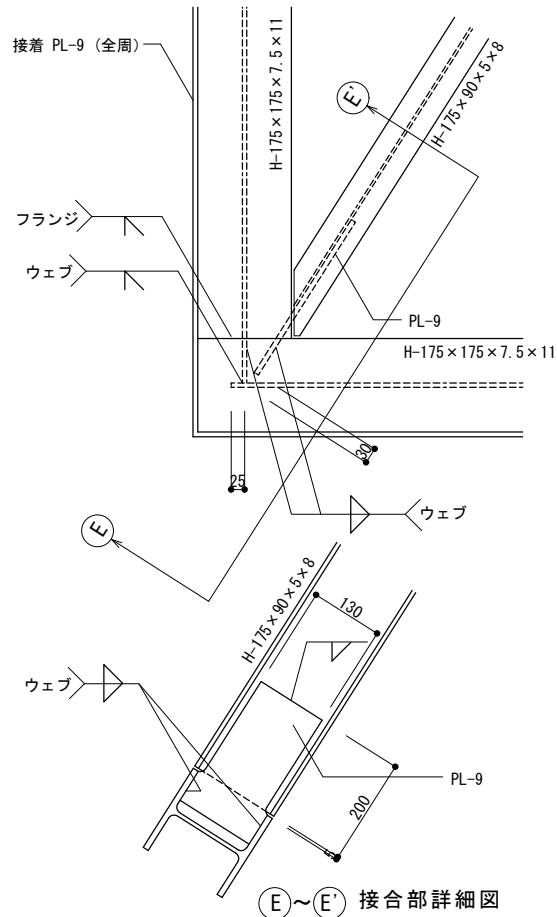
Ⓑ 接合部詳細図

S=1:10



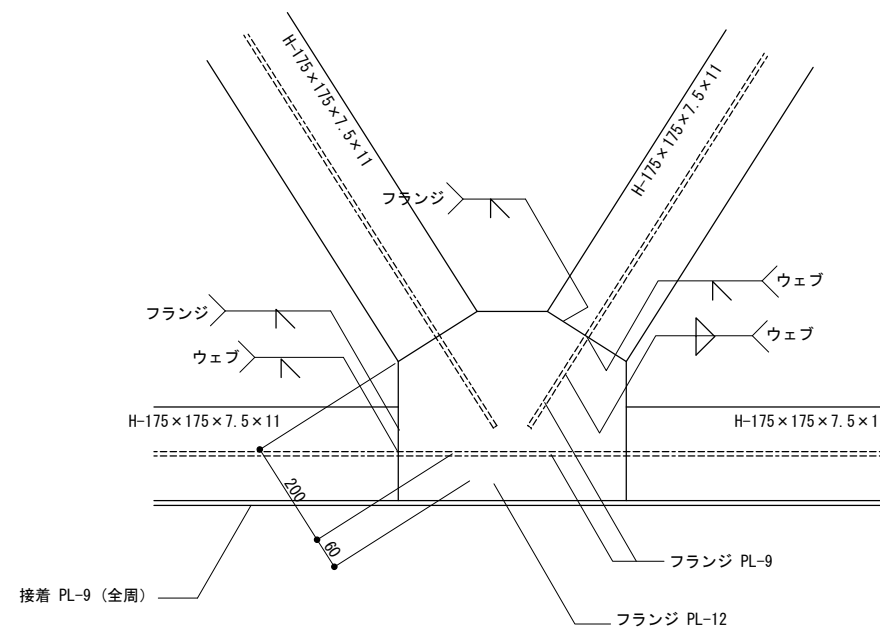
Ⓒ 接合部詳細図

S=1:10



Ⓓ 接合部詳細図

S=1:10



共通事項: [K150] (H-150x150x7x10) についても溶接仕様、仕口PLの板厚等、詳細は[K175]と同じとする。

新潟市建築設計協同組合

管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一

担当設計事務所  
酒井建築事務所  
担当設計事務所管理建築士  
一級建築士登録 第103858号 酒井秀晴

新潟市建築部公共建築第2課

工事名

太田小学校校舎 耐震補強工事

図名

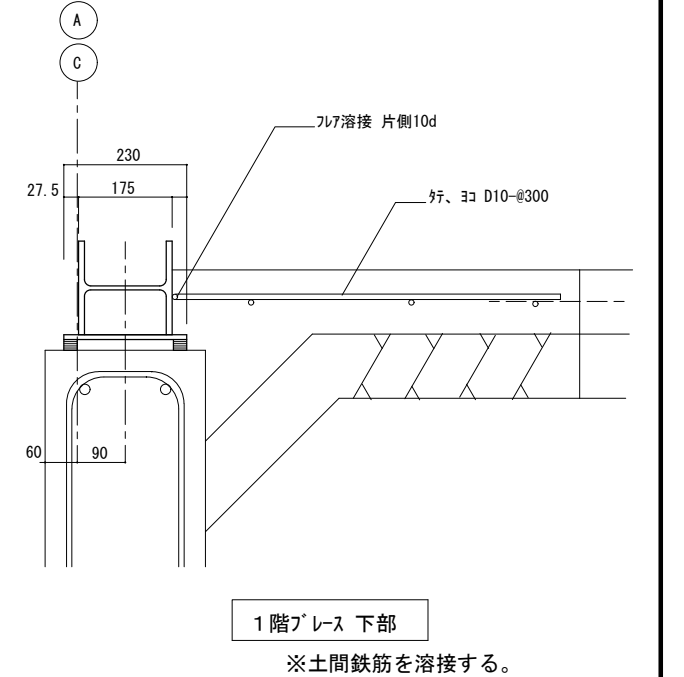
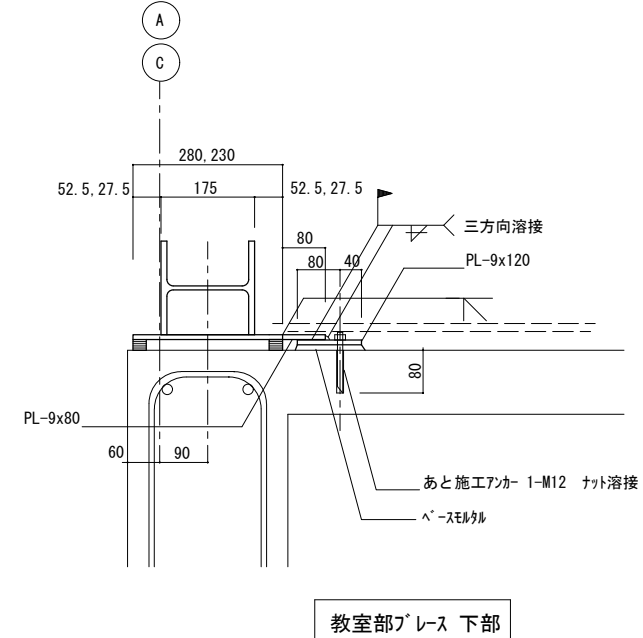
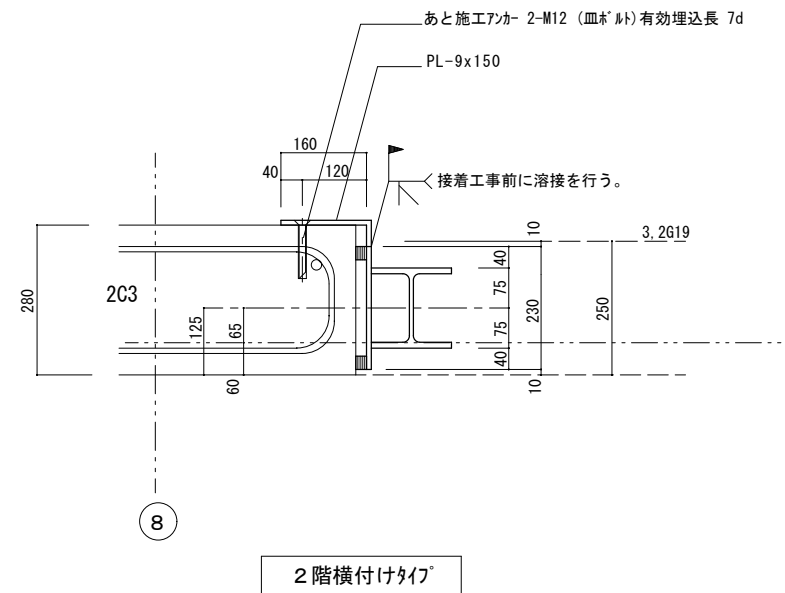
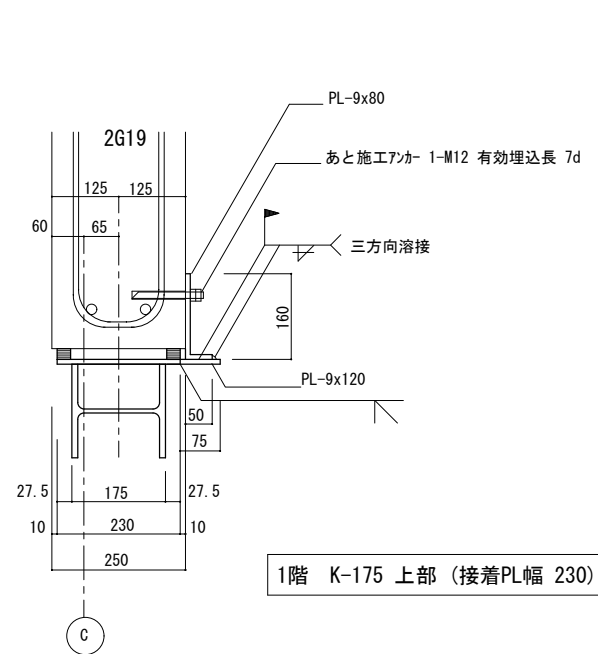
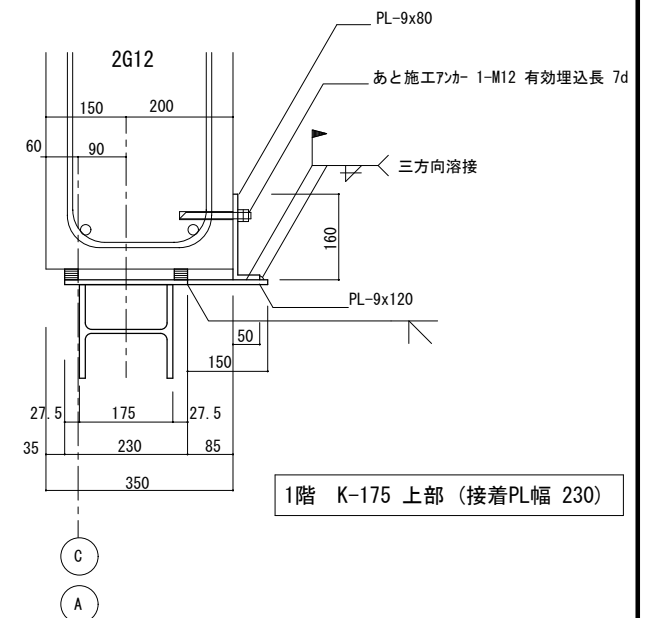
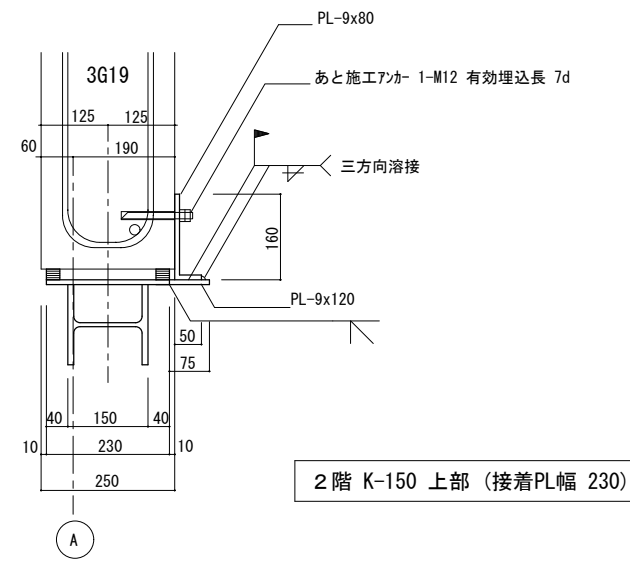
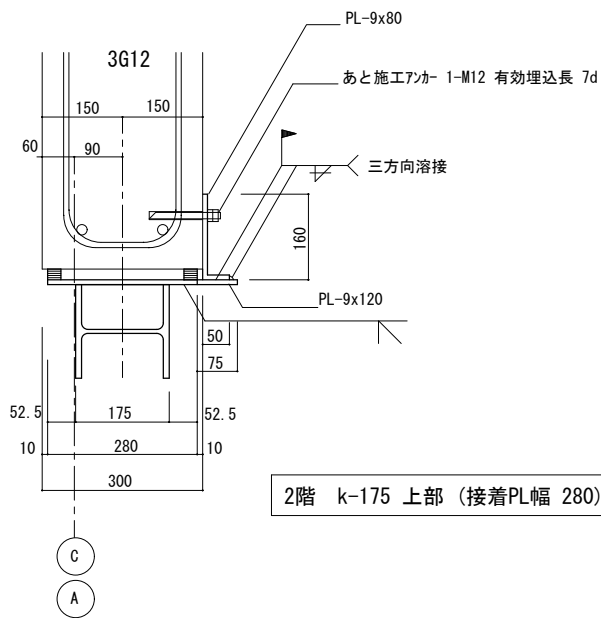
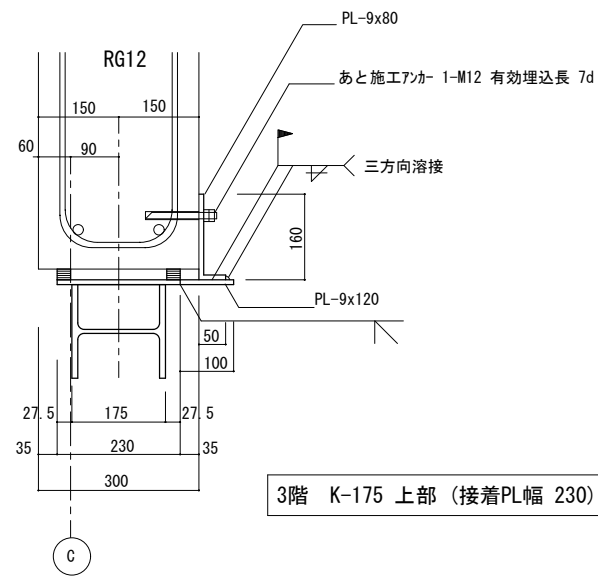
鉄骨ブレース部分詳細図

年月日 2011.3

縮尺 1/5, 1/10

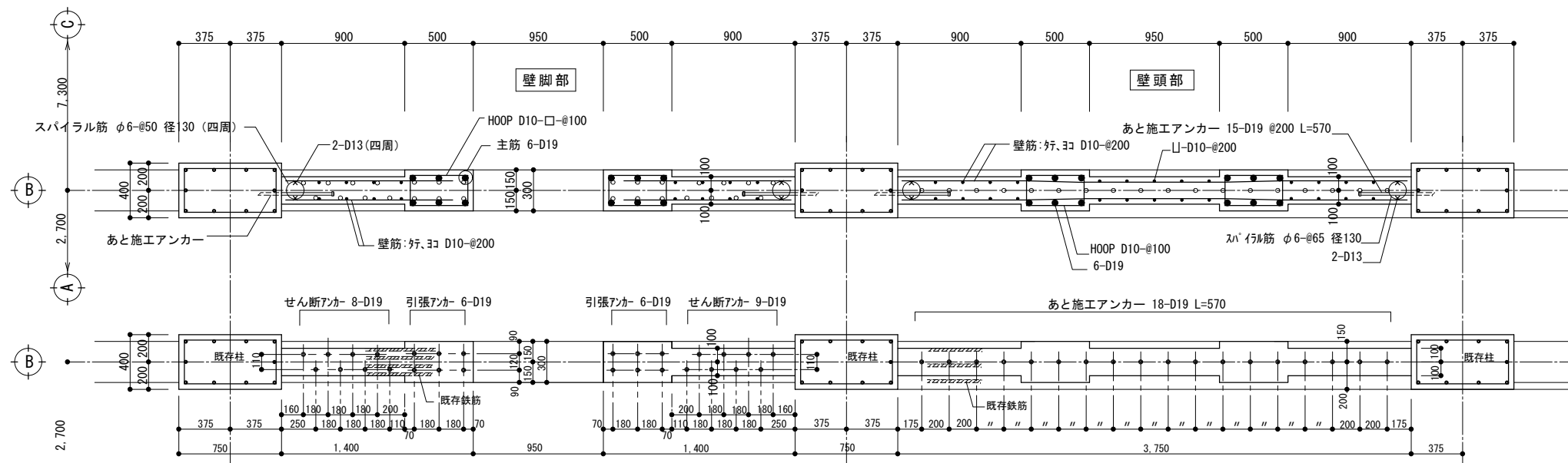
図面番号

S-12



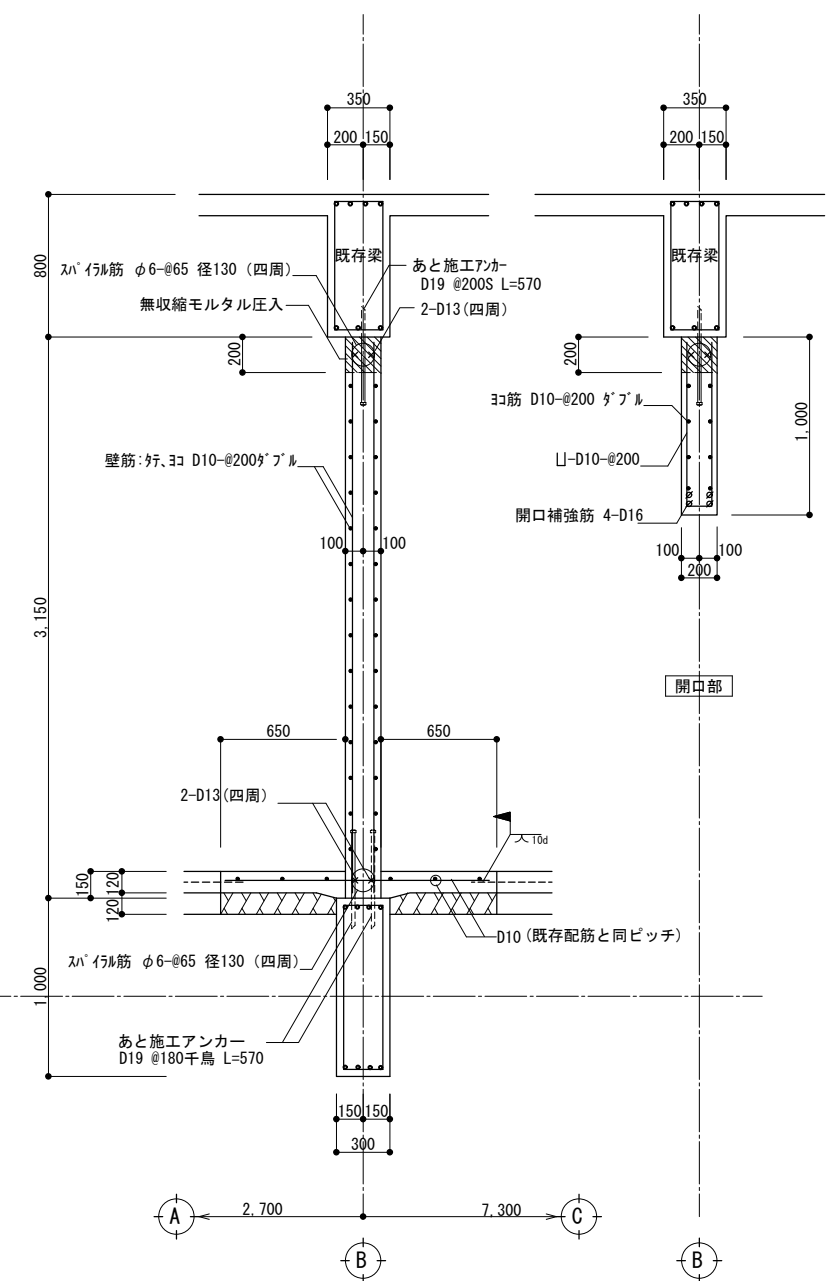
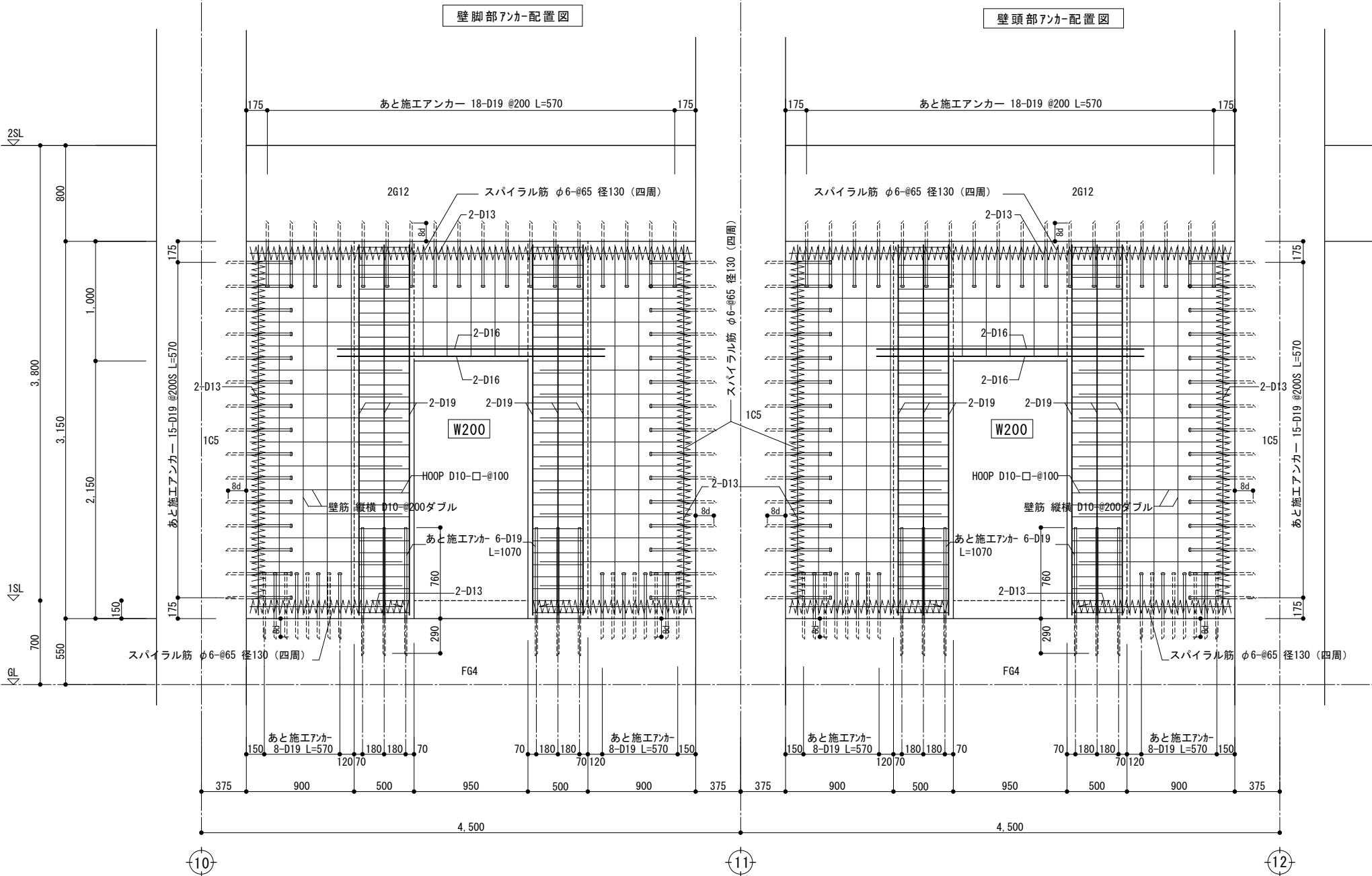
※ 室内部に露出するアンカー頭部にはボルトキャップを着ける。



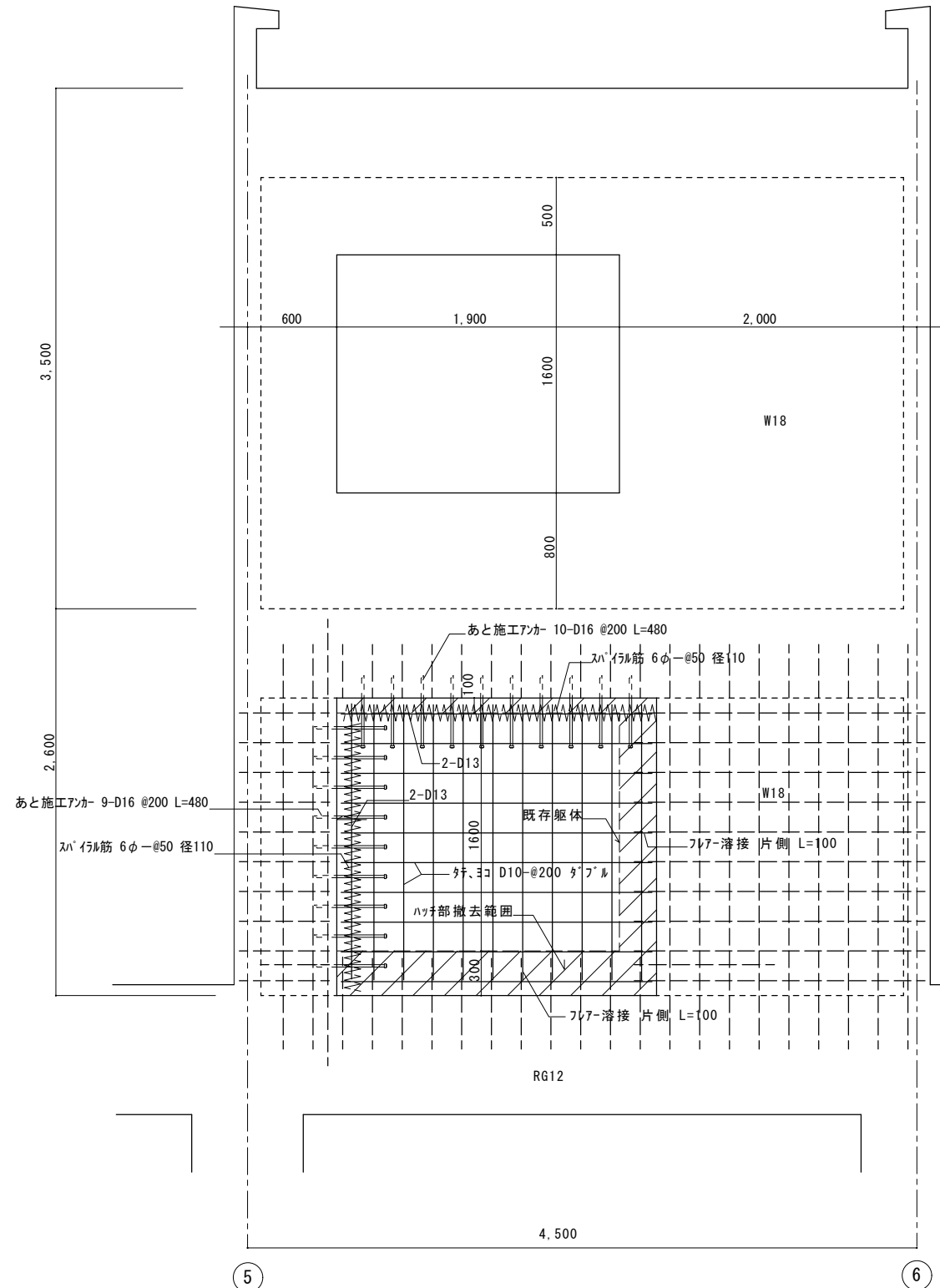


あと施工アンカー寸法図

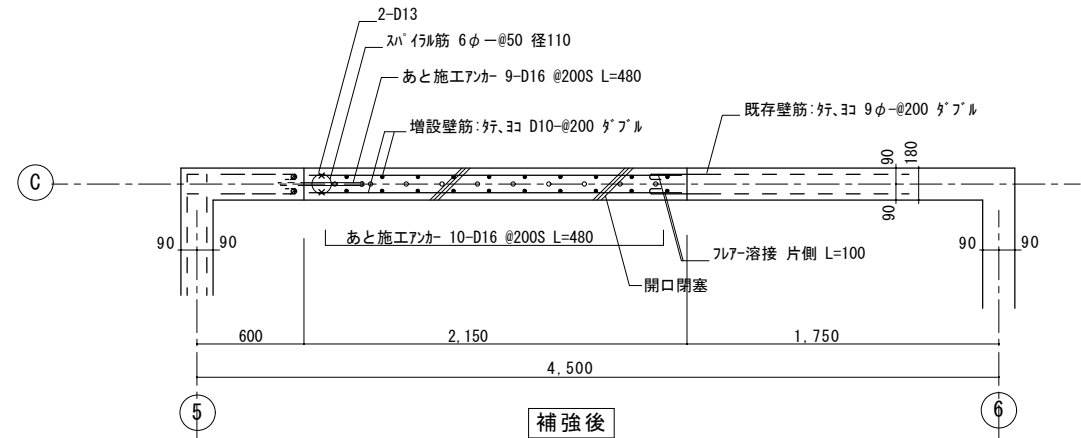
せん断用アンカー (RC壁)				曲げ補強用アンカー (RC壁)			
部位	径	L	規格	部位	径	L	規格
一般部	D19	570	SD345	一般部	D19	1070	SD345



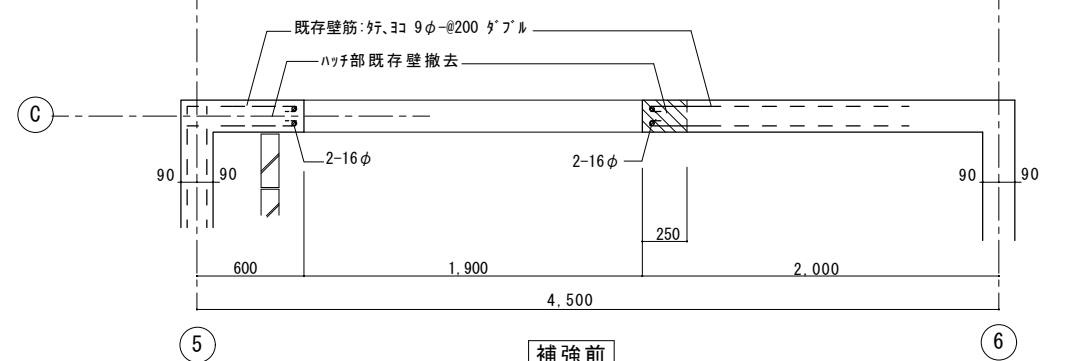
B通りRC増設壁配筋図 S=1:30 共通事項：増設壁幅止め筋は 行 D10-@600、ヨコ D10-@400 とする。



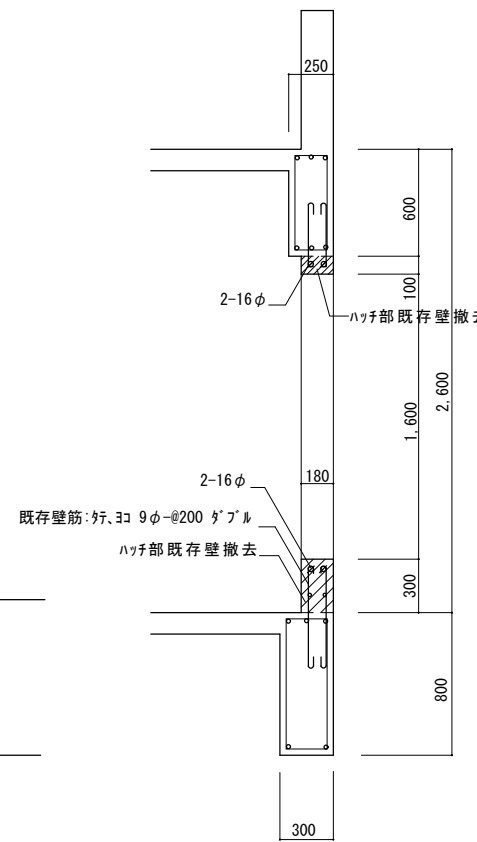
PH階 壁閉塞配筋図 S=1:30



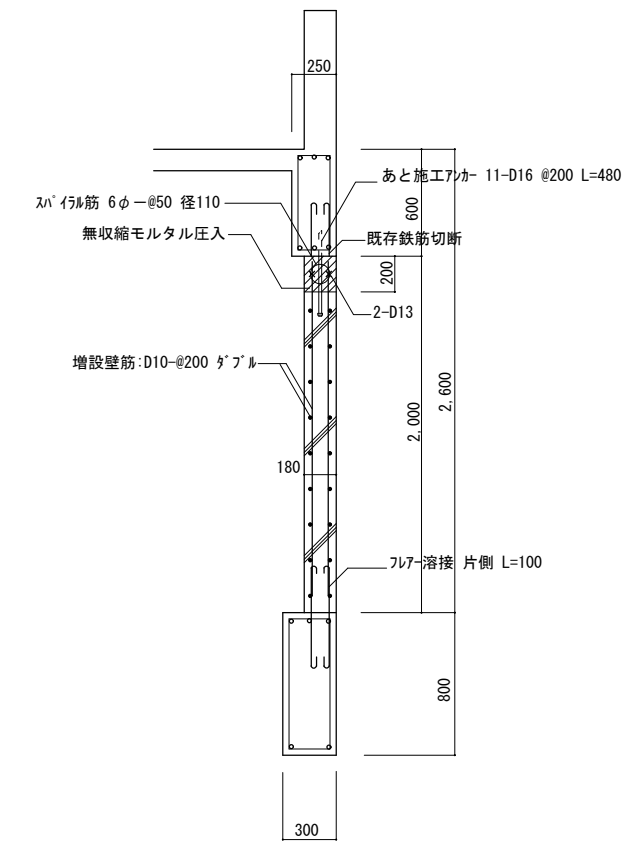
補強後



補強前



補強前



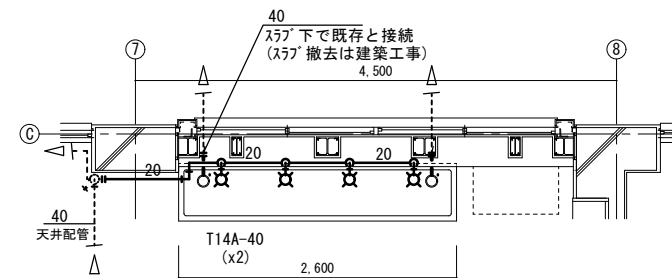
補強後

あと施工アンカー寸法図			
せん断用アンカー (RC壁)			
部位	径	L	規格
一般部	D16	480	SD295A

機器表

(取外し、再設置する機器)

記号	名称	台数	仕様	動力			備考
				φ	V	kW	
ACP-01	空冷ヒートポンプエアコン	1組	1:1タイプ 室内機:天吊露出形 冷媒R410A 冷房能力:12.5kw 暖房能力:14.0kw 付属品:ワイヤードリコン、室外機平架台	3	200	3.1	1F教務室
ACP-02	空冷ヒートポンプエアコン	1組	1:1タイプ 室内機:天吊露出形 冷媒R410A 冷房能力:5.0kw 暖房能力:5.6kw 付属品:ワイヤードリコン、室外機壁付架台	3	200	1.15	1F校長室
FF-01	FF暖房機	9	床置横形 灯油焚 保護ガード共 暖房能力:15.9kw ※給排気筒のみ新設とする。	1	100	0.12	1F(x4), 2F(x3) 3F(x2)
FF-02	FF暖房機	1	床置横形 灯油焚 保護ガード共 暖房能力:7.4kw ※給排気筒のみ新設とする。	1	100	0.12	1F校長室
(新設)	給排気筒	10	壁厚 405対応				
FV-01	壁付換気扇	10	250φ、ウエザ-ガードとも	1	100		1F(x5), 2F(x3) 3F(x2)

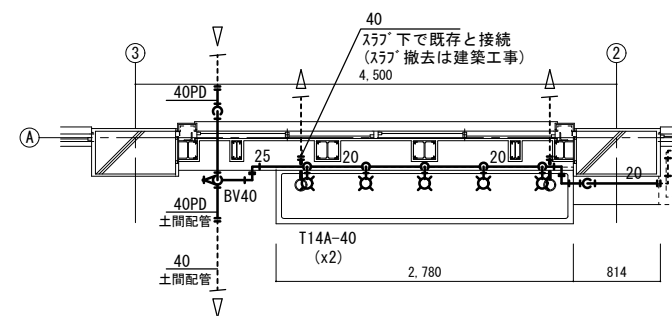


改修後: 家庭科室 詳細図 S=1:50

器具表

(新設)

器具名	品番 ( )は参考品番とする。	摘要	合計	1階					
				保健室	家庭科室	理科室			
自在水栓	13-F9A		9		4	5			
化粧鏡		450x600x5t	1	1					
(シンク)	(建築区分)		(2)		(1)	(1)			



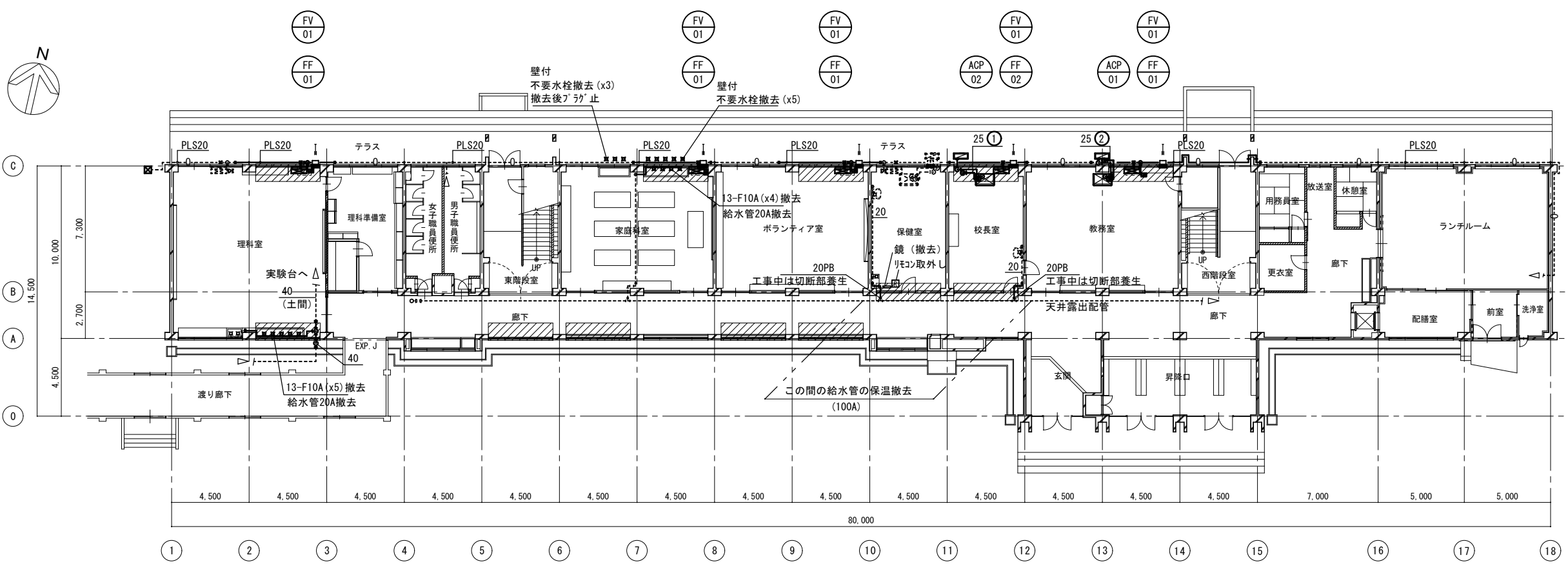
改修後: 理科室 詳細図 S=1:50

器具表

(撤去)

器具名	品番 ( )は参考品番とする。	摘要	合計	1階					
				保健室	家庭科室	理科室			
自在水栓	13-F10A		9		4	5			
化粧鏡		360x450x5t	1	1					

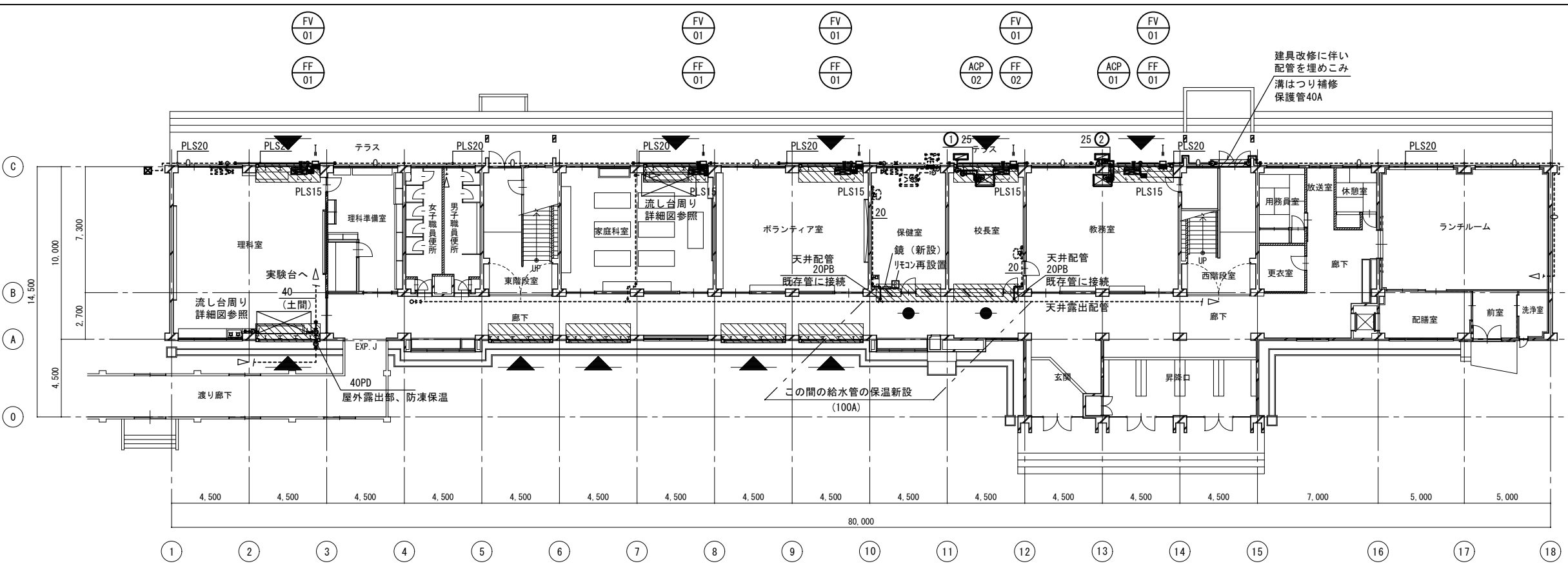
排水管仕様: 硬質塩化ビニル管(VP) JIS K 6741



現況・撤去：1階 平面図 S=1:200

記号	備考
—	撤去設備
- - - - -	既存設備 (そのまま使用)
//////	残置設備 (不要)

番号	液管	ガス管
①	6.4φ	12.7φ
②	9.5φ	15.9φ



改修後：1階 平面図 S=1:200

記号	備考
—	新設設備
- - - - -	既存設備
- - - - -	既存設備との接続位置
■	コア抜きを示す

給水管仕様：水道用ホリエチレン粉体ライニング鋼管 (SGP-PB・SGP-PD) JWWA K 132  
 保温仕様：屋外露出部分：GW保温材+綿布巻+塗装  
 隠蔽部分：GW保温材+7mmガラスウール+化粧保温筒  
 屋外露出部分：ホリスチレンフォーム保温筒(40mm)+粘着テープ+ポリエチレンフィルム+ステンレス鋼板

- 凡例
- 耐力壁 R C 壁
  - ▲ 耐力壁 内付アラフレス
  - ////// 撤去部分
  - ////// 新設部分

新潟市建築設計協同組合  
 管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一

担当設計事務所  
 株式会社 伊藤設備設計

新潟市建築部公共建築第2課

工事名  
 太田小学校校舎 耐震補強工事

図名  
 機械設備 現況・撤去・改修後：1階平面図  
 年月日 2011.3 縮尺 1/200 図面番号 M-02

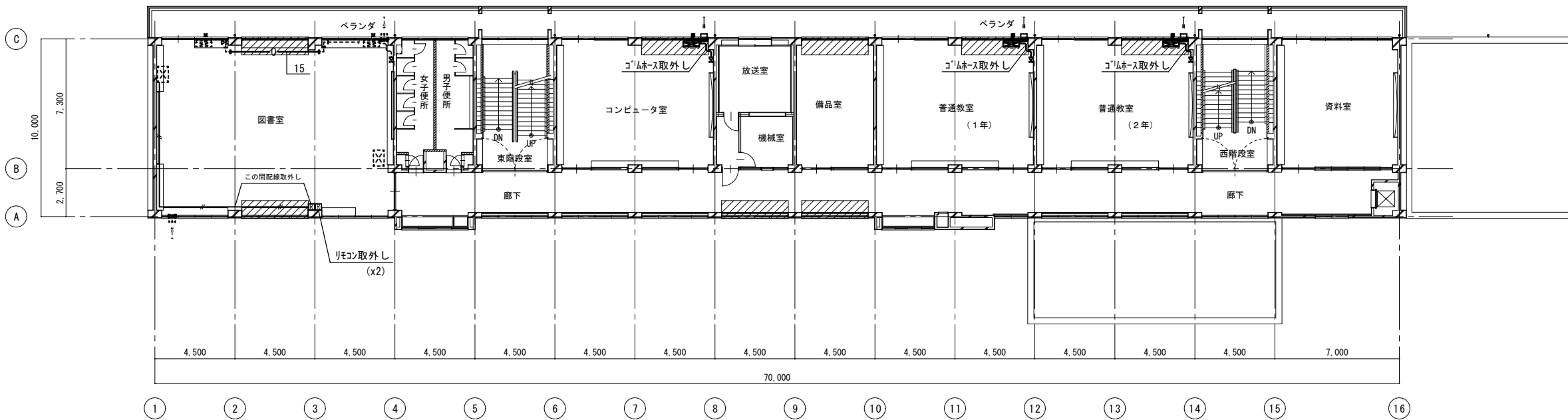


FF 01 FV 01

FF 01 FV 01

FF 01 FV 01

撤去 配管凡例	
記号	備考
—	撤去設備
---	既存設備 (そのまま使用)
////	残置設備 (不要)



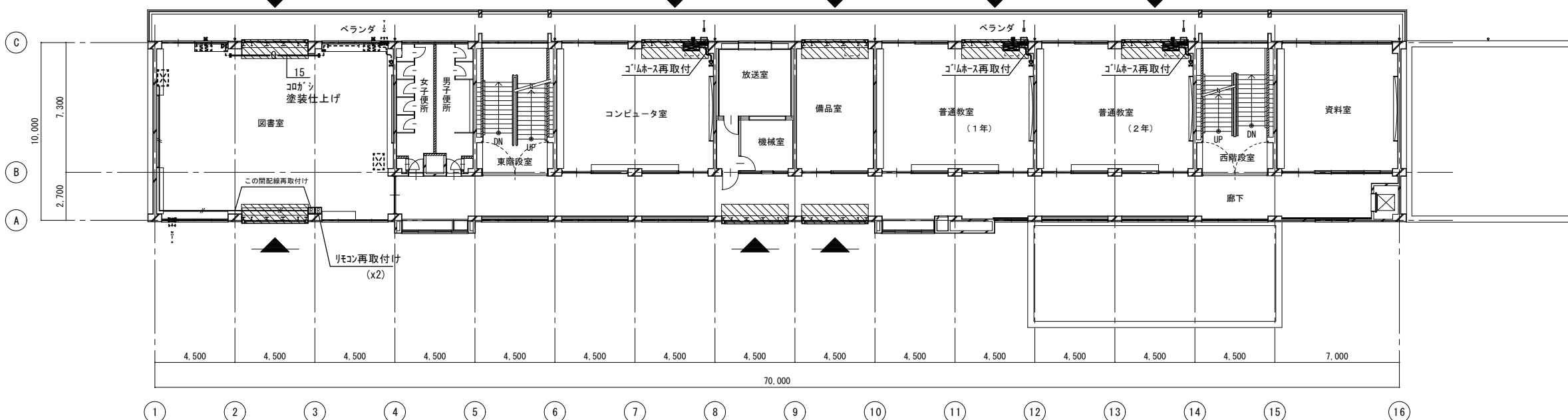
現況・撤去：2階 平面図 S=1:200

FF 01 FV 01

FF 01 FV 01

FF 01 FV 01

新設 設備凡例	
記号	備考
—	新設設備
---	既存設備
---	既存設備との接続位置
■	コア抜きを示す



改修後：2階 平面図 S=1:200

- 凡例
- 耐力壁 R C 壁
  - ▲ 耐力壁 内付アレス
  - //// 撤去部分
  - 新設部分

新潟市建築設計協同組合  
管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一

担当設計事務所  
株式会社 伊藤設備設計

新潟市建築部公共建築第2課

工事名

太田小学校校舎 耐震補強工事

図名

機械設備 現況・撤去・改修後：2階平面図

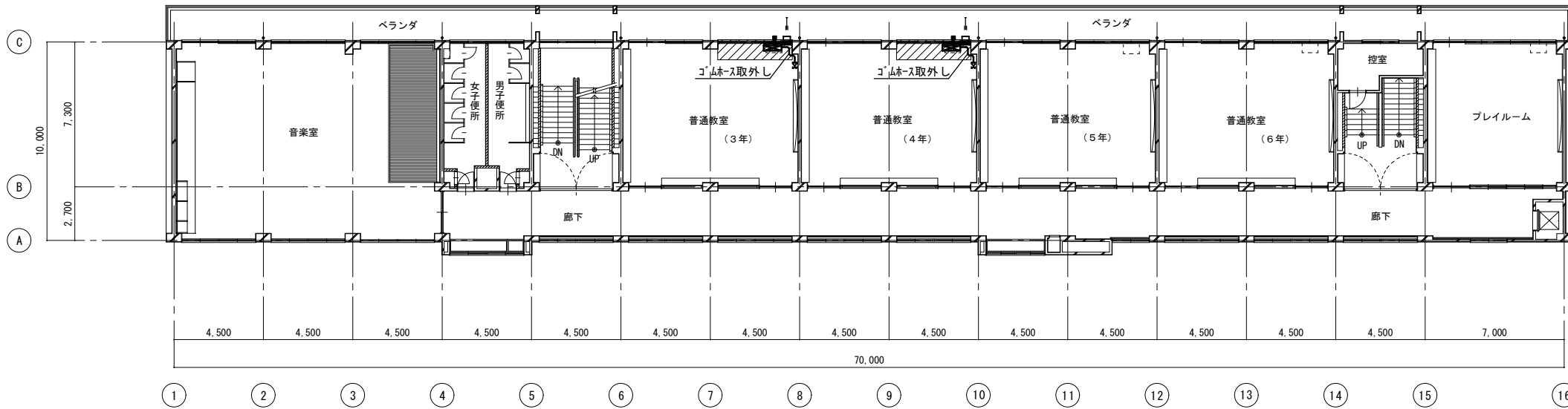
年月日 2011.3

縮尺 1/200

図面番号 M-03



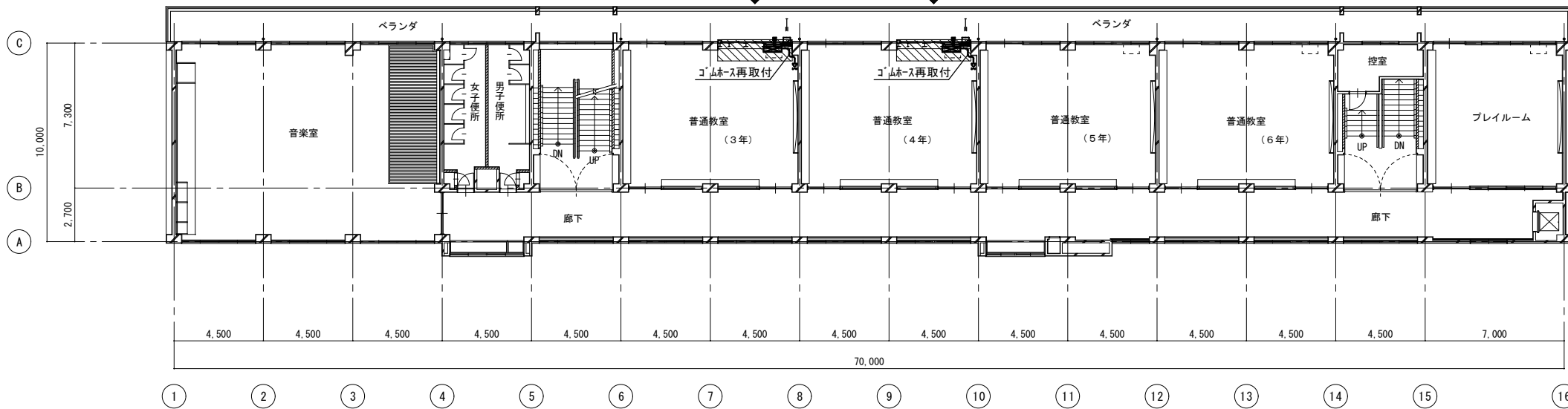
FF 01 FV 01 FF 01 FV 01



撤去 配管凡例	
記号	備考
—	撤去設備
---	既存設備 (そのまま使用)
////	残置設備 (不要)

現況・撤去：3階平面図 S=1:200

FF 01 FV 01 FF 01 FV 01



新設 設備凡例	
記号	備考
—	新設設備
---	既存設備
---+	既存設備との接続位置
■	コア抜きを示す

- 凡例
- 耐力壁 R C 壁
  - ▲ 耐力壁 内付アレス
  - //// 撤去部分
  - /// 新設部分

改修後：3階平面図 S=1:200

新潟市建築設計協同組合  
管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一

担当設計事務所  
株式会社 伊藤設備設計

新潟市建築部公共建築第2課

工事名

太田小学校校舎 耐震補強工事

図名

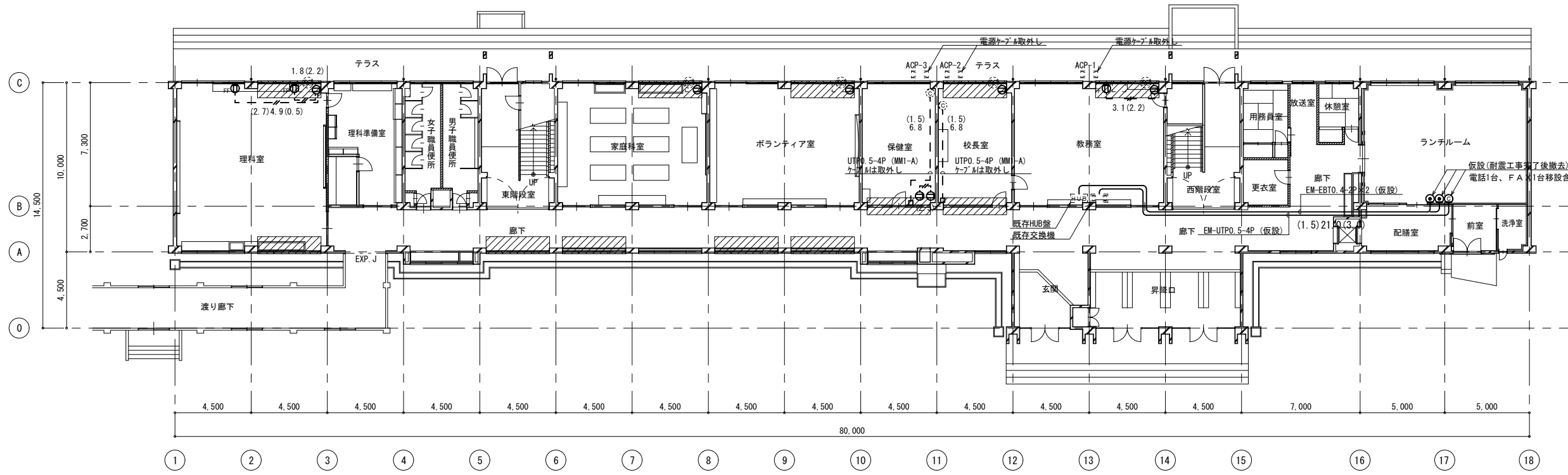
機械設備 現況・撤去・改修後：3階平面図

年月日 2011.3

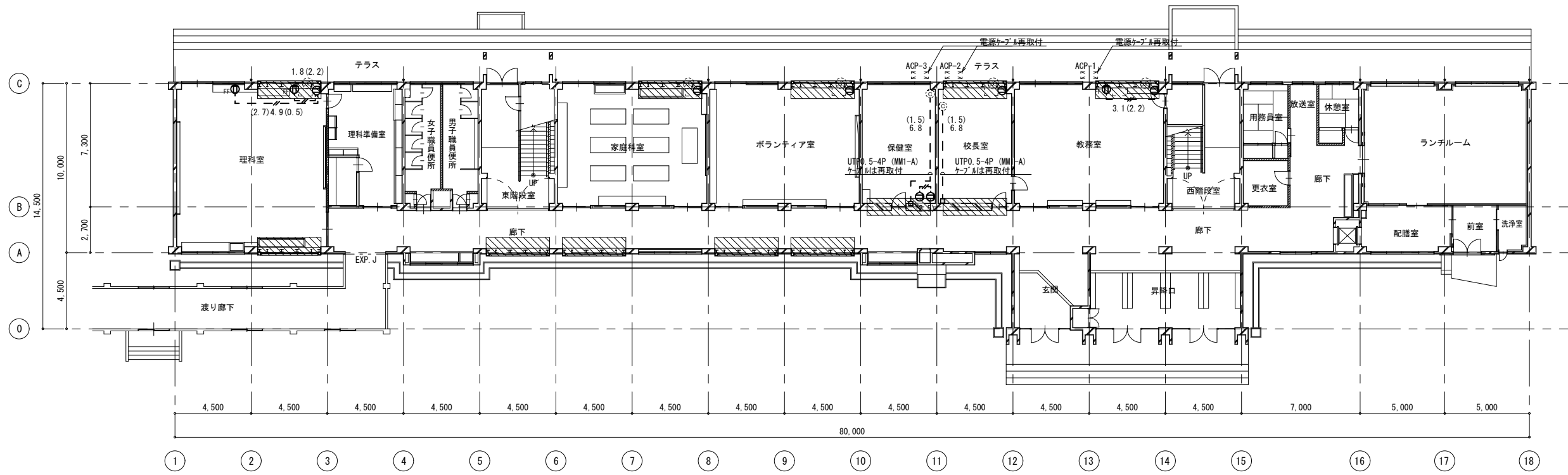
縮尺 1/200

図面番号 M-04

設計図書に記載無き事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修  
 公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）平成22年版、並びに  
 係員との打ち合わせによる。



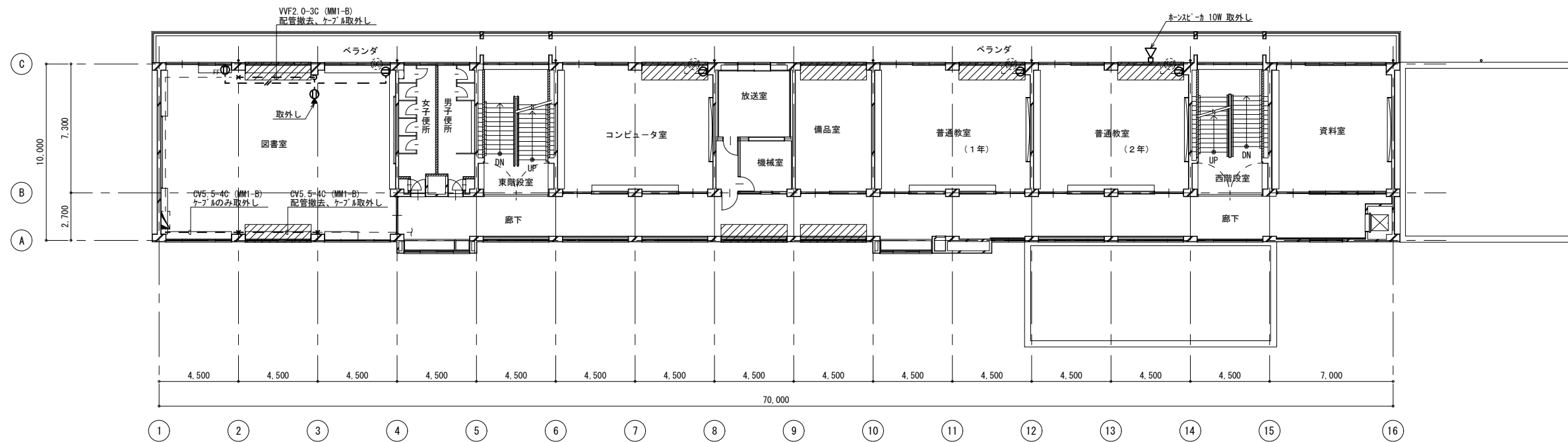
既存・撤去：1階平面図 S=1:200



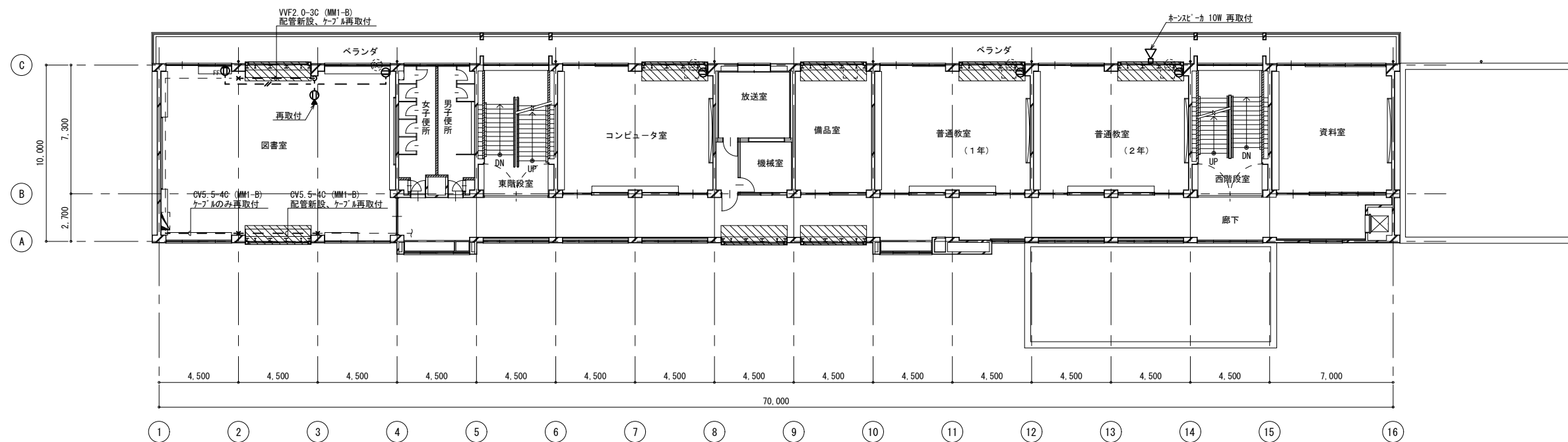
改修後：1階平面図 S=1:200

凡例	記号	名称	摘要
	□	位置ボックス	
	●	埋込スイッチ	1P15A×1
	①	埋込コンセント	2P15A×1
	②	埋込コンセント	2P15A×2
	③	埋込コンセント	2P15A×1+ET
	④	埋込コンセント	2P15A×2 FF暖房機用
	⑤	707-コンセント	2P15A(E)×2
	⓪	電話用707トレット	6極4心モジュラー
	Ⓛ	情報用707トレット	8極8心モジュラー CAT5E

- 注記
1. 図中特記なき太線のみ工事対象とする。
  2. 図中特記なきものは撤去・新設とする。
  3. 図中特記なき配管配線は下記による。
- 【改修前】
- VVF2.0-2C (MM1-A)
- 【改修後】
- EM-EEF2.0-2C (MM1-A)
4. 教室に設置してある既存電話機・FAX(各1台)をランチルームに仮設し耐震工事後、元の教室へ復旧させること。



既存・撤去：2階平面図 S=1:200



改修後：2階平面図 S=1:200

新潟市建築設計協同組合  
管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一

担当設計事務所  
酒井建築事務所  
担当設計事務所管理建築士  
一級建築士登録 第103858号 酒井秀晴

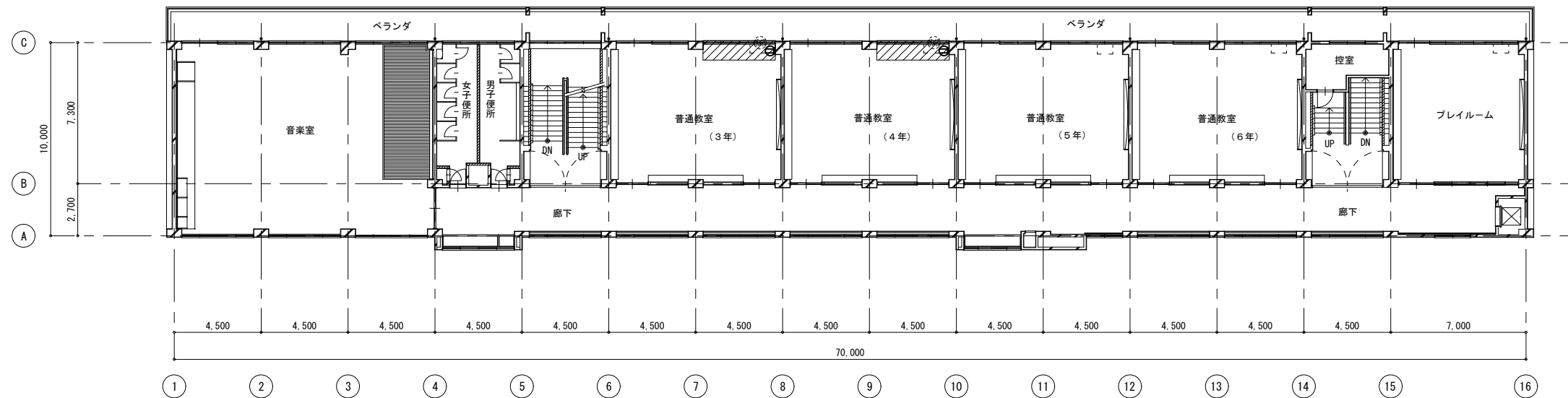
新潟市建築部公共建築第2課

工事名  
太田小学校校舎 耐震補強工事

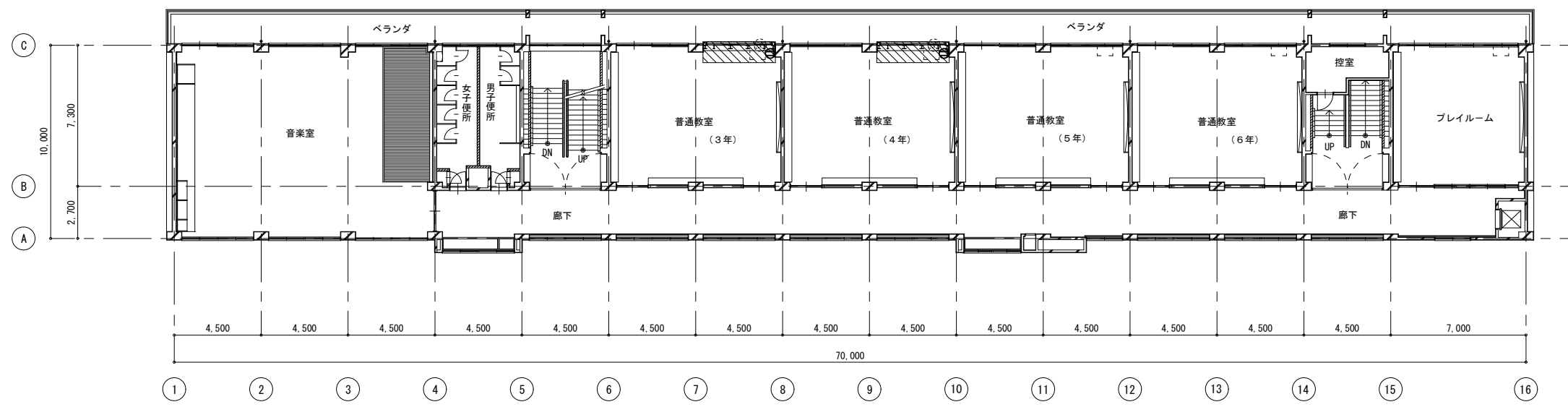
図名  
現況・撤去・改修後：電気設備 2階平面図

年月日 2011.3 縮尺 1/200 図面番号 E-02





既存・撤去：3階 平面図 S=1:200



改修後：3階 平面図 S=1:200

新潟市建築設計協同組合  
 管理建築士一級建築士第69716号 今井 孝一  
 担当設計事務所  
 酒井建築事務所  
 担当設計事務所管理建築士  
 一級建築士登録 第103858号 酒井秀晴

新潟市建築部公共建築第2課

工事名  
 太田小学校校舎 耐震補強工事

図名	現況・撤去・改修後：電気設備 3階平面図		
年月日	2011.3	縮尺	1/200
図面番号	E-03		